

ATEN コントロールシステム

(VK0100/VK0200 コントロールパッド、

VK2100/VK1100 コントロールボックス、

VK6000 設定ソフトウェア、ATEN コントロールシステムアプリ)

日本語版ユーザーマニュアル



本ドキュメントについて

本書は ATEN ジャパン株式会社において、ATEN コントロールシステム取り扱いの便宜を図るため、英語版ユーザーマニュアルをローカライズしたドキュメントです。

製品情報、仕様はソフトウェア・ハードウェアを含め、予告無く改変されることがあり、本日本語版ユーザーマニュアルの内容は、必ずしも最新の内容でない場合があります。また製品の不要輻射仕様、各種安全規格、含有物質についての表示も便宜的に翻訳して記載していますが、本書はその内容について保証するものではありません。本マニュアルは英文マニュアルの内容をそのまま和訳し、再編集されたものとなりますので、予めご了承ください。

製品をお使いになるときは、英語版ユーザーマニュアルにも目を通し、その取扱方法に従い、正しく運用を行ってください。詳細な製品仕様については英語版ユーザーマニュアルの他、製品をお買い上げになった販売店または弊社テクニカルサポート窓口までお問い合わせください。

ATEN ジャパン株式会社

技術部

TEL :03-5615-5811

MAIL :support@atenjapan.jp

2019 年 4 月 1 日

ユーザーの皆様へ

本マニュアルに記載された全ての情報、ドキュメンテーション、および製品仕様は、製造元である ATEN International により、予告無く改変されることがあります。製造元 ATEN International は、製品および本ドキュメントに関して、品質・機能・商品性および特定の目的に対する適合性について、法定上の、明示的または黙示的であるかを問わず、いかなる保証もいたしません。

弊社製品は一般的なコンピューターのメインフレームおよびインターフェースの操作・運用・管理を目的として設計・製造されております。高度な動作信頼性と安全性が求められる用途、例えば軍事使用、大規模輸送システムや交通インフラの制御、原子力発電所、セキュリティシステム、放送システム、医療システム等における可用性への要求を必ずしも満たすものではありません。

キーボード、マウス、モニター、コンピューター等、弊社製品に接続されるクライアントデバイスは、それぞれベンダの独自技術によって開発・製造されております。そのため、これらの異なるデバイスを接続した結果、予期できない機器同士の相性問題が発生する可能性があります。また、機器の併用により、それぞれオリジナルで持つ機能を全て発揮できない可能性があります。異なる環境・異なる機器の組み合わせにより、機能面での使用制限が必要になる可能性があります。

本製品および付属のソフトウェア、ドキュメントの使用によって発生した装置の破損・データの損失等の損害に関して、直接的・間接的・特殊な事例・付帯的または必然的であるかを問わず、弊社の損害賠償責任は本製品の代金相当額を超えないものとします。

製品をお使いになる際には、製品仕様に沿った適切な環境、特に電源仕様についてはご注意のうえ、正しくお使いください。

ATEN ジャパン製品保証規定

弊社の規定する標準製品保証は、定められた期間内に発生した製品の不具合に対して、すべてを無条件で保証するものではありません。製品保証を受けるためには、この『製品保証規定』およびユーザーマニュアルをお読みになり、記載された使用法および使用上の各種注意をお守りください。

また製品保証期間内であっても、次に挙げる例に該当する場合は製品保証の適用外となり、有償による修理対応といたしますのでご注意ください。

- ◆ 使用上の誤りによるもの
- ◆ 製品ご購入後の輸送中に発生した事故等によるもの
- ◆ ユーザーの手による修理または故意の改造が加えられたもの
- ◆ 購入日の証明ができず、製品に貼付されている銘板のシリアルナンバーも確認できないもの
- ◆ 車両、船舶、鉄道、航空機などに搭載されたもの
- ◆ 火災、地震、水害、落雷、その他天変地異、公害、戦争、テロリズム等の予期しない災害によって故障、破損したもの
- ◆ 日本国外で使用されたもの
- ◆ 日本国外で購入されたもの

【製品保証手順】

弊社の製品保証規定に従いユーザーが保証を申請する場合は、大変お手数ですが、以下の手順に従って弊社宛に連絡を行ってください。

(1) 不具合の確認

製品に不具合の疑いが発見された場合は、購入した販売店または弊社サポート窓口にご連絡の上、製品の状態を確認してください。この際、不具合の確認のため動作検証のご協力をお願いすることがあります。

(2) 本規定に基づく製品保証のご依頼

(1)に従い確認した結果、製品に不具合が認められた場合は、本規定に基づき製品保証対応を行います。製品保証対応のご依頼をされる場合は、RMA 申請フォームの必要項目にご記入の上、『お客様の製品購入日が証明できる書類』を用意して、購入した販売店までご連絡ください。販売店が不明な場合は、弊社までお問い合わせください。

(3) 製品の発送

不具合製品の発送は宅配便などの送付状の控えが残る方法で送付してください。

【製品保証期間】

製品保証期間は通常製品/液晶ディスプレイ搭載製品で異なります。詳細は下記をご覧ください。

①通常製品	製品納品日～30 日	初期不良、新品交換※1
	31 日～3 年間	無償修理
	3 年以上	有償修理※2
②型番 CL から始まる LCD 搭載製品のみ	製品納品日～30 日	初期不良、新品交換※1
	31 日～2 年間	無償修理
	3 年目以降	有償修理※2

※1…製品購入日から 30 日以内に確認された不具合は初期不良とし、新品交換を行います。初期不良の場合の送料は往復弊社にて負担いたします。

※2…有償修理の金額は別途製品を購入された販売店までお問い合わせください。

※ケーブル類、その他レールキット等のアクセサリ類は初期不良の際の新品交換のみ、承ります。

※EOL (生産終了)が確定した製品については、初期不良であっても無償修理対応とさせていただきます。また EOL 製品の修理に関して、上記無償修理期間中であっても、部材調達の都合等により修理不可になる可能性がございます。そのような場合には、機能同等品による良品交換のご対応となる可能性がございます。また、EOL 製品の型番や、修理可否、後継機種については、随時情報更新を行っておりますので、弊社 Web ページにて最新情報をご確認ください。

※製品保証期間の延長や故障時の代替品などの保証オプションについては、弊社 Web ページをご確認ください。

【補足】

- ・本規定は ATEN 製品に限り適用します。
- ・ケーブル類は初期不良対応に準じます。
- ・初期不良による新品交換の場合は、ATEN より発送した代替品の到着後、5 営業日以内に不具合品を弊社宛に返却してください。返却の予定期日が守られない場合は弊社から督促を行います。が、それにも係わらず不具合品が返却されない場合は、代替機相当代金を販売代理店経由でご請求いたします。
- ・ラベルの汚損や剥がれなどにより製品のシリアルナンバーが確認できない場合は、すべて有償修理とさせていただきます。

【免責事項】

1. 弊社製品は映像関連システムやコンピューターのメインフレームおよびインターフェースの操作・運用・管理を目的として設計・製造されております。しかし、使用環境等によってはその機能が制限されることがあります。弊社では、ご購入前に弊社製品をお試しいただける「評価機貸出サービス」を無償でご提供しております。評価機貸出サービスに関するお問い合わせは、弊社代理店または弊社 Web サイト(<http://www.aten.com/jp/ja/>)内の「お問い合わせ」フォームをご利用ください。
2. キーボード、マウス、モニター、コンピューター等、弊社製品に接続されるクライアントデバイスは、それぞれベンダの独自技術によって開発・製造されております。そのため、これらの異なるデバイスを接続した結果、予期できない機器同士の相性問題が発生する可能性があります。また、機器の併用により、それぞれオリジナルで持つ機能を全て発揮できない可能性があります。異なる環境・異なる機器の組み合わせにより、機能面での使用制限が必要になる可能性があります。
3. 他社製品のKVMスイッチ、キーボード・マウスコンバーター、キーボード・マウスエミュレーター、KVM エクステンダー等との組み合わせはサポート対象外となりますが、お客様で自己検証の上であれば、使用を制限するものではありません。
4. 製品に対しての保証は、日本国内で使用されている場合のみ対象とさせていただきます。
5. 製品やサービスについてご不明な点がある場合は、弊社技術部門までお問い合わせください。

製品についてのお問い合わせ

製品の仕様や使い方についてのお問い合わせは、下記窓口または製品をお買い上げになった販売店までご連絡ください。

購入前のお問い合わせ	ATEN ジャパン株式会社 営業部 TEL:03-5615-5810 MAIL:sales@atenjapan.jp
購入後のお問い合わせ	ATEN ジャパン株式会社 技術部 TEL :03-5615-5811 MAIL :support@atenjapan.jp

目次

ユーザーの皆様へ	i
ATEN ジャパン製品保証規定	ii
製品についてのお問い合わせ	v
EMC 情報	5
RoHS.....	5
安全性.....	5
安全にお使い頂くために.....	6
全般	6
ラックマウント	8
同梱品.....	9
VK0100	9
VK0200	9
VK1100	9
VK2100	9
本マニュアルについて.....	11
マニュアル表記について.....	13
本マニュアルにおける用語	14
第1章 はじめに.....	15
概要.....	15
導入のメリット.....	17
スマートな制御.....	17
最適化された性能	17
簡素化されたセットアップ	17
労力を必要としない高い拡張性	17
ユーザーの視点に基づいた利便性	17
場所を問わない柔軟な設備操作.....	18
特長.....	19
ATEN コントロールボックス	19
ATEN コントロールパッド.....	20
設定ソフトウェア	20
ATEN コントロールシステムアプリ	21

ATEN キーパッド	21
システム要件	22
アクセサリ	23
第 2 章 セットアップ方法	24
ATEN コントロールボックス	24
パネル各部名称	24
ATEN コントロールボックスのラックマウント	30
コントロールボックスの接続方法	34
DC12V 電源アウトレット	37
リレー	41
IR/シリアル	42
デジタル I/O	44
RS-232	46
RS-232/422/485	47
イーサネット	48
ATEN 拡張ボックス	49
パネル各部名称	49
コントロールパッドのセットアップ	52
アクセサリ	61
ATEN 拡張ボックス	61
ATEN キーパッド	62
第 3 章 ブラウザ操作	69
概要	69
ログイン	69
ダッシュボード	70
設定	71
モバイル制御用ライセンス	73
ストレージ	75
アクセス	76
モニター	78
ネットワーク	79
接続	80
スケジュール	81
セキュリティ	82
第 4 章 設定ソフトウェア (VK6000)	83
概要	83

インストール	83
タスクの開始	87
メイン画面.....	89
メニューバー	91
プロジェクト.....	99
デバイス.....	101
ATEN 設定ソフトウェア (VK6000) に対するデバイスの追加.....	103
デバイス設定リスト	104
左サイドバー	106
ライブラリー	107
デバイスライブラリー	108
プロパティ.....	109
デザイン.....	118
ビューワの選択	119
左サイドバー	121
右サイドバー	122
キーパッド.....	122
画面概観.....	124
編集	126
グラフィックライブラリー.....	161
ライブラリー.....	163
フラグ	164
モニター	166
マクロ.....	180
イベントスケジュール	182
同期変数.....	183
アップロード	188
コントロールボックスに関する情報の参照.....	189
第 5 章 ATEN データベースジェネレーター	191
概要.....	191
マイライブラリー	193
マイライブラリーの管理.....	196
ATEN ライブラリー	213
第 6 章 ControlAssist を使った コンピューターのリモート制御	214
概要.....	214
仕様.....	214

リモート PC 制御の設定	215
コンピューターへの ControlAssist のインストール	216
コントロールシステムに対するコンピューターの追加	218
制御インターフェースの設定	220
第 7 章 ATEN コントロールシステムアプリ	225
概要	225
アプリのインストール	225
ボタン音	226
ATEN コントロールシステムアプリ	227
デモ	228
WinViewer1/iPad/Android1	228
デモ	229
ウェルカム	231
ビューワプロファイルの編集	232
LAN デバイスの管理	233
パスワードの設定	236
ログレポート	237
履歴の報告	237
情報	238
ビューワプロファイルのダウンロード	239
プロファイルのダウンロード	241
付録	243
データポイントタイプ	243
製品仕様	246
VK2100	246
VK1100	249
VK0100/VK0200	252

EMC 情報

FCC(連邦通信委員会)電波干渉声明

本製品は、FCC(米国連邦通信委員会)規則の Part15 に準拠したデジタル装置 Class A の制限事項を満たして設計され、検査されています。この制限事項は、商業目的の使用において、有害な障害が発生しないよう、基準に沿った保護を提供する為のものです。この操作マニュアルに従わずに使用した場合、本製品から発生するラジオ周波数により、他の通信機器に影響を与える可能性があります。また、本製品を一般住宅地域で使用した場合、有害な電波障害を引き起こす可能性もあります。その際には、ユーザーご自身の負担で、その障害を取り除いてください。

FCC による注意:本コンプライアンスに対する責任者による明確な承認を得ていない変更または改良を行った場合は、ユーザーの本装置を操作する権利を無効とします。

注意:本製品をご家庭で使用した場合、電波干渉を引き起こす可能性があります。

RoHS

本製品は『電気・電子機器に含まれる特定有害物質の使用制限に関する欧州議会及び理事会指令』、通称 RoHS 指令に準拠しております。

安全性

本製品は情報技術装置として分類されます。



安全にお使い頂くために

全般

- ◆ 本製品は、屋内での使用に限ります。
- ◆ 製品に同梱されるドキュメントは全てお読みください。またドキュメント類は全て保存してください。また、弊社 Web サイトに掲載のオンラインユーザーマニュアルもご確認ください。
- ◆ 製品に関する注意・説明に従って取り扱ってください。
- ◆ 落下による事故・製品の破損を防ぐため、設置場所は不安定な面(台車、簡易的なスタンドやテーブル等)を避けるようにしてください。
- ◆ 注意:不適切なタイプのバッテリーに交換された場合、爆発する危険性があります。使用済のバッテリーは、関連する指示に従って処分してください。
- ◆ 製品が水に濡れるおそれのあるような場所で使用しないでください。
- ◆ 製品は熱源の近く、またはその熱源の上などで使用しないでください。
- ◆ 製品のケースには必要に応じて通気口が設けられています。通気口のある製品は、安定した運用を行うため、また製品の過熱を防ぐために、開口部を塞いだり覆ったりしないでください。
- ◆ 製品をベッドやソファ、ラグなどの柔らかいものの上に置かないでください。開口部が塞がれ、適切な通気が確保できずに製品が過熱するおそれがあります。
- ◆ 製品にいかなる液体もかからないようにしてください。
- ◆ 電源プラグを電源コンセントから抜く場合は、乾いた雑巾でプラグ周りのホコリを掃除してください。液体やスプレー式のクリーナーは使用しないでください。
- ◆ 製品はラベルに記載されたタイプの電源に接続して運用してください。電源タイプについて不明な場合は、購入された販売店もしくは電気事業者にお問い合わせください。
- ◆ 電気回路が過負荷状態に陥らないようにしてください。電気機器を回路に接続する前に、電源の上限を把握しておき、これを超えないように注意してください。回路の電気仕様を常に見直して、危険な条件を生じさせていないかどうか、また、すでに危険な条件がそろっていないかどうかを確認してください。電気回路の過負荷は火災や機器破損の原因となります。
- ◆ お使いの装置への損傷を避けるためにも、すべての装置を適切に接地するようにしてください。
- ◆ 製品付属の電源ケーブルは安全のために 3 ピンタイプのプラグを使用しています。電源コンセントの形状が異なりプラグを接続できない場合には電気事業者にお問い合わせで適切に処置してください。アース極を無理に使用できない状態にしないでください。使用される国/地域の電源形状に従ってください。
- ◆ 電源コードやケーブルの上に物を置かないでください。人が通行するような場所を避けて電源

コードを設置してください。

- ◆ 電源の延長コードや電源タップを使用する場合は、合計容量とコードまたはタップの仕様が適合していることを確認してください。電源コンセントにつながれている製品全ての合計アンペア数は 15 アンペアを超えないようにしてください。
- ◆ 突然の供給電力不安定や電力過剰・電力不足からお使いのシステムを守るために、サージサプレッサー、ラインコンディショナー、または無停電電源装置 (UPS) をご使用ください。
- ◆ システムケーブルや電源ケーブルは丁寧に取り扱いってください。これらのケーブル類の上には何も置かないようにしてください。
- ◆ 危険な電源ポイントへの接触やショートによって、発火したり感電したりするおそれがありますので、キャビネットの空きスロット等に押し込まないようにしてください。
- ◆ 装置をご自身で修理せず、ご不明な点がございましたら技術サポートまでご相談ください。
- ◆ 下記の現象が発生した場合、コンセントからはずして技術サポートに修理を依頼してください。
 - 電源コードが破損した。
 - 装置の上に液体をこぼした。
 - 装置が雨や水にぬれた。
 - 装置を誤って落下させた、ないしはキャビネットが破損した。
 - 装置の動作に異変が見られる。(修理が必要です)
 - 製品マニュアルに従って操作しているにもかかわらず、正常に動作しない。
- ◆ 修理が必要となる故障が発生するおそれがありますので、製品マニュアルに従って操作してください。
- ◆ 本製品をスタッキングする場合、ラックにロックする場合、フレームにネジ止めする場合やその他類似の方法で設置を行う場合には、製品を確実に固定するための安全装置が追加で必要になることがあります。
- ◆ 本製品は固定させて使用するよう設計されているため、通常の動作中には動かさないようにしてください。
- ◆ カテゴリ 5e/6 ケーブルは、電気ケーブル、変圧器、照明器具といった電波障害の発生源となりうる物から、できるだけ遠ざけて配線するようにしてください。また、これらのケーブルは、電線用導管に接続したり、電灯設備の上に置いたりしないようにしてください。

ラックマウント

- ◆ ラックでの作業を始める前に、スタビライザーがラックに固定され床に接していること、また、ラック全体が安定した場所に置かれていることを確認してください。作業する前に、シングルラックにフロントとサイドのスタビライザーを取り付けるか、結合された複数のラックにフロントスタビライザーを取り付けてください。
- ◆ ラックには下から上に向かって、一番重いアイテムから順番に取り付けてください。
- ◆ デバイスを拡張する前にラックが水平で安定していることを確認してください。
- ◆ ラックに供給する AC 電源の分岐回路が過剰供給にならないようご注意ください。ラック全体の電源負荷は分岐回路の 80%を越えないように設定する必要があります。
- ◆ ラックにマウントされたデバイスは、電源タップも含め、すべて正しく接地されていることを確認してください。
- ◆ ラックへの通気を十分に確保してください。
- ◆ 本製品で定められている保管温度を超えないように、ラックが設置されている場所の室温を調節してください。
- ◆ ラックに設置されているデバイスが動作している際に、デバイスを踏んだりデバイスによじ登ったりしないでください。

同梱品

ATEN コントロールシステム 製品パッケージには下記のアイテムが同梱されています。

VK0100

- ◆ VK0100 8 ボタン壁コンセント型プログラマブルスイッチ ×1
- ◆ ボタンパック ×1
- ◆ ターミナルブロック ×6
- ◆ フェイスプレート ×1
- ◆ クイックスタートガイド* ×1

VK0200

- ◆ VK0200 12 ボタン壁コンセント型プログラマブルスイッチ ×1
- ◆ ボタンパック ×1
- ◆ ターミナルブロック ×6
- ◆ フェイスプレート ×1
- ◆ クイックスタートガイド* ×1

VK1100

- ◆ VK1100 コントロールボックス(コンパクトタイプ) ×1
- ◆ ターミナルブロック ×4
(2 極タイプ×1、3 極タイプ×1 、4 極タイプ× 2)
- ◆ 電源コード ×1
- ◆ クイックスタートガイド* ×1

VK2100

- ◆ VK2100 コントロールボックス ×1
- ◆ ターミナルブロック ×9
(3 極タイプ×2、4 極タイプ×6、5 極タイプ×1)
- ◆ 電源コード ×1
- ◆ フットパッド(4 個入り) ×1

- ◆ ラックマウントキット ×1
- ◆ クイックスタートガイド* ×1

上記のアイテムがそろっているかご確認ください。万が一、欠品または破損品があった場合はお買い上げになった販売店までご連絡ください。

本ユーザーマニュアルをよくお読みいただき、正しい使用法により、本製品および接続する機器を安全にお使いください。

-
- 注意:**
- ◆ 本マニュアルの公開後に、製品仕様が追加される場合があります。最新版は弊社 Web サイトにアクセスしてご確認ください。
 - ◆ VK2100 のファームウェアは、本マニュアルのリリース後に新機能が追加されてアップグレードされている可能性があります。本マニュアルの最新情報については、弊社 Web サイト(<https://www.aten.com/jp/ja/>)にてご確認ください。
-

本マニュアルについて

このユーザーマニュアルは、ATEN コントロールシステムに関する情報や使用法について説明しており、取り付け・セットアップ方法、操作方法のすべてを提供します。

カテゴリ	型番	製品名
ATEN コントロールボックス	VK1100	コントロールボックス(コンパクトタイプ)
	VK2100	コントロールボックス
ATEN コントロールパッド	VK0100	8 ボタンコントロールパッド
	VK0200	12 ボタンコントロールパッド
ATEN キーパッド	VK108US	8 ボタン壁コンセント型プログラマブルスイッチ
ATEN 拡張ボックス	VK224	4 ポートシリアル拡張ボックス
	VK236	6 ポート IR/シリアル拡張ボックス
	VK248	8 チャンネルリレー拡張ボックス

マニュアルは下記のとおり構成されています。

第1章 はじめに: ATEN コントロールシステムを紹介します。特長や機能概要に加え、システム要件やアクセサリについても説明しています。

第2章 セットアップ: ATEN コントロールシステムの製品各部名称、およびハードウェアセットアップの手順から、各種ハードウェアの接続方法について説明します。

第3章 ブラウザ操作: ATEN コントロールシステムおよびコントロールパッドの GUI の詳細、および接続機器をリモートから設定する方法について説明します。

第4章 設定ソフトウェア (VK6000): 設定ソフトウェア (VK6000) に関する機能概要、および ATEN コントロールシステムの設定方法と制御方法について説明します。

第5章 ATEN データベースジェネレーター: データベースジェネレーターに関する機能概要と、設定ソフトウェア (VK6000) のデバイスライブラリーに新規デバイスを追加する方法等について説明します。

第6章 **ControlAssist を使ったコンピューターのリモート制御:**ライセンスのあるデバイスからリモート制御できるようにコンピューターを設定する方法、および PC 制御に対応するアクションについて詳しく説明します。

第7章 **ATEN コントロールシステムアプリ:**タブレット/スマートフォン用のアプリである ATEN コントロールシステムアプリの概要と、このアプリを使用して ATEN コントロールシステムに接続されたデバイスを制御する方法について説明します。

付録 製品の仕様および関連する技術情報や操作方法について説明します。

マニュアル表記について

[]

入力するキーを示します。例えば[Enter]はエンターキーを押します。複数のキーを同時に押す場合は、[Ctrl + Alt]のように表記してあります。

1.

番号が付けられている場合は、番号に従って操作を行ってください。

◆

◆印は情報を示しますが、作業の手順を意味するものではありません。

→

矢印は操作の手順を示します。例えば Start → Run はスタートメニューを開き、Run を選択することを意味します。



重要な情報を示しています。

※本マニュアルに記載されている商品名・会社名等は、各社の商標ならびに登録商標です。

本マニュアルにおける用語

用語	説明
コントロールボックス	VK2100 コントロールボックスおよび VK1100 コントロールボックス (コンパクトタイプ)を含む、ATEN コントロールボックスの全機種を指します。
コントローラー	ATEN コントロールボックス(VK1100 および VK2100)と ATEN コントロールパッド(VK0100 および VK0200)を指します。
ビューワまたはプロファイル	「ビューワ」または「プロファイル」は、ATEN 設定ソフトウェアを使って作成されたソフトウェアのインターフェースです。このインターフェースは、モバイルデバイス上で使用され、コントローラーによって管理されているデバイスを制御します。
プロジェクト	プロジェクトは、ATEN 設定ソフトウェアを使って作成された設定のことを言います。プロジェクトを使うと、どのデバイスを ATEN コントローラーで管理するかを指定することができます。

第1章 はじめに

概要

ATEN コントロールシステムは、ATEN の VanCryst ビデオ製品や会議室等に設置している機器をタブレット/スマートフォンで直感的に操作・制御できるシステムです。これはイーサネットベースのシステムで、ATEN コントロールボックス(コントローラー)、設定ソフトウェア(VK6000)、および ATEN コントロールシステムアプリから構成されます。ATEN コントロールシステムを使えば、VanCryst 製品のみならず、A/V 機器、照明システム、空調設備、モーションセンサー、電源スイッチなどを、様々な場面に応じてモバイルデバイスから切替・操作できるので、会議やセミナー、授業などを中断することなく、スムーズに進行することができます。本システムは、ATEN コントローラーに機器を接続し、設定ソフトウェアからシンプルな 4 つのステップにてシステムプロジェクトを作成することで、機器の設定をカスタマイズします。そして、コントローラーを、例えば設定済の無線 LAN のルーターに接続し、iOS、Android、または Windows に対応したモバイルデバイスで ATEN コントロールシステムアプリを開けば、室内のどこにいても、また移動しながらでも、これらの機器が手軽に制御できるようになります。

ATEN コントロールボックス/コントロールパッドは、メインコントロールボックスとして機能し、VanCryst 製品や部屋の中に設置された各種機器(映像機器、照明、会議システム、空調、人感センサー、電源スイッチなどを含む)を接続します。様々な機器と互換性があるため、既存の設備に簡単に組み込むことができます。コントローラーはモバイルデバイス上の GUI から各種機器のモニタリングや管理、制御を行うための一元管理用プラットフォームとしての機能を担っています。

VK6000 は、設定ソフトウェアで、直観的な GUI を使用し、わずか数ステップで機器の管理や操作方法の設定を簡単に行えるのが特長です。VK6000 は、機器の設定、インターフェースのデザイン、そしてコントローラーに対するビューワプロファイルのアップロードといった操作を実現します。機器を制御できるよう、ビューワを含むプロファイルは iOS や Android、Windows の各種 OS を搭載したモバイルデバイスから ATEN コントロールシステムアプリを介してインポートされます。ATEN コントロールシステムアプリは、タブレット/スマートフォンにインストールするタップ式のユーザーインターフェースを使用し、イーサネット接続を介してコントローラーからプロファイルのインポートやアップデートを行うことができます。各ビューワプロファイルは、カスタマイズ可能な操作 GUI を提供しているので、操作対象の機器に素早くアクセスできます。さらにこのプロ

ファイルはパスワード認証で保護されているため、システムへのアクセスをセキュアに行うことができます。

ATEN コントロールシステムは、会議やプレゼンをしながら、簡単かつスマートに室内の機器を制御できるため、会議室を始め、カンファレンスセンター、役員室やホテルの宴会場、教室など、室内の各種機器を制御する必要がある場所での使用に最適です。

導入のメリット

スマートな制御

ATEN コントロールシステムは、お使いのハードウェア機器間の相互作用を、よりスマートにします。事前にプログラミングされたアクションやトリガーによって、使用機器間が相互にインテリジェントな応答をする高度な一連の操作を自動化するため、導入システム全体のソリューションを、よりスマートに、かつ、よりスムーズに運用することが可能になります。

最適化された性能

ATEN コントロールシステムは、最適化された通信プロトコルによって、0 秒に近い応答時間が維持できるだけでなく、データの暗号化によって保護機能も強化しています。

簡素化されたセットアップ

部屋の規模やハードウェアの複雑さにかかわらず、ATEN コントロールシステムは、たった 3 つの手順でセットアップすることができます。その手順とは、1) ハードウェアを接続して、2) システムの設定を行い、3) タブレット/スマートフォン用のアプリを使ってプロファイルをアップロードするだけです。直観的な GUI を使えば、各部屋に対する機器の設定はシンプルでありながらも、自由にカスタマイズすることができます。事前に定義して使えるコマンドやマクロも簡単なので、特に複雑なプログラミングのスキルがなくても、お使いいただけます。

労力を必要としない高い拡張性

様々な拡張ボックスが利用可能であるため、ATEN コントロールシステムの機器構成には、シリアル、リレー、IR の各デバイスを追加して組み込むことができます。さらに、1 万を超えるデバイスのドライバーが収録されている ATEN ライブラリーには、新しい機器をデータベースジェネレーター経由で既存のデータベースに追加すると、このライブラリーにも反映されてデータベースの収録件数を増やせるため、システムの規模や範囲にかかわらず、拡張や管理が簡単に行えます。

ユーザーの視点に基づいた利便性

ソフトウェア 1 つで高度な機能を実現できるソリューションは、各種タブレット/スマートフォンに対して直観的なインターフェースを作成します。一方、特定の需要は、拡張可能なアクションライ

ブラリーや、コントロールパネルをカスタマイズするデザイン要素から選択することによって、自由に変更することができます。さらに、ATEN コントロールシステムは、ドライバーのダウンロード、データベースの生成、ツールのアップグレードといった様々なサポートサービスを提供しているため、システムインテグレーターは快適な操作環境を簡単に構築できるというメリットが得られます。

場所を問わない柔軟な設備操作

直観的なシステム制御は、1 つの部屋から始めて、各所に分散したり同じ場所に置かれたりしている複数の部屋へと広げることができます。iOS、Android、Windows の各 OS を搭載したタブレット/スマートフォンでプロフィールを切り替えれば、別々の部屋にある機器を選択してタップするだけで、操作することが可能になります。さらに、複数のタブレット/スマートフォンに対して同じ部屋や複数の部屋へのアクセス権限を与えることができるため、柔軟性、強力な移動性、そして強固な安全性を確保することができます。

特長

ATEN コントロールボックス

◆ 各種接続インターフェースに対応

インターフェース	VK2100 コントロールボックス	VK1100 コントロールボックス (コンパクトタイプ)
シリアルポート	6	2
IR/シリアルポート	4	2
リレーチャネル	4	4
I/O チャネル	4	–
イーサネットポート	1	1

◆ 電源接続用 DC 出力

- VK2100 - DC 出力×4
- VK1100 - DC 出力×1

◆ プロファイルアップロード用 USB ポート×1

◆ IR 学習機能で、リモコンなどのコマンドを記憶可能

◆ 管理システム構築用のネイティブ KNX IP に対応

◆ Telnet、TCP、UDP、ONVIF、PJLink、HTTP、HTTPS の各種プロトコルに対応

◆ プロジェクトファイルのバックアップに対応

◆ 最大 8 台の ATEN キーパッドに対応

◆ Web GUI を使用して、システムを簡単に設定可能

◆ モバイル制御用に無償ライセンスを 2 ライセンス提供*

◆ データ監視用の SSH 通信に対応

◆ ラックマウント対応

注意: モバイル制御用に 3 ライセンス以上必要になる場合は、弊社販売代理店までお問い合わせください。

ATEN コントロールパッド

- ◆ 各種接続インターフェースに対応
 - RS-232 シリアルポート×2
 - リレーチャネル×2
 - デジタル入力ポート×1
 - イーサネットポート×1
- ◆ 2 ギャング EU タイプおよび MK タイプのジャンクションボックスへのマウントに対応したデザイン(VK0200)
- ◆ フルカスタマイズ可能なレイアウト
 - VK0100 - 14 パターンのレイアウトで 4~8 ボタンのカスタマイズが可能
 - VK0200 - 125 パターンのレイアウトで 4~12 ボタンのカスタマイズが可能
- ◆ カスタマイズボタン刻印サービス
- ◆ 接続状態をすぐに確認できるシステム LED インジケーター
- ◆ 暗い場所でもはっきりと識別できるように 2 色の LED を搭載
- ◆ 冗長電源対応 (Power over Ethernet および DC5V (オプション))
- ◆ ビル管理システム用のネイティブ KNX IP に対応
- ◆ Telnet、TCP、UDP、HTTP、HTTPS、ONVIF および PJ Link プロトコル対応
- ◆ プロジェクトファイルのバックアップに対応
- ◆ Web GUI を使用してシステムを簡単に設定可能
- ◆ コントローラーの入出力信号をモニタリングする SSH ツール搭載

注意: モバイルデバイスを使って設定の変更を行う場合は、モバイル制御用にお問い合わせの上、ライセンスをお求めください。

設定ソフトウェア

- ◆ シンプルなプロファイル設定 - 直観的な GUI を使用し、4 つの操作で設定可能
- ◆ GUI デザインをカスタマイズし、モバイルデバイス/PC で使用可能
- ◆ PC 制御 (PC シャットダウン、メディアファイル、PowerPoint ファイル)*が可能な ControlAssist に対応
- ◆ データベースジェネレーター搭載 - 機器のドライバーセットアップや全体的な機器管理が可能
- ◆ ATEN ライブラリーには、VanCryst 製品と 1 万種以上の機器のドライバーを搭載
- ◆ イベントスケジューリング機能

- ◆ 双方向通信によりユーザー定義のイベントを監視し、次のアクションへの自動切替が可能
- ◆ ATEN コントローラーにプロファイルをアップロードする前に、コマンド操作を確認できるテストツール搭載
- ◆ カスタマイズした GUI を、プロファイルのアップロード前に再確認できるシミュレーターを搭載

注意: PC 制御に対応したアクションに関する詳細は、p.223「PC 制御に対応したアクション」を参照してください。

ATEN コントロールシステムアプリ

- ◆ 1 台のモバイルデバイス/タブレットに異なるプロファイルを搭載することで、アドミニストレーターによる複数の部屋の統合管理が可能
- ◆ パスワード認証によりプロファイルのユーザーアクセスを制限可能
- ◆ 複数のモバイルデバイス/タブレット間でシステムの同期や制御が可能
- ◆ iOS、Android、Windows 搭載のモバイルデバイスに対応 - 制御用パネルの購入は不要

ATEN キーパッド

- ◆ フルカスタマイズ可能なレイアウト
 - VK108US - 14 パターンのレイアウトで 4~8 ボタンのカスタマイズが可能
- ◆ 接続状態をすぐに確認できるシステム LED インジケーター
- ◆ 暗い場所でもはっきりと識別できるように 2 色の LED を搭載
- ◆ イーサネット通信時に ATEN コントローラーとの ID ペアリングが簡単
- ◆ 拡張性 - 1 台の ATEN コントローラーに最大 8 台のキーパッドを接続可能
- ◆ 各種モードでボタンの動作設定を柔軟にサポート
- ◆ 設定を簡単に実現できる直感的な Web GUI
- ◆ 冗長電源対応 (Power over Ethernet および DC5V (オプション))
- ◆ カスタマイズボタン刻印サービス

システム要件

本製品を使用するにあたり、下記の機器をご用意ください。また、お使いの機器が、下記の最低要件を満たしていることをご確認ください。

◆ ATEN コントローラーによって制御されるハードウェア機器

- 双方向通信 RS-232/422/485 シリアルデバイス
- 単方向 IR またはシリアルトランスミッターハードウェア機器 (コントロールボックスのみ)
- リレーハードウェア機器
- デジタル入力ハードウェア機器 (VK2100 およびコントロールパッドのみ)
- デジタル出力ハードウェア機器 (VK2100 のみ)
- イーサネット経由での制御が可能な PLink、Telnet、ONVIF、TCP、UDP、HTTP、HTTPS デバイス
- KNX 対応デバイスとの接続に使用する KNX IP インターフェース

◆ ケーブル

- ATEN コントローラーを LAN に接続するカテゴリ 5e/6 イーサネットケーブル 1 本
- (オプション) DB-9 ピンを搭載したシリアルデバイス用の標準ストレートケーブル

◆ ATEN コントロールシステムの設定に使用するコンピューター

Windows 7/8/8.1/10 以降のバージョンの OS が搭載されたコンピューターをお使いください。

◆ (オプション) リモート制御用モバイルデバイス (最大 10 台)

注意: ライセンスは各モバイルデバイスに必要となります。詳細については、p.73「モバイル制御用ライセンス」を参照してください

アクセサリ

お使いのコントロールシステムは、下記のアクセサリをオプションで購入することによって、機能を強化することができます。詳細については、弊社 Web サイト(<http://www.aten.com/jp/ja/>)にて、ご確認ください。また、これらをお求めの際には ATEN 販売代理店までお問い合わせください。

型番	製品名
2XRT-0004G	IR トランスミッター
2X-031G	シングル ラックマウントキット
VK108US	壁コンセント型プログラマブルスイッチ
VK224	4 ポートシリアル拡張ボックス
VK236	6 ポート IR/シリアル拡張ボックス
VK248	8 チャンネルリレー拡張ボックス
SA0141	インターフェース・アダプター

第2章 セットアップ方法

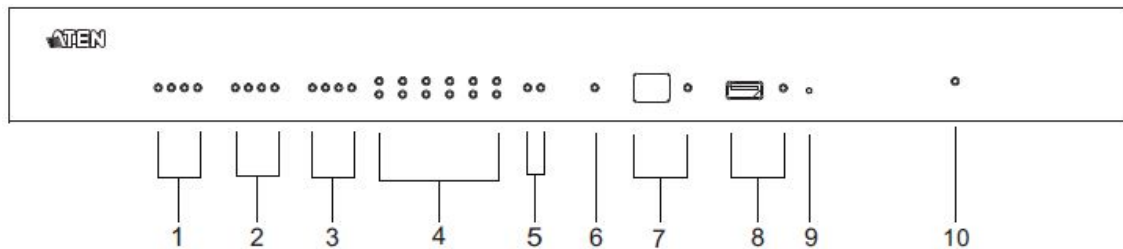


1. 機器の設置に際し重要な情報を p.6 に記載しています。作業の前に、必ず目を通してください。
2. 今から接続する装置すべての電源がオフになっていることを確認してください。コンピューターにキーボード起動機能がついている場合は、ここから電源ケーブルも抜いてください。

ATEN コントロールボックス

パネル各部名称

VK2100 フロントパネル

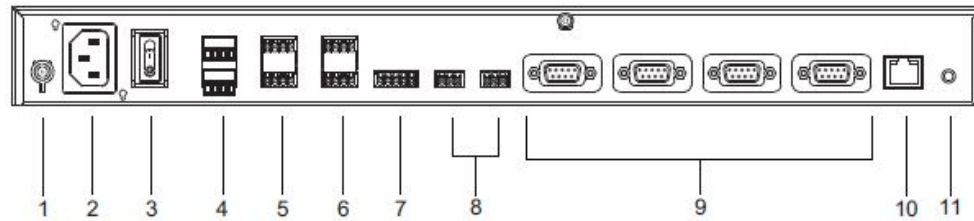


No.	名称	説明
1	リレーLED	グリーンに点灯している場合は、デバイスとの接続がアクティブであることを表します(閉ループ)。
2	IR/シリアル LED	グリーンに点灯している場合は、デバイスとの接続がアクティブであり、IR/シリアル信号が伝送中であることを表します。
3	I/O LED	グリーンに点灯している場合は、シリアル信号が伝送中であることを表します。
4	シリアル LED	LED (1～6) がグリーンに点灯している場合は、デバイスとの接続がアクティブであり、IR/シリアル信号が伝送中であることを表します。

(表は次のページに続きます)

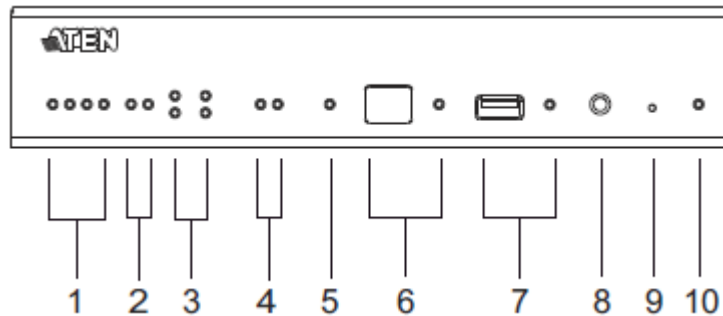
No.	名称	説明
5	イーサネット LED	この LED はネットワーク接続に関する情報を表します。 ◆ Link - この LED が点灯している場合は、イーサネット信号が伝送中であることを表します。 ◆ ACT - グリーンに点灯している場合は、100Mbps で通信していることを表します。
6	DC 過電流 LED	オレンジに点灯している場合は、DC 出力が最大値を超えていることを表します。 注意:LED がオレンジに点灯している場合は、任意の接続デバイスを外して、出力合計が 24W 未満になるようにしてください。
7	IR レシーバー /LED	この IR レシーバーは IR 学習モードを使用して VK2100 に対してリモコンの機能を送信します。IR リモコンとレシーバーの受信窓との距離は直線見通し距離で 10cm 未満にしてください。 ◆ LED がグリーンに点灯している場合は、本製品が IR リモコンからの信号を受信できる状態であることを表します。
8	USB ポート/LED	この USB ポートは VK2100 にビューワーファイルをアップロードするための USB デバイスを接続する際に使用します。 ◆ LED がグリーンに点滅している場合は、ビューワーファイルがアップロード中であることを表し、ビューワーファイルのアップロードが完了すると、グリーンに点灯します。 ◆ LED がオレンジに点灯している場合は、ビューワーファイルのアップロードに失敗したことを表します。
9	リセット	VK2100 のネットワーク設定をリセットする際にこのピンホール型リセットボタンを押します。
10	電源 LED	本製品の電源が ON になっている場合に、グリーンに点灯します。

VK2100 リアパネル



No.	名称	説明
1	接地ターミナル	接地線をここに接続します。
2	電源ソケット	標準の 3 極タイプの AC 電源ソケットです。AC 電源からの電源コードをここに接続します。
3	電源スイッチ	本体の電源を入れたり、切ったりするための標準的なロッカースイッチです。
4	有電源出力ポート	4 ポートあり、合計出力電源が最大 24W/2A に対応しています。
5	リレーチャンネル	4 チャンネルあり、その仕様は NO (ノーマルオープン)、絶縁リレー、接点定格最大 24VDC、2A です。
6	IR/シリアルポート	IR または RS-232 Tx ポート (ピン 1:Signal、ピン 2:Gnd) のどちらかに設定可能です。
7	I/O チャンネル	4 チャンネルあり、デジタル入力またデジタル出力のどちらかに設定可能です。 ◆ デジタル入力 - プログラム可能入力範囲:1~24VDC、またはドライ接点+12VDC プルアップ ◆ デジタル出力 - 12VDC 250mA シンク ピン 1~4:Signal、ピン 5:Gnd
8	RS-232 シリアルポート	Tx/Rx 機能対応の RS-232 ポートが 2 ポートあります。
9	RS-232/422/485 シリアルポート	ピンアサインと RTS/CTS フロー制御によって RS-232/422/485 変換に対応したポートが 4 ポートあります。RS-232、RS-422 または RS-485 接続はピンによって設定されます。ピンアサインの詳細は p.47 を参照してください。
10	イーサネットポート	この RJ-45 ポートはネットワーク接続に使用します。IP アドレスが 30 秒以内に割り当てられないと、デフォルトの IP が適用されます。 デフォルト IP:192.168.0.60、サブネットマスク:255.255.255.0
11	コントロールボックス ID スイッチ	この 16 セグメントスイッチはコントロールボックス ID を選択する際に使用します。

VK1100 フロントパネル

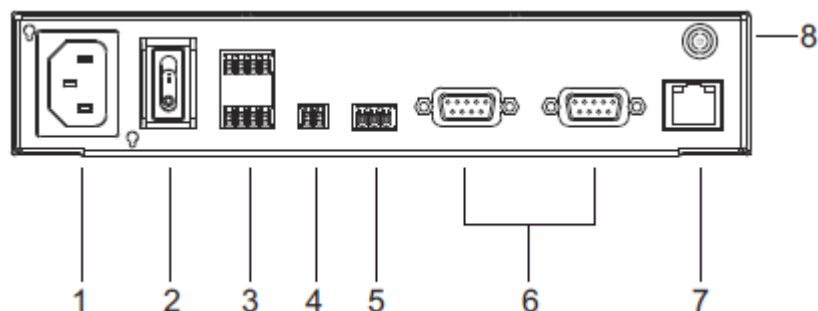


No.	名称	説明
1	リレーLED	グリーンに点灯している場合は、デバイスとの接続がアクティブであることを表します (閉ループ)。
2	IR/シリアル LED	グリーンに点灯している場合は、デバイスとの接続がアクティブであり、IR/シリアル信号が伝送中であることを表します。
3	シリアル LED	LED (1～2) がグリーンに点灯している場合は、シリアル信号が伝送中であることを表します。
4	イーサネットリンク /ACT LED	この LED はネットワーク接続に関する情報を表します。 ◆ Link - この LED が点灯している場合は、イーサネット信号が伝送中であることを表します。 ◆ ACT - グリーンに点灯している場合は、100Mbps で通信していることを表します。
5	DC 過電流 LED	オレンジに点灯している場合は、DC 出力が最大値を超えていることを表します。 注意: LED がオレンジに点灯している場合は、任意の接続デバイスを外して、出力合計が 12W 未満になるようにしてください。
6	IR レシーバー /LED	この IR レシーバーは IR 学習モードを使用して VK1100 に対してリモコンの機能を送信します。IR リモコンとレシーバーの受信窓との距離は直線見通し距離で 10cm 未満にしてください。 ◆ LED がグリーンに点灯している場合は、本製品が IR リモコンからの信号を受信できる状態であることを表します。

(表は次のページに続きます)

No.	名称	説明
7	USB ポート/LED	この USB ポートは VK1100 にビューワーファイルをアップロードするための USB デバイスを接続する際に使用します。 ◆ LED がグリーンに点滅している場合は、ビューワーファイルがアップロード中であることを表し、ビューワーファイルのアップロードが完了すると、グリーンに点灯します。 ◆ LED がオレンジに点灯している場合は、ビューワーファイルのアップロードに失敗したことを表します。
8	コントロールボックス ID スイッチ	この 16 セグメントスイッチはコントロールボックス ID を選択する際に使用します。
9	リセット	VK1100 のネットワーク設定をリセットする際にこのピンホール型プッシュボタンを押します。
10	電源 LED	本製品の電源が ON になっている場合に、グリーンに点灯します。

VK1100 リアパネル



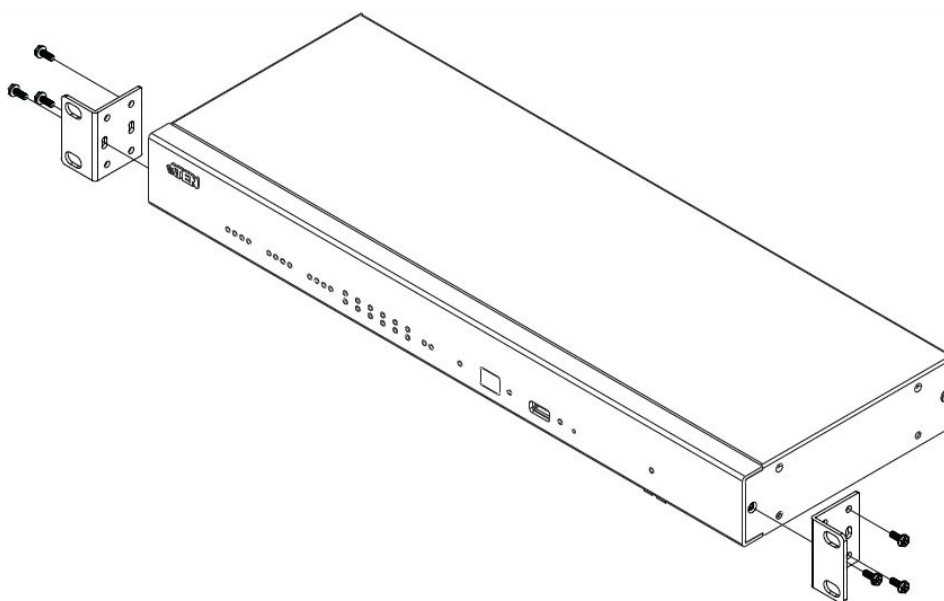
No.	名称	説明
1	電源ソケット	標準の 3 極タイプの AC 電源ソケットです。AC 電源からの電源コードをここに接続します。
2	電源スイッチ	本体の電源を入れたり、切ったりするための標準的なロックスイッチです。
3	リレーチャンネル	4 チャンネルあり、その仕様は NO (ノーマルオープン)、絶縁リレー、接点定格最大 24VDC、2A です。
4	有電源出力ポート	4 ポートあり、合計出力電源が最大 24W/2A に対応しています。
5	IR/シリアルポート	IR または RS-232 Tx ポート (ピン 1:Signal、ピン 2:Gnd) のどちらかに設定可能です。
6	RS-232/422/485 シリアルポート	ピンアサインと RTS/CTS フロー制御によって RS-232/422/485 変換に対応したポートが 2 ポートあります。RS-232、RS-422 または RS-485 接続はピンによって設定されます。ピンアサインの詳細は p.47 を参照してください。
7	イーサネットポート	この RJ-45 ポートはネットワーク接続に使用します。IP アドレスが 30 秒以内に割り当てられないと、デフォルトの IP が適用されます。デフォルト IP:192.168.0.60、サブネットマスク:255.255.255.0
8	接地ターミナル	接地線をここに接続します。

ATEN コントロールボックスのラックマウント

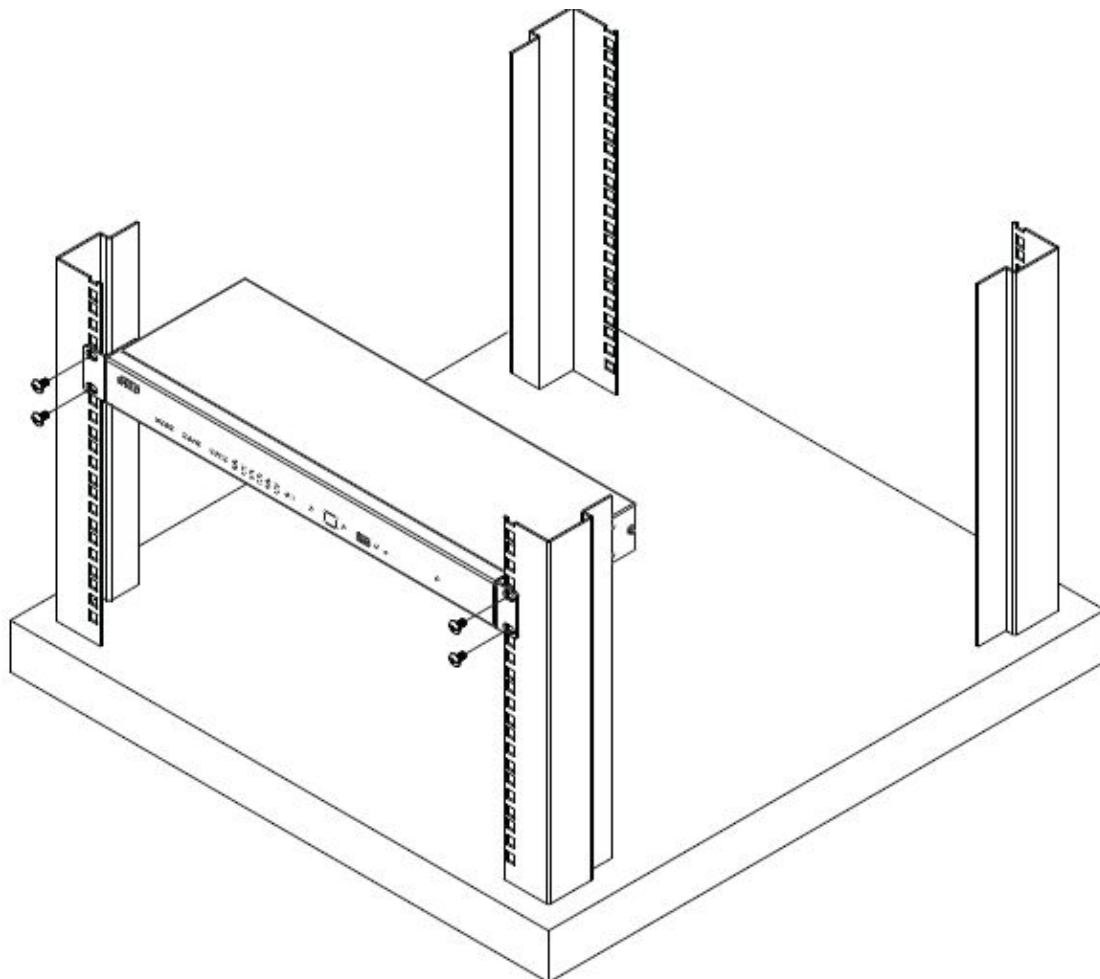
VK2100

VK2100 は 19 インチのシステムラックに 1U サイズで取り付けることができます。下記の手順で製品本体をラックに取り付けてください。

1. ラックマウントキットに同梱されている M3 プラスネジ 8mm を使用してラックマウントブラケットを製品本体のフロントパネルにネジ止めしてください。



2. ラックのフロント側に製品本体を固定し、ラックのネジ穴とマウント用ブラケットの穴を合わせてください。
3. マウント用ブラケットをラックにネジ止めしてください。

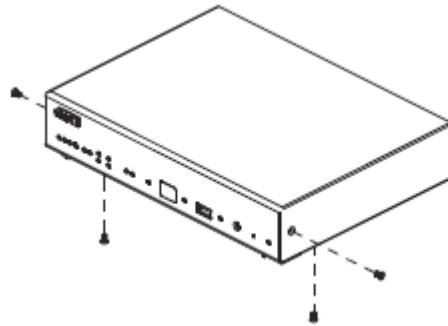


注意: ラックマウント用のビスとケージナットは本製品に付属していないため、別途、ご用意ください。

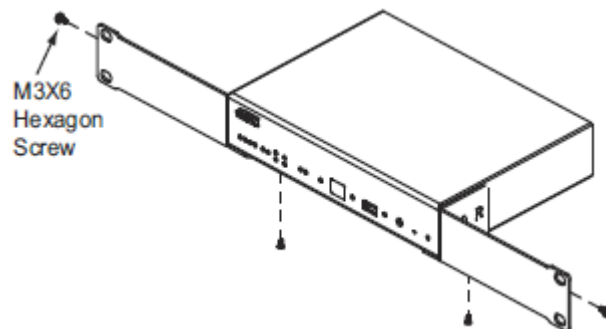
VK1100

VK1100 を 19 インチのシステムラックに 1U サイズで取り付けるには、オプション品の ATEN ラックマウントキットを購入してください。下記の手順で製品本体をラックに取り付けてください。

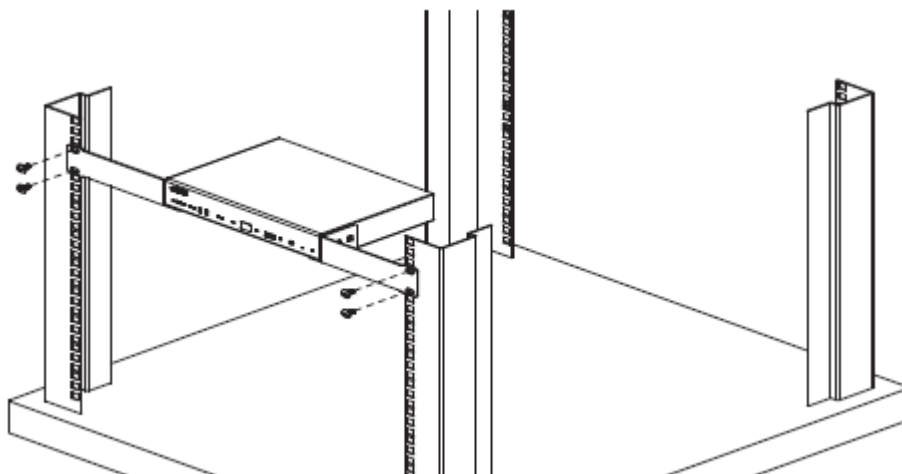
1. VK1100 本体の側面および底面のフロント側にあるネジ(位置は下図を参照)を外してください。



2. 手順1で本体底面から取り外したネジ、およびラックマウントキット付属の M3 プラスネジ 6mm を使用して、ラックマウントブラケットを VK1100 のフロントパネルにネジ止めしてください。



3. マウント用ブラケットをラックにネジ止めしてください。



注意: ラックマウント用のビスとケージナットは本製品に付属していないため、別途、ご用意ください。

コントロールボックスの接続方法

コントロールボックスのセットアップに必要な作業は、ケーブルを接続するだけです。p.35の接続図や下記手順に記載されたページを参考にしながら、ハードウェア機器をコントロールボックスに接続してください(各手順に対応した番号はVK2100 および VK1100 の接続図に記載)。

1. 接地線の一端をコントロールボックスの接地ターミナルに接続し、もう一端を適切な接地物に接続してください。

注意： この手順は省略しないでください。適切な接地をすることで電圧変化や静電気による機器の破損防止に一定の効果があります。

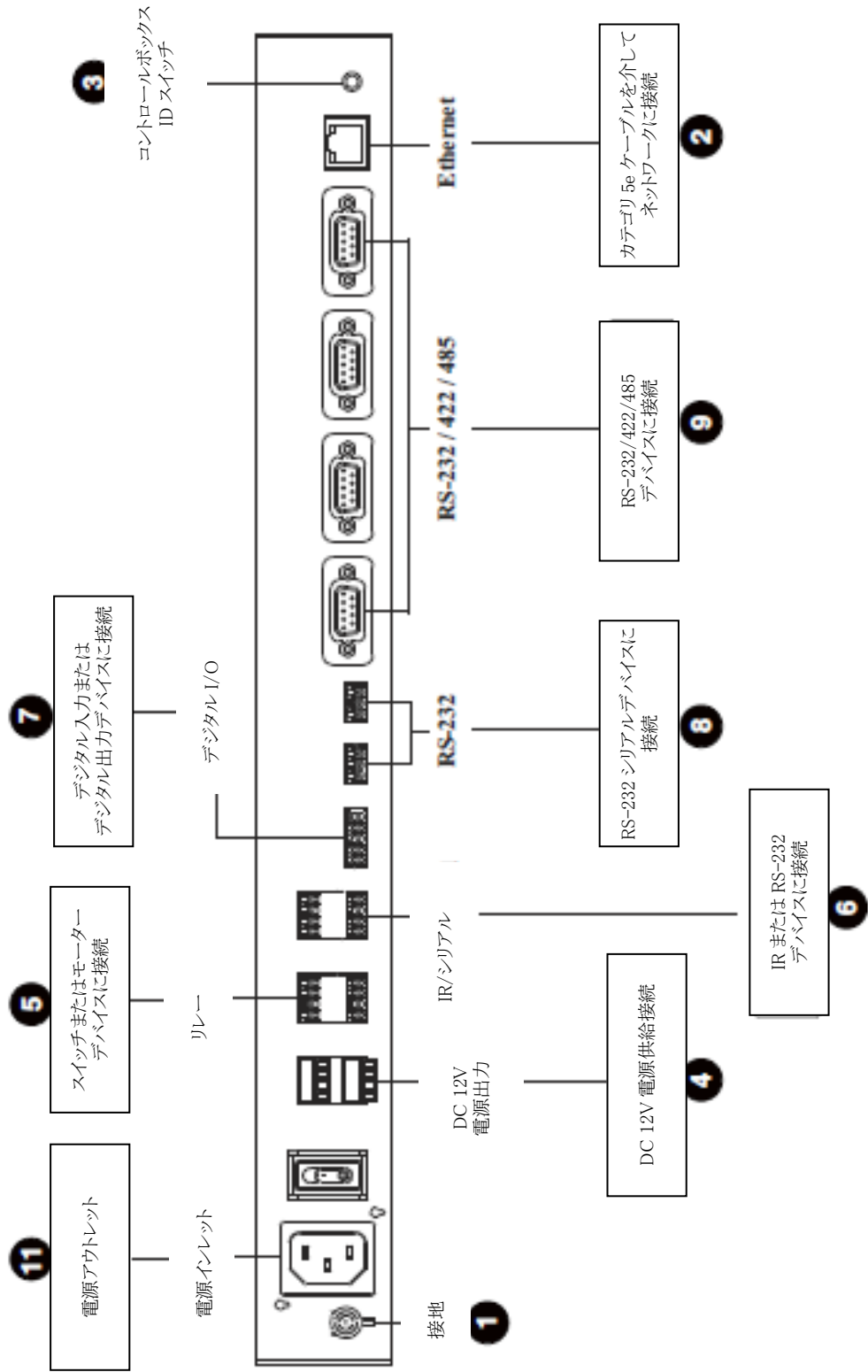
2. カテゴリ 5e/6 ケーブルを使用して、コントロールボックスのイーサネットポートをネットワークに接続してください。
3. 本製品に合うようにコントロールボックス ID を適切に設定してください。
4. p.36 に記載された手順に従って、DC 出力ターミナルを使用して DC 12V 電源を接続してください。
5. p.41 に記載された手順に従って、リレーターミナルを使用してリレーデバイスを接続してください。
6. p.42 に記載された手順に従って、IR/シリアル(Tx)ターミナルを使用して IR またはシリアルデバイスを接続してください。
7. p.44 に記載された手順に従って、デジタル I/O ターミナルを使用してデジタル入力/出力デバイスを接続してください。
8. p.46 に記載された手順に従って、RS-232 ターミナルを使用して RS-232 シリアルデバイスを接続してください。
9. p.47 に記載された手順に従って、DB-9 ピンポートを使用して RS-232/422/485 シリアルデバイスを接続してください。
10. IP デバイスをコントロールボックスと同じネットワークに接続してください。詳細については、p.60「イーサネット」を参照してください。

注意： ◆ KNX 対応デバイスをお使いの場合は、このデバイスを KNX IP インターフェースに接続してから、コントロールボックスがセットアップされているネットワークに、このインターフェースを接続するようにしてください。

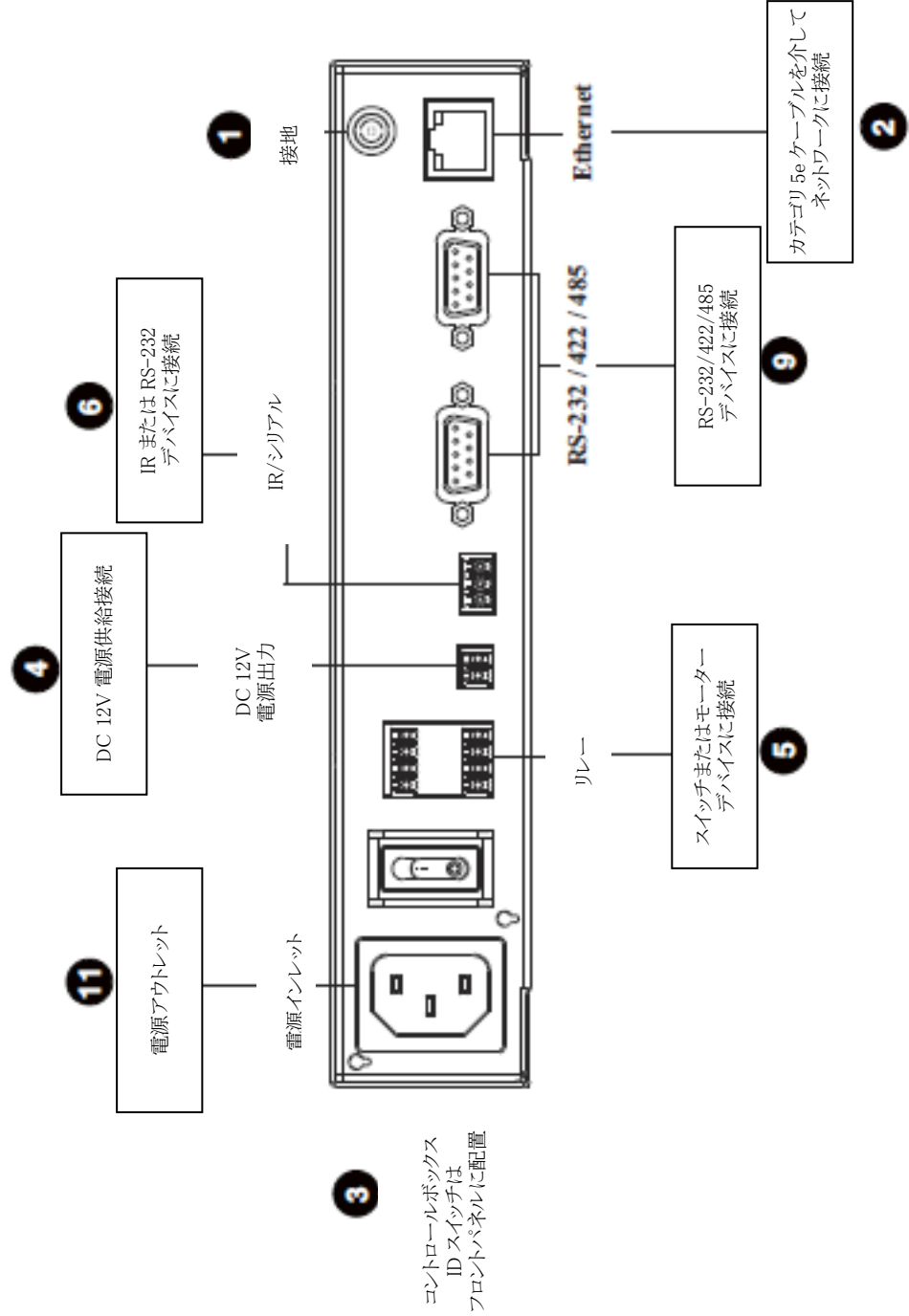
◆ KNX 機能がコントロールボックスに対応しているかどうかを確認するには、p.243「データポイントタイプ」を参照してください。

11. 同梱の電源コードをコントロールボックスの 3 極 AC ソケットに接続してから、AC 電源コンセントに接続してください。

VK2100 接続図



VK1100 接続図

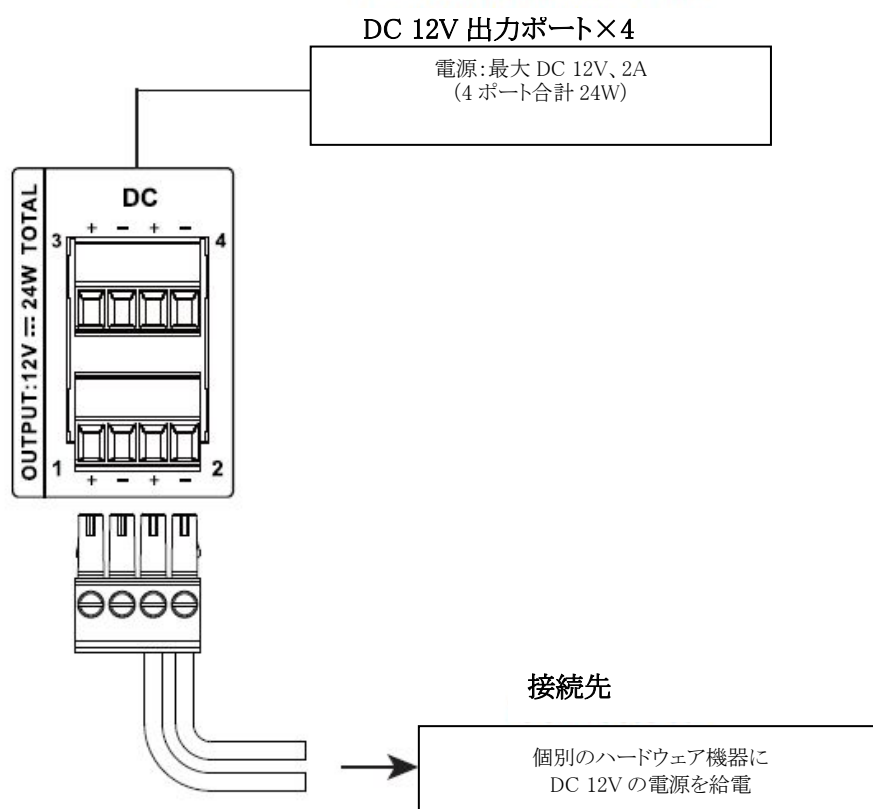


DC12V 電源アウトレット

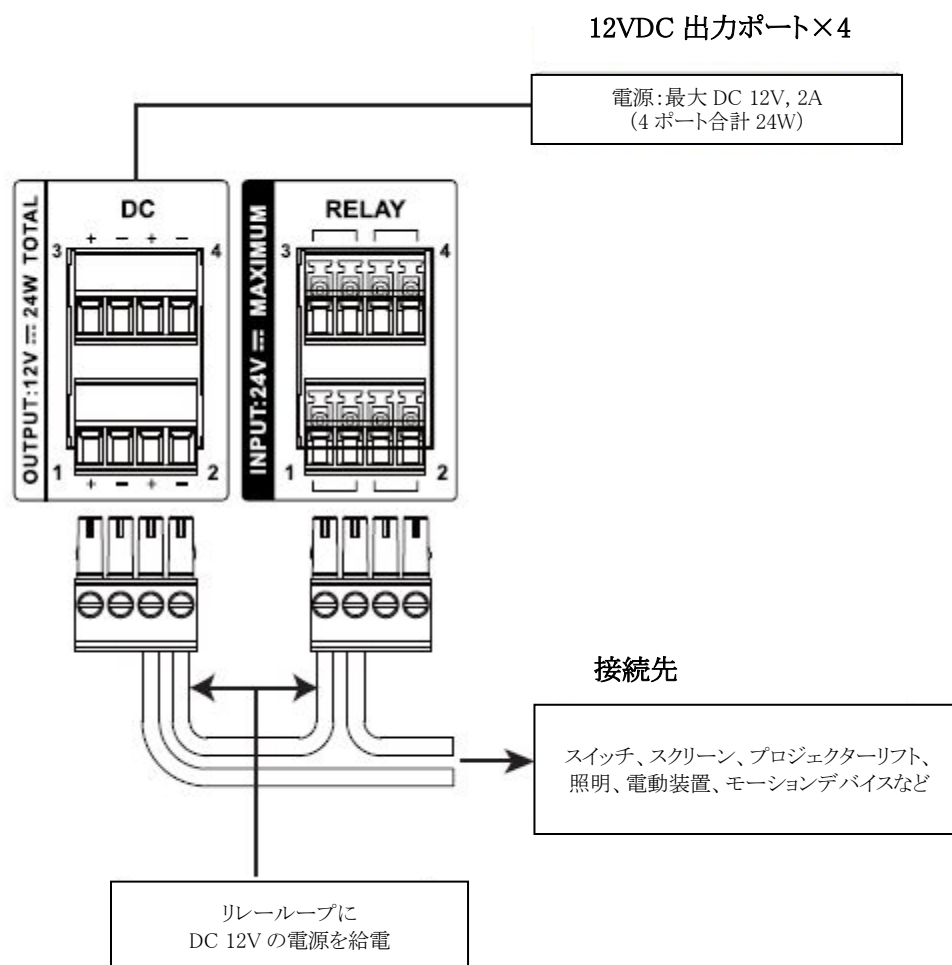
製品本体には 1 ポート(VK1100)/4 ポート(VK2100)の DC 12V 電源アウトレットが搭載されており、合計 12W(VK1100)/24W(VK2100)の DC 12V 電源を供給します。このアウトレットは 1 台(VK2100)/4 台(VK2100)のハードウェア機器、接続リレーデバイスの 1 つ(VK1100)/4 つ(VK2100)のループ、または1台(VK1100)/4 台(VK2100)のデジタル出力デバイスに対して給電を行います。ポートの合計電流が 1A(VK1100)/2A(VK2100)を超えると、DC 過電流 LED がオレンジに点灯し、警告ビープ音が 3 回鳴った後、ポートへの給電が停止されます。ポートに再び給電するには、コントロールボックスの電源を切り、DC 12V 電源出力ポートに接続されている、すべてのハードウェアの接続を取り外して、コントロールボックスに電源を入れた後でハードウェア機器に対して 1 台ずつ電源を入れてください。そうすると、ポートの合計電流が 1A(VK1100)/2A(VK2100)を下回ります。

この後、3 ページにわたって VK2100 におけるポートの接続図を掲載します。VK1100 は DC 12V のターミナルブロックの数が VK2100 よりも少ない点と I/O ポートを搭載していない点を除けば、VK2100 と同じです。

個別給電

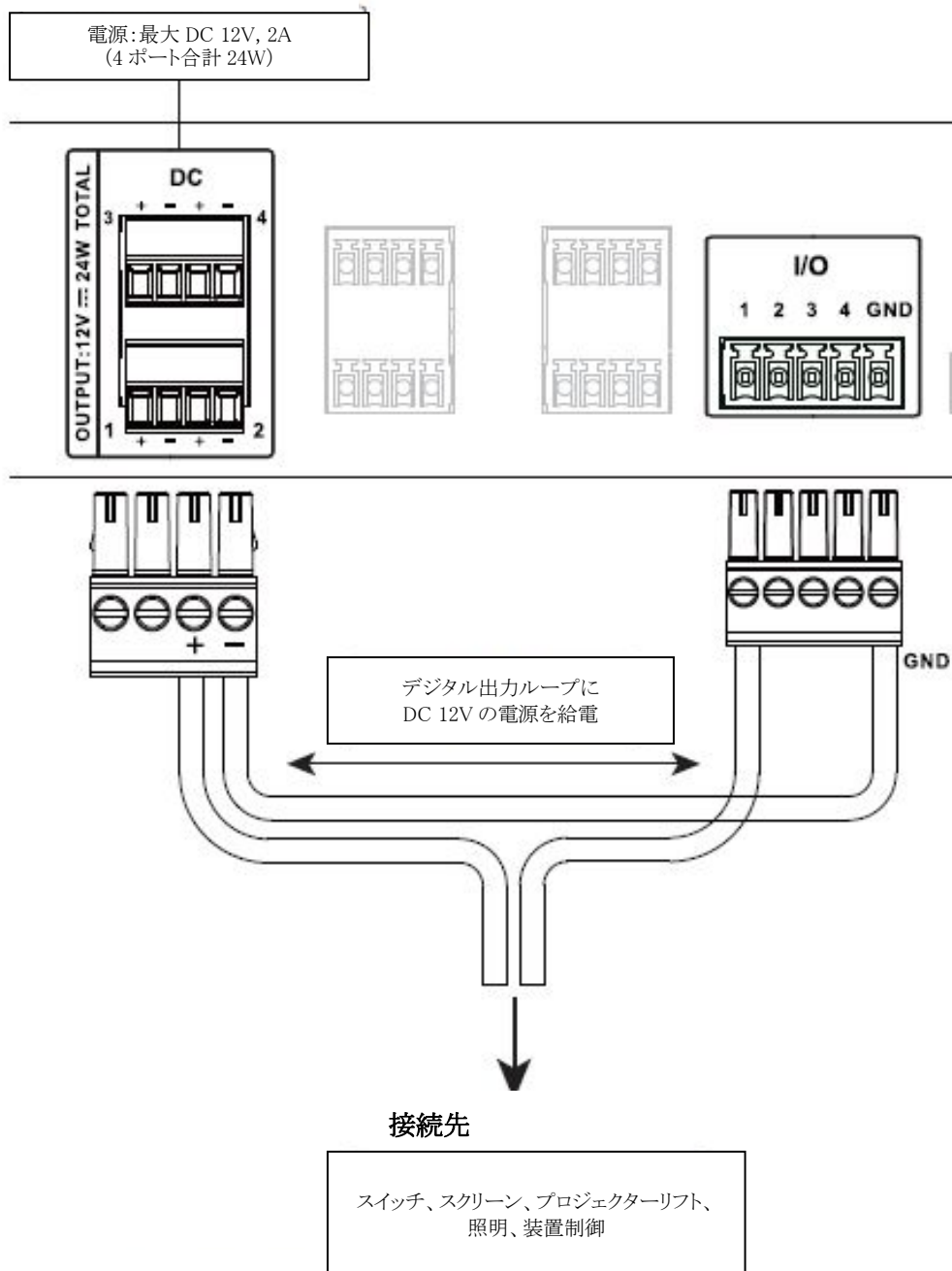


リレー電源



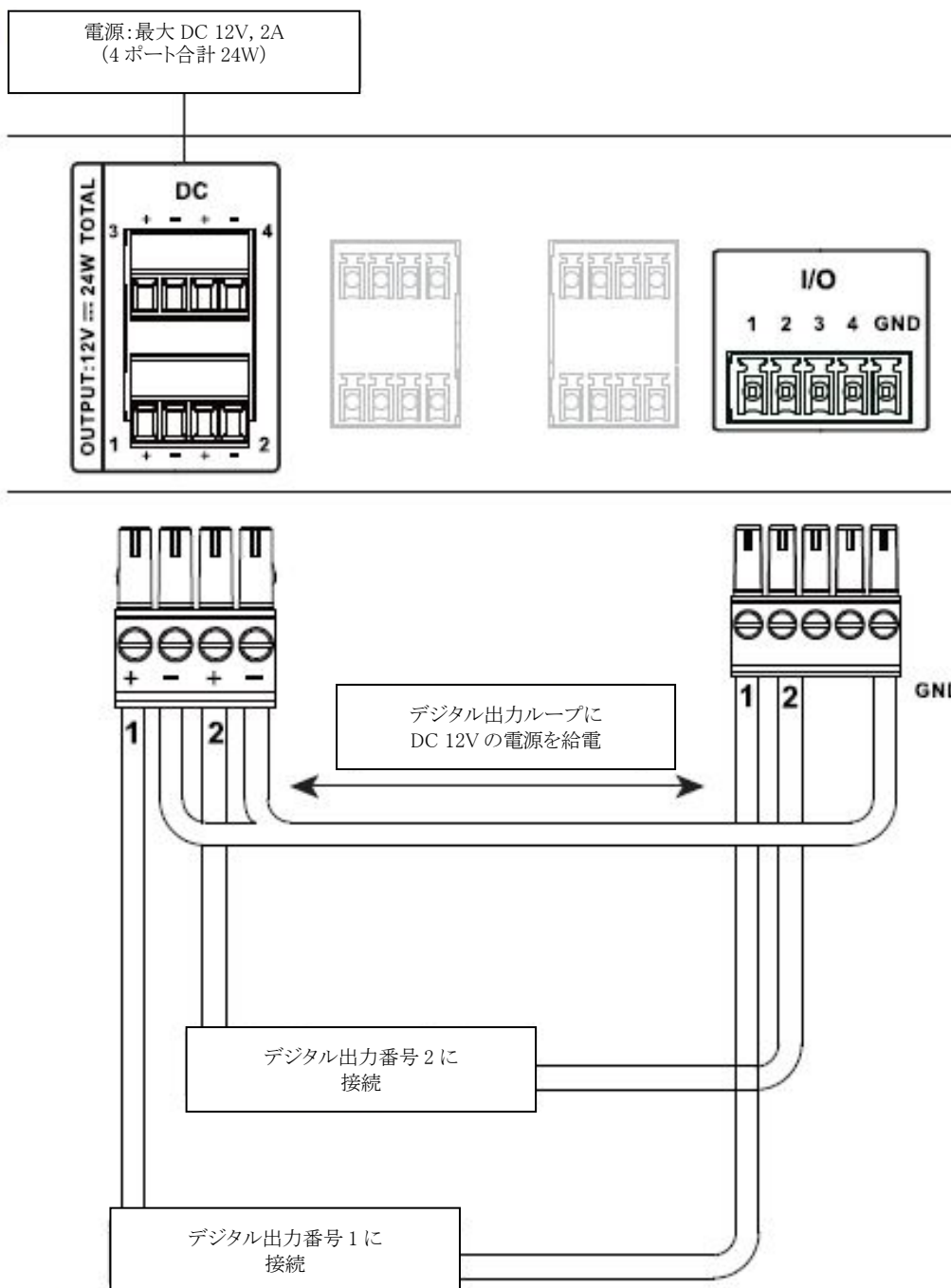
デジタル出力電源 (VK2100 のみ)

DC 12V 出力ポート×4



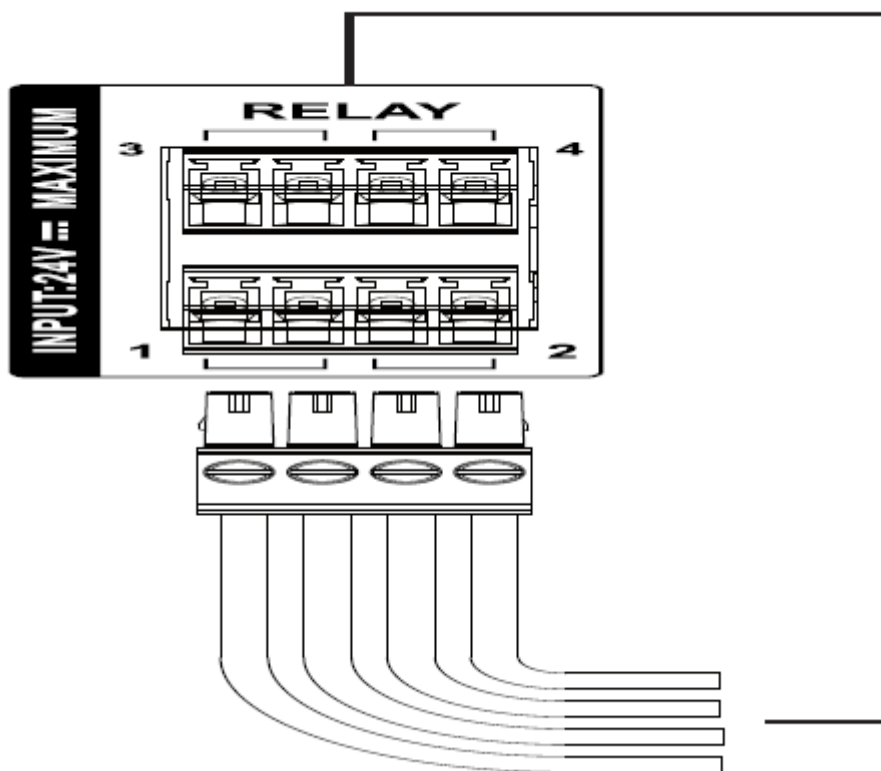
デジタル出力デュアル電源 (VK2100 のみ)

DC 12V 出力ポート×4



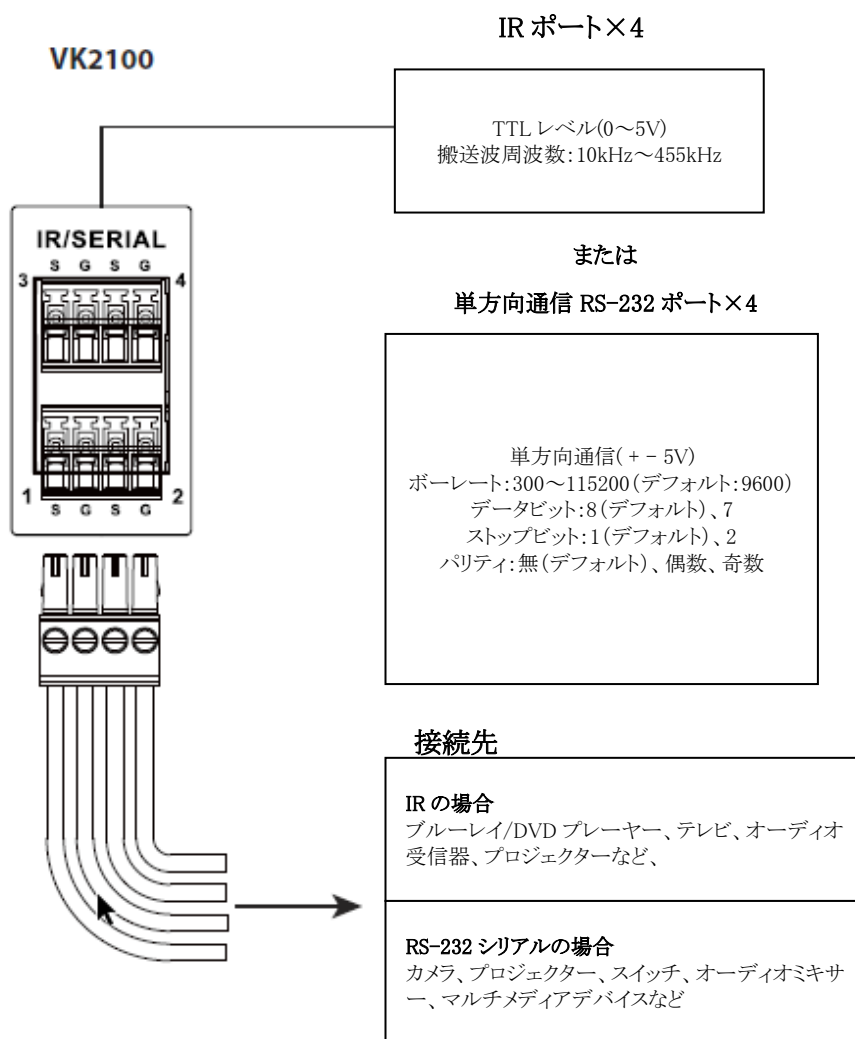
リレー

本製品には、電動スクリーンやプロジェクターリフト、動力装置などのハードウェア機器を接続して制御するためのリレーチャンネルを 4 チャンネル搭載しています。各リレーは、デフォルトで NO (ノーマルオープン) になっています。



IR/シリアル

製品本体には、IR デバイスまたは RS-232 シリアルデバイスを接続できる IR/単方向通信 RS-232 ポート(IR/RS-232 のどちらかを選択)が 2 ポート(VK1100)/4 ポート(VK2100)搭載されています。デフォルトでは、このポートは IR 信号を伝送するように設定されています。RS-232 シリアル信号を伝送するには、設定ソフトウェア(VK6000)を使用して、ポートの設定を行ってください。下図は VK2100 におけるポートを表しています。VK1100 は DC 12V のターミナルブロックの数が VK2100 よりも少ない点と、単方向通信の設定が 0~5V である点を除けば、VK2100 と同じです。



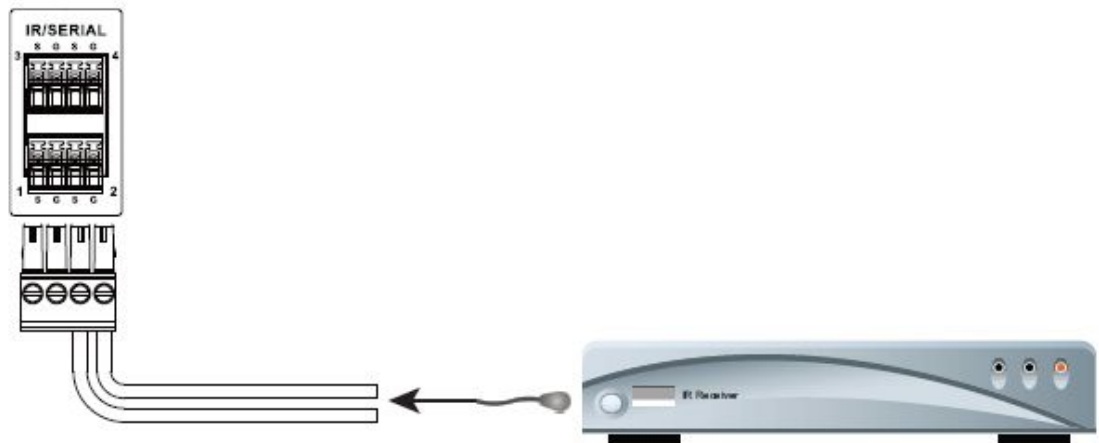
IR 接続の場合

次ページを参考にして、トランスミッターのケーブルをコントロールボックスの IR および接地ポートに接続し、IR トランスミッターをデバイスの IR 受信ポート付近に設置してください。

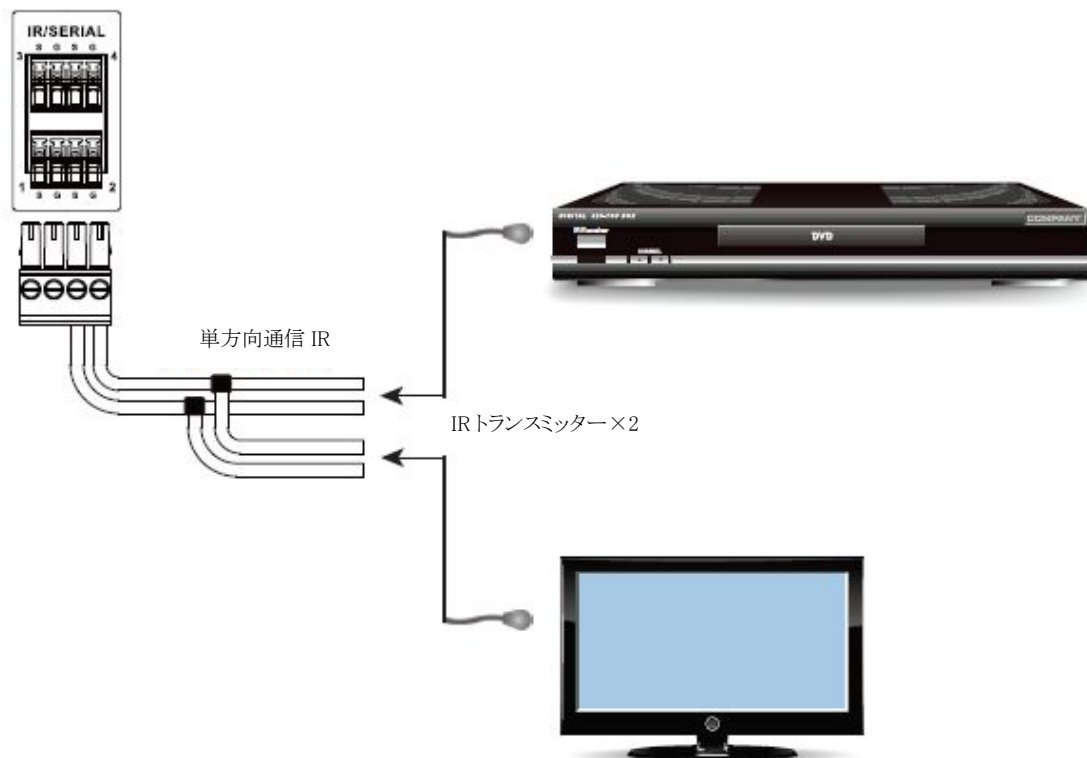
シリアル接続の場合

デバイスのレシーバー(RX)と接地ポートをコントロールボックスのシリアル(TX)および接地ポートに接続してください。次にコントロールボックスとデバイス間で通信ができるように、両者とも同一のシリアルポート設定を行ってください。

IRトランスミッター1 台の場合

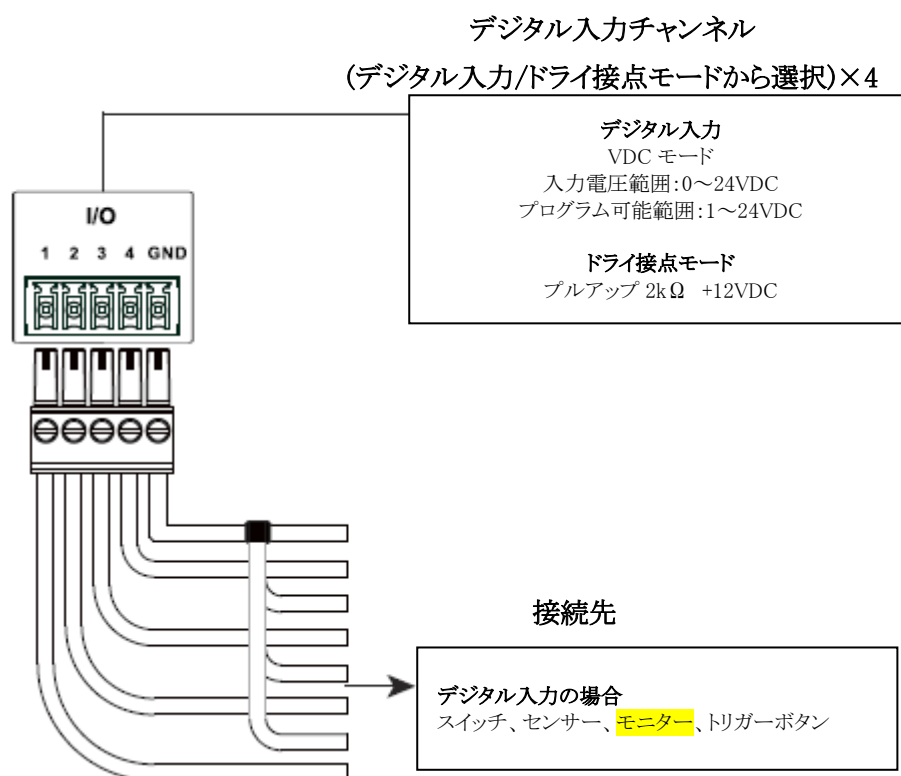


IRトランスミッター2 台の場合



デジタル I/O

VK2100 には、スイッチやセンサー、LED、リレー等のデジタル入出力ハードウェアを接続できるデジタル I/O チャンネルが 4 チャンネル搭載されています。各チャンネルは、デジタル入出力またはドライ接点モードのいずれかに設定できます。



デジタル入力(ドライ接点)の場合

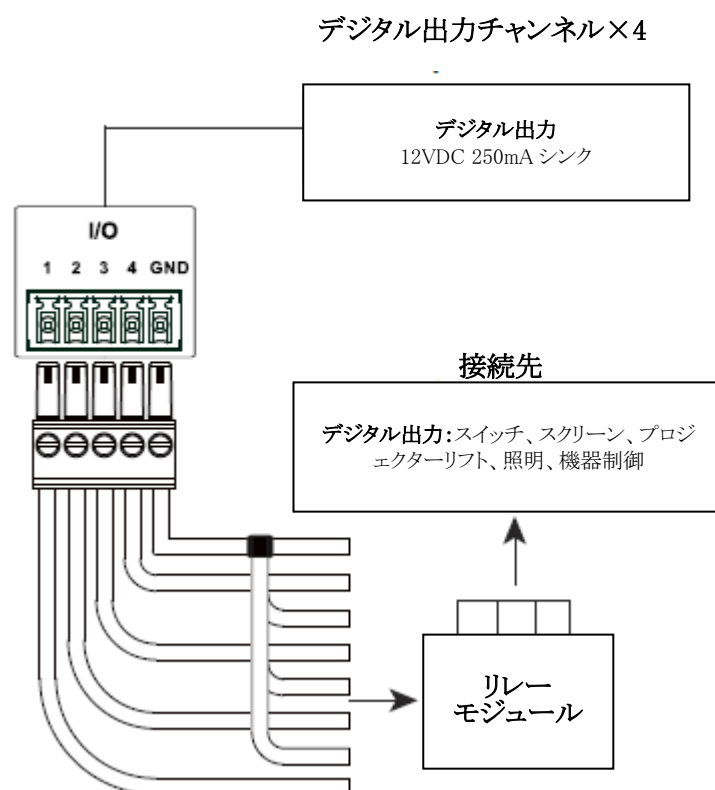
デジタル入力には 2 系統の回路信号(オープンとクローズ)を使用するハードウェア機器(スイッチ、センサー、モニター)を接続します。この 2 系統の信号はセンサーまたはスイッチからのイベントのインジケータを提供します。イベントには、電源の ON/OFF、ドライ接点、デバイスからのセンサーまたはスイッチの状態に関する情報が挙げられます。VK2100 を介してイベントや機能を作動させる際にこの情報が使用されます。

デジタル入力(VDC)の場合

デジタル入力 12VDC ハードウェア機器(温度、電流および監視センサー)は 1~24V の電圧信号を提供します。デジタル入力ポートは電圧が規定のしきい値(1~24V)を上回った、またはこれを下回ったかどうかを検知します。ハードウェア機器からの電圧が設定した値を上回った場合、VK2100 はデジタル入力を「高」として検知します。逆に電圧が設定した値を下回った場合は、VK2100 はデジタル入力を「低」として検知します。この情報は VK2100 を介してイベントや機能を作動させる際に使用されます。

デジタル出力の場合

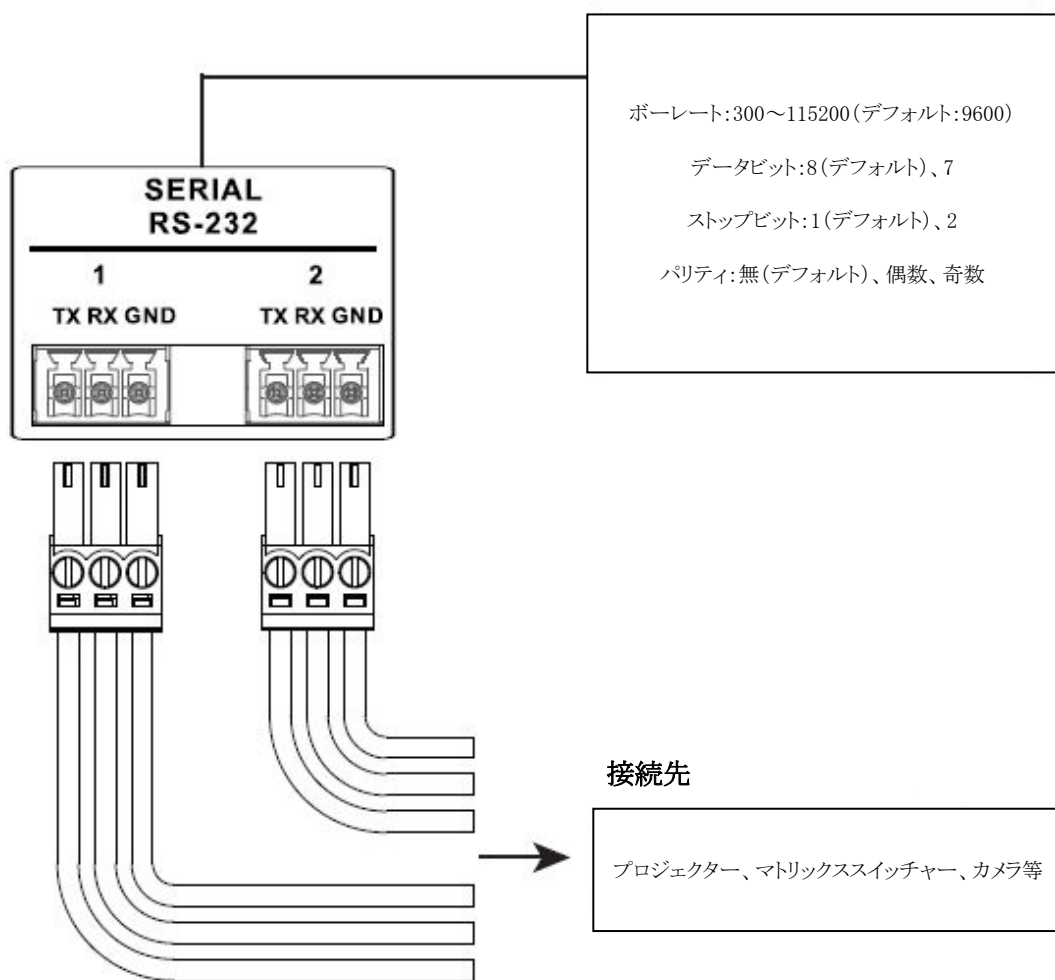
デジタル出力チャンネルでは、通電しないドライ接点(オープンおよびクローズ)回路によるハードウェア機器(電動スクリーン、プロジェクターリフトやその他動力装置等)の制御を行うことができます。デジタル出力ポートへの接続機器は、下図に示すように、リレーモジュールを介して接続するようにしてください。



RS-232

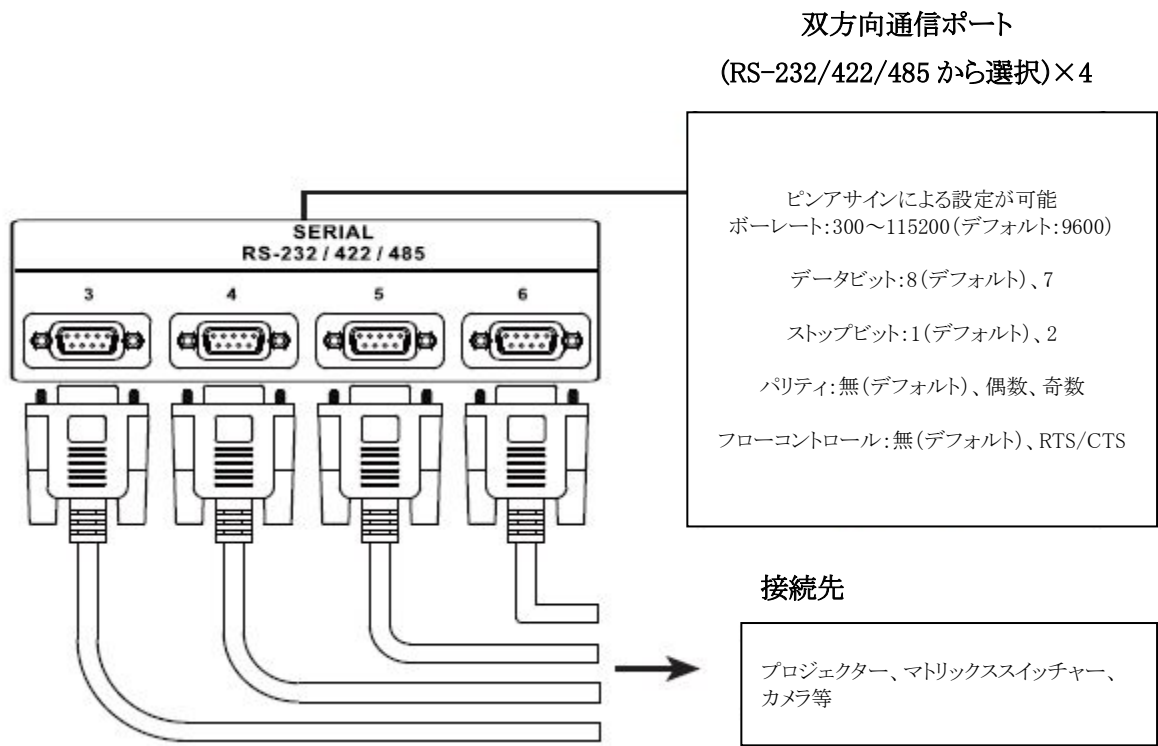
VK2100 には、プロジェクターやマトリックススイッチャー等のハードウェア機器を制御したり、これらの接続デバイスからのステータスメッセージを受信したりする双方向通信 RS-232 ポートが 2 ポート搭載されています。双方向通信 RS-232 シリアルによる制御を行うには、VK2100 とハードウェア機器の Tx、Rx および Gnd のピンを接続する必要があります。ハードウェア機器によって、ピンの接続方法が異なることがあるので、詳細はハードウェア機器のマニュアルをご確認ください。

双方向通信ポート(RS-232 固定)×2



RS-232/422/485

コントロールボックスには、ピンアサインを設定して、プロジェクターやスイッチ等のハードウェア機器をシリアル制御したり、これらの接続デバイスからのステータスメッセージを受信したりする双方向通信 DB-9 ピンポートが 2 ポート(VK1100)/4 ポート(VK2100)搭載されています。下図は VK2100 におけるポートを表しています。VK1100 は、このポートが少ないという点を除いて、VK2100 と同じです。

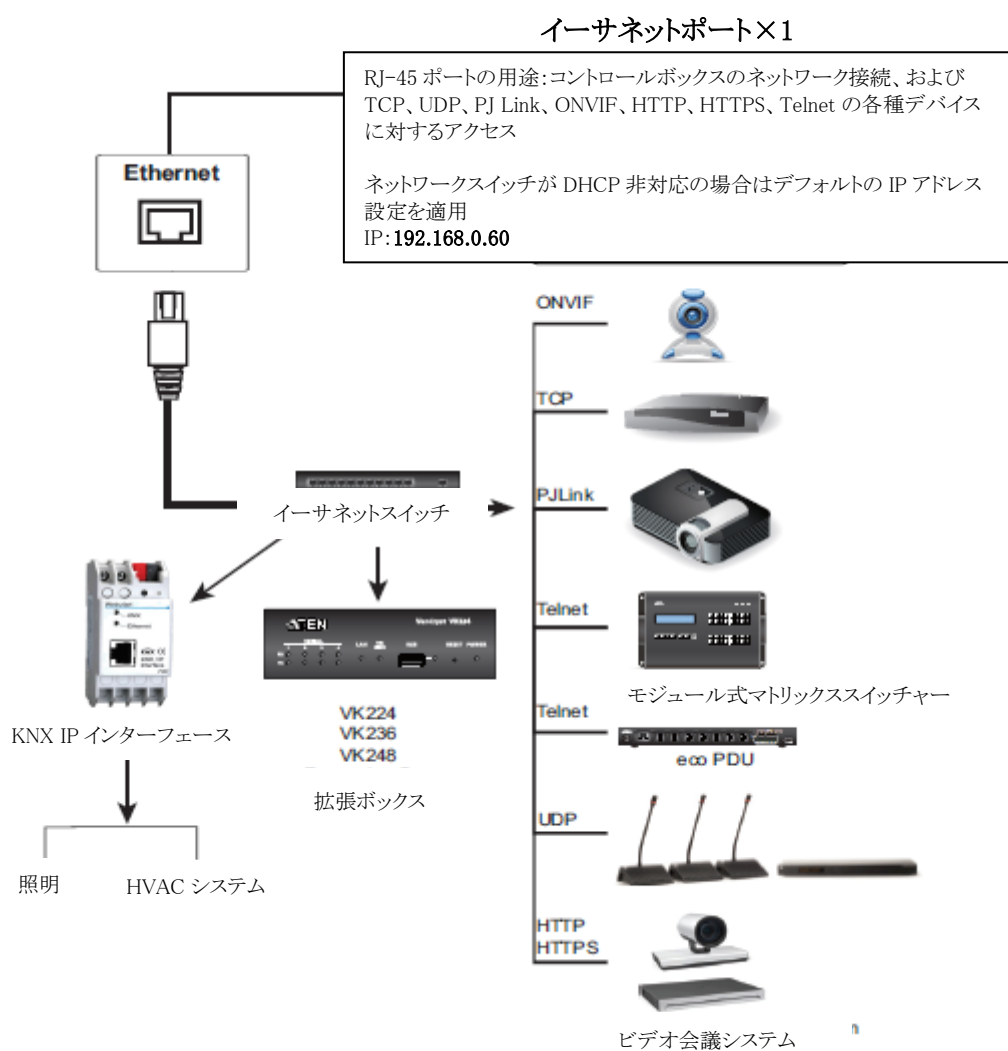


ピンアサイン

RS-232	RS-422	RS-485
ピン 2: RX	ピン 1: RX-	ピン 3: D+
ピン 3: TX	ピン 2: RX+	ピン 4: D-
ピン5:GND	ピン 3: TX+	
ピン 7: RTS	ピン 4: TX-	
ピン8:CTS	ピン 5: GND	

イーサネット

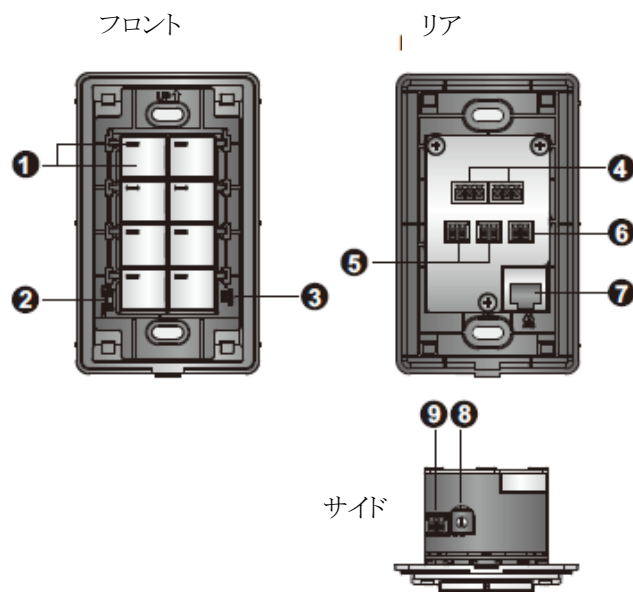
製品本体にはイーサネット接続用の RJ-45 ポートが搭載されています。このポートは、GUI へのアクセス (p.69 参照) や、ネットワーク対応機器の追加 (コントロールボックス 1 台あたりには最大 25 台に、またはコントロールパッド 1 台あたりには最大 8 台にそれぞれ対応) を実現します (p.104 参照)。詳細は下図を参照してください。



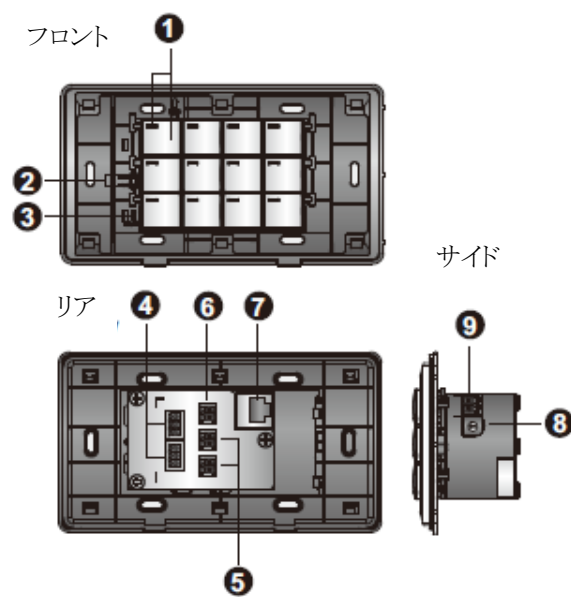
ATEN 拡張ボックス

パネル各部名称

VK0100



VK0200



No.	名称	説明
1	ボタンおよび ボタン LED	◆ コントロールパッドの状態と、割り当てられている機能(例：照明やプロジェクター)を表します。 ◆ ボタン LED は点灯色で次の状況を表します。 ➤ 点灯色がオレンジの場合は、コントロールパッドの電源が ON で、ボタンは OFF になっています。 ➤ 点灯色がホワイトの場合は、コントロールパッドの電源が ON で、ボタンも ON になっています。 ◆ すべてのボタン LED は点滅の状態で、次の状況を表します。 ➤ オレンジとホワイトで 1 回だけ点滅した場合は、コントロールパッドがデフォルト設定をリストアしていることを表します。 ➤ オレンジとホワイトで点滅を繰り返す場合は、コントロールパッドがファームウェアのアップグレード中であることを表します。
2	システム LED	ここには LAN とリンクの各 LED が内蔵されており、ネットワーク接続とデータ転送の状況を表します。 ◆ LAN LED がグリーンに点灯している場合は、コントロールパッドがネットワークに接続されていることを表します。 ◆ リンク LED がグリーンに点灯している場合は、コントロールボックスにおけるデータの送受信がアクティブであることを表します。
3	リセットスイッチ	このボタンを押すと、コントロールボックスに保存されているすべての設定をクリアし、コントロールパッドのネットワーク設定を下記のデフォルト値にリセットします。 ◆ IP アドレス : 192.168.0.60 ◆ サブネットマスク : 255.255.255.0

(表は次のページに続きます)

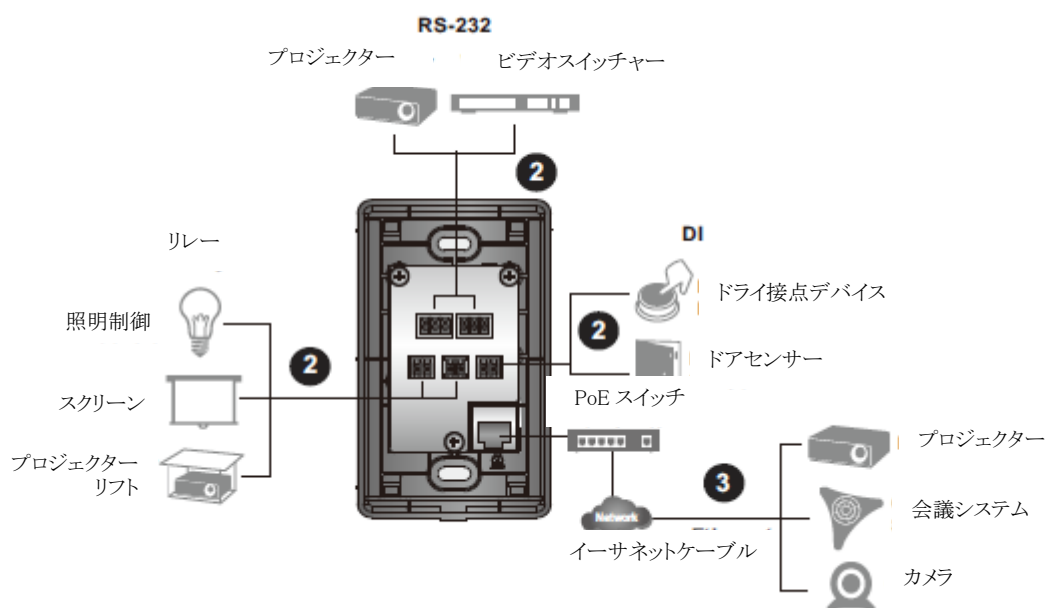
No.	名称	説明
4	RS-232 シリアルポート	最大 2 台の RS-232 シリアルデバイスを接続します。
5	リレーチャンネル	最大 2 台のリレーデバイスを接続します。リレー接点は NO (ノーマルオープン)、絶縁リレー、接点定格最大 24VDC、1A です。
6	デジタル入力ポート	最大 1 台のデジタル入力デバイスを接続します。デバイスには、プログラム可能入力範囲が 1～5VDC、またはドライ接点 (5VDC に対して 2KΩのプルアップ) の仕様のものでお使いください。
7	イーサネットポート	イーサネットケーブルを接続して、給電やネットワークアクセスを行います。
8	コントロールパッド ID スイッチ	コントロールパッド ID を設定します。
9	DC 電源ポート	DC 5V の電源アダプターを接続します。

コントロールパッドのセットアップ

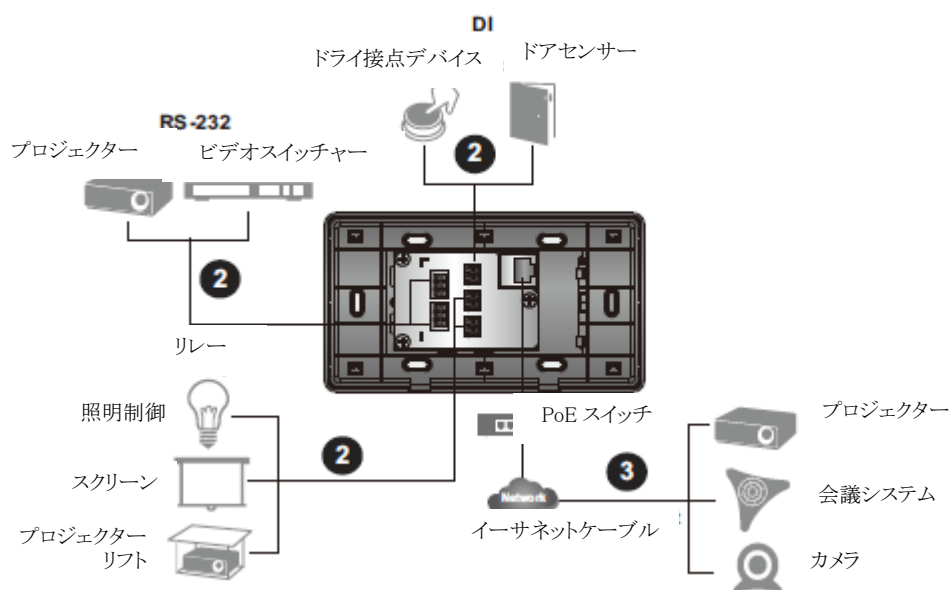
セットアップ手順

コントロールパッドを安全に取り付けられるよう、下記の手順に従ってセットアップ作業を行ってください。

VK0100



VK0200

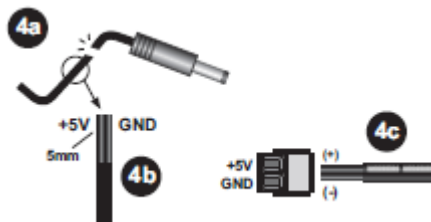


1. セットアップを行う場所の準備を行ってください。
 - a) セットアップには、ケーブルが干渉しない場所を選んでください。
 - b) コントロールパッドを壁面に収納する場合は、壁に収納用のくぼみを用意してください。
CAD 図は製品 Web ページからダウンロードすることができます。

2. 製品パッケージに同梱されているターミナルブロックを使って、コントロールパッドを、シリアル、リレー、デジタル入力の各デバイスに接続してください。
詳細については、接続デバイスに応じて、p.57「RS-232 シリアル接続」、p.58「リレー接続」、p.59「デジタル入力デバイス」を参照してください。

注意： コントロールパッドで接続ポートを拡張する場合は、ATEN 拡張ボックスをセットアップしてください。

3. PoE を使用する場合は、イーサネットケーブルでコントロールパッドを PoE スイッチに接続してください。詳細については、p.60「イーサネット」を参照してください。
4. イーサネットケーブルを介して電源を供給できる電源装置がない場合は、次の手順に従って電源アダプターを用意して、コントロールパッドに接続してください。



- a) 電源アダプターのコネクタの終端を切り取ってください。
- b) 電源アダプターのケーブル部分の端にある絶縁部分を 5mm ほど剥がして、+5V (+) と GND (-) の 2 本の線を露出させてください。
- c) 上記 2 本の線をターミナルブロックのコネクタに挿入してください。

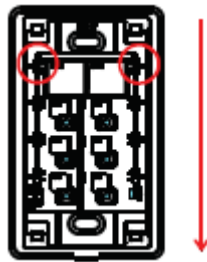
注意： ワイヤの極性を確認するには、電圧計をお使いください。

- d) 電源ターミナルブロックを、コントロールパッドの DC 電源ポートに接続してください。
5. ID スイッチを使って、コントロールパッドに ID を割り当ててください。
 6. すべてのデバイスに電源を入れてください。ボタン LED がオレンジに点灯します。

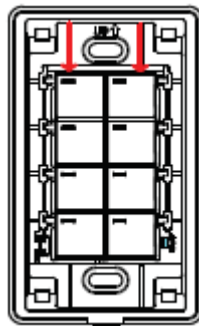
7. ボタンキャップをコントロールパッドに取り付けてください。
- a) 同じ行のボタンキャップを相互に組み立ててください。



- b) 上の行から順番に、ヒンジを押すことで、ボタンキャップの各行をコントロールパッドに取り付けていってください。

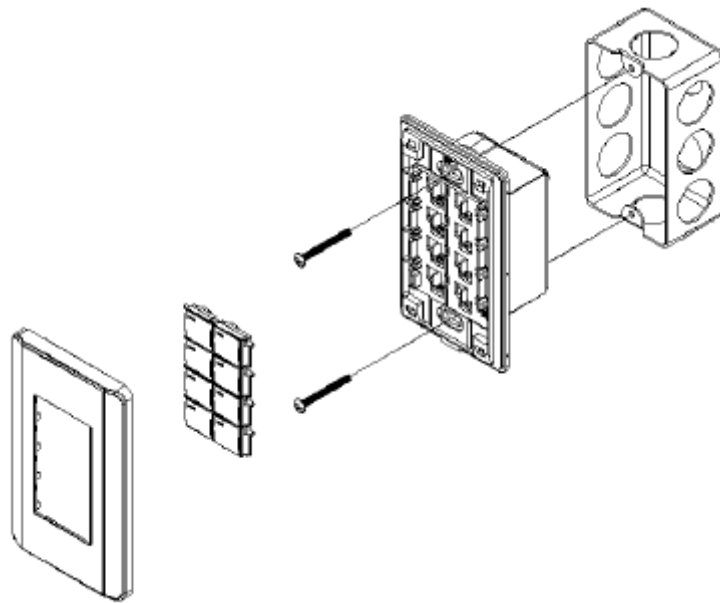


注意: ボタンキャップを取り外す場合は、図に示すように、ボタンキャップの上部を指で下方向に押してください。ボタンの上方向に押すと、ボタンキャップが壊れるおそれがあります。

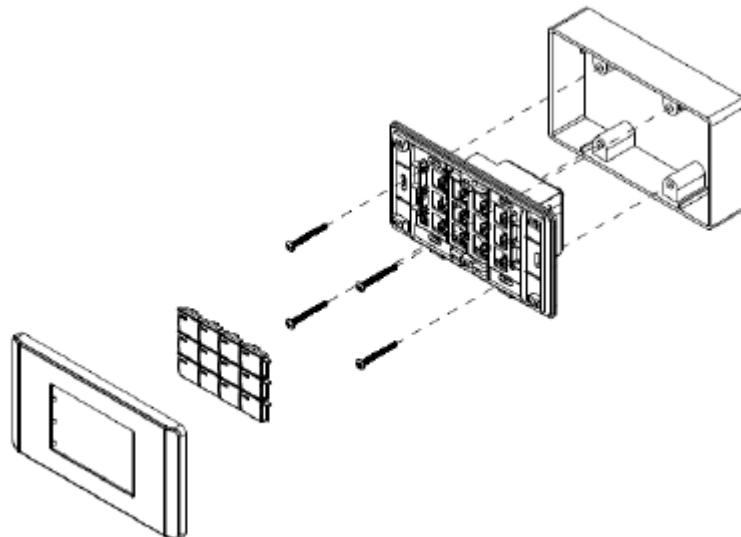


8. コントロールパッドを壁にマウントしてください。
- a) コントロールパッドをネジで壁に取り付けてください。このネジは製品パッケージに同梱されていませんので、セットアップに適したものを、ご自身でご用意ください。
 - b) 製品パッケージに同梱されているフェイスプレートをコントロールパッドに取り付けてください。

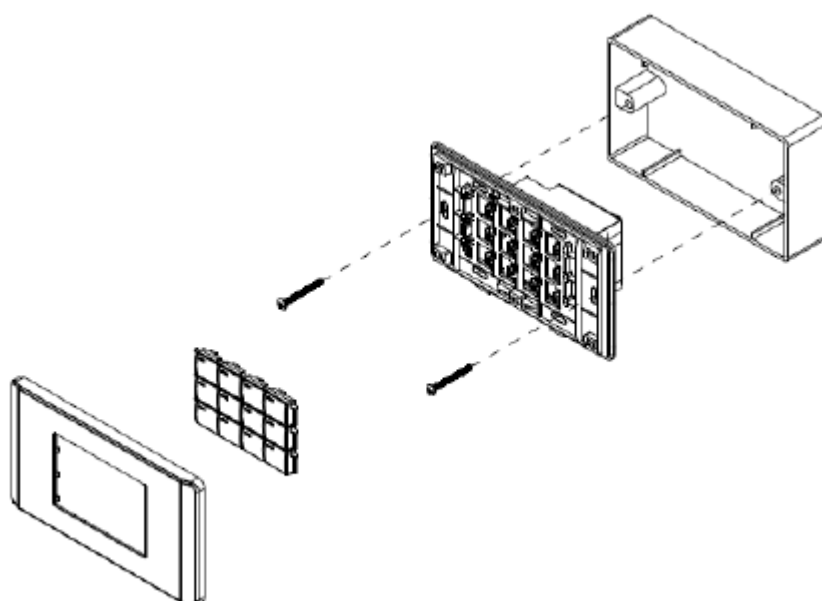
VK0100



VK0200 (EU)

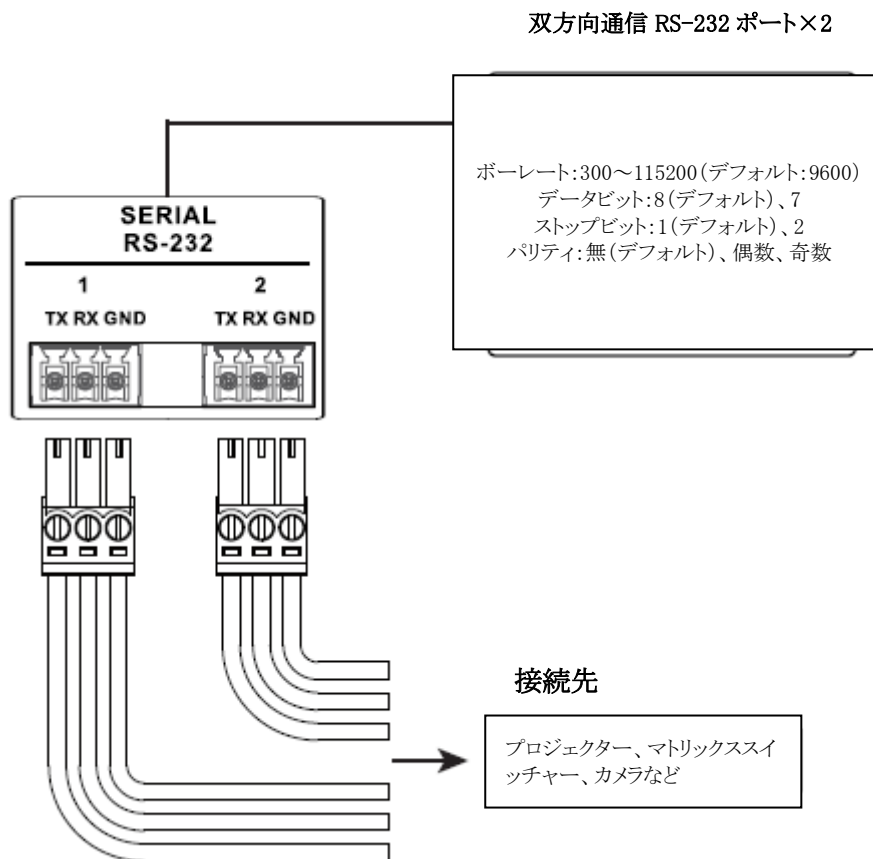


VK0200 (MK)



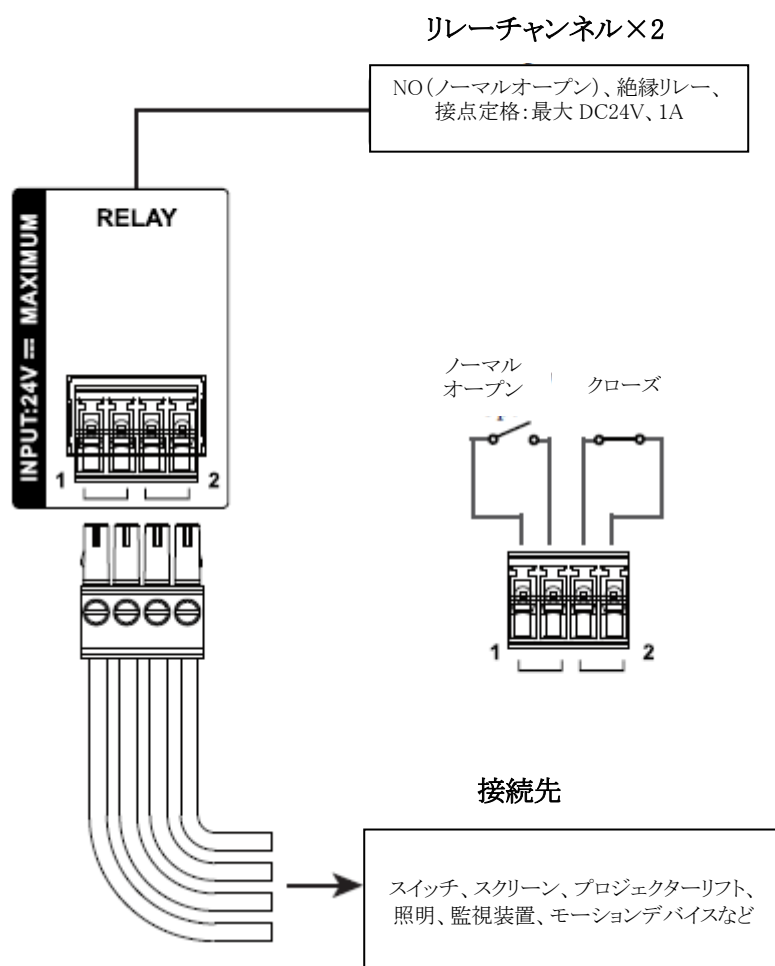
RS-232 シリアル接続

コントロールパッドにある双方向 RS-232 ポート 2 箇所は、ハードウェア機器(プロジェクター、マトリックススイッチャーなど)のシリアル制御や、接続機器からのステータスメッセージの受信用に使用されます。双方向 RS-232 制御を行うには、コントロールパッドとハードウェア機器の間で、転送、受信、グラウンドの各ピンを結線する必要があります。結線方法は、ハードウェア機器によって異なります。詳細については、お使いのハードウェア機器の製品マニュアルにてご確認ください。



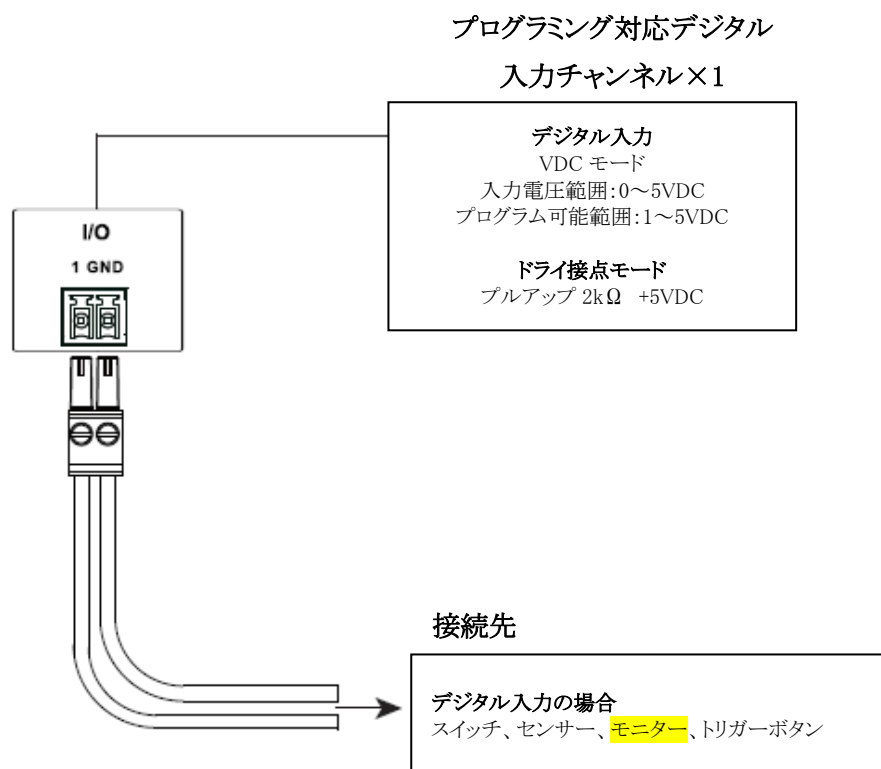
リレー接続

電動スクリーンやプロジェクターリフト、その他の監視機器などのハードウェア機器を接続して制御するためのリレーチャンネルを2チャンネル搭載しています。各リレーは、デフォルトでNO(ノーマルオープン)になっています。



デジタル入力デバイス

コントロールパッドのデジタル入力ポートは、スイッチやセンサーといったデジタル入力デバイスをセットアップするのに使用することができます。デジタル入力チャネルは、VDC モードまたはドライ接点モードに設定することができます。



デジタル入力(ドライ接点)の場合

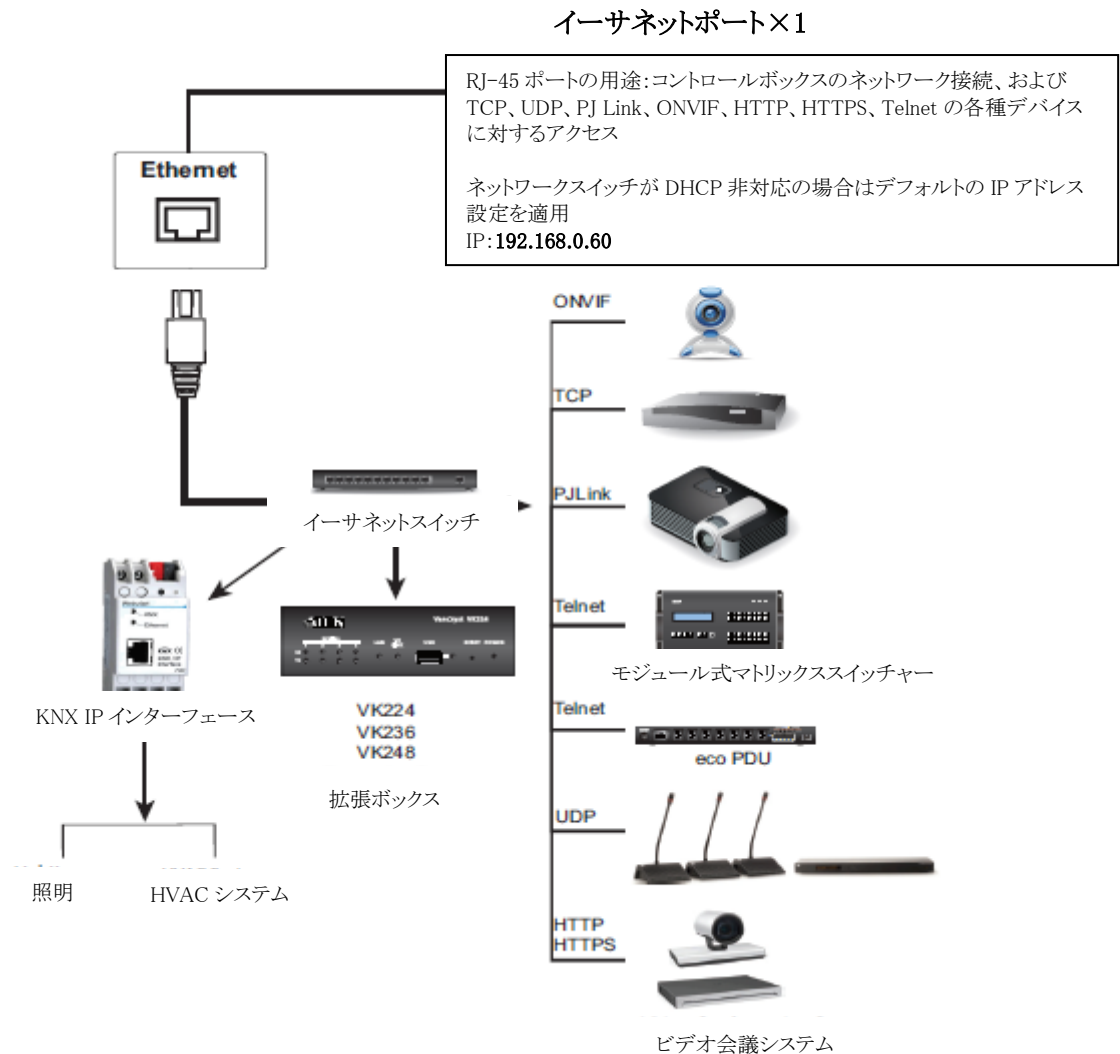
デジタル入力には 2 系統の回路信号(オープンとクローズ)を使用するハードウェア機器(スイッチ、センサー、モニター)を接続します。この 2 系統の信号はセンサーまたはスイッチからのイベントのインジケータを提供します。イベントには、電源の ON/OFF、ドライ接点、デバイスからのセンサーまたはスイッチの状態に関する情報が挙げられます。この情報は、コントロールパッドを介してイベントや機能を作動させる際に使用されます。

デジタル入力(VDC)の場合

デジタル入力 DC5V のハードウェア機器(温度、電流、監視の各センサー)は DC 1~5V の電圧信号を提供します。デジタル入力ポートは電圧が規定のしきい値(1~5V)を上回った、またはこれを下回ったかどうかを検知します。ハードウェア機器からの電圧が設定した値を上回った場合、コントロールパッドはデジタル入力を「高」として検知します。逆に電圧が設定した値を下回った場合は、コントロールパッドはデジタル入力を「低」として検知します。この情報はコントロールパッドを介してイベントや機能を作動させる際に使用されます。

イーサネット

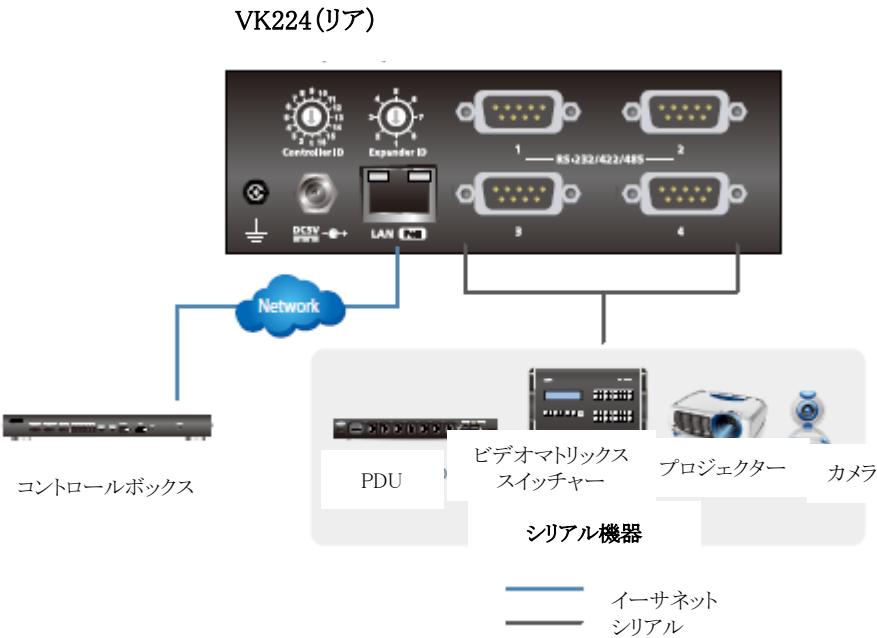
製品本体に搭載されている RJ-45 ポートは、GUI へのアクセス(p.69 参照)や、ネットワーク対応機器(コントロールパッド 1 台あたり最大 8 台に対応)の追加(p.104 参照)を実現します。詳細は下図を参照してください。



アクセサリ

ATEN 拡張ボックス

ATEN 拡張ボックス(別売り)は、ATEN コントロールシステムを柔軟に拡張できる追加ポートを提供するものです。この拡張ボックスによって、より多くの機器が必要となる環境でも、機器を追加して制御することが可能になります。拡張ボックスは、イーサネット接続の強みを生かして、様々な場所から LAN 接続経路で ATEN コントローラーに対して簡単に接続することができます。下図は、4 ポートシリアル拡張ボックス VK224 を接続した例です。

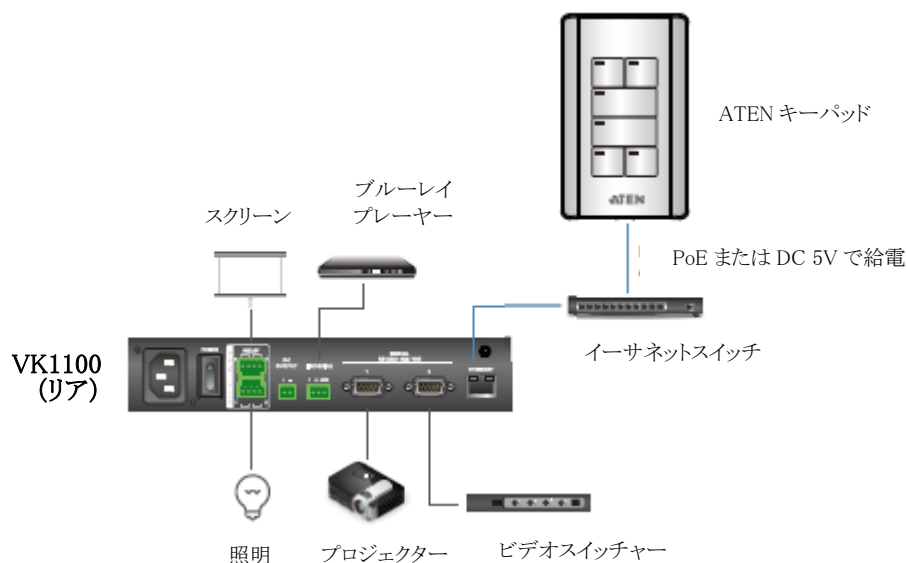


- 注意:**
- ◆ ATEN 拡張ボックスの追加方法や設定方法は、p.104「デバイス設定リスト」および p.107「拡張ボックス」をご参照ください。
 - ◆ 利用可能な拡張ボックスは下記のとおりです。

型番	製品名
VK224	4 ポートシリアル拡張ボックス
VK236	6 ポート IR/シリアル拡張ボックス
VK248	8 チャンネルリレー拡張ボックス

ATEN キーパッド

ATEN キーパッドは、壁にマウントしてコントロールボックス経由でハードウェアを制御する製品です。このキーパッドは、コントロールシステムに対して下図のようにセットアップすることができます。



注意： ◆ 利用可能なキーパッドは下記のとおりです。

型番	製品名
VK108US	壁コンセント型プログラマブルスイッチ

◆ キーパッドのボタンはテキスト彫刻によるカスタマイズを行うことができます。申し込みを行う場合は、下記リンクにアクセスしてください。

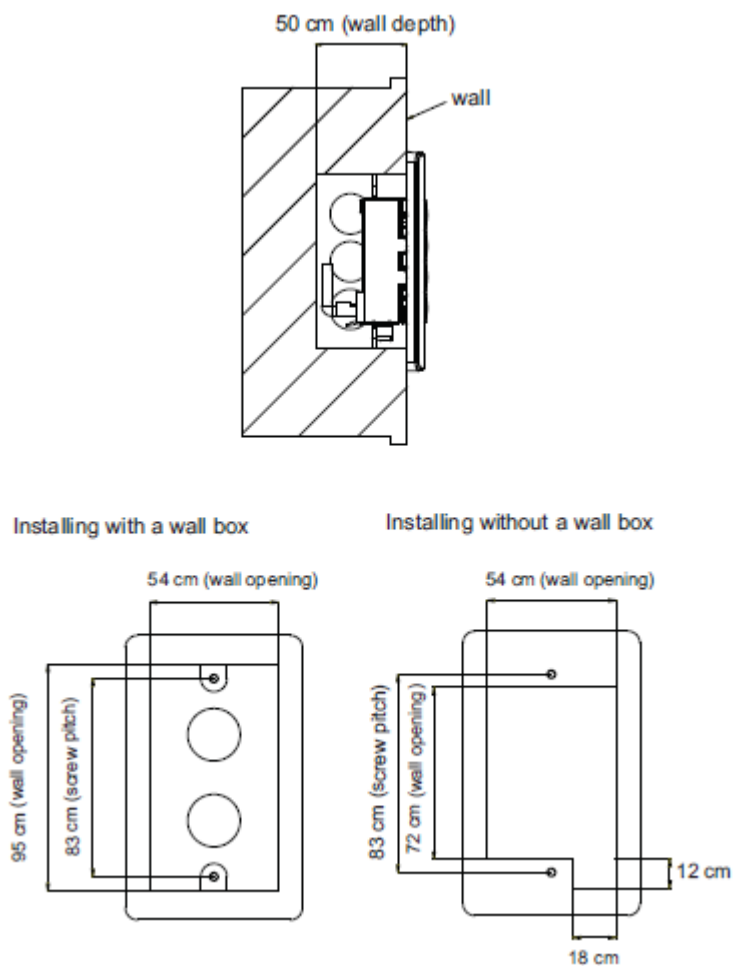
https://www.aten.com/ext_data/global_en/VK_Keypad_Engraving_Service/aten_keypad.html

セットアップ

キーパッドをセットアップするには、下記の手順に従って作業してください。

1. キーパッド、およびコントロールボックスに対してアップロードされたビューワに対する制御インターフェース(ビューワ)を作成して、アップロードしてください。詳細については、p.118「デザイン」を参照してください。
2. セットアップを行う場所の準備を行ってください。
 - a) セットアップには、ケーブルが干渉しない場所を選んでください。
 - b) 下図を参考にして、壁面収納用のくぼみを用意してください。

VK108US

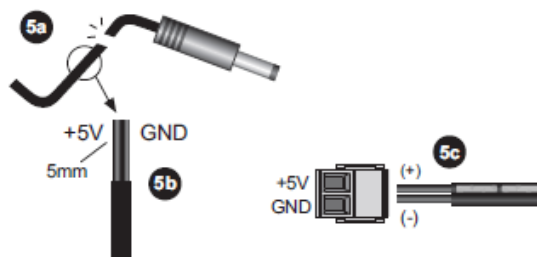


3. キーパッドの ID スイッチ(ブルー)を調整することで、キーパッドに対して ID 番号を割り当ててください。
4. コントロールボックスの ID スイッチ(ブラック)を調整して、キーパッドがどのコントロールボックスとペアリングするかを設定してください。ATEN コントロールボックスは、1 台につき最大 8 台のキーパッドとペアリングすることが可能です。
5. イーサネットケーブルを使ってキーパッドを LAN に接続して、ネットワーク接続と給電を行ってください。

注意: PoE 機能は電源装置がセットアップされた場合にのみサポートされます。

6. イーサネットケーブルを介して電源を供給できる電源装置がない場合は、次の手順に従って電源アダプターを用意して、キーパッドに接続してください。

注意: この方法でセットアップする場合は、オプション品である ATEN 製の電源アダプターをお求めください。



- a) 電源アダプターのコネクターの終端を切り取ってください。
- b) 電源アダプターのケーブル部分の端にある絶縁部分を 5mm ほど剥がして、+5V (+)と GND (-) の 2 本の線を露出させてください。
- c) 上記 2 本の線をターミナルブロックのコネクタに挿入してください。

注意: ワイヤの極性を確認するには、電圧計をお使いください。

7. LAN およびリンクの各 LED がグリーンに点灯している場合、割り当てられたコントロールボックスに対してキーパッドが正常に接続されていることを表します。

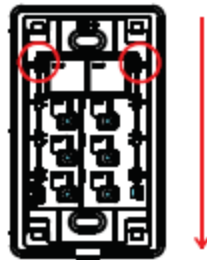
注意:

- ◆ キーパッドは、割り当てられたコントロールボックスと同一サブネット上にあることを確認してください。
- ◆ ネットワークスイッチが DHCP に対応していない場合、キーパッドにはデフォルトの IP アドレス(192.168.0.60)が割り当てられます。IP アドレスを設定するには、このデフォルト IP アドレスと、デフォルトパスワード(password)を使って Web インターフェースにログインしてください。

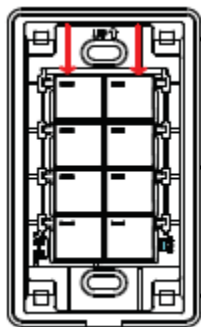
8. キーパッドを壁開口部にネジ止めしてください。
9. プロファイルで作成されたレイアウトに従って、キーキャップを配置してください。そうしたら、ボタンキャップをキーパッドに取り付けてください。
 - a) 同じ行のボタンキャップを相互に組み立ててください。



- b) 上の行から順番に、ヒンジを押すことで、ボタンキャップの各行をコントロールパッドに取り付けていってください。

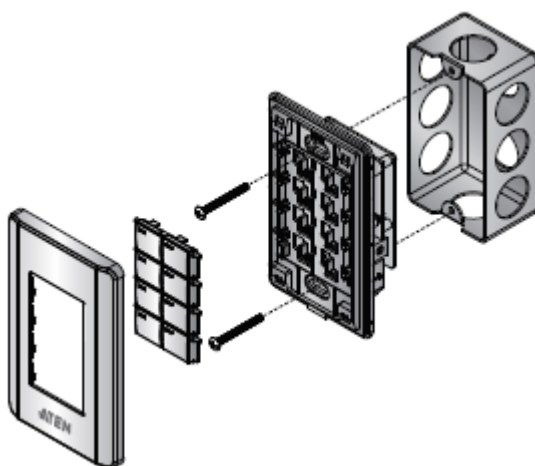


注意: ボタンキャップを取り外す場合は、図に示すように、ボタンキャップの上部を指で下方向に押してください。ボタンの上方向に押すと、ボタンキャップが壊れるおそれがあります。



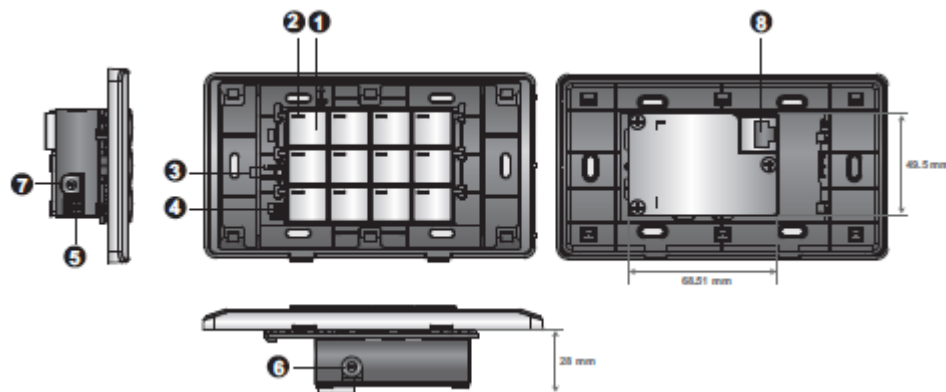
10. 下図のように、キーパッドの筐体にフェイスプレートを取り付けてください。

VK108US



各部名称

キーパッドの各部名称は下記のとおりです。なお、ここではキーパッドの VK112EU (日本では未発売) を例にとって説明しますが、VK108US のハードウェアも同じレイアウトで構成されていますので、こちらを参考にしてください。



No.	名称	説明
1	ボタン	VK108US カスタマイズ可能なキーパッド上のボタン配列は、4～8 のボタンを組み合わせることにより 14 通りの異なる設定でセットアップすることができます。
2	ボタン LED	ボタン LED は次の情報を表します。 ◆ LED がオレンジに点灯している場合は、電源が ON であることを表します。 ◆ LED がホワイトに点灯している場合は、キーパッドが操作中であることを表します。 ◆ LED がオレンジとホワイトに点滅している場合は、ファームウェアアップグレード中であることを表します。
3	システム LED インジケータ	◆ LAN - この LED がグリーンに点灯している場合は、キーパッドが LAN に接続されていることを表します。 ◆ Link - この LED がグリーンに点灯している場合は、割り当てられたコントロールボックスに対してキーパッドが接続されていることを表します。

(表は次のページに続きます)

No.	名称	説明
4	リセットボタン	このピンホール型プッシュボタンを押すと、キーパッドをリセットしてデフォルトのネットワーク設定に戻します。
5	DC 電源	製品パッケージ同梱の電源アダプターを接続します。
6	キーパッド ID スイッチ (ブルー)	キーパッド(1～8)の ID を設定します。
7	コントロールボックス ID スイッチ (ブラック)	コントロールボックス ID (1～16)を設定します。
8	LAN ポート	◆ キーパッドを LAN に接続します。 ◆ 電源装置がセットアップされている場合は電源 (PoE) を供給します。

キーパッドレイアウトの例

VK108US



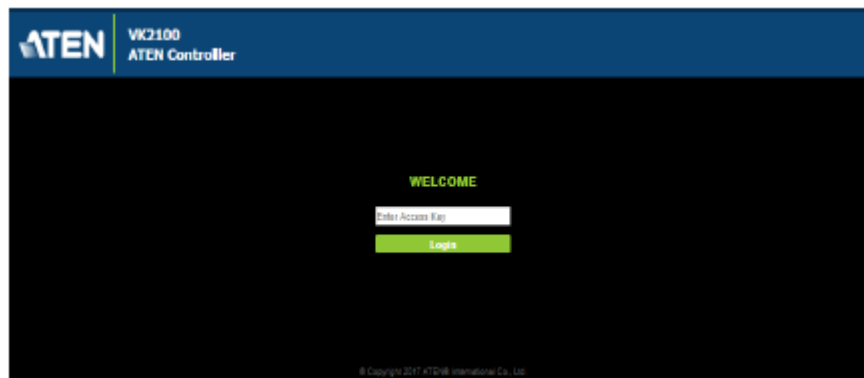
第3章 ブラウザ操作

概要

コントロールボックスは、内蔵の GUI を使用し、標準的な TCP/IP 接続を介して設定することができます。したがって、ネットワークやインターネットに接続できる場所ならどこからでも、Web ブラウザを使用して簡単にログインすることができます。Web インターフェースを使用して、ライセンスのアップロードやアクセスキーの設定、モニターの有効やファームウェアの更新を行うことができます。

ログイン

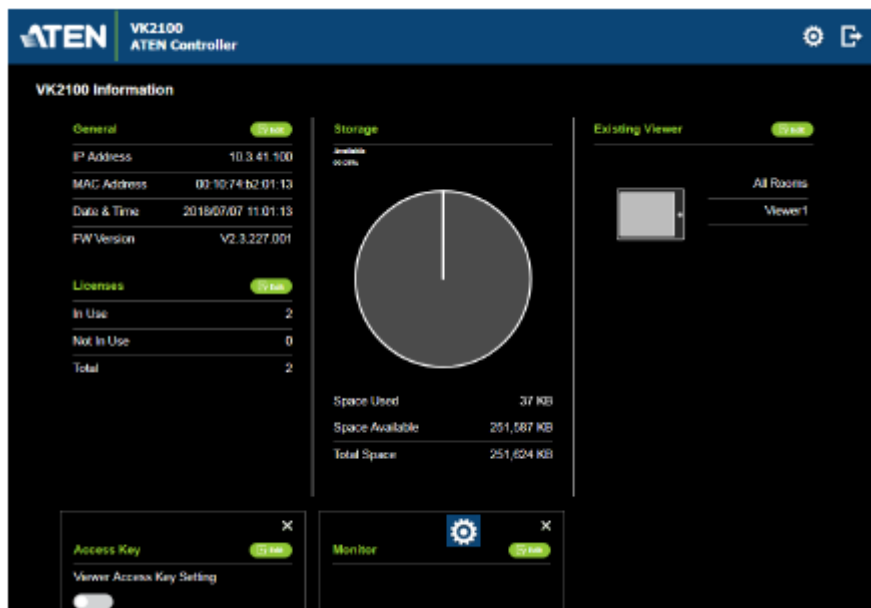
GUI にアクセスするには、任意のブラウザのアドレスバーにコントロールボックスの IP アドレスを入力してください。セキュリティの警告ダイアログが表示される場合がありますが、これは信用できるものなので、認証を受け入れてください。すると、初期画面が表示されます。



- ◆ デフォルトの IP アドレス - <http://192.168.0.60>
- ◆ デフォルトのアクセスキー - **password**
- ◆ 一度につき、1名のユーザーのみがログインできます。
- ◆ Internet Explorer 9 以降のブラウザに対応しています。

ダッシュボード

コントロールボックスにログインすると、ダッシュボードが表示されます。ダッシュボードでは、各項目の設定を簡単に確認できます。また、このダッシュボードから各画面にリンクしています。項目を設定するには「**Manage**」(管理)をクリックしてください。



トップバーにはオプションが 2 つあります。



クリックすると、**設定**画面を表示します。

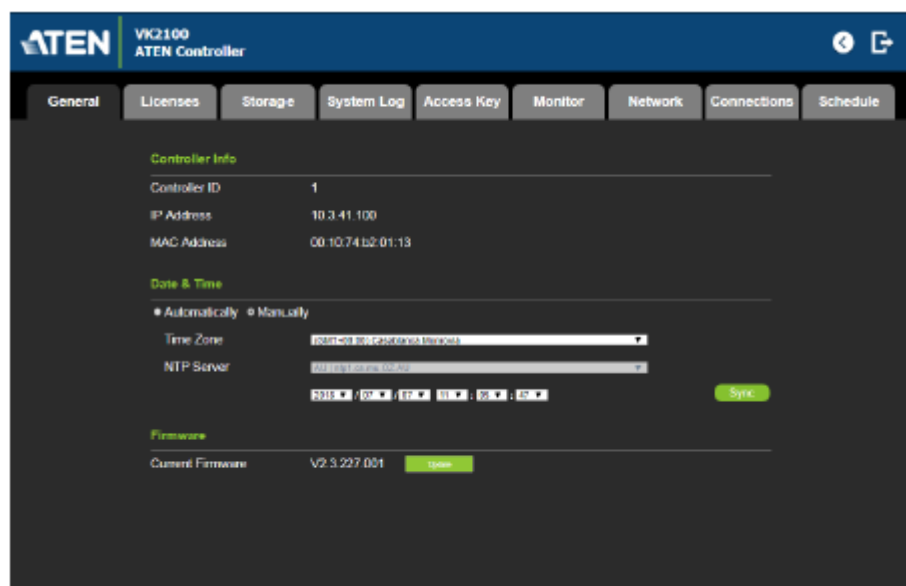


クリックすると、Web セッションから**ログアウト**します。

設定

設定画面では、コントロールボックス設定用のオプションがタブで提供されています。この画面は、オプション項目を設定するのに使用する**インタラクティブディスプレイパネル**と、設定画面を終了するアイコンと Web セッションからログアウトするアイコンがある**トップバー**の 2 つのパートに分かれています。

設定画面を開くと、下図のように「**General**」(一般)タブが選択された状態になっています。



「General」(一般)タブは、下表のようにコントロールボックスに関する設定や情報の表示を行うことができます。

項目	説明
Controller Info (製品情報)	コントロールボックスに関連するネットワークおよび識別情報を表示します。 ◆ Device Name (デバイス名): デバイス名を設定します。 ◆ Controller ID (製品 ID): コントロールボックスのリアパネルで設定した製品 ID 番号を表示します。 ◆ IP Address (IP アドレス): コントロールボックスの IP アドレスを表示します。 ◆ MAC Address (MAC アドレス): コントロールボックスの MAC アドレスを表示します。

(表は次のページに続きます)

項目	説明
Date & Time (日付&時刻)	2つのオプションから日付と時刻を設定できます。 ◆ Time Zone(タイムゾーン):コントロールボックスをご使用になる場所に最も近い都市を、このドロップダウンメニューから選択して、コントロールボックスで使用するタイムゾーンを設定します。 ◆ Set Manually(手動で設定):ドロップダウンメニューから手動で日付(年/月/日)および時刻(時:分:秒)を設定します。
Firmware (ファームウェア)	現在使用しているファームウェアのバージョンを表示し、アップグレードを行うことができます。 「Upgrade Firmware」(ファームウェアの更新)をクリックすると、ファームウェアアップグレードウィンドウを表示します。「Browse」(参照)をクリックして、ファームウェアアップグレードファイルを選択してください。 「Check FW Version」(ファームウェアのバージョンを確認)を選択すると、現在のファームウェアのバージョンと更新に使用するファームウェアのバージョンとを比較します。現在のバージョンがこの更新に使用するファームウェアのバージョンよりも新しい場合、更新を続けるかキャンセルするかを確認するダイアログボックスが表示されます。 ファイルを選択した後、「Upgrade」(更新)をクリックすると、ファームウェアの更新を開始します。

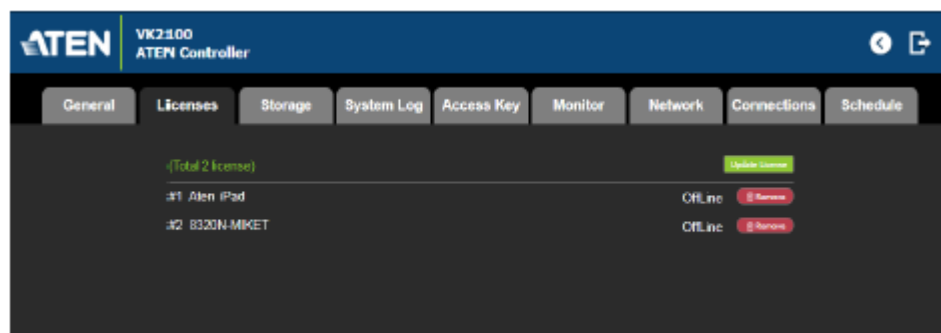
モバイル制御用ライセンス

ライセンスとは、タブレット/スマートフォンがリモート制御を行うために ATEN コントローラーに接続した際に、ATEN コントローラーがこれらのタブレット/スマートフォンに対して与えるソフトウェアの操作権限のことを言います。もし、VK2100 のデバイスに対して 3 ライセンスを所有していたら、同時に最大 3 台のモバイルデバイスを操作することができます。コントローラーの各モデルに付属している無償ライセンスの数と、各コントローラーによってサポートされるライセンスの最大数については、下表を参照してください。ライセンスを追加購入される場合は、弊社販売代理店までお問い合わせください。

ライセンス	ATEN コントロールボックス (VK1100/VK2100)	ATEN コントロールパッド (VK0100/VK0200)
無償ライセンス数	2	0
最大ライセンス数	10	10

「Licenses」(ライセンス) タブでは、次の操作を行うことができます。

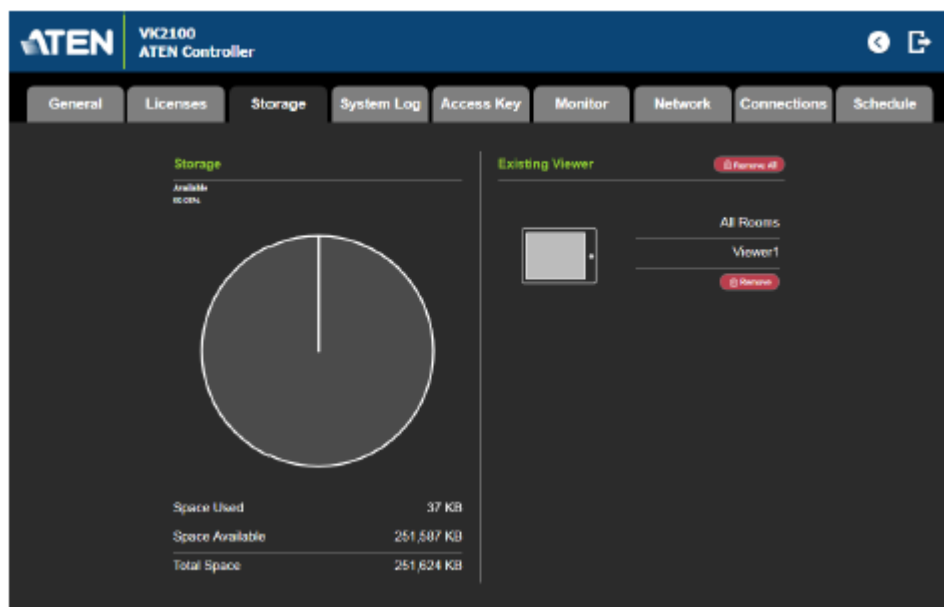
- ◆ ライセンス数の合計、利用可能なライセンス数、使用中のライセンス数の確認
- ◆ ATEN コントローラーに対するライセンスのアップロード
- ◆ ライセンス情報の参照



項目	説明
Licenses (ライセンス)	◆ In Use(使用中): タブレット/スマートフォンによって使用されているライセンス数が表示されます。 ◆ Not in Use(未使用): 使用可能なライセンス数が表示されます。 ◆ Total(合計): コントロールボックスで利用できる購入済みライセンス数が表示されます。
Update License (ライセンスのアップデート)	「 Update License 」(ライセンスのアップデート)をクリックすると、ライセンスの追加ウィンドウが表示され、コントロールボックスに新規ライセンスをアップロードできます。「 Browse 」(参照)をクリックして、ライセンスファイルを選択し、アップロードしてください。
Remove (削除)	デバイスがコントロールボックスにアクセスしている際に、このボタンをクリックすると、セッションを切断します。

ストレージ

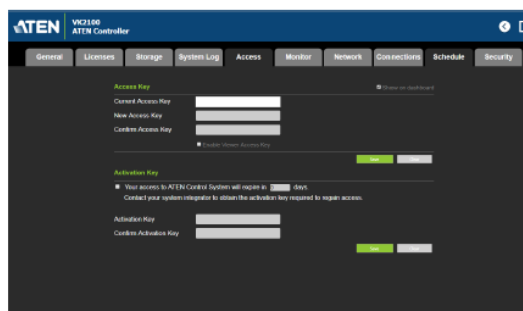
「Storage」(ストレージ)タブでは、コントロールボックスにビューワプロファイルを保存できる空き容量に関する情報を表示します。



項目	説明
Storage (ストレージ)	下記の他に、コントロールボックスにビューワプロファイルをアップロードできる容量の割合(%)を示すグラフを表示します。 ◆ Space Used(使用済容量):コントロールボックスにアップロードされたビューワプロファイルの保存に使用されている容量を表示します。 ◆ Space Available(空き容量):コントロールボックスにビューワプロファイルを保存できる空き容量を表示します。 ◆ Total Space(総容量):コントロールボックスにビューワプロファイルを保存できる空き容量の合計を表示します。
Existing Viewer (保存済ビューワ)	コントロールボックスに保存された全ビューワプロファイルの名前と割り当てられた部屋のリストを表示します。ビューワプロファイルを個別に削除するには、「Remove」(削除)をクリックし、コントロールボックスからビューワプロファイル全てを削除するには「Remove All」(全て削除)をクリックしてください。

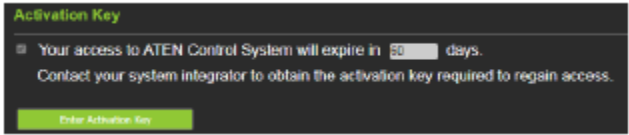
アクセス

「Access」(アクセス)タブでは、ATEN コントローラーの Web インターフェースのアクセスキー(パスワード)を設定したり、アクティベーションキーを使って ATEN コントロールシステムにアクセスできる有効期間を設定したりすることができます。



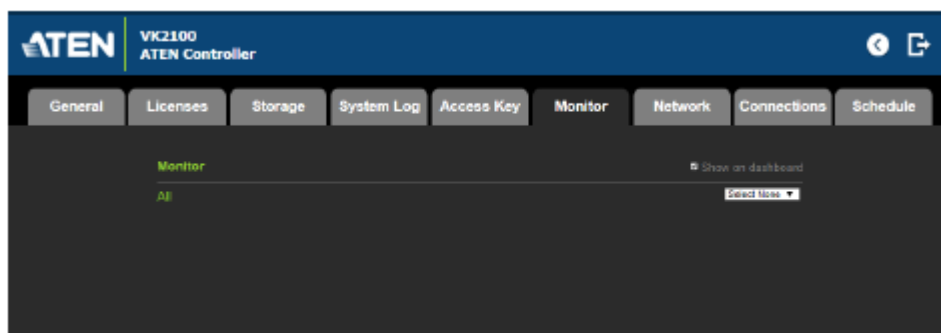
項目	説明
Access Key (アクセスキー)	アクセスキーとは、下記の操作を行う際に必要となるパスワードのことです。 ◆ ATEN コントローラーの Web インターフェースに対するログイン ◆ 設定ソフトウェアから ATEN コントローラーに対するプロジェクトとビューワのアップロード ◆ ATEN コントロールシステムアプリを使った、ATEN コントローラーからタブレット/スマートフォンへのビューワのダウンロード(p.239 参照)。 また、下記の設定が使用可能です。 ◆ 「Current Access Key」(現在のアクセスキー)、「New Access Key」(新規アクセスキー)、「Confirm Access Key」(アクセスキーの確認):アクセスキーの設定や変更を行う際には、これら 3 つの項目を使用してください。なお、デフォルトのアクセスキーは「password」に設定されています。 ◆ 「Show on dashboard」(ダッシュボードに表示):アクセスキーの設定を「Dashboard」(ダッシュボード)タブに表示するには、このオプションを選択してください。 ◆ Enable Viewer Access Key(ビューワアクセスキーを有効):コントロールボックスに対してプロジェクトやビューワプロファイルをアップロードしたり、タブレット/スマートフォンからダウンロードしたりする際にパスワード入力を必要とする場合は、このボックスにチェックを入れてください。

(表は次のページに続きます)

項目	説明
Activation Key (アクティベーション キー)	アクティベーションキーとは文字や数字から構成される文字列のことで、ATEN コントロールシステムのアクセス有効期間を設定するのに使われます。 ATEN コントロールシステムへのアクセス有効期間を設定するには、下記の手順に従って操作を行ってください。 1. 「Your access to ATEN Control System will expire in」(ATEN コントロールシステムへのアクセス有効日数)の項目にチェックを入れたら、有効日数を入力してください。 2. アクティベーションキーを入力してください。アクティベーションは下記ガイドラインに従って生成してください。 ◆ 最大文字数:32 ◆ 使用可能な文字:半角英字(大文字、小文字、共に可)、半角数字、半角アンダーバー ◆ 最大日数:999 日 3. 確認のため、アクティベーションキーを再入力してください。 4. 「Save」(保存)をクリックしてください。この有効日数はすぐに適用されます。例えば、  注意:アクティベーションキーは復旧できませんので、必ず、記録し保管しておいてください。万が一、アクティベーションキーをお忘れになった場合は、リセットボタン/リセットスイッチを 8 秒間押し、ATEN コントローラーをリセットして、デフォルト設定に戻してください。この操作によって、ATEN コントローラーにおけるすべての設定がデフォルト値に戻り、コントローラーに保存されていたプロジェクトおよびビューもすべて削除されます。 有効期間を無効にするには、「Enter Activation Key」(アクティベーションキーの入力)をクリックして、システムインテグレーターによって提供されたアクティベーションキーを入力してください。

モニター

「Monitor」(モニター)タブでは、VK6000 ソフトウェアのフラグとデジタル入力デバイス用に設定したモニターを参照したり有効にしたりすることができます。ダッシュボードにモニター設定を表示するには、「Show on dashboard」(ダッシュボードに表示)ボックスにチェックを入れてください。有効にしたいモニターの隣にあるスライダーをクリックするか、ドロップダウンメニューから「All On」(全て有効)または「All Off」(全て無効)を選択してください。



モニターの作成に関する詳細は、p.163「ライブラリー」を参照してください。

ネットワーク

「Network」(ネットワーク)タブでは、コントロールボックスのネットワーク設定の確認や定義を行うことができます。IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイを手入力で設定する場合は、「**Manually**」(手動)を選択してください。また、コントロールボックスに対して自動的に IP アドレスを割り当てる場合は、「**Use DHCP**」(DHCP を使用する)を選択してください。

注意: ATEN コントローラーの IP アドレス、およびデフォルトゲートウェイが同一サブネットに設定されていることを確認してください。

ATEN VK2100 ATEN Controller

General Licenses Storage System Log Access Key Monitor **Network** Connections Schedule

Network

Get IP Address

- ☒ Manually
- ☐ Use DHCP

IP Address: 10 . 3 . 41 . 100

Subnet Mask: 255 . 255 . 255 . 0

Default Gateway: 10 . 3 . 41 . 254

Get DNS Server

- ☒ Automatically
- ☐ Manually

Preferred DNS Server: 10 . 0 . 1 . 7

Alternate DNS Server: 10 . 0 . 1 . 6

Save Cancel

接続

「Connections」(接続)タブでは、ランセンス済みデバイス、ATEN キーパッド、および ATEN 拡張ボックスの接続状況と IP アドレスを参照することができます。

ATEN

VK2100
ATEN Controller

General

Licenses

Storage

System Log

Access Key

Monitor

Network

Connections

Schedule

Licensed Devices and Keypads

	Name	ID	IP Address	Status
#1	8320N-MIKET	N/A	N/A	Offline
#2	8000P-CHRISTINE	N/A	N/A	Offline

Expansion Box

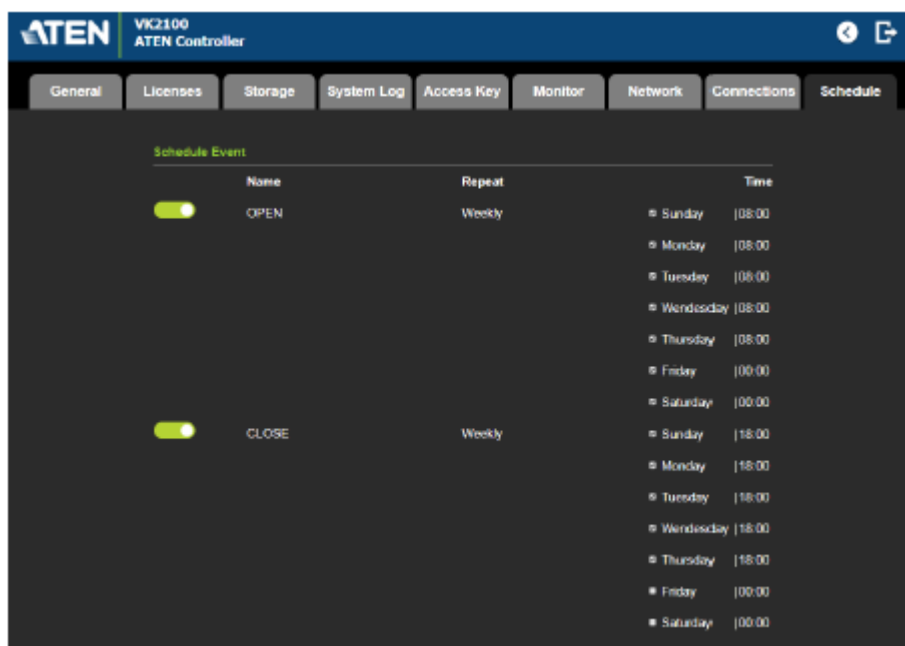
	Name	ID	IP Address	Status
--	------	----	------------	--------

スケジュール

「Schedule」(スケジュール)タブには、ATEN 設定ソフトウェア (VK6000) を使って、あらかじめ定義されたイベントのスケジュールが一覧表示されます。このタブでは、下記の操作を行うことができます。

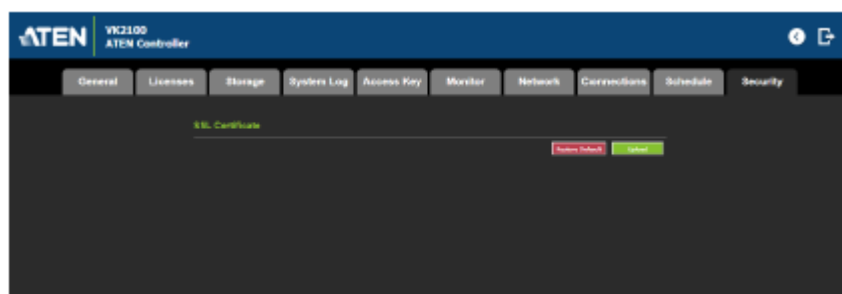
- ◆ スケジュールが設定されているイベントを有効/無効にする
- ◆ スケジュールが設定されている日付を有効/無効にする

イベントスケジュールの設定方法に関する詳細は、p.182「イベントスケジュール」を参照してください。



セキュリティ

「Security」(セキュリティ)タブでは、お使いのコンピューターと ATEN コントローラーの Web インターフェイス間におけるブラウジング・セッションのセキュリティを、SSL 暗号化通信によって確保します。信頼された認証局から SSL 証明書を有償で取得したら、この画面で**アップロード**し、証明書を適用してください。



第4章

設定ソフトウェア(VK6000)

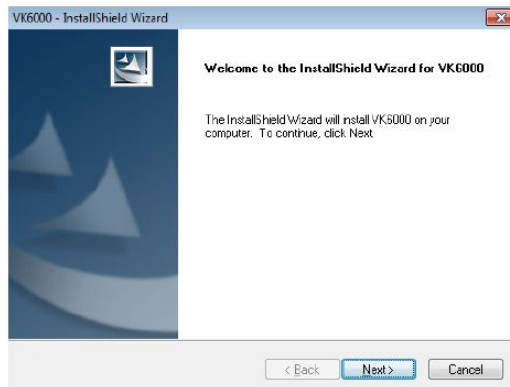
概要

設定ソフトウェア(VK6000)は GUI ベースの管理ツールです。このツールを使うことで、接続済みハードウェアのセットアップ、およびタブレット/スマートフォンと ATEN キーパッドが使用する制御インターフェースの作成を行うことができます。

インストール

設定ソフトウェア(VK6000)をインストールするには、下記の手順に従って操作を行ってください。

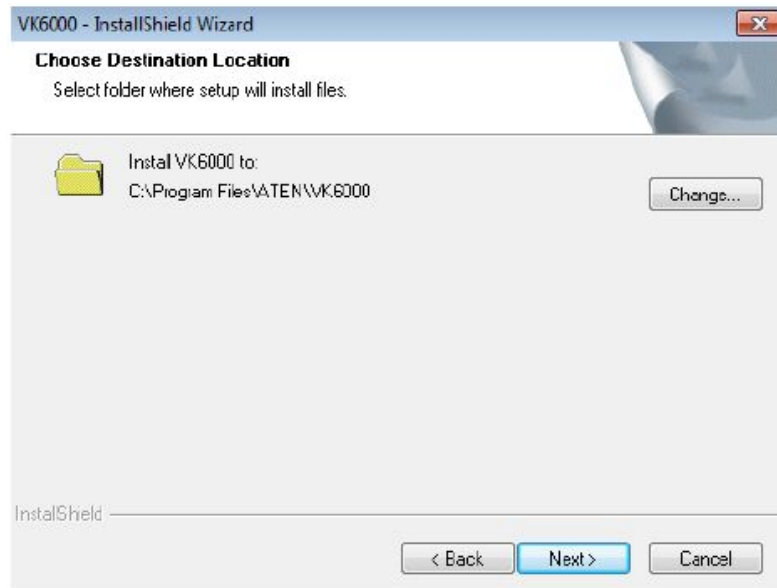
1. ATEN 設定ソフトウェア(VK6000)をダウンロードしてください。
 - a) 弊社サイト(<http://www.aten.com/jp/ja/>)のダウンロード画面にアクセスしてください。ダウンロードは、1) 製品ページ内の「サポートとダウンロード」メニューからアクセス、または、2) ホームページのトップページの右上に表示される(表示画面のサイズによっては画面左上に三本線のアイコンが表示されるので、それをクリックすると表示される)「サポートとダウンロード」→「ダウンロード」→「他の製品の資料をダウンロードする」に型番を入力して検索する方法で行えます。
 - b) ファイル「**ATEN_configurator_software_x.x.xxx.zip**」をクリックして、ダウンロードしてください。
2. 手順 1 でダウンロードされた ZIP ファイルを展開し、ファイル「**ATEN_configurator_software_x.x.xxx.exe**」をダブルクリックしてインストールプログラムを実行してください。そうすると、下図のような画面が表示されます。



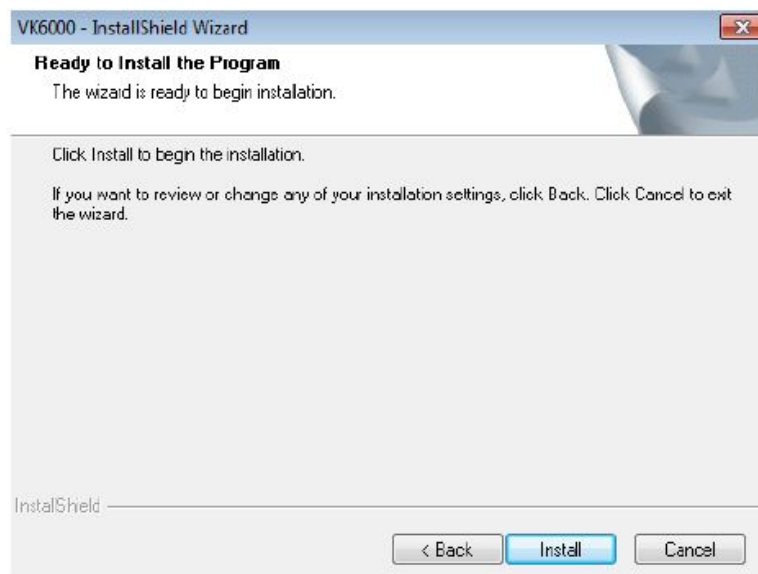
3. 「Next」(次へ)をクリックすると、下図のような画面が表示されます。



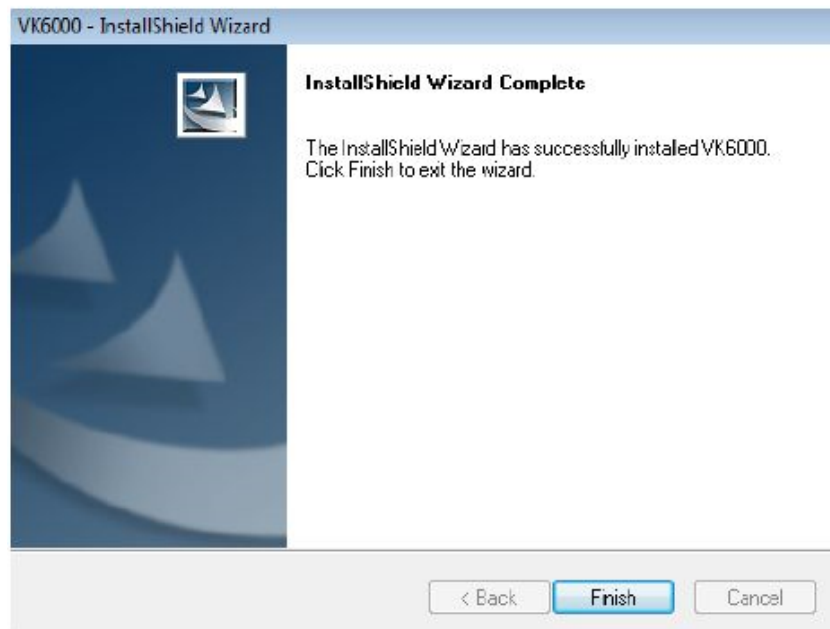
4. この使用許諾契約の内容に同意される場合は、「I accept the terms of the license agreement」(この使用許諾契約の内容に同意する)のラジオボタンを選択し、「Next」(次へ)ボタンをクリックしてください。「Software End User License Agreement」(ソフトウェアのエンドユーザー使用許諾契約)を印刷するには、「Print」(印刷)をクリックしてください。そうすると、下図のような画面が表示されます。



5. ソフトウェアのインストール先を選択するには、「**Change**」(変更)をクリックするか、またはデフォルトのインストール先を選択してから、「**Next**」(次へ)をクリックしてください。そうすると、下図のような画面が表示されます。



6. 「**Install**」(インストール)をクリックしてください。インストールが完了すると、確認メッセージが表示されます。



7. 「**Finish**」(終了)をクリックしてください。

タスクの開始

ATEN 設定ソフトウェアをインストールして起動すると、メイン画面 (p.89 参照) が表示されます。そうすると下図のように、設定ソフトウェアの 4 種類のタブを使って、プロジェクトの作成と設定を行うよう求められます。



ヒント: タブをクリックすると、そのタブに関連する設定画面に切り替えることができます。

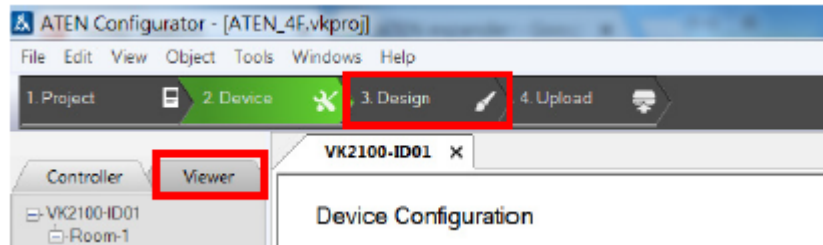
タスクの開始に関する概要は下記のとおりです

1. 「**Project**」(プロジェクト)タブで、下記の操作を行ってください。
 - ◆ セットアップを行った ATEN コントローラーに関する情報を入力してください。
 - ◆ (オプション)特定の ATEN コントローラーに対して、クライアント情報を入力してください。
 - ◆ お使いの環境で複数のコントローラーがセットアップされている場合は、「Add Controller」(コントローラーの追加)をクリックしてください。詳細については、p.99「プロジェクト」を参照してください。

「**Start Project**」(プロジェクトの開始)をクリックして、次に進んでください。

2. 「**Device**」(デバイス)タブで、下記の操作を行ってください。
 - ◆ 各コントローラーと管理デバイスをコントローラーのデバイス設定リストに追加することで、これらを接続してください。そうしたら、接続の設定を入力し、物理的な場所を指定してください。
 - ◆ (オプション)「**Add Controller or Expander**」(コントローラーまたは拡張ボックスの追加)をクリックすることで、別のコントローラーや拡張ボックスをプロジェクトに対して追加してください。
 - ◆ 拡張ボックスと管理デバイスを拡張ボックスのデバイス設定リストに追加することで、これらを接続してください。詳細については、p.101「デバイス」を参照してください。

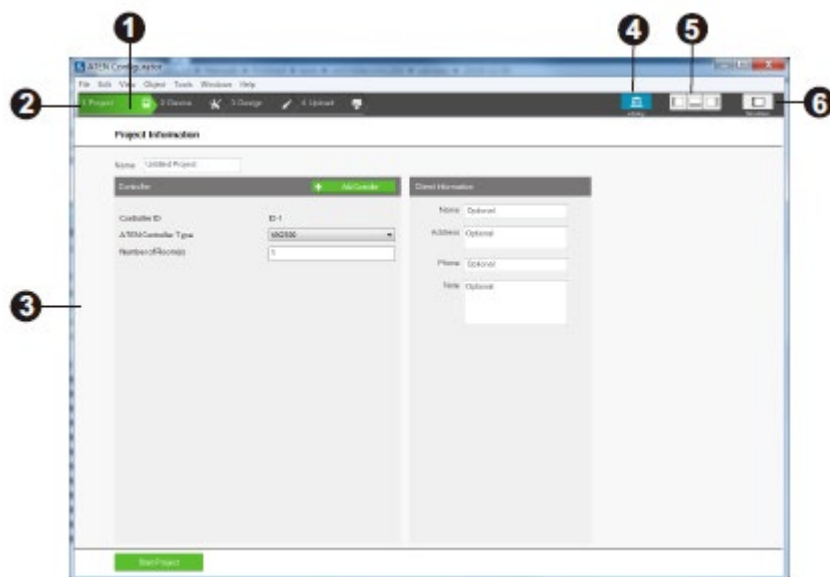
「Design」(デザイン)または「Viewer」(ビューワ)タブをクリックして、次に進んでください。



3. 「Design」(デザイン)タブで、下記の操作を行ってください。
 - ◆ 制御インターフェース(ビューワ)の作成と設定を行ってください。詳細については、p.118「デザイン」を参照してください。
 - ◆ (オプション)特定のアクションを自動的に実行する場合は、イベントスケジュールを設定してください。
 - ◆ (オプション)フラグを使って、ボタンに対する条件やアクションを追加してください。詳細については、p.164「フラグ」を参照してください。
 - ◆ (オプション)マクロを使って、ボタンに対する一連のアクションを追加してください。詳細については、p.180「マクロ」を参照してください。
 - ◆ (オプション)デバイス設定に対する同期変数を作成してください。これは、2 つ以上のコンポーネントによって制御されるデバイス設定を 1 つのインターフェースで制御するものです。詳細については、p.183「同期変数」を参照してください。
4. 「Upload」(アップロード)タブで、このプロファイルをコントローラーに対してアップロードしてください。詳細については、p.188「アップロード」を参照してください。

メイン画面

「Configurator.exe」ショートカットをダブルクリックして、設定ソフトウェア(VK6000)を開いてください。
「Project」(プロジェクト)画面が表示されます。



No.	項目	説明
1	メニューバー	メニューバーにはソフトウェアの各項目に関するオプションのカテゴリが表示されています。メニューバーの項目は、p.91 に掲載しています。
2	プロジェクトバー	プロジェクトバーには 4 種類のタブと「Library」(ライブラリー)アイコンがあります。各項目はプロジェクトプロファイルの設定に必要な操作に関連する画面が含まれています。各操作および「Library」(ライブラリー)はバーをクリックして選択できます。各操作の詳細は p.99 以降に、ライブラリーの詳細は p.108 にそれぞれ掲載しています。
3	インタラクティブディスプレイパネル	メインの作業画面です。ここに表示される画面は、選択したプロジェクト画面を反映します。
4	ライブラリー	ライブラリーには、デバイス、グラフィック、フラグ、マクロ、およびモニターデータベースが含まれます。各セクションではカスタムのアイテムを追加したり、プリセットのアイテムから選択したりすることができます。

(表は次のページに続きます)

No.	項目	説明
5	トグルバー	これら 3 つのアイコンは、右側、左側、下側にそれぞれあるコントロールパネルの表示/非表示をトグル式に切り替えます。
6	シミュレーター	シミュレーターボタンは、ビューワのインターフェースを「Design」(デザイン)で作成した後、それをテストする際に使用します。シミュレーターは実際にデバイスを制御することなく、タブレット/スマートフォン上でインターフェースがどのように動作するかを試すことができます。マウスで画面のリンクをクリックしてください。

メニューバー

各プロジェクト画面のオプションを選択するには、メニューバーを使用します。各メニュー項目の詳細は下表を参照してください。

メニュー	サブメニュー	説明
File (ファイル)	New Project (新規プロジェクト)	新規プロジェクトを作成します。
	Open Project (プロジェクトを開く)	以前保存したプロジェクトを参照し、選択できます。
	Restore Project from Controller (コントローラーからプロジェクトをリストア)	過去にバックアップしたプロジェクトをコントローラーからダウンロードします。
	Close (閉じる)	現在のプロジェクトを閉じて、プロジェクト画面に戻ります。
	Save (保存)	現在のプロジェクトの変更内容を保存します。
	Save as (名前を付けて保存)	プロジェクトに名前を付けて保存します。
	Export Viewer to USB (USB にビューワを エクスポート) ※ATEN コントロールパ ッドはサポート対象外	USB メモリーにビューワとアクセスキーをエクスポートします。USB メモリーにデータをエクスポート後、この USB メモリーをコントロールボックスの USB ポートに接続してビューワプロファイルとアクセスキーをアップロードします。このデータファイルはコントロールボックスによる読取のみが可能で、設定ソフトウェア(VK6000)で開くことができるプロジェクトファイルではありません。
	Project Report (プロジェクトレポート)	現在のプロジェクトの各パートに関する詳細情報を PDF ファイルとして保存します。
	Import ETS Project (ETS プロジェクトの インポート)	お使いの KNX デバイスに対して ETS プロジェクトファイルをインポートします。
	Recent Projects (最近のプロジェクト)	選択すると、クリックして開くことができる最近のプロジェクトの一覧を参照することができます。
	Exit (終了)	プロジェクトを閉じて、終了します。

(表は次のページに続きます)

メニュー	サブメニュー	説明
Edit (修正) (次頁に 続きます。)	Undo (元に戻す)	「Design」(デザイン)でビューワ画面を修正した際に、その変更箇所を元に戻します。
	Redo (やり直す)	「Design」(デザイン)でビューワ画面を修正した際に、その変更箇所をやり直します。
	Cut/Copy/Paste (切り取り/コピー/貼り付け)	「Design」(デザイン)でビューワ画面を修正した際に、テキストやオブジェクトの切り取り/コピー/貼り付けを行います。コピー/貼り付けボタンを使用した場合、一般およびアクションプロパティもコピーされます(p.139 参照)。
	Paste Graphic Only (グラフィックのみ貼り付け)	「Design」(デザイン)で作成したアクションプロパティは貼り付けず、ボタンの画像のみを貼り付けます。
	Delete (削除)	「Design」(デザイン)での修正画面にて選択したテキストと画像を削除します。
	Delete Action Only (アクションのみ削除)	「Design」(デザイン)で作成したボタンのアクションプロパティを削除します。
	Select All / Deselect All (すべて選択/すべて選択解除)	「Design」(デザイン)でビューワ画面を編集している際に、オプションをすべて選択または選択解除します。

(表は次のページに続きます)

メニュー	サブメニュー		説明
Edit (修正) (前頁の 続き)	Preferences (お気に入り)	Display Language (表示言語)	インターフェースで使用する言語を選択します。
		SSH Destination (SSH 宛先)	これをクリックして SSH クライアントソフトウェアの実行ファイルの場所を選択します。プログラムを実行するには、メニューバーから「Tools」(ツール)→「SSH Client」(SSH クライアント)を選択してください。
		Interface (インターフ ェース)	下記の項目を有効にするには、チェックを入れてください。 ◆ Show Welcome Page (ウェルカム画面を表示) : ATEN 設定ソフトウェア (VK6000) の起動時にウェルカム画面を表示します。 ◆ Auto Page Creation (操作画面を自動生成) : 「Select Device & Configuration」(デバイスの選択 & 設定) で設定した各ハードウェア機器に対して、「Design」(デザイン) 画面にビューワ画面を自動で作成します。 ◆ Show Password (パスワードを表示) : 「Edit Access Key」(アクセスキーの修正) ダイアログボックスにおけるアクセスキーの文字列を表示します。 ◆ Automatically check for update (アップデートの自動チェック) : アップデートを自動チェックし、アップデートが利用可能になった場合にユーザーへの通知を行います。
View (参照) (次頁に 続きます。)	以下の項目は「Design」(デザイン)→「Edit Viewer」(ビューワの修正)でご利用いただけます。		
	Zoom (ズーム)		ビューワの画面サイズを 25%、50%、75%、100%、200% に拡大するか、ウィンドウに合わせることができます。 注意: マウスのホイールを使用してビューワ画面を拡大または縮小することもできます。
	「Project」 (プロジェクト)		プロジェクト情報に遷移します。

(表は次のページに続きます)

メニュー	サブメニュー	説明
View (参照) (前頁の 続き)	Device Configuration (デバイス設定)	「Device」(デバイス)画面に遷移します。
	Viewer Design (ビューワデザイン)	「Design」(デザイン)画面に遷移します。
	Project Upload (プロジェクトのアップロード)	「Upload」(アップロード)画面に遷移します。
	Properties (プロパティ)	ビューワ画面の修正時にプロパティウィンドウを表示/非表示するかを選択します。
	Align to Grid (グリッド線に揃える)	グリッド線に合わせてオブジェクトを自動的に一列に並べます。これはオブジェクトを移動した際にグリッド線できれいに整列配置する機能です。グリッドドットを表示するには「Show Grid」(グリッド線を表示)を選択してください。「Align to Grid」(グリッド線に揃える)を選択していない場合、オブジェクトを画面の任意の場所に配置することができます。
	Show Grid (グリッド線を表示)	画面にグリッド線を表示します。「Align to Grid」(グリッド線に揃える)オプションを選択すると、オブジェクトを画面上に整列配置させることができます。
Object (オブジェクト) (次頁に 続きます。)	以下の項目は、「Design」(デザイン)→Edit Viewer(ビューワの修正)でご利用いただけます。	
	Button(ボタン)	ビューワ画面にボタンを追加します。
	Text(テキスト)	ビューワ画面にテキストボックスを追加します。
	Image(画像)	ビューワ画面に画像を追加します。
	Scroll View (スクロール表示)	ビューワ画面にスクロールボックスを追加します。このボックスをダブルクリックすると、ボタンを追加します。ボックスをスクロールウィンドウとして使用すれば、画面上のボタンのリストに簡単にアクセスできます。
	Video (ビデオ)	ビデオを参照することのできるビデオボックスを追加します。このビデオボックスは、「Properties」(プロパティ)サイドバーを使うか、枠の部分にある小さいボックスをドラッグすることで、お好みの大きさにリサイズすることができます。

(表は次のページに続きます)

メニュー	サブメニュー		説明
Object (オブジェクト) (次頁に続きます。)	Slider Bar (スライダーバー)		ビューフ画面にスライダーバーを追加します。スライダーバーは、オーディオ機器のボリュームレベルなど、デバイスの設定値の調整に使用されます。
	Group (グループ化)	Group (グループ化)	「 Group 」(グループ化)を選択すると、複数のオブジェクトをグループ化します。グループ化されたオブジェクトは一つのオブジェクトとして移動できます。
		Radio Group (ラジオグループ)	複数のボタンを選択してから、このアイテムを使用すると、関連付けを行うことができます。なお、ラジオグループに属しているボタンを選択すると、同一グループで前に選択されていたラジオボタンの選択を解除します。
		Ungroup (グループ化解除)	グループ化されたオブジェクトに対して、「 Ungroup 」(グループ化解除)を選択すると、そのオブジェクトのグループ化が解除されます。
	Order (順序)	Bring to Front (最前面へ移動)	階層化されているオブジェクトを最前面に移動します。
		Send to Back (最背面へ移動)	階層化されているオブジェクトを最背面に移動します。
		Bring Forward (前へ移動)	階層化されているオブジェクトを一つ前に移動します。
		Send Backward (背面へ移動)	階層化されているオブジェクトを一つ後ろに移動します。

(表は次のページに続きます)

メニュー	サブメニュー		説明
Object (オブジェクト) (次頁に続きます。)	Align (揃える)	Left (左揃え)	複数のオブジェクトの位置を最後に選択したオブジェクトの左側に合わせて揃えます。
		Center (上下中央揃え)	複数のオブジェクトの位置を最後に選択したオブジェクトの上下中央に合わせて揃えます。
		Right (右揃え)	複数のオブジェクトの位置を最後に選択したオブジェクトの右側に合わせて揃えます。
	Make Same Size (同じサイズにする)	Width (幅)	選択された複数のオブジェクトを、最後に選択されたオブジェクトと同じ幅にリサイズします。
		Height (高さ)	選択された複数のオブジェクトを、最後に選択されたオブジェクトと同じ高さにリサイズします。
		Both (両方)	選択された複数のオブジェクトを、最後に選択されたオブジェクトと同じ高さと同幅にリサイズします。

(表は次のページに続きます)

メニュー	サブメニュー		説明
Object (オブジェクト) (次頁に続きます。)	Space Evenly (等間隔に並べる)	Across Page Width (画面の幅に合わせる)	選択された複数のオブジェクトを、画面の幅に合わせて等間隔に配置します。
		Across Page Height (画面の高さに合わせる)	選択された複数のオブジェクトを、画面の高さに合わせて等間隔に配置します。
		Between Objects Horizontally (オブジェクトを水平方向に配置)	選択された 3 つ以上のオブジェクト間における水平方向の空白を、各選択オブジェクトの平均的な位置に合わせて調整します。
		Between Objects Vertically (オブジェクトを垂直方向に配置)	選択された 3 つ以上のオブジェクト間における垂直方向の空白を、各選択オブジェクトの平均的な位置に合わせて調整します。

(表は次のページに続きます)

メニュー	サブメニュー	説明
Tools (ツール)	Database Generator (データベースジェネレーター)	ATEN データベースジェネレーターを開きます。これは、ハードウェア機器の追加や設定を手動で行う際に使用します。また、デバイスのカスタマイズを行い、マイデバイスライブラリーに追加する際にも使用します。詳細については、p.191「ATEN データベースジェネレーター」をご参照ください。
	Simulator (シミュレーター)	「Design」(デザイン)でビューワのインターフェースの作成後にシミュレーターを使用して、実際にデバイスを作動させることなく、タブレット/スマートフォンで作成したインターフェースが正常に動作するかをテストできます。画面リンクをクリックスルーするにはマウスを使ってください。
	SSH Client (SSH クライアント)	「Edit」(修正)→「Preferences」(お気に入り)→「SSH Destination」(SSH 宛先)で選択された SSH クライアントソフトウェアを実行します。コントロールボックスとの通信には SSH クライアントが使用されます。
Windows (ウィンドウ)	New Page (新規操作画面)	クリックすると、操作画面を新規作成する、または「Design」(デザイン)で開く画面を選択します。
Help (ヘルプ)	About	ファームウェアのバージョンと設定ソフトウェアに関するサポート情報を表示します。

プロジェクト

「Project」(プロジェクト)画面では、プロジェクトとして設定するデバイスの詳細情報を入力できます。下表を参照して、必要な項目を入力してください。

The screenshot shows the 'Project Information' form. At the top, there's a navigation bar with tabs: '1. Project', '2. Device', '3. Design', and '4. Upload'. Below this, the 'Project Information' section is divided into two main panels. The left panel, titled 'Controller', contains a table with columns 'Controller ID' and 'ID-1'. The 'Controller ID' column has a dropdown menu showing 'W2130'. The 'ID-1' column has a text input field with the value '1'. Above this table is a green button labeled '+ Add Controller'. The right panel, titled 'Client Information', contains three text input fields: 'Name' (Optional), 'Address' (Optional), and 'Phone' (Optional). At the bottom of the form is a green button labeled 'Save Project'.

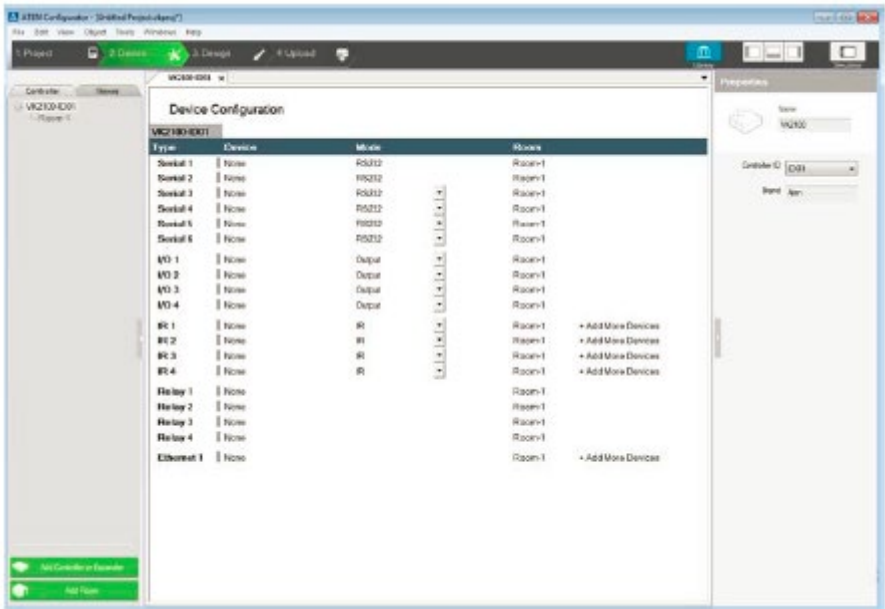
項目	説明
Name (名前)	これから設定を行うプロジェクト名を入力してください。複数のプロジェクトを作成できますが、ほとんどの場合、必要なプロジェクトは 1 つだけとなります。
Add Controller (コントロールボックスを追加)	クリックすると、コントロールボックスをプロジェクトに追加します。追加されたコントロールの数はセットアップしているコントロールボックスの数と同じでなければなりません。プロジェクトには最大 16 のコントロールボックスを追加することができます。コントローラーは、セットアップしようとしているコントローラーに対するソフトウェアリンクです。
Controller ID (コントローラーID)	プロジェクトのコントロールボックスに対するコントローラーID を表示します。この ID を使用して、コントロールボックスのリアパネルにある コントローラーID スイッチ を設定してください。このデバイス設定およびビューワプロファイルは、同じ ID でコントロールボックスにアップロードされます。

(表は次のページに続きます)

項目	説明
ATEN Controller Type (ATEN コントロールボックスのタイプ)	セットアップを行うコントロールボックスの型番を選択してください。
Number of Rooms (部屋数)	コントロールボックスから制御したい部屋数を入力してください。各ハードウェア機器は追加すると、部屋に関連付けられます。ボタンが「Design」(デザイン)タブで設定されると、「Button Action」(ボタンアクション)で部屋を選択して、デバイスリストをフィルタリングすることができるため、その部屋にあるハードウェアだけに絞り込んで表示させることができます。コントロールボックス、デバイスおよび部屋の間における、この関連付けは、ビューワプロファイルがどのデバイスを制御するかを認識する手段となります。
Name (名称)	プロジェクトに関連付けるクライアント名を入力してください。
Address (アドレス)	プロジェクトに関連付けるクライアントのアドレスを入力してください。
Phone (電話番号)	プロジェクトに関連付けるクライアントの電話番号を入力してください。
Remove Controller (コントロールボックスを追加)	クリックすると、プロジェクトからコントロールボックスを削除します。
Start Project (プロジェクトを開始)	クリックすると、ハードウェア機器の設定を開始します。「Select Device & Configuration」(デバイスの選択&設定)画面が開きます。

デバイス

「Device」(デバイス)画面では、接続したハードウェア機器に基づいて、コントロールボックスのポートを設定できます。



項目	説明
Device Configuration (デバイス設定)	このセクションには各コントロールボックスのポートを一覧表示します。ポートを表示するには、左サイドバーからコントロールボックス、拡張ボックス、部屋のいずれかを選択してください。各ポートは、接続されたハードウェア機器に基づいて、設定を行う必要があります(p.101 参照)。

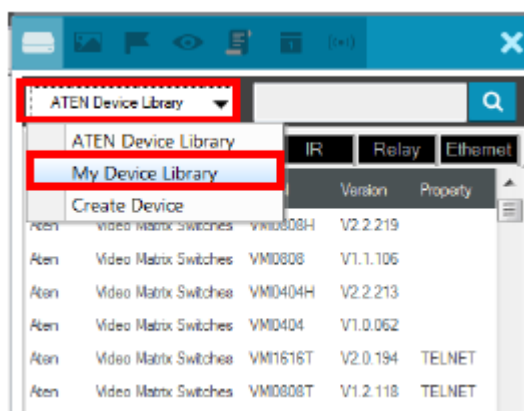
(表は次のページに続きます)

項目	説明
左サイドバー	ここには、コントロールボックス、拡張ボックス、および部屋が一覧表示されます。このサイドバーを使用して、コントロールボックスにコントロールボックスや拡張ボックス、および部屋を追加します。ポートとデバイスを設定したら、デバイスがこのサイドバーにある部屋の下側に表示されます (p.106 参照)。
Library (ライブラリー)	このアイコンをクリックすると、「Device Library」(デバイスライブラリー) タブにある「 Library 」(ライブラリー)を開きます。ここには、コントロールボックスのポートを設定するのに用いられるハードウェア機器のデータベースが含まれます (p.108 参照)。
Properties (プロパティ)	選択したコントロールボックス、ポート、または部屋に関する情報が表示されます (p.109 参照)。

ATEN 設定ソフトウェア (VK6000) に対するデバイスの追加

コントローラーによって管理されているデバイスを、デバイス設定リストに追加し、これらの設定を行ってください。

- ◆ KNX デバイスを追加する場合は、下記の手順に従って操作を行ってください。
 1. 「**File**」(ファイル)をクリックした後で、「**Import ETS Project**」(ETS プロジェクトのインポート)をクリックしてください。そうすると、お使いの KNX デバイスの設定が、左サイドバーの「**Controller**」(コントローラー)タブに表示されます。
 2. 「**Controller**」(コントローラー)タブで、「**KNX IP Interface**」(KNX IP インターフェース)をクリックして、このインターフェースの IP アドレスとポート番号を「**Properties**」(プロパティ)列に入力してください。
- ◆ KNX 非対応のデバイスを追加する場合は、下記の手順に従って操作を行ってください。
 1. デバイス設定リストでエントリーをクリックするか、「**Add More Devices**」(デバイスの追加)をクリックして、新規エントリーを作成してください。
 2. 「**Library**」(ライブラリー)をクリックして、追加したいデバイスを検索したら、このエントリーをダブルクリックして、デバイスの追加を行ってください。デバイスがライブラリーに存在しない場合は、次の手順に進んでください。
 3. データベースジェネレーターを使ってデバイスを作成してください。
 - a) p.197「新規デバイスの編集/追加」にある手順に従って、デバイスの作成を行ってください。
 - b) 「**Library**」(ライブラリー)ウィンドウで、「**Library**」(ライブラリー)をクリックして、「**My Device Library**」(マイデバイスのライブラリー)を選択してください。



- c) 先ほど作成したデバイスをダブルクリックして、これをデバイス設定リストに追加してください。

デバイス設定リスト

「Device Configuration」(デバイス設定画面)には、コントロールボックスのポートが種類ごとに一覧表示されます。ポートの**プロパティ**を確認するには、ポートをクリックしてください(p.109 参照)。ポートをダブルクリックして、「**ATEN Device Library**」(ATEN デバイスライブラリー)を開き、ポートを設定するハードウェア機器を検索してください。接続されたハードウェア機器に基づいて、各ポートを設定してください。

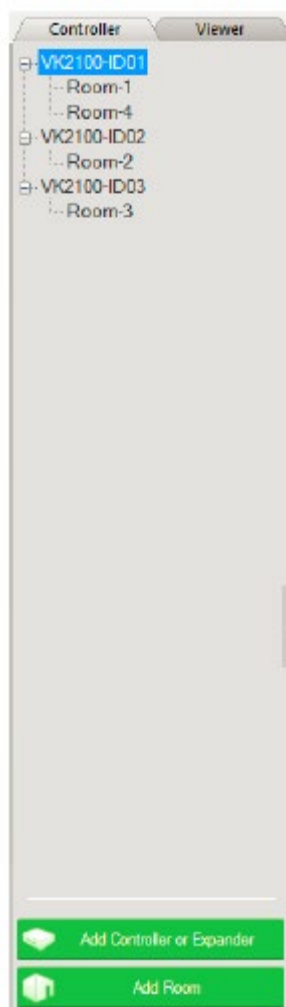
Type	Device	Mode	Room
Serial 1	None	RS232	Room-1
Serial 2	None	RS232	Room-1
Serial 3	None	RS232	Room-1
Serial 4	None	RS232	Room-1
Serial 5	None	RS232	Room-1
Serial 6	None	RS232	Room-1
I/O 1	None	Output	Room-1
I/O 2	None	Output	Room-1
I/O 3	None	Output	Room-1
I/O 4	None	Output	Room-1
IR 1	None	IR	Room-1
IR 2	None	IR	Room-1
IR 3	None	IR	Room-1
IR 4	None	IR	Room-1
Relay 1	None		Room-1
Relay 2	None		Room-1
Relay 3	None		Room-1
Relay 4	None		Room-1
Ethernet 1	None		Room-1

項目	説明
Type (種類)	コントロールボックスのポートの種類と数を表示します。
Device (デバイス)	プロパティで入力したデバイス名を表示します。

(表は次のページに続きます)

項目	説明
Mode (モード)	ポートの通信モードを表示します。矢印をクリックして、通信モードを選択してください。 ◆ Serial(シリアル) - RS-232、RS-422、RS-485 ◆ I/O - 入力(VDC)、入力(ドライ接点)、出力 ◆ IR - IR、RS-232
Room (部屋)	デバイスに対して選択した部屋を表示します。使用可能な部屋はコントロールボックスに追加した部屋数によって異なります。部屋が 1 つだけ選択されている場合、ドロップダウンメニューは表示されません。各コントロールボックスには部屋を最低 1 つ選択する必要があります。デバイスを設置する部屋を選択してください。
+ Add More Devices (+ デバイスを追加)	RS-422、RS-485、LAN および IR ポートはカスケード接続に対応しているので、親機にデバイスを追加することができます。IR ポートには最大 1 台、RS-422 および RS-485 ポートには最大 2 台、そして LAN ポートには最大 25 台のデバイスを、それぞれカスケード接続することができます。

左サイドバー



コントローラー

左サイドバーには、コントローラー、拡張ボックス、および部屋がツリービュー形式で表示されます。各コントローラーは、コントロールボックスおよび、それらが制御可能な部屋を表しています。コントローラーを選択すると、そのポートを設定することができます。ポートがデバイスに設定されると、部屋の下側に一覧表示されます。

各コントローラーには、必ず部屋を1つ割り当ててください。1つの部屋に複数のコントロールボックスを設置する場合は、各コントローラーに同じ名前の部屋を追加してください。

各コントローラーの名前の最後には、ID 番号が付きます（例：VK2100-ID01）。この番号を使用して、コントロールボックスのリアパネルにある**コントロールボックス ID スイッチ**を設定してください。これはソフトウェアと設置したコントロールボックスをリンクさせるのに必要となります。

コントロールボックスを右クリックすると、**部屋を追加**または**コントロールボックスを削除**できます。

部屋

部屋はコントローラーとビューワプロファイルに関連付けられているので、ハードウェア機器を制御するコントロールボックスを的確に判別して、情報がアップロードされます。

部屋を右クリックすると、部屋を削除または名前を変更することができます。

部屋を追加するには、サイドバー下部にあるボタンを使ってください。

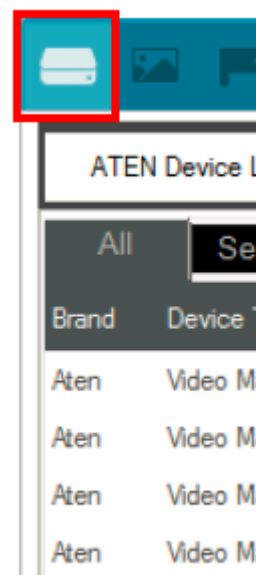
拡張ボックス

ATEN 拡張ボックスは、本体にあるイーサネットポートを介して、ポートをネットワーク経由でコントロールボックスに追加します。「Add Controller or Expander」(コントロールボックスや拡張ボックスを追加)をクリックすると、追加デバイスを選択できるウィンドウが表示されます。



ライブラリー

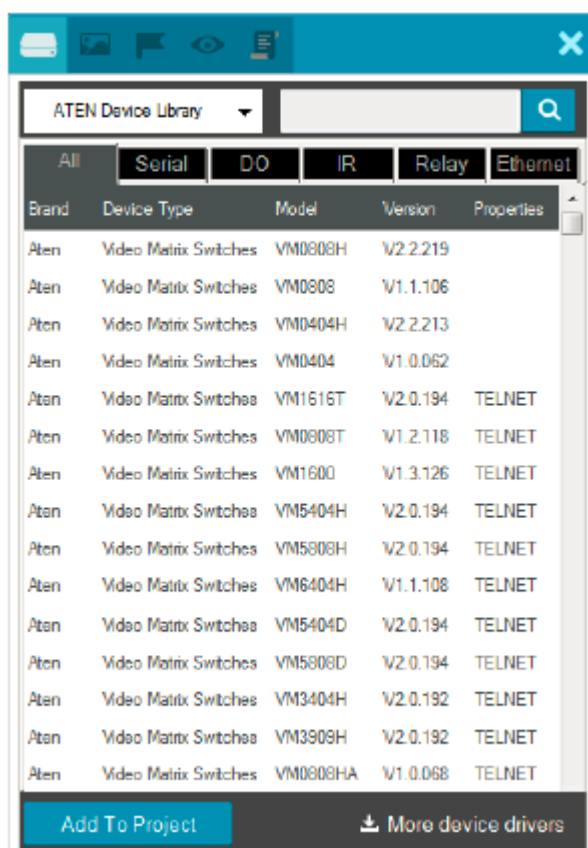
プロジェクトバーには、「Library」(ライブラリー)オプションが提供されています。「Device Library」(デバイスライブラリー)タブ(右図参照)を使うと、接続されているハードウェア機器に従って VK2100 や VK1100 のポートを設定します。このタブで提供されているハードウェア機器の拡張データベースをダブルクリックまたは「Device Configuration」(デバイス設定)画面へドラッグ&ドロップすることで、VK2100 や VK1100 のポートを設定することができます。「Device Library」(デバイスライブラリー)については、次のページで詳しく説明します。





デバイスライブラリー

「Device Library」(デバイスライブラリー)とは、ハードウェア機器のデータベースのことです。VK2100 や VK1100 のポートを簡単に設定できます。VK2100 や VK1100 のポートに接続したいデバイスをライブラリーから検索し、ポート設定にそれを追加します。ライブラリーにデバイスが無い場合は、**ATEN データベースジェネレーター**を使用して、ご自分でハードウェアのデータを作成できます(p.191 参照)。プロジェクトバーの**デバイスライブラリー**をクリックするか、デバイス設定画面にあるポートをダブルクリックして、ATEN デバイスライブラリーを開いてください。



- ◆ デバイスを追加するには、「Add to Project」(プロジェクトに追加)をクリックするか、**ドラッグ & ドロップ**をしてください。
- ◆ デバイスの種類を検索するには、ボックスにキーワードを入力してから、をクリックしてください。
- ◆ デバイスの種類を絞り込んで表示させる場合は、「All」(全て)、「Serial」(シリアル)、「DO」、「IR」、「Relay」(リレー)または「Ethernet」タブをクリックしてください。
- ◆ 「Brand」(メーカー名)、「Device Type」(デバイスタイプ)、「Model」(モデル)または「Version」

(バージョン)で分類する場合は、見出しをクリックしてください。

- ◆ 下記を選択するには、ドロップダウンメニューを使用してください。
 - **ATEN Device Library**(ATEN デバイスライブラリー) - ハードウェア機器のデータベースです。
 - **My Device Library**(マイデバイスライブラリー) - データベースジェネレーターから追加されたデバイスです。
 - **Create Device**(デバイスの作成) - データベースジェネレーターを開き、マイデバイスライブラリーに加えるハードウェア機器のデータを作成します(p.191 参照)。

プロパティ

「Properties」(プロパティ)サイドバーには、選択したデバイスに関する情報が表示されます。表示される情報は、選択したデバイスやポートによって異なります。表示される情報は下表の通りです。なお、追加の「Connection Settings」(接続設定)オプションを含む全種類の情報については、次のセクションで説明します。



◆ **Name**(名前): デバイス名を表示します。ここでデバイス名を編集することもできます。

◆ **Add Device**(デバイスの追加): デバイスを追加します。デバイスの追加を行うにあたり、下記のいずれかの方法を用いることができます。

- 「Name」(名前)欄にデバイス名を入力し、「**Add Device**」(デバイスの追加)をクリックする。

- 矢印ボタン(「**Add Device**」(デバイスの追加)ボタンの次)をクリックし、**ライブラリー**から「**Add Device**」(デバイスの追加)を選択したら、デバイスライブラリーを開く。その後、デバイスをダブルクリックして、デバイスの情報と設定画面を表示する。

◆ **Category**(カテゴリ): 選択デバイスのカテゴリを表示します。

◆ **Brand**(メーカー名): 選択したデバイスのメーカー名を表示します。

◆ **Model**(モデル): 選択したデバイスのモデルを表示します。

◆ **Version**(バージョン): 選択したデバイスのファームウェアバージョンを表示します。ドロップダウンメニューから各ファームウェアバージョンを選択できます。バージョン番号の隣にあるメニューボックスをクリックすると、バージョン履歴が記載された PDF ファイルを開きます。デバイスのバージョン履歴と各バージョンは、データベースジェネレーターを使用して、手動で追加または更新できます(p.197「新規デバイスの編集/追加」の手順 3 を参照)。

- ◆ **Connecting Settings** (接続設定) : 選択したシリアルデバイスまたはイーサネットデバイスに対するパラメーターを設定します。詳細については、p.110「シリアルデバイス」または p.111「イーサネットデバイス」を参照してください。
- ◆ **Advanced Settings** (詳細設定) : 「Advanced」 (詳細) ボタンをクリックして、「Delay Interval」 (遅延間隔) のドロップダウンメニューを使うと、各コマンドをデバイスに送るまでに遅延させる時間を設定します。

■ 接続設定

◆ シリアルデバイス

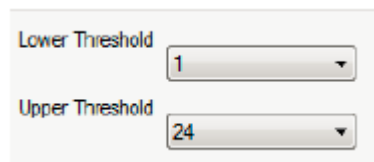
ドロップダウンメニューからボーレート、データビット、ストップビット、パリティおよびフロー制御を選択することで、ご使用のシリアルデバイスの設定に合わせて設定することができます。

「Advanced」 (詳細) をクリックすると、次のパラメーターを設定することができます。

項目	説明
Delay Interval (遅延間隔)	このドロップダウンメニューを使うと、各コマンドをデバイスに送るまでに遅延させる時間を設定します。
Feedback Timeout (フィードバックタイムアウト)	コントローラーがセッションタイムアウトになるまでに、シリアルデバイスからの応答を待機する時間を設定します。

◆ I/O デバイス

入力 (VDC) ポートには、「**Lower Threshold**」(低しきい値)と「**Upper Threshold**」(高しきい値)の2つのドロップダウンメニューがあります。接続するハードウェア機器に従ってしきい値を設定し、次にモニターを設定してください(p.166 参照)。

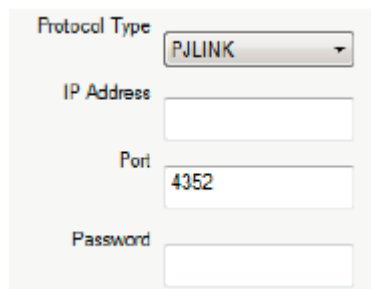


The screenshot shows a configuration window with two dropdown menus. The first menu is labeled 'Lower Threshold' and has the value '1' selected. The second menu is labeled 'Upper Threshold' and has the value '24' selected.

◆ イーサネットデバイス

このオプションでは、PJLINK、TELNET、UDP、ONVIF、TCP、HTTP、HTTPS に対応した LAN デバイスの設定を行うことができます。プロトコルタイプを選択したら、そのタイプに応じて IP アドレス、ポート、ユーザーネーム、パスワードの各項目を該当欄に入力してください。各コントロールボックスはイーサネットポート経由で接続できる LAN デバイスを 25 台追加することができます。「Protocol Type」(プロトコルタイプ)のドロップダウンメニューからは、下記のアイテムを選択することができます。

- **PJLINK** - PJLink プロトコルを使用してネットワーク越しにデータプロジェクターを制御できます。LAN 対応プロジェクターまたはプロジェクターを制御するのに使用するデバイスの **IP アドレス**、**ポート**および**パスワード**を入力してください。



The screenshot shows a configuration window for an Ethernet device. It has a dropdown menu for 'Protocol Type' with 'PJLINK' selected. Below it are four input fields: 'IP Address' (empty), 'Port' (containing '4352'), and 'Password' (empty).

- **TELNET** - Telnet コマンドを使用して LAN デバイスを制御できます。この LAN デバイスの IP アドレス、ポート、ユーザー名およびパスワードを入力してください。詳細 Telnet オプションを使うと、次の項目を設定することができます。

項目	説明
Delay Interval (遅延間隔)	このドロップダウンメニューを使うと、各コマンドをデバイスに送るまでに遅延させる時間を設定します。
Delay after login (ログイン後の遅延時間)	1 番目と 2 番目のコマンドがデバイスに送られる前に遅延させる時間(接続が確立するまで待機する時間)を設定します。
Send command after connection (接続後にコマンドを送信)	「 Format 」(フォーマット)はラジオボタンで選択してください。また、接続が正常に確立した後でデバイスに送信するコマンドを「First Command」(1 番目のコマンド)と「Second Command」(2 番目のコマンド)の各欄に入力してください。
Automatically reconnect if no return message is received (返送メッセージがない場合は自動的に再接続)	デバイスから返送メッセージがない場合に再接続の試行を継続させる場合は、この項目にチェックを入れてください。

- **ONVIF** - ONVIF プロトコルを使うと、デバイスから出力されたビデオを、ATEN コントロールシステムのアプリ経由で制御したり表示したりすることができます。この場合は、追加しようとしている ONVIF デバイスの IP アドレス、ユーザー名、パスワードを、それぞれ該当欄に入力してください。また、「Delay Interval」(遅延間隔)の値を設定する場合は、詳細 ONVIF オプションを使用してください。

Protocol Type
ONVIF
IP Address
Username
Password

Advanced
Delay Interval
0 Seconds

項目	説明
Delay Interval (遅延間隔)	このドロップダウンメニューを使うと、各コマンドをデバイスに送るまでに遅延させる時間を設定します。

- **TCP** - TCP 対応の LAN デバイスを制御できます。この LAN デバイスの **IP アドレス**および**ポート**を、それぞれ該当欄に入力してください。なお、**詳細** TCP オプションを使うと、次の項目を設定することができます。

項目	説明
Delay Interval (遅延間隔)	このドロップダウンメニューを使うと、各コマンドをデバイスに送るまでに遅延させる時間を設定します。
Delay after login (ログイン後の遅延時間)	1 番目と 2 番目のコマンドがデバイスに送られる前に遅延させる時間(接続が確立するまで待機する時間)を設定します。
Send command after connection (接続後にコマンドを送信)	「 Format 」(フォーマット)はラジオボタンで選択してください。また、接続が正常に確立した後でデバイスに送信するコマンドを「First Command」(1 番目のコマンド)と「Second Command」(2 番目のコマンド)の各欄に入力してください。
Automatically reconnect if no return message is received (返送メッセージがない場合は自動的に再接続)	デバイスから返送メッセージがない場合に再接続の試行を継続させる場合は、この項目にチェックを入れてください。

- **UDP** - UDP 対応のデバイスを制御できます。追加するデバイスの IP アドレスおよびポートを、それぞれ該当欄に入力してください。なお、**詳細** UDP オプションを使うと、次の項目を設定することができます。

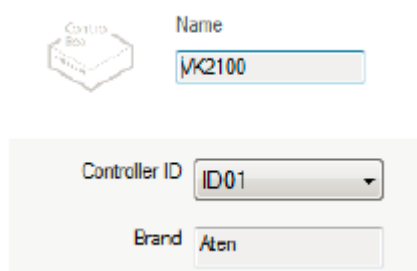
項目	説明
Delay Interval (遅延間隔)	このドロップダウンメニューを使うと、各コマンドをデバイスに送るまでに遅延させる時間を設定します。

- **HTTP/HTTPS** - HTTP または HTTPS 対応のデバイスを制御することができます。この場合は、追加しようとしているデバイスの **IP アドレス**、**ポート番号**、**ユーザー名**、**パスワード**を、それぞれ該当欄に入力してください。また、ドロップダウンリストを使って、「**Auth Type**」(認証タイプ)に適切な値を入力してください。なお、**詳細**オプションを使うと、次の項目を設定することができます。

項目	説明
Auth Type (認証タイプ)	デバイスが使用する認証タイプを HTTP または HTTPS から選択してください。
Delay Interval (遅延間隔)	このドロップダウンメニューを使うと、各コマンドをデバイスに送るまでに遅延させる時間を設定します。

■コントローラー

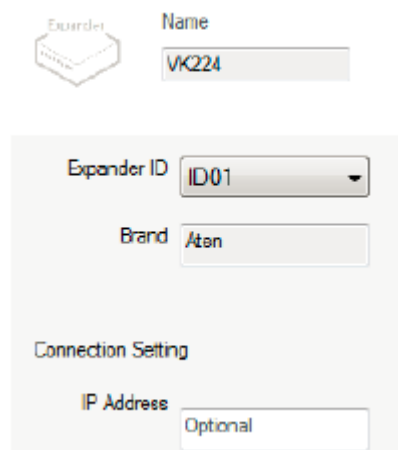
左側のサイドバーからコントローラーを選択した場合、プロパティ画面にはこのコントローラーID (ID01～ID16)を設定するためのドロップダウンメニューが表示されます。詳細は p.99「コントローラーID」を参照してください。



The image shows a configuration interface for a controller. At the top left is a 3D icon of a controller labeled 'Controller ID 001'. To its right is a 'Name' label followed by a text input field containing 'VK2100'. Below these is a 'Controller ID' label followed by a dropdown menu currently showing 'ID01'. At the bottom is a 'Brand' label followed by a text input field containing 'Aten'.

■ 拡張ボックス

左側のサイドバーから拡張ボックス (VK224、VK236、VK248) を選択した場合、プロパティには、拡張ボックス ID (ID01～ID08) を設定するドロップダウンメニュー、および IP アドレスを設定するオプションが表示されます。



Expander Name: VK224

Expander ID: ID01

Brand: Aten

Connection Setting

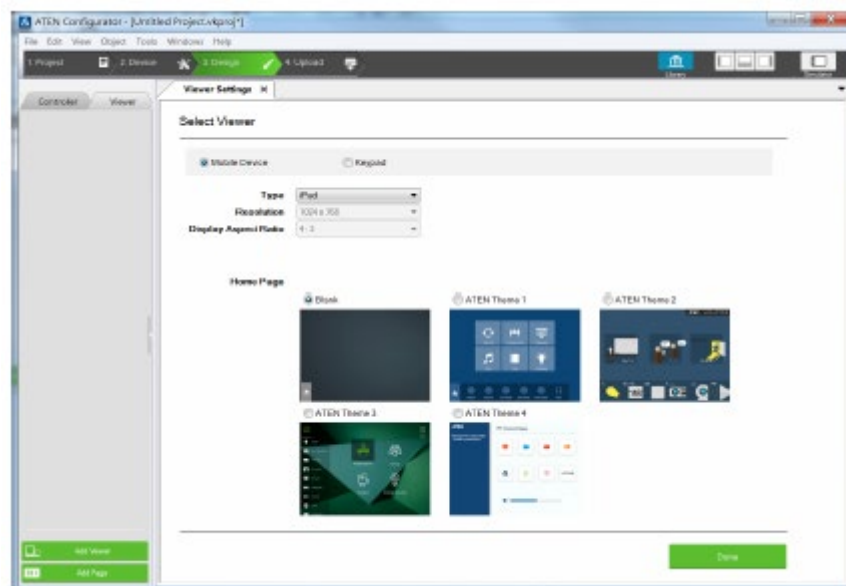
IP Address: Optional

拡張ボックスを追加する場合は、左側のサイドバーにある「Add Controller or Expander」(コントロールボックスや拡張ボックスを追加) をクリックしてください。そうしたら、追加対象となる ATEN 拡張ボックスを矢印で選択してください。拡張ボックスとポートは、下図のように「Device Configuration」(デバイス設定) 画面に一覧表示されます。

VK224-ID01				
Type	Device	Mode		Room
Serial 1	None	RS232	▼	Room-1
Serial 2	None	RS232	▼	Room-1
Serial 3	None	RS232	▼	Room-1
Serial 4	None	RS232	▼	Room-1

デザイン

「Design」(デザイン)画面では、ハードウェアをモバイルデバイスまたはキーパッドから操作する際のユーザーインターフェースとなる**ビュー**を作成します。セットアップに応じてビューを作成し、ハードウェアを制御する画面を追加してください。



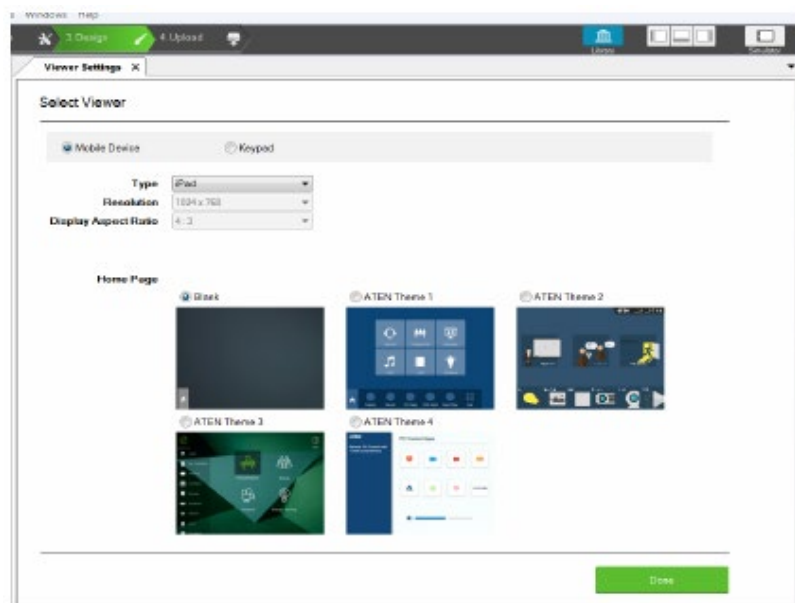
項目	説明
Viewer Settings (ビュー設定)	ビューが何も作成されていないと、ビュープロパティを設定するための「Viewer Settings」(ビュー設定)画面が表示されます。ビュー画面の設定を始める前に、ビュープロパティを設定する必要があります。入力が終わったら、「Done」(完了)をクリックしてビュー画面のデザインを開始してください。詳細は p.119「ビューの選択」をご参照ください。
左サイドバー	左側のサイドバーには、各ビューとその画面が一覧表示されます。サイドバーでは、ビューや画面の追加が可能です。これらのオプションは「Viewer Settings」(ビュー設定)画面で「Done」(完了)をクリックすると有効になります。詳細は p.106「左サイドバー」をご参照ください。

(表は次のページに続きます)

項目	説明
Library (ライブラリー)	このアイコンをクリックすると、「 Graphic 」(グラフィック) (p.161 参照)、「 Flag 」(フラグ) (p.164 参照)、「 Monitor 」(モニター) (p.166 参照)、「 Macro 」(マクロ) (p.180 参照)、「 Scheduled Event 」(イベントスケジュール) (p.182 参照)および「 Synced Variables 」(同期変数) (p.183 参照)の各オプションにアクセスできるライブラリーを開きます。
Simulator (シミュレーター)	このボタンは、作成したビューワのインターフェースをテストするのに使用します。このシミュレーターを使うと、実際にデバイスを制御することなく、タブレット/スマートフォン上におけるインターフェースの動作を試行することができます。ページリンクをクリックするにはマウスを使用します。
Select Viewer (ビューワの選択)	このセクションでは、基本設定および作成するビューワの種類の設定を行います。詳細については、p.119「ビューワの選択」を参照してください。

ビューワの選択

「Select Viewer」(ビューワの選択)画面では、作成するビューワに対して基本的なプロパティを設定します。ビューワとはタブレット/スマートフォンや ATEN 製キーパッド用にデザインされたインターフェースで、各ハードウェア機器を制御する画面やボタンがあります。下図の表を使ってビューワの設定値を選択し、「**Done**」(完了)をクリックして操作を続けてください。



項目	説明
Select Viewer (ビューワの選択)	ビューワのプロファイルを作成する際に選択が必要な基本項目を表示します。 ◆ Mobile Device (モバイルデバイス) : この項目を選択すると、デバイスタブレット/スマートフォンで使用するためにアップロードするビューワプロファイルを作成します。 ◆ Keypad (キーパッド) : この項目を選択すると、キーパッドをセットアップした場合にボタンの設定に使われるビューワプロファイルを作成します (詳細は p.62 参照)。 ◆ Control Pad (コントロールパッド) : この項目を選択すると、モバイルデバイスでコントロールパッドを制御するのに使用するビューワを作成します。
Type (タイプ)	このドロップダウンメニューを使うと、部屋にあるハードウェア機器の制御に使用するタブレット/スマートフォンを選択します。この項目は、タブレット/スマートフォンの画面に合うようにビューワの解像度を設定します。「Custom」(カスタム)を選択すると、その下にある「Resolution」(解像度)のドロップダウンメニューで画面サイズを設定します。 注意:「Custom Windows Device」(カスタム Windows デバイス)を選択し、Windows タブレット/スマートフォンにおけるビューワ画面に対してボタンを追加する場合は、制限事項があります。詳細については、p.129「プロパティ」をご参照ください。
Resolution (解像度)	このドロップダウンメニューを使うと、ハードウェア機器の制御に使われるタブレット/スマートフォンのカスタム画面解像度を設定します。このオプションは、「Type」(タイプ)ドロップダウンメニューから「Custom」(カスタム)オプションのうちの一つを選択した場合に利用可能になります。なお、「Display Aspect Ratio」(アスペクト比を表示する)のメニューはあくまで参照用として提供されているため、設定することはできません。
Home Page (ホーム画面)	ビューワのホーム画面のレイアウトを設定します。 ◆ Blank (ブランク) : 一からデザインを行うカスタムホーム画面を作成します。 ◆ ATEN Theme 2 (ATEN テーマ 2) : 図を使いながらホーム画面とデバイス画面のテンプレートを作成します。各テーマでは、自身のデザインにカスタマイズできるテンプレートが提供されています。

(表は次のページに続きます)

項目	説明
Done/Replace (完了/置き換え)	「 Done 」(完了)をクリックすると、ビュー画面を編集します。「Edit Preferences」(ユーザー設定の編集)をクリックすると、変更内容を保存することができる「 Replace 」(置き換え)ボタンが表示されます。

左サイドバー



ビューワ

左のサイドバーには、**ビューワ**と**画面**がツリービューで表示されます。ビューワをクリックすると、ビューワの画面のレイアウトとなる「Page Overview」(画面概観)が表示されます。

ビューワの**削除・名前変更・編集**を行うには、ビューワを右クリックしてください。

新しいビューワを作成するには、サイドバー下部にある「**Add Viewer**」(ビューワの追加)を使用してください。

画面

各ビューワには**ホーム画面**が一覧表示され、その下にはビューワ用に作成された各**ビューワ画面**が一覧表示されます。

サイドバーにあるホーム画面、またはビューワ画面をクリックすると、画面を編集することのできる新しいタブが表示されます。

画面の**削除、名前変更**または**コピー**を行うには、画面を右クリックしてください。コピーを行う際には、コピーした画面を、同一または異なるプロジェクトファイル上にある別のビューワへとペーストしてください。なお、コピー機能は、この画面の外観デザインだけをコピーし、設定は引き継ぎません。また、ホーム画面を削除することはできません。

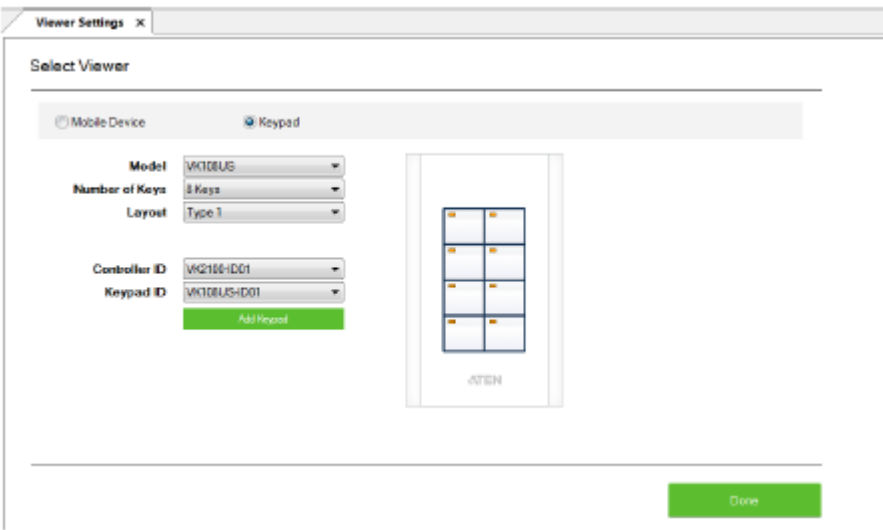
ビューワに新しい画面を追加するには、サイドバー下部にある「**Add Page**」(画面の追加)を使用してください。

右サイドバー

右サイドバーには、メインウィンドウで選択されたオブジェクトに関する情報および各種設定を表示する「**Properties**」(プロパティ) オプションがあります。「Properties」(プロパティ) サイドバーは、ビュー画面が編集用に開かれており、なおかつオブジェクトが選択されている場合にのみ表示されます。プロパティサイドバーに関する詳細については、p.109 から説明しています。

キーパッド

「Select Viewer」(ビューワの選択) 画面で「**Keypad**」(キーパッド) ラジオボタンを選択すると、設定メニューが表示されます。ここにある 4 つのドロップダウンメニューを使うと、キーパッドのレイアウトや ID を設定することができます。「**Done**」(完了) をクリックすると、ビュー画面が表示されるので、ここからキーパッドのラベルやボタンを設定することができます。



項目	説明
Type (タイプ)	セットアップするキーパッドの種類を選択します。
Layout (レイアウト)	この部分をクリックすると、キーパッドのレイアウトを定義します。なお、レイアウトは、キーパッドの物理レイアウトに合わせて設定してください(詳細は p.68 参照)。

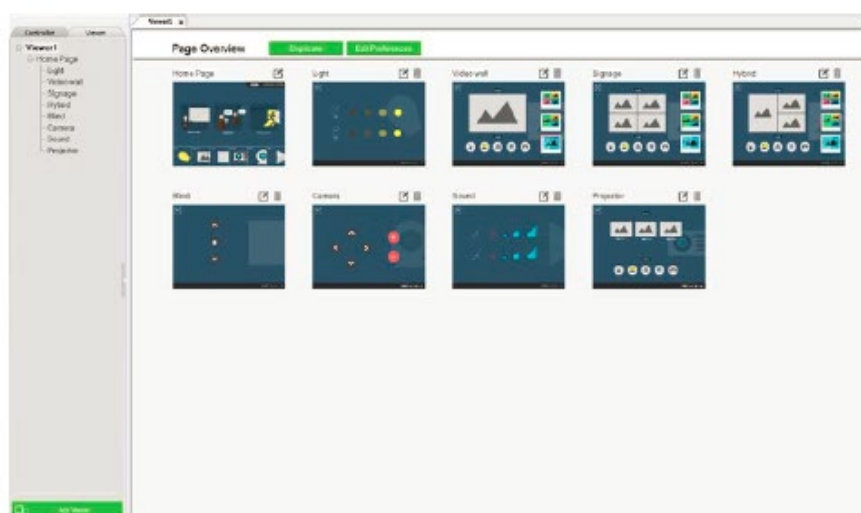
(表は次のページに続きます)

項目	説明
Controller ID (コントロールボックス ID)	キーパッドが接続するコントロールボックス(コントローラー)の ID を選択してください。この ID は、キーパッドで設定されたコントロールボックスの ID スイッチ(ブラック)と同じものを選択してください(p.67 参照)。
Keypad ID (キーパッド ID)	キーパッドで設定されたキーパッド ID スイッチ(ブルー)と同じ ID を選択します(p.67 参照)。コントロールボックス 1 台に対して、最大 8 台のキーパッドを接続することができます。
Add Keypad (キーパッドの追加)	このボタンをクリックすると、同一のコントロールボックスに接続して同一のデバイスを制御するキーパッドを追加します。
Done/Replace (完了/置き換え)	「 Done 」(完了)をクリックすると、キーパッドのビューワ画面を編集します。「Edit Preferences」(ユーザー設定の編集)をクリックすると、変更内容を保存することができる「 Replace 」(置き換え)ボタンが表示されます。

画面概観

「Select Viewer」(ビューワの選択)画面で、**モバイルデバイス(タブレット/スマートフォン)**または**キーパッド**を選択し、「Done」(完了)ボタンをクリックすると、「Page Overview」(画面概観)画面に遷移し、ハードウェアの制御が行えるビューワ画面のプレビューが表示されます。ビューワプロフィールに対して作成されたページの編集や削除は、この画面から操作することができます。

画面を編集したり追加したりしながら、モバイルデバイス(タブレット/スマートフォン)やキーパッドからハードウェアを制御するのに用いるレイアウトをデザインしてください。画面は各種ハードウェア機器からマクロやボタンを使い、オブジェクト、背景、サイズ、形、色を自由に選んで、カスタマイズやデザインを行うことができます。キーパッドの場合は、レイアウトは自動的に作成されるため、ラベルやボタンの設定を行います。



項目	説明
Page Overview (画面概観)	ビューワ画面に対して追加したホーム画面および各制御画面を表示します。
Duplicate (複製)	このボタンをクリックすると、選択されたビューワの複製と、その画面を作成します。新規ビューワは左サイドバーに表示されます。

(表は次のページに続きます)

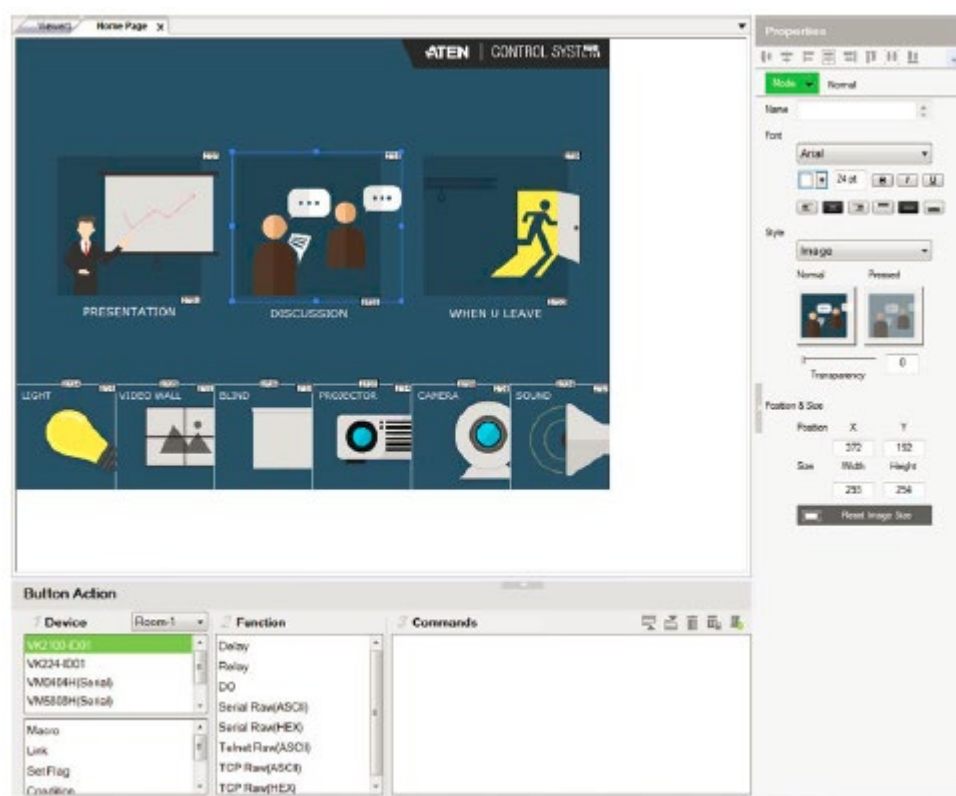
項目	説明
Edit Preferences (ユーザー設定の編集)	このボタンをクリックすると、「Select Viewer」(ビューワの選択)画面に遷移します(p.119 参照)。ここではビューワの基本設定を変更することができます。「Done」(完了)をクリックすると、「Page Overview」(画面概観)に戻ります。
	このアイコンをクリックすると、ビューワ画面のカスタマイズを行います(p.126 参照)。
	このアイコンをクリックすると、ビューワ画面を削除します。なお、ビューワのホーム画面を削除することはできません。
Add Viewer (ビューワの追加)	左サイドバーからこのアイテムをクリックすると、新しいビューワを作成します。
Add Page (画面の追加)	左サイドバーからこのアイテムをクリックすると、ビューワに新しい画面を追加します。画面はタブレット/スマートフォンのビューワにのみ追加可能です。
Viewer Sidebar (ビューワサイドバー)	詳細については、p.106「左サイドバー」を参照してください。

編集

ビューワ画面の「Edit」(編集)アイコンをクリックすると、画面のレイアウトとデザインをカスタマイズすることができます。ページには、ボタン*、ラベル、イメージ、スクロールビューウィンドウ、スライドバーをそれぞれ追加することができます。

ボタンはリンク、マクロ、または機能の各ボタンとして作成が可能です(p.139 参照)。

「Graphic」(グラフィック) (p.161 参照)を使ってレイアウトやボタンのデザインを行うには、プロジェクトバーにある「Library」(ライブラリー)を使用してください。または、ボタンアクションに対しては、「Flags」(フラグ) (p.164 参照)、「Monitor」(モニター) (p.166 参照)、「Macros」(マクロ) (p.180 参照)をそれぞれ設定してください。オブジェクトは階層化することができます。また、イメージのインポートも可能で、ラベルは任意の場所に適用することができます。



注意: Windows タブレット/スマートフォン用にビューワ画面にボタンを追加する場合は、Windows の OS 側で制限事項があります。詳細については、p.127「Windows OS におけるボタンの制限」をご参照ください。

- ◆ ページを右クリックすると、ボタン、ラベル、イメージ、スクロールビュー、ビデオ、スライダーバー、PowerPoint ファイルの操作、およびメディア制御テンプレートを追加することができます。
- ◆ オブジェクトを選択すると、画面右側の「Properties」(プロパティ)を表示します。
- ◆ ボタンやスライダーバーを選択すると、画面下部の「Action」(アクション)を表示します。
- ◆ オブジェクトは画面の任意の場所にドラッグしたりドロップしたりすることができます。
- ◆ オブジェクトを右クリックすると、階層化されたオブジェクトに対して「Order」(順序)オプションを選択することができます。
- ◆ マウスホイールをクリックすると、画面の拡大または縮小表示を行います。
- ◆ プロジェクトバーにある「Library」(ライブラリー)アイコンをクリックすると、「Graphic」(グラフィック)、「Flag」(フラグ)、「Monitor」(モニター)、「Macro」(マクロ)の各オプションにアクセスできるライブラリーを開きます。
- ◆ 複数のオブジェクトを選択してマウスを右クリックすると、オブジェクトのグループ化または整列を行います。
- ◆ 「View」(ビュー)のメニューオプションから「Show Grid」(グリッドを表示)と「Align to Grid」(グリッドに合わせて整列)を使うと、オブジェクトをきちんと整列させることができます。

Windows OS におけるボタンの制限

Windows タブレット/スマートフォン用にビューワ画面に対してボタンを追加する場合、ボタンを重ねて配置しようとする Windows OS における制限事項があります。2 つのボタンを (B) の上部を重ねて (A) を配置した場合、毎回、(B) が有効となり、最前面に配置されたボタン (A) は押すことができなくなります。この問題を解決するには、最前面の配置されたボタン (A) をコピーした後、(A) の真下に来るようにビューア画面の (B) の下に貼りつけて追加するようにしてください (C)。



こうすることで、最前面のボタン (A) が押された時に、最背面のボタン (C) がアクションを実行するようになります。

画面オブジェクト

各オブジェクトの右上には、番号が表示されます。番号は、オブジェクトが追加された順に、昇順に連続した番号が割り当てられます。これらの番号は、ラベルの変更 (p.155 参照) をする際にはラベルの識別に、またはボタンの状態変更 (p.153 参照) を設定する際にはボタンの識別に、それぞれ役立ちます。



各ボタンには、下記の内容を識別できるマークがついています。

- ◆ 「A」が付いているボタンは、アクションが正しく設定されていることを表しています。
- ◆ 「！」が付いているボタンは、アクションの設定を修正する必要があるか、正しく動作しない可能性があることを表しています。
- ◆ マークがついていないボタンは、機能が追加されていないことを表しています。機能の追加に関する詳細は、p.139「アクション」をご参照ください。

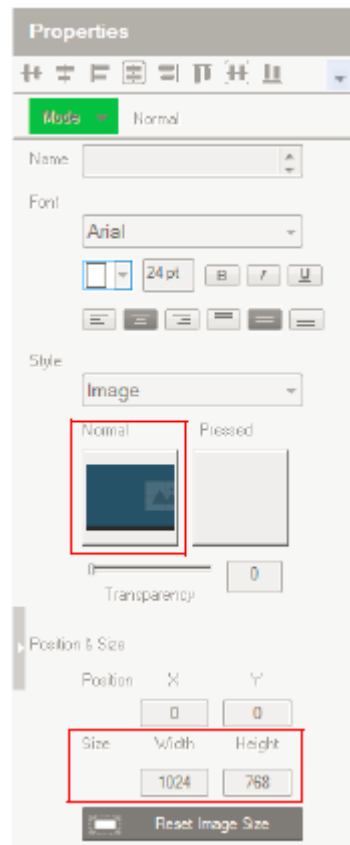
プロパティ

「Properties」(プロパティ)サイドバーには、複数のオブジェクトを選択した際にボタンを整列させる機能があります。これを使うことで状況に応じてオブジェクトの配置を変更させることができます。



■画面プロパティ

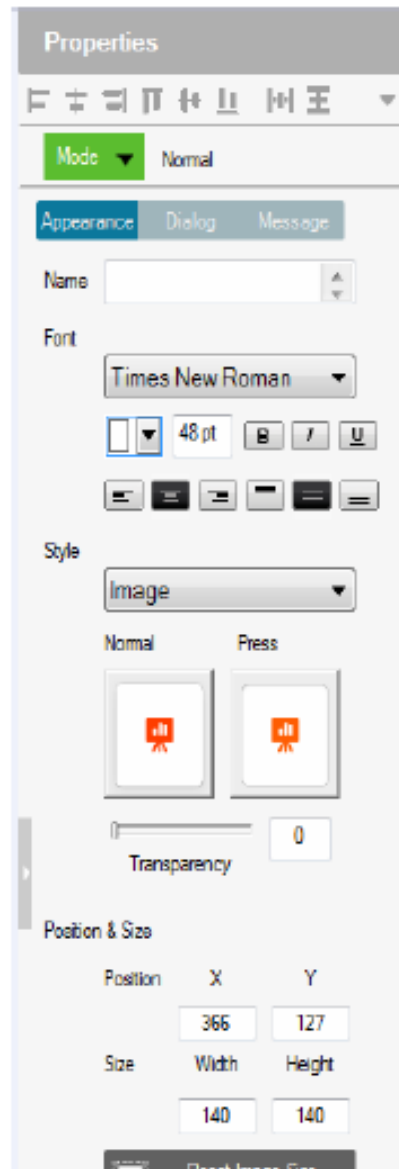
ここには、画面の背景を変更するオプションが提供されています。



- ◆ **Style**(スタイル) - 「Normal」(通常)のボックスをクリックすると、画面の背景として使用するイメージ(*.png、*.jpg、*.jpeg、*.bmp)をインポートすることができます。
- ◆ **Position and Size**(位置とサイズ) - 「Viewer Properties」(ビューワプロパティ)で設定された「Resolution」(解像度)にしたがって、画面の「Width」(幅)と「Height」(高さ)が表示されます。なお、このオプションは変更することができません。

■ ボタンプロパティ

「Button Properties」(ボタンプロパティ)では、ボタンの外観、および関連アクションを実行する前に表示される確認メッセージと進捗メッセージを設定できるオプションが提供されています。



- ◆ **Mode**(モード) - ドロップダウンメニューを使って、次のボタンの種類から選択してください。
 - **Normal**(通常) - この種類のボタンは、押しても表示が変わりません。
 - **Toggle**(トグル) - 2種類のイメージ/色を切り替えて、状態を表すボタン用のオプションです。このオプションを選択した場合、「**Button Action**」(ボタンアクション) (p.139 参照) のコマンドリストが分割して表示されますので、ボタンに対して ON になっている場合と OFF

になっている場合とで、2 種類のコマンドを割り当てることができます。

- ☆ **Press and Release**(押し離す) - ボタンが押された場合と指を離した場合に、2 種類のイメージ/色を切り替えて、状態を表すボタン用のオプションです。このオプションを選択した場合、「**Button Action**」(ボタンアクション) (p.139 参照) のコマンドリストが分割して表示されますので、ボタンを押した場合とボタンから指を離した場合とで、2 種類のコマンドを割り当てることができます。
- ☆ **Long Press**(長押し) - ボタンを長押しした場合に、2 種類のイメージ/色を切り替えて、状態を表すボタン用のオプションです。この種類のボタンは、押下されている限り、特定の時間間隔でデバイスに対してコマンドを継続的に送信し、ボタンから指が離れたことを検知するとコマンドの送信を停止します。
- ☆ 状態に応じてボタンのイメージや色を設定する場合は、「**Normal**」(通常時)および「**Pressed**」(押下時)のオプションを使用してください。

◆ **Apperance**(外観) - このタブを使うと、ボタンの外観を設定します。

注意: この設定は、すべてのボタンモードに適用されます。しかしながら、このタブは、「**Normal**」(通常)および「**Toggle**」(トグル)の各ボタンが別の設定を行うためにのみ存在するものです。

- **Name**(名前) - (オプション)ボタンで使用したいテキストを入力してください(または、ビューワ画面でボタンをダブルクリックしてください)。
- **Font**(フォント) - ドロップダウンメニューからフォントの種類を選択してください。
 - ☆ **Color**(色) - テキストの色をドロップダウンメニューから選択して変更してください。
 - ☆ **Size**(サイズ) - ラベルで使用するテキストのサイズを数値(1~200)で入力してください。
 - ☆ **Format**(フォーマット) - テキストの書式(太字、斜体、下線)を変更してください。
 - ☆ **Alignment**(整列) - ボックスをクリックすると、ラベルボックスの横方向(右・中央・左)および縦方向(上・中央・下)におけるテキストの整列方法を選択します。
- **Style**(スタイル) - ドロップダウンメニューからスタイルの種類を選択してください。
 - ☆ **Normal**(通常時) - この項目を選択すると、インポートしたイメージを、ボタンの標準的な背景として使用します。ボタンが押された場合に使用するイメージをインポートする場合は「**Pressed**」(押下時)をクリックしてください。
 - ☆ **Color**(色) - 「**Normal**」(通常時)および「**Pressed**」(押下時)のオプションでボタンの

色を選択する場合は、ドロップダウンメニューから選択して変更してください。

☆ **Transparency**(透明度) - ボタンの透明度を設定する場合は、透明度を数値(0～100)で入力するか、スライドバーをドラッグしてください。

➤ **Send Command Every**(コマンド送信間隔 ※長押しモードのボタンのみ) - ボタン押下時に、デバイスに対してコマンドを繰り返し送信する時間間隔を、ドロップダウンメニューから選択してください。

➤ **Position and Size**(位置とサイズ) - XとYに入力された値は、ラベルを配置する位置の座標になります。また、「Width」(幅)と「Height」(高さ)はラベルのサイズになります。「Reset Image Size」(イメージサイズのリセット)をクリックすると、ボタンサイズをリセットします。

➤ **Restrict access to this button on ATEN Control System App with a password**(パスワードで、このボタンへのアクセスを ATEN コントロールシステムアプリで制限する): 選択されたボタンがビューワでタップされた場合にパスワードを要求することで、このボタンの使用に制限をかけます。この機能を有効にするには、この項目にチェックを入れて、下にあるテキストボックスにパスワードを入力してください。

注意: この機能は、「Normal」(通常)および「Toggle」(トグル)の各モードのボタンでのみサポートされています。

◆ **Dialog**(ダイアログ) - このタブを使うと、ボタン押下時にビューワに表示する確認メッセージを設定します。

注意: この設定は、「Normal」(通常)および「Toggle」(トグル)の各ボタンでのみ利用可能です。

➤ **Confirm the associated action with the following message when the button is pressed**(ボタン押下時に次のメッセージで関連アクションの確認を行う): この項目にチェックを入れると、この機能を有効にします。

➤ **Action**(アクション) - 確認メッセージを表示するボタンアクション(Toggle ON または Toggle OFF)を選択します。

➤ **Content drop-down list**(コンテンツ・ドロップダウンリスト) - 次からカスタマイズを行う項目を選択してください。

☆ **Background**(背景) - 確認メッセージの文言をカスタマイズします。「Name」(名前)欄にメッセージを入力してください。また、必要に応じて、フォントやスタイルも変更してください。

- ☆ **OK** - 関連アクションを実行した際にボタンに表示する文言をカスタマイズします。「Name」(名前)欄に文言を入力してください。また、必要に応じて、フォントやスタイルも変更してください。
- ☆ **Cancel**(キャンセル) - 関連アクションをキャンセルした際にボタンに表示する文言をカスタマイズします。「Name」(名前)欄に文言を入力してください。また、必要に応じて、フォントやスタイルも変更してください。

- ◆ **Message**(メッセージ) - このタブを使うと、関連アクションの実行時に表示する進捗メッセージを設定します。

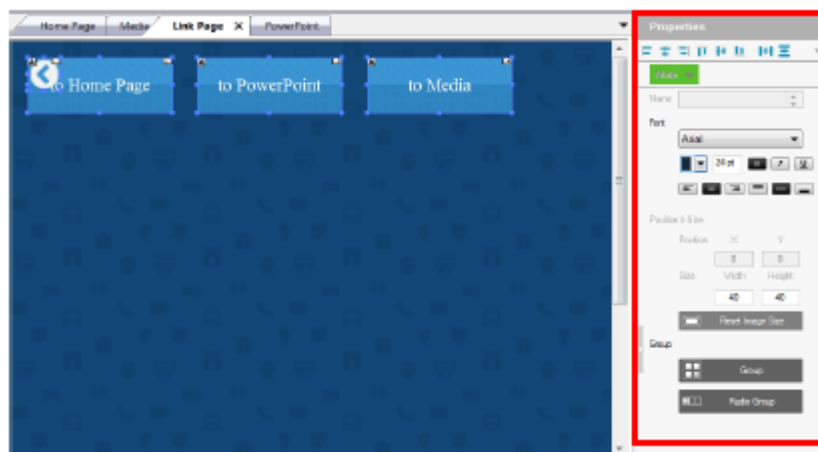
注意: この設定は、「Normal」(通常)および「Toggle」(トグル)の各ボタンでのみ利用可能です。

- **Confirm the associated action with the following message when the button is pressed**(ボタン押下時に次のメッセージで関連アクションの確認を行う):この項目にチェックを入れると、この機能を有効にします。
- **Action**(アクション) - 進捗メッセージを表示するボタンアクション(**Toggle ON** または **Toggle OFF**)を選択します。
- **Content drop-down list**(コンテンツ・ドロップダウンリスト) - 次からカスタマイズを行う項目を選択してください。
 - ☆ **Background**(背景) - 進捗メッセージの文言をカスタマイズします。「Name」(名前)欄にメッセージを入力してください。また、必要に応じて、フォントやスタイルも変更してください。
 - ☆ **Progress Bar**(プログレスバー) - 表示時間間隔を秒単位で設定してください。また、進捗を表示するプログレスバーのフォントや色の設定も行ってください。

■グループプロパティ

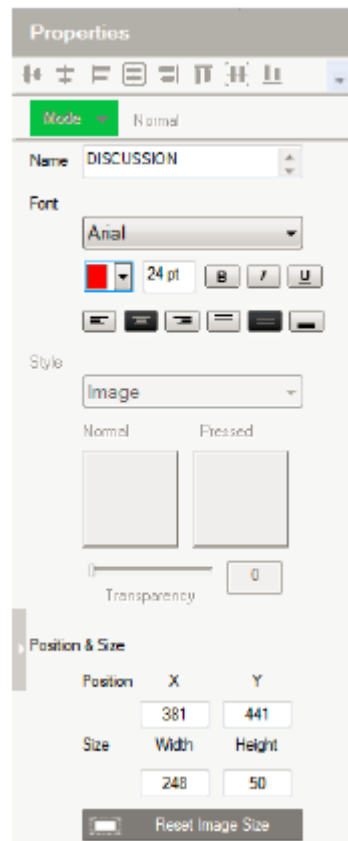
複数の制御コンポーネント(ボタン、スライドバーなど)のプロパティを一括で管理することができます。コンポーネントのグループに含まれている要素に応じて、異なるプロパティの設定画面が表示されます。マウスをドラッグして、画面からコンポーネントを選択すると、設定用に表示されているプロパティが「Properties」(プロパティ)列に表示されます。

例えば、複数のボタンのテキストを一括で管理したい場合は、これらのボタンを選択してドラッグすると、下図のようにプロパティの設定を行うことができます。



■ラベルプロパティ

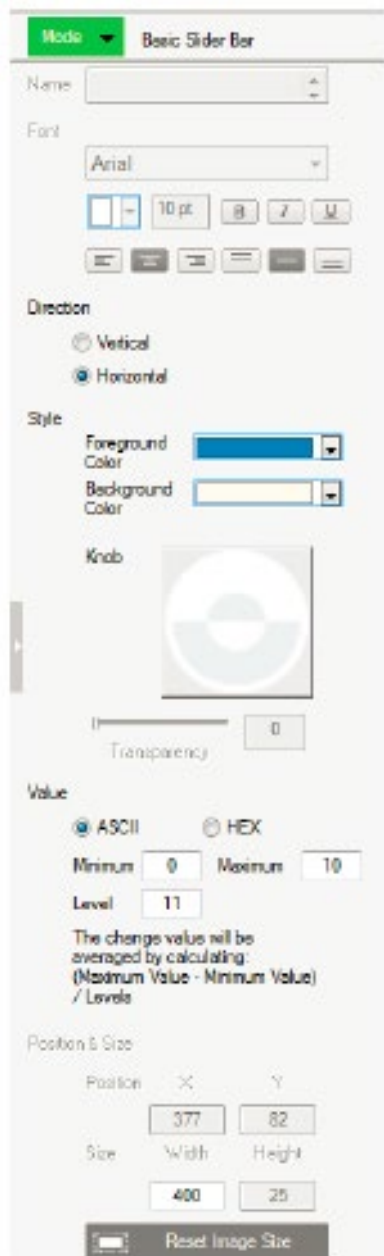
「Label Properties」(ラベルプロパティ)では、ラベルのテキストと書式を変更するオプションが提供されています。



- ◆ **Name**(名前) - ラベルに使用するテキストを入力してください。または、「Edit」(編集)画面にあるラベルを2回に分けてゆっくりとクリックすることでも、テキストの編集が可能です。
- ◆ **Font**(フォント) - ドロップダウンメニューからフォントの種類を選択してください。
 - **Color**(色) - テキストの色をドロップダウンメニューから選択して変更してください。
 - **Size**(サイズ) - ラベルで使用するテキストのサイズを数値(1~200)で入力してください。
 - **Format**(フォーマット) - テキストの書式(太字、斜体、下線)を変更してください。
 - **Alignment**(整列) - ボックスをクリックすると、ラベルボックスの横方向(右・中央・左)および縦方向(上・中央・下)におけるテキストの整列方法を選択します。
- ◆ **Position and Size**(位置とサイズ) - XとYに入力された値は、ラベルを配置する位置の座標になります。「Width」(幅)と「Height」(高さ)はラベルのサイズになります。

■スライダーバーのプロパティ

「Slider Bar」(スライダーバー)プロパティでは、スライダーバーの設定を行うオプションが提供されています。ビューワ画面を右クリックしてスライダーバーを選択すると、バーを追加することができます。スライダーバーは、デバイスの制御、別ページへのリンク、マクロの実行を行うことができます。スライダーバープロパティについては、次のページで説明します。



- ◆ **Mode**(モード) - ドロップダウンメニューを使ってボタンの種類を選択します。
 - 「Basic Slider Bar」(基本スライダーバー)を選択した場合は、スライダーバーにおける範

囲とレベルを計算する最小値と最大値を入力してください。そうしたら、基本スライダーバーのアクションを設定するコマンドを追加してください(p.147「Slider Value (スライダーの値)」参照)。また、「Value」(値)にあるオプションを選択して、スライダーバーの範囲を定義してください。

- ✧ ASCII / HEX - スライダーバーの値に対するフォーマットをラジオボタンで選択します。
- ✧ Minimum (最小) - バーの最小レベルを入力します。
- ✧ Maximum (最大) - バーの最大レベルを入力します。
- ✧ Level (レベル) - スライダーバーのレベル数を表します。各レベルの値は次の公式で算出することができます:
$$\text{最大値} - \text{最小値} / \text{レベル} = \text{レベルごとの値}$$
レベルは入力された最小値および最大値に基づいて自動的に計算されます。
- 「Advanced Slider Bar」(詳細スライダーバー)を選択した場合は、レベル数を設定して、バーにおける各レベルに対するコマンドを追加してください(p.147「Level (レベル)」を参照)。そうしたら、「Value」(値)にあるオプションを選択して、スライダーバーの範囲を定義してください。
 - ✧ Level (レベル) - スライダーバーのレベル数を表します。各レベルに対して、**スライダーバーのアクション** - コマンドリストで、個別のコマンドを追加する必要があります(p.147「Level (レベル)」を参照)。
- ◆ **Direction** (方向) - スライダーバーの方向を設定します。「Vertical」(垂直)と「Horizon」(水平)のオプションがあります。
- ◆ **Style** (スタイル) - スライダーバーの文字の色と背景の色をドロップダウンメニューから選択します。
- ◆ **Value** (値)
 - String format (文字列フォーマット) - 管理デバイスの文字列フォーマットを **ASCII** または **HEX** に指定します。
 - **Minimum** (最小) - スライダーバーの最小レベルを入力します。
 - **Maximum** (最大) - スライダーバーの最大レベルを入力します。
 - **Level** (レベル) - スライダーバーのレベルの合計数を設定します。
- ◆ **Position and Size** (位置とサイズ) - バーの設定(垂直または水平)に応じて、「Width」(幅)と「Height」(高さ)のボックスを使って、スライダーバーのサイズを変更する値を入力してください。

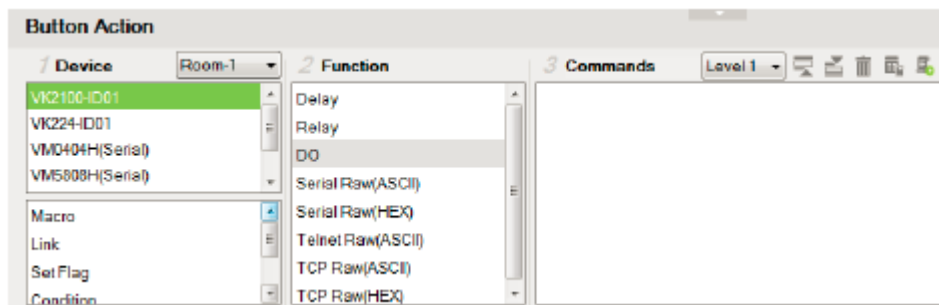
■ PowerPoint 操作テンプレートとメディア操作テンプレートのプロパティ

PowerPoint 操作テンプレートとメディア操作テンプレートをクリックすると、テンプレートの位置、サイズ、およびこれを操作する PC を設定することができます。

The screenshot shows a 'Properties' panel with various settings for a template. At the top, there's a 'Name' field and a 'Font' dropdown set to 'Arial' with a size of '10 pt'. Below that are buttons for bold, italic, and underline. The 'Style' dropdown is set to 'Image'. There are two preview images: 'Normal' and 'Press'. A 'Transparency' slider is set to 0. The 'Position & Size' section has input fields for X (441), Y (15), Width (216), and Height (166), along with a 'Reset Image Size' button. At the bottom, the 'Select Device' dropdown is set to 'ControlAssist'.

- ◆ **Position and Size** (位置とサイズ) - XとYに入力された値は、ラベルを配置する位置の座標になります。「Width」(幅)と「Height」(高さ)はラベルのサイズになります。
- ◆ **Select Device** (デバイスの選択) - PowerPoint ファイルまたはメディアファイルが保存されている PC を、ドロップダウンリストから選択してください。

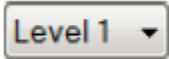
ボタン/スライダバーのアクション



「Button Action」(ボタンアクション)は、ボタンが押された時の挙動を定義するのに使用します。ボタンアクションを定義する場合は、ビュー画面のボタンを選択してください。概要については下表を、また、コマンドの追加方法や、ボタンアクションに対する詳細オプションの追加方法については次のページにある説明を、それぞれご参照ください。

項目	説明
Device (デバイス)	ボタンアクションに対してコマンドを追加するのに選択可能なデバイスおよび詳細オプションを一覧表示します。アイテムが選択されると、コマンドが「Function」(機能)リストに表示されます。上のリストボックスにはハードウェア機器が、下のリストボックスには詳細オプションが、それぞれ一覧表示されます。
Room (部屋)	ビューが制御するデバイスが置かれている部屋を選択してください。KNX システムにおける部屋を選択し、KNX デバイスを表示させるには、このドロップダウンメニューを使用します。ビューは同じ名前の部屋にあるコントロールボックスに対してのみアップロードを行います (p.106「左サイドバー」参照)。「All Rooms」(すべての部屋)を選択すると、ビューはすべての部屋を制御します。この項目を選択した場合、ビュープロフィールを、すべてのコントロールボックスに対してアップロードします。 アクセス可能な部屋は、ボタンプロパティで新しいアクションを設定するのに、どのデバイスが利用可能かを定義します (p.139 参照)。ビューがアクセス可能な部屋として、同じ部屋 (p.107 参照)で一覧表示されたデバイスだけが、ボタンプロパティで使えるものとして一覧表示されます。

(表は次のページに続きます)

項目	説明
Function (機能)	コマンドリストに追加できるコマンドを一覧表示します。デバイスやオプションが選択されると、ここで一覧表示されたアクションをコマンドリストに追加してボタンのアクションを設定することができます。
Commands (コマンド)	ボタンが押された時に開始するコマンドを一覧表示します。デバイスおよび詳細オプションの機能を追加したり、コマンドリストでこれらに関連付けたりすることができます。コマンドは追加された順番に開始されます。コマンドを右クリックすると、次のメニューを選択することができます:「Move Up」(上に移動)、「Move Down」(下に移動)、「Copy」(コピー)、「Paste」(ペースト)、「Delete」(削除)、「Save as Macro」(マクロとして保存)、「Test Tool」(ツールをテスト)。
Toggle ON / Toggle OFF (トグル ON / トグル OFF) または Press / Release (押下/押下終了)	ボタンのモード(p.130 参照)が「Toggle」(トグル)または「Press and Release」(押して離す)に設定されている場合、コマンドリストが 2 つに分かれて、2 つのコマンドを設定することができます。 Toggle ON/Press(トグル ON/押下) - ボタンが最初に押された時、またはボタン押下時に開始するアクションを一覧表示します。 Toggle OFF/Release(トグル OFF/押下終了) - ボタンが 2 回目に押された時(トグル OFF)、またはボタンから指が離れた時(押下終了)に開始するアクションを一覧表示します。ボタンが再び押されると、「Toggle ON/Press(トグル ON/押下)」のアクションが開始され、この動作を交互に繰り返します。
	ビューワ画面で詳細スライダーバーが選択されると、このドロップダウンメニューが表示されます。ドロップダウンメニューにおけるレベル数は、詳細スライダーバーのプロパティで設定されている レベル の値を反映します(p.137 参照)。このドロップダウンメニューを使うと、レベルを選択し、詳細スライダーバーの各レベルに対してコマンドを追加します(詳細については p.147 参照)。

(表は次のページに続きます)

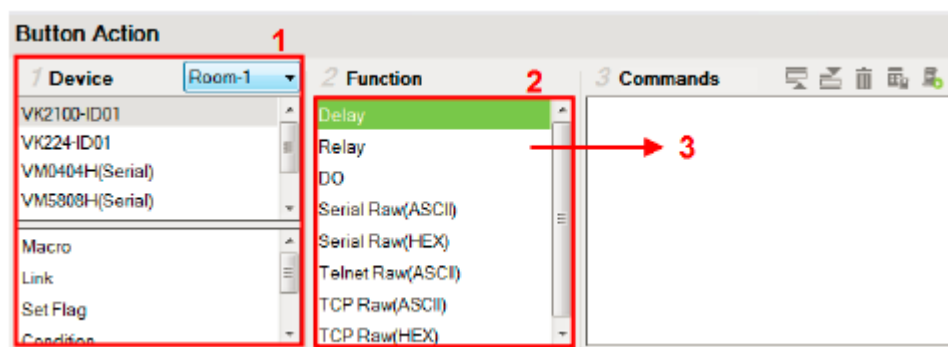
項目	説明
	上矢印のアイコンをクリックすると、コマンドリストでアクションを上に移動させます。また、下矢印のアイコンをクリックすると、コマンドリストでアクションを下に移動させます。
	このアイコンをクリックすると、コマンドリストからアクションを削除します。
	このアイコンをクリックすると、コマンドリストのコマンドをマクロとして保存します。
	コントロールボックスに接続し、コマンドリストのアクション(複数可)をテストします。

コマンドの追加

「Button Action」(ボタンアクション)セクションでは、コマンドを追加し、ボタンが押された時の挙動を定義することができます。ボタンは**デバイス**コマンド(ON、OFF、停止、再生など)を使って、1台または複数のデバイスに対して複数のコマンドを送信する**マクロ**として、あるいは、他のビュー画面への**リンク**として、それぞれ設定することができます。「Advanced Options」(詳細オプション)では、次のページで説明しているように、コマンドに対して条件を追加することができます。

ボタンに対してコマンドを追加するには、下記の手順で操作を行ってください。

1. 「**Device**」(デバイス)から**部屋**を選択したら、オプションを選択してください。
2. 「**Function**」(機能)リストからコマンドを選択してください。
3. 選択したコマンドをダブルクリックして、**コマンド**リストに追加してください。



「**Function**」(機能)リストに一覧表示されるコマンドは、「**Device**」(デバイス)リストで選択されたオプションによって変わります。

4. 各「**Button/Slider Bar Action**」(ボタン/スライダーバーのアクション)セクションがどのように機能するか、また、「Advanced Options」(詳細オプション)にコマンドを追加する方法については、下記を参考にしてください。

◆ **Device**(デバイス) - コマンドリストに対してコマンドを追加するのに選択可能なハードウェア機器および詳細オプションが一覧表示されます。コマンドは「**Function**」(機能)リストに表示されます。また、ここに一覧表示されるのは、選択された**部屋**にあるハードウェア機器だけです。コントロールボックスが先に一覧表示され、p.145 における「**Function**」(機能)で説明するように、特別なコマンドを追加することができます。ハードウェア機器のコマンドに加えて、次のオプションを追加することができます。

- **Macro** (マクロ) - 1 台または複数のデバイスに対して、複数のコマンドを送信します。「**Function**」(機能)リストから選択して、マクロコマンドを追加してください。マクロを作成するには、複数のデバイスアクションをコマンドリストに追加し、「**Save as Macro**」(マクロとして保存)アイコン()をクリックするか、「**Library**」(ライブラリー)アイコン(p.163 参照)をクリックして、この機能にアクセスしてください。
- **Link** (リンク) - ボタンをビュー画面に直接移動できるリンクにします。「**Function**」(機能)リストから選択して、画面リンクを追加してください。コマンドリストで画面リンクをダブルクリックすると、別の画面リンクを選択します。

以下に説明するのは、ボタンコマンドに対して条件を追加する機能を提供する「**Advanced Options**」(詳細オプション)です。これらのオプションに関する詳細は、p.147「詳細オプション」を参照してください。

- **Set Variable** (変数の設定) - ビューにおいて 2 つ以上の UI コンポーネント(例: スライダーバーやボタン)によって制御されるデバイス設定用の変数(例: ボリューム)を作成します。デバイス設定が任意のコンポーネント経由で変更されると、この設定は自動的に同期し、すべてのコンポーネントに反映されます。詳細については、p.183「同期変数」を参照してください。
- **Set Flag** (フラグの設定) - コマンドがデバイスの設定を変更した際に、新しいデバイスの状態を表すフラグの値を設定します。このオプションは、コマンドリストにおいて、フラグ(デバイスの状態)を変更するデバイスコマンドの後ろに追加されます。
- **Condition** (条件) - コマンドを開始するのに必要となる条件(1 つ、ないしは複数)を追加します。条件は、変数または戻り値(管理デバイスから送信された設定値)のどちらがベースになっていても構いません。
- ◇ **Variable conditions** (変数の条件) - 特定の変数の値が、特定の条件を満たしている場合、コントローラーがアクション(コマンド)を実行するようにするには、この条件を使用してください。また、お使いのシステムで、すべてのパターンを完全に網羅するためには、「**Variable If**」や「**Variable Else If**」、「**Variable Else**」の条件を使用してください。例えば、スピーカーが最大音量(10dB)になった場合に、ビューに警告メッセージを表示したい場合は、次の操作が必要になります。

す。

- (a) スピーカー音量用の変数を用意してください(p.183 参照)。
- (b) 「**Variable If**」条件を選択してください。
- (c) 条件をダブルクリックして、変数の値に 10 を設定してください。
- (d) 「**Change Label**」(ラベルの変更)コマンドをドラッグして、手順(a)で選択した条件の下で入れ子にしてください。
- (e) 「**Change Label**」(ラベルの変更)コマンドをダブルクリックして、スピーカー音量が 10dB に達したときに表示させたい警告メッセージを入力してください。

- ☆ **Feedback conditions**(戻り値の条件) - 特定の戻り値が、特定の条件を満たしている場合、コントローラーがアクション(コマンド)を実行するようにするには、この条件を使用してください。また、お使いのシステムで、すべてのパターンを完全に網羅するためには、「**Feedback If**」や「**Feedback Else If**」、「**Feedback Else**」の条件を使用してください。

注意: 「Else If」と「Else」の条件は、「If」条件の下で初めて入れ子にすることが出来るものです。したがって、単独で使用することはできません。

- **Change Button State**(ボタンの状態変更) - このボタンが押されると、このコマンドによって別のボタンのイメージが変更されるため、このボタンからコマンドが送出された時に、他の任意のボタンのイメージを変更することができます。このオプションは、コマンドリストの最後に追加されます。また、これが「**Toggle**」(トグル)ボタンに追加されると、トグルの挙動(通常または押下時)によってイメージを切り替えることができます。この場合、「**Change Button State**」(ボタンの状態変更)は、「**Toggle ON**」(トグル ON) および「**Toggle OFF**」(トグル OFF)コマンドリストの最後に追加されます。
- **Change Label**(ラベルの変更) - このオプションは、ラベルのテキストを、手入力されたテキスト、またはデバイスの返送メッセージのテキストへと変更します。「**Manual Change Label**」(手入力変更されたラベル)はコマンドリストの条件を使って、最初または最後に追加することができます。これを条件に追加すると、ラベルはコマンドが開始された時にのみ変更されます。
- **Change Group Button State**(グループボタンの状態変更) - このオプションは、「**Radio Group**」(ラジオグループ) (p.95 参照)で選択されたボタンを変更するコマンドを追加します。ラジオグループを作成すると、「**Change Group Button State**」(グル

ープボタンの状態変更)が選択された時に、この機能が一覧表示されます。ボタンのコマンドリストに対して、このオプションを追加したら、ドロップダウンメニューからラジオグループで目的のボタンを選択してください。

- **Change Slider Bar Level** (スライダーバーレベルの変更) - このオプションは、**スライダーバー**のレベルを変更するコマンドを追加します (p.136 参照)。スライダーバーを作成すると、「Change Slider Bar Level」(スライダーバーレベルの変更)が選択された時に、この機能が一覧表示されます。ボタンのコマンドリストに対して、このオプションを追加したら、ドロップダウンメニューから、変更対象となる**スライダーバー**と**値**を選択してください。

- ◆ **Function** (機能) - コマンドリストに追加できるコマンドが一覧表示されます。「**Device**」(デバイス)でオプションを選択し、「**Function**」(機能)リストのコマンドをダブルクリックまたはドラッグ & ドロップして、**コマンド**リストに追加してください。

「**Set Flag**」(フラグの設定)、「**Condition**」(条件)、「**Change Button State**」(ボタンの状態変更)、または「**Change Label**」(ラベルの変更)のオプションをツリービューリストにドラッグ & ドロップすることで、これらのオプションをコマンドリストのデバイスコマンドに関連付けてください。そうすると、これらが一緒に開始されます (p.147「詳細オプション」参照)。

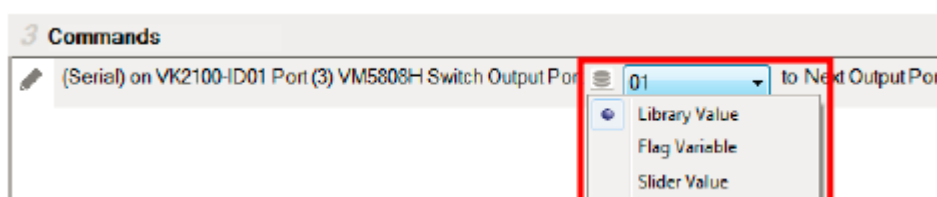
「**Device**」(デバイス)リストからコントロールボックスを選択した場合、下記から特別なアクションを追加することができます。追加や設定を行う場合は、その項目をダブルクリックしてください。

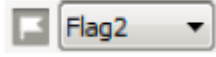
- **Delay** (遅延) - 遅延時間を秒で追加します。0.1～180 の数値を入力してください。
- **Relay** (リレー) - 選択されたコントロールボックスとリレーポートでアクションを開いたり、閉じたり、交互に切り替えたりします。
- **D/O** - 選択されたコントロールボックスとデジタル出力ポートでアクションを開いたり、閉じたり、交互に切り替えたりします。
- **Wake on LAN** - 特定のコンピューター (MAC アドレス) の電源をイーサネット経由で ON にします。
- **Serial Raw (ASCII)** (シリアル・ロー (ASCII)) - ASCII モードでシリアルコマンドを追加します。
- **Serial Raw (HEX)** (シリアル・ロー (HEX)) - HEX モードでシリアルコマンドを追加します。
- **Telnet Raw (ASCII)** (Telnet ロー (ASCII)) - ASCII モードで Telnet コマンドを追加

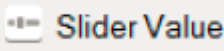
します。

- **TCP Raw (ASCII)** (TCP ロー (ASCII)) - ASCII モードで TCP コマンドを追加します。
- **TCP Raw (HEX)** (TCP ロー (HEX)) - HEX モードで TCP コマンドを追加します。
- **UDP Raw (ASCII)** (UDP ロー (ASCII)) - ASCII モードで UDP コマンドを追加します。
- **UDP Raw (HEX)** (UDP ロー (HEX)) - HEX モードで UDP コマンドを追加します。
- **HTTP** - HTTP コマンドを追加します。
- **HTTPS** - HTTPS コマンドを追加します。

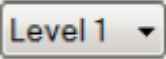
- ◆ **Command (コマンド)** - ボタンまたはスライダーバーが使われた際に実行するコマンドを一覧表示します。ここには、デバイスコマンド (ON、OFF、切替、設定やボリュームの変更など)、およびコマンドを実行するのに必要となる条件 (フラグ、フィードバック) や、デバイスコマンドで実行する変更 (フラグの設定、ボタンの状態変更、ラベルの変更、グループボタンの状態変更、スライダーバーのレベル変更) が含まれます。
デバイスコマンドが複数の値を持つ場合は、その項目をダブルクリックして「**Show Flag Menu**」*を使うことでデバイスの設定を選択することができます。

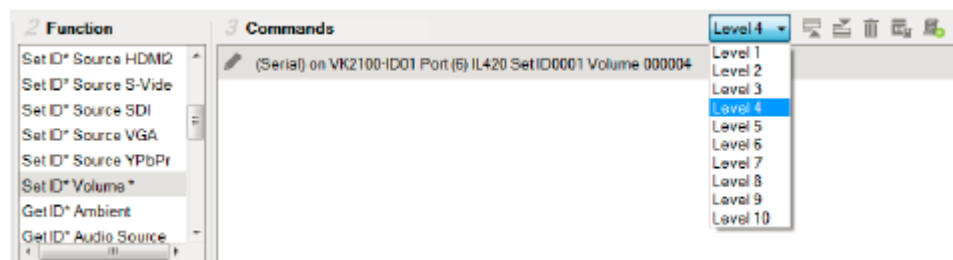


-  **Library Value** (ライブラリー値) - ドロップダウンメニューを使って、コマンドに対するデバイス設定を選択します。このドロップダウンメニューにおける選択値は、コマンド文字列を編集できるデータベースジェネレーター (p.197「新規デバイスの編集/追加」参照) で変更することができます。
-  **Flag Variable** (フラグ変数) - このボタンをクリックすると、複数の値を持つフラグを、アクションに対して選択することができます。このボタンのアクションは、フラグの値に応じて設定内容を選択することができます。フラグの各値は、「Set Flag」(フラグの設定)を使うことで、異なるデバイスに対して設定することが可能になります。その(フラグの設定)ボタンが押されると、フラグの値は特定のデバイスに設定されるため、そのボタンが押された際に、このアクションに対する設定として使用することができます。

-  **Slider Value** (スライダーの値) - このオプションを使うと、基本スライダーバーのコマンドを設定します。値の範囲と変更レベルは、基本スライダーバーに対して設定された最小値および最大値に基づいて自動的に設定されます (p.136 参照)。このオプションは、基本スライダーバーがビューワ画面で選択され、スライダーバーアクションコマンドを追加しようとしているときにのみ表示されます。

注意: 「Show Flag Menu」(フラグメニューの表示)を使うと、各デバイスに対して条件フラグを追加するのではなく、全デバイスに対して、1つのフラグを使用することができます。

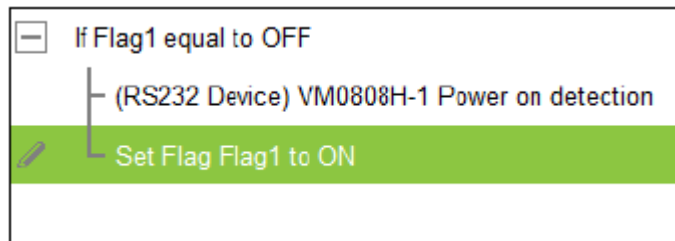
-  **Level** (レベル) - ビューワ画面で詳細スライダーバーが選択されると、コマンドリストの上にレベルのドロップダウンメニューが表示されます。コマンドは、詳細スライダーバーの各レベルに対して追加される必要があります。各レベルを設定するには、ドロップダウンメニューを使ってレベルを選択し、これをコマンドに追加します。



詳細オプション

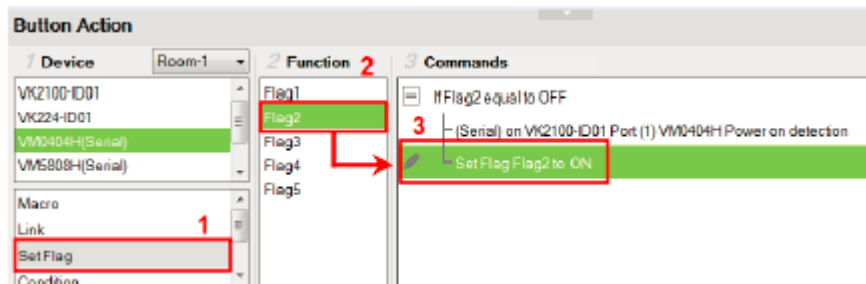
詳細オプションを使うと、コマンドリストにおけるコマンドに条件を含めることができます。「**Set Flag**」(フラグの設定)、「**Condition**」(条件)、「**Change Button State**」(ボタンの状態変更)、または「**Change Label**」(ラベルの変更)の機能をツリービューリストにドラッグ&ドロップすることで、これらをコマンドリストにおけるコマンドに関連付けてください。そうすると、これらが一覧順に開始されます。

- ◆ **Set Flag** (フラグの設定) - コマンドによってデバイスの設定が変更された際にフラグの値も変更する場合は、フラグの設定を追加してください。ここでは、「**Flag**」(フラグ)の値が新しいデバイスの設定 (例: ON または OFF) に一致するように設定します。デバイスアクションの後には必ず「**Set Flag**」(フラグの設定)を「**Condition Flag**」(条件フラグ)に追加するようにしてください。

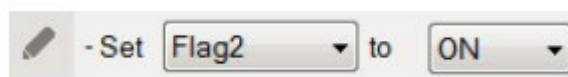


フラグの設定を追加するには、下記の手順で操作してください。

1. 「Device」(デバイス)で「Set Flag」(フラグの設定)を選択してください。
2. 「Function」(機能)リストから「Flag」(フラグ)を選択してください。
3. 「Function」(機能)リストから「Flag」(フラグ)をドラッグ&ドロップして、ツリービューリストで「Condition Flag」(条件フラグ)の最後に追加してください。

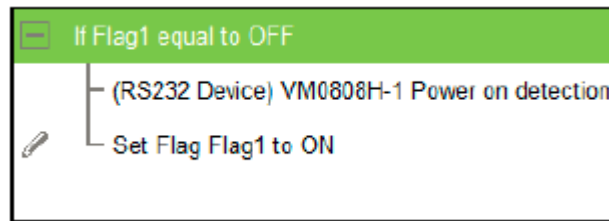


4. コマンドリストにある「Set Flag」(フラグの設定)をダブルクリックしたら、ドロップダウンメニューを使って「Flag」(フラグ)と「Value」(値)を設定してください。



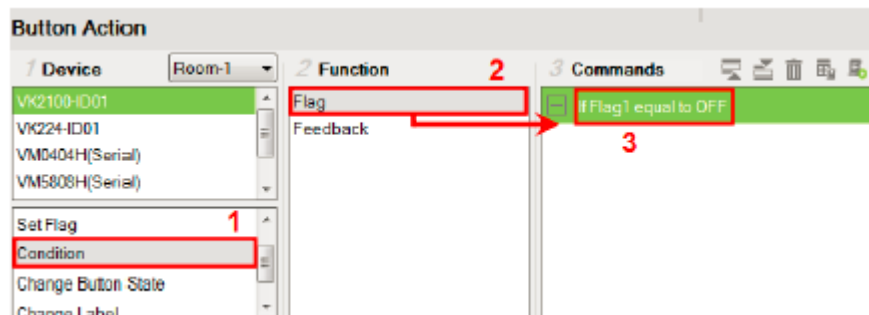
- ◆ **Condition**(条件) - 一覧表示されたコマンドが開始する前に満たさなければならない条件を追加します。コマンドが開始できるようにするには、ボタンが押されたときに、条件の設定値が「Flag」(フラグ)または「Feedback」(フィードバック)の値と一致している必要があります。条件にはフラグとフィードバックの2種類があります。

- **Flag**(フラグ) - フラグの値に基づいて条件を追加します。「フラグ=値」が真であれば、この条件が満たされたことになり、条件に列挙されたコマンドが開始します。「Condition Flag」(条件フラグ)は必ずコマンドリストの一番上に追加し、そのあとに、ツリービューにてデバイスのコマンドをドラッグ&ドロップさせて、「Set Flag」(フラグの設定)を一番下に追加してください。下図はフラグの設定例です。

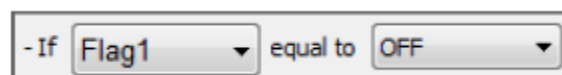


条件フラグを追加するには、下記の手順で操作してください。

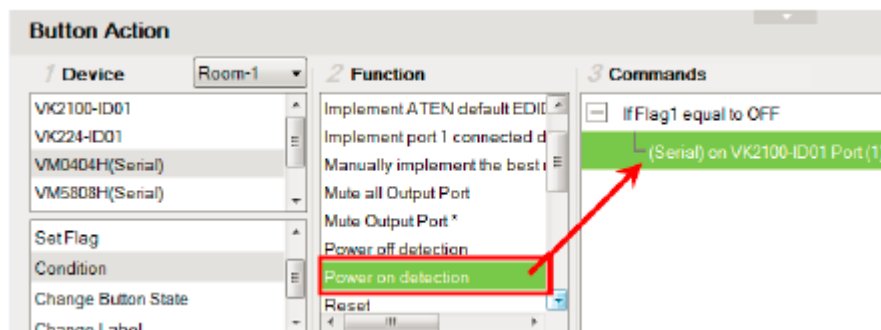
1. 「Device」(デバイス)で「Condition」(条件)をクリックしてください。
2. 「Function」(機能)リストから「Flag」(フラグ)を選択してください。
3. 「Flag」(フラグ)をダブルクリックして「Condition Flag」(条件フラグ)を「Command」(コマンド)リストに追加してください。



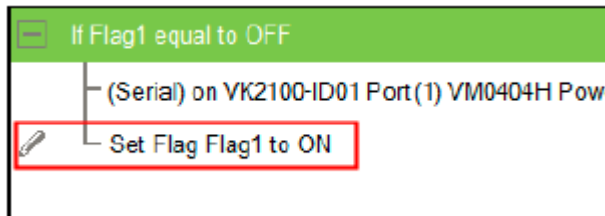
4. 「Command」(コマンド)リストにある「Condition Flag」(条件フラグ)をダブルクリックし、ドロップダウンメニューを使って「Flag」(フラグ)と「Value」(値)を設定してください。



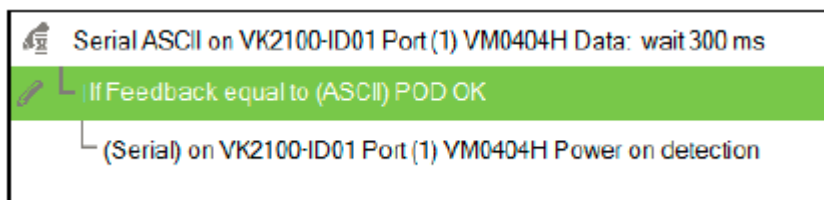
5. 「Function」(機能)リストからデバイスコマンドをドラッグ&ドロップして、これらのコマンドをツリービューリストの「Condition Flag」(条件フラグ)に追加してください。



6. 「Command」(コマンド)リストの最後のデバイスコマンドの後に、「Set Flag」(フラグの設定)を追加してください。



- ◆ **Feedback**(フィードバック) - シリアル/Telnet/TCP デバイスの返送メッセージに基づいて条件を追加します。「**Condition Feedback**」(条件フィードバック)は、必ずシリアル/Telnet/TCP コマンドに追加してください。また、この時、コマンドはツリービューリストにおいて「Condition Feedback」(条件フィードバック)の下に追加するようにしてください。



- ◆ **Receive Time**(受信時間) - フィードバックの条件がデバイスコマンドに追加されると、「Receive Time(受信時間)」のドロップダウンメニューが表示されますので、デバイスからの返送メッセージの受信終了までに待機する時間を設定してください。

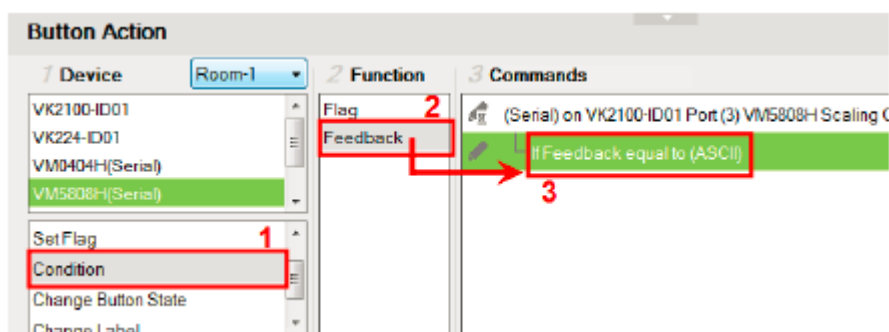
フィードバックには次の3種類があります。

- **Equals**(一致) - シリアル/Telnet/TCP デバイスの返送メッセージで送られたテキストが「**Condition Feedback Equals**」(条件フィードバックは次に一致)で入力されたテキストのすべてに一致した場合、下に列挙されたアクションが開始します。
- **Include**(含む) - シリアル/Telnet/TCP デバイスの返送メッセージで送られたテキストが「**Condition Feedback Includes**」(条件フィードバックは次を含む)で入力されたテキストの一部に一致した場合、下に列挙されたアクションが開始します。
- **Bypass**(バイパス) - このオプションは、シリアル/Telnet/TCP デバイスの返送メッセージにあるテキストと一致しているかどうかを考慮せずに、「**Change Label**」(ラベル変更)のアクションを開始します。ラベルのテキストは、デバイスからの返送メッセージ(すなわちフィードバック結果)に変わります。「**Change Label**」(ラベル変更)を正しく動作させるために

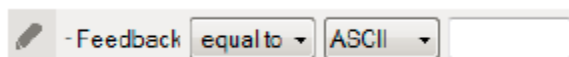
は、これを「**Feedback Bypass**」(フィードバックのバイパス)に追加する必要があります。

「Condition Feedback Equals」(条件フィードバックは次に一致)や「Condition Feedback Includes」(条件フィードバックは次を含む)を追加するには、下記の手順で操作してください。

1. 「**Device**」(デバイス)で「**Condition**」(条件)をクリックしてください。
2. 「**Function**」(機能)リストから「**Feedback**」(フィードバック)を選択してください。
3. 「**Function**」(機能)リストから「**Feedback**」(フィードバック)をドラッグ & ドロップして、これをツリービューリストのシリアル/Telnet/TCP コマンドに追加してください。

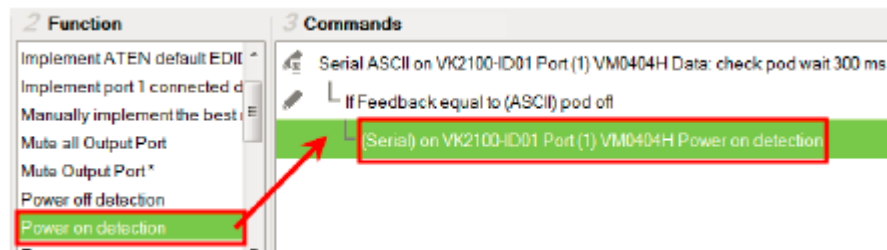


4. 「**Command**」(コマンド)リストで「**If Feedback equals**」(フィードバックは次に一致)をダブルクリックしたら、ドロップダウンメニューを使って「**equal to**」(次に一致)または「**include**」(次を含む)を選択し、**テキスト**を入力してください。



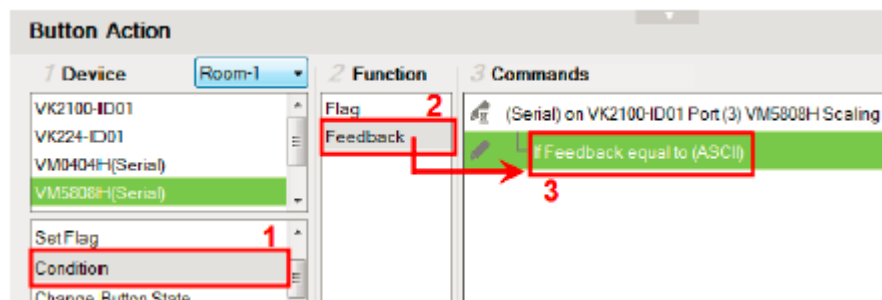
ここで入力したテキストは、指定したコマンドを開始できるように、シリアル/Telnet/TCP デバイスの返送メッセージのテキストに**完全一致**させるか(「equal to」選択時)、そのテキストを**含む**(「include」選択時)ようにしなければなりません。フォーマットはドロップダウンメニューから「**ASCII**」または「**HEX**」のいずれかを選択してください。

5. 「**Function**」(機能)リストからデバイスコマンド(複数選択可)をドラッグ & ドロップして、これらをツリービューリストにおける「**Feedback Equals Condition**」(フィードバックは次の条件に一致)または「**Feedback Include Condition**」(フィードバックは次の条件を含む)に追加してください。

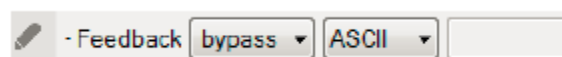


「Change Label」(ラベル変更)で「Feedback Bypass」(フィードバックのバイパス)を追加するには、下記の手順で操作を行ってください。

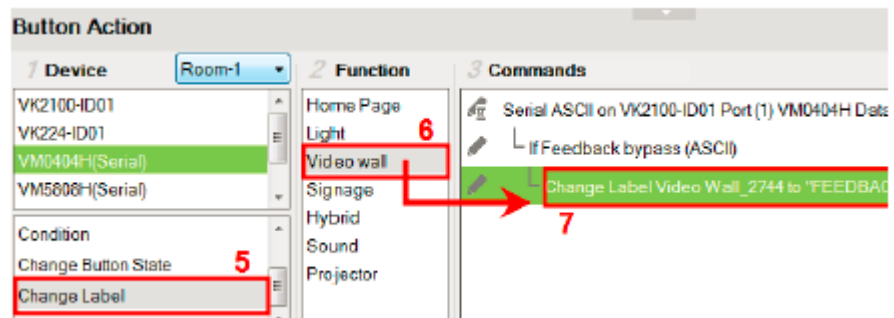
1. 「Device」(デバイス)で「Condition」(条件)をクリックしてください。
2. 「Function」(機能)リストから「Feedback」(フィードバック)を選択してください。
3. 「Function」(機能)リストから「Feedback」(フィードバック)をドラッグ & ドロップして、これをツリービューリストのシリアル/Telnet/TCP コマンドに追加してください。



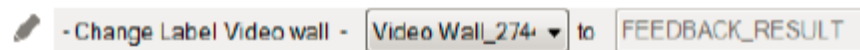
4. 「Command」(コマンド)リストで「If Feedback equals」(フィードバックは次に一致)をダブルクリックしたら、ドロップダウンメニューから「bypass」(バイパス)を選択してください。



5. 「Device」(デバイス)で「Change Label」(ラベル変更)をクリックしてください。
6. 「Function」(機能)リストから、ラベルが配置されている「Viewer Page」(ビューワ画面)を選択してください。
7. 「Function」(機能)リストから、ラベルが配置されている「Viewer Page」(ビューワ画面)をドラッグ & ドロップして、これをツリービューリストの「Feedback Bypass Condition」(フィードバックバイパス条件)に追加してください。



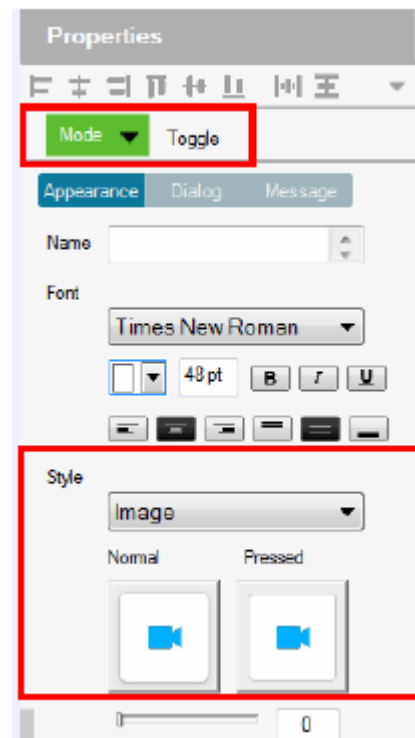
8. 「Command」(コマンド)リストで「**Change Label**」(ラベル変更)をダブルクリックしたら、ドロップダウンメニューから、使用したいラベルを選択してください。ラベルはオブジェクトの右上にある番号によって識別できます。



ラベルのテキストは、シリアル/Telnet/TCP デバイスの返送メッセージにあるフィードバック結果の内容に変わります。

- **Change Button State**(ボタンの状態変更) - このオプションを使用することで、押下時におけるボタンのラベル(外観)を変更することができます。これによって、「Normal」(通常)または「Pressed」(押下時)のステータスに応じて、ボタンイメージが切り替わります。「Change Button State」(ボタンの状態変更)は、コマンドリストの最後に追加され、必ず「Toggle」(トグル)ボタンを指していなければなりません。これを「**Toggle**」(トグルボタン)に追加することで、「Normal」(通常)または「Pressed」(押下時)の挙動に応じてイメージを切り替えることができます。

「Change Button State」(ボタンの状態変更)を追加するには、下記の手順で操作してください。

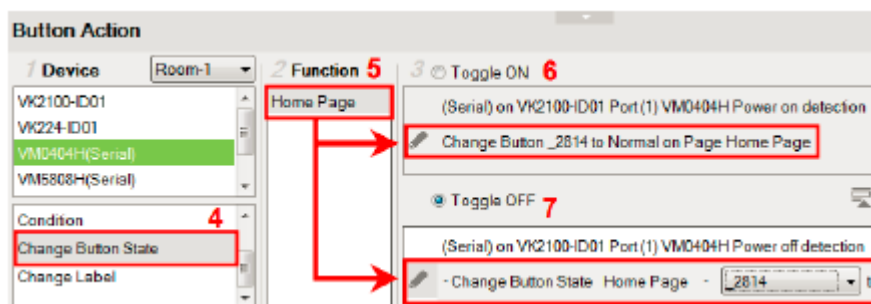


1. 「**Properties**」(プロパティ)で、「**Mode**」(モード)ドロップダウンメニューからボタンのタイプを選択してください。
2. 「**Style**」(スタイル)で、「**Normal**」(通常)および「**Pressed**」(押下時)のボックスをクリックして、ボタンの状態を表すイメージや色*を選択してください。

注意： 「Style」(スタイル)ドロップダウンメニューを使うと、ボタンの状態を表すために、イメージファイルとしてインポートする**イメージ**や、このボタンに適用する**色**フォーマットを選択します。

3. 「Toggle ON」(トグル ON)および「Toggle OFF」(トグル OFF)のアクションをコマンドリストに追加してください。
4. 「**Device**」(デバイス)で、「**Change Button State**」(ボタンの状態変更)を選択してください。
5. 「**Function**」(機能)リストで、**ビューワ画面**を選択してください。
6. 「**Toggle ON**」(トグル ON)のラジオボタンを選択したら、「**Function**」(機能)リストにある**ビューワ画面**をダブルクリックして、これを「Toggle ON」(トグル ON)コマンドリストの最後に追加してください。
7. 「**Toggle OFF**」(トグル OFF)のラジオボタンを選択したら、「**Function**」(機能)リストに

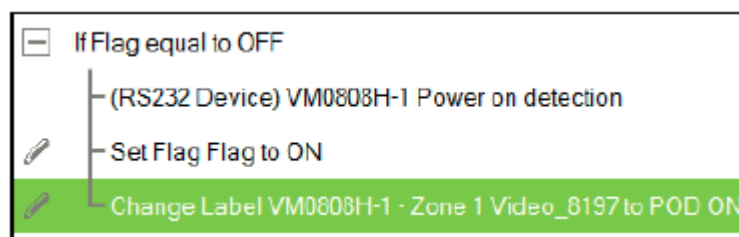
あるビューフ画面をダブルクリックして、これをコマンドリストにある「Toggle OFF」(トグル OFF) アクションの最後に追加してください。



8. 各コマンドリストで「Change Button State」(ボタンの状態変更)をダブルクリックして、「Button」(ボタン)と「Status」(状態) (通常または押下時)を設定してください。

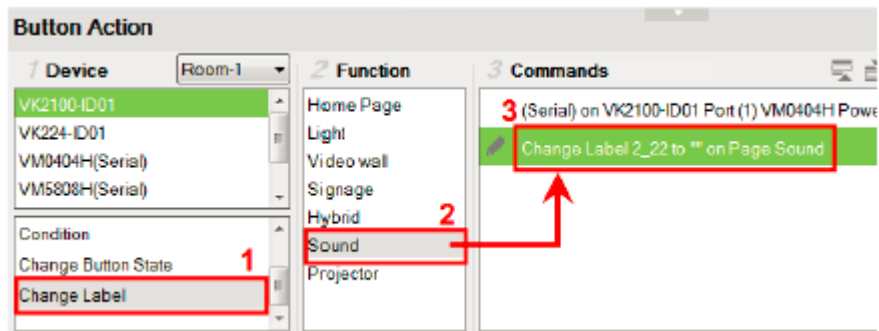


- **Change Label**(ラベルの変更) - このオプションは、ラベルのテキストを、手入力したテキスト、またはシリアル/Telnet/TCP デバイスの返送メッセージ(すなわちフィードバック結果)のテキストへと変更します。シリアル/Telnet デバイスの返送メッセージを使った「Change Label」(ラベルの変更)は、「Feedback Bypass Condition」(フィードバックバイパス条件) (p.150 参照)に追加する必要があります。「Manual Change Label」(ラベルの手動変更)はコマンドリストの任意の場所に追加することができます。この項目を条件に追加した場合、ラベルはコマンドが開始したときにのみ変更されます。

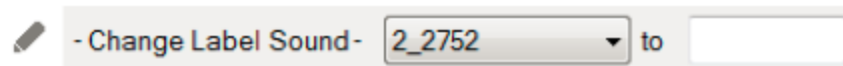


「Manual Change Label」(ラベルの手動変更)を追加するには、下記の手順で操作してください。

1. 「Device」(デバイス)で、「Change Label」(ラベルの変更)を選択してください。
2. 「Function」(機能)リストで、ラベルが配置されているビューフ画面を選択してください。
3. ビューフ画面をダブルクリックするかドラッグ&ドロップして、コマンドリストに「Change Label」(ラベルの変更)を追加してください。



4. 異なるアクションでも同様にラベルが変更されるように、「Change Label」(ラベルの変更)を複数のコマンドリスト、または「Toggle ON/Toggle OFF」(トグル ON/トグル OFF)のコマンドリストに追加してください。
5. コマンドリストにある「Change Label」(ラベルの変更)をダブルクリックしたら、ドロップダウンメニューを使って「Label」(ラベル)を選択し、テキストを入力してください。これは、ボタンが押されたときにラベルに表示されるテキストになります。

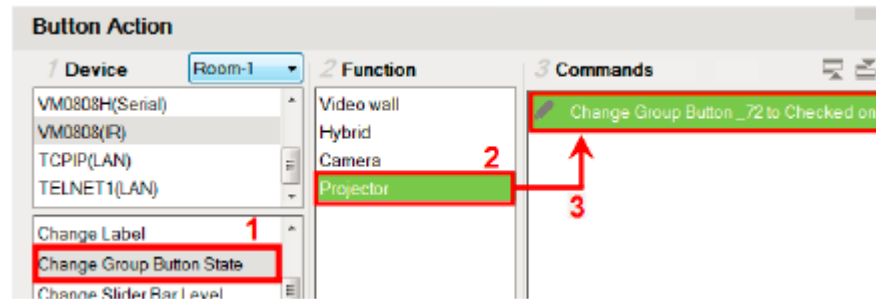


反対のアクション(例えば、ON または OFF)に対しても、同様の方法で「Change Label」(ラベルの変更)を追加してください。

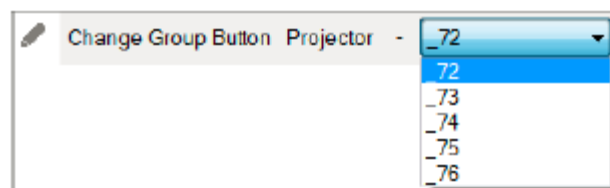
- **Change Group Button State**(グループボタンの状態変更) - このオプションは、「Radio Group」(ラジオグループ)で選択された値を変更するコマンドを追加します。この機能を使う場合は、最初に「Radio Group」(ラジオグループ)を作成してから、ビュー画面に対するボタンを追加してください。そうしたら、「Change Group Button State」(グループボタンの状態変更)を個別で追加するか、デバイスコマンドで追加してください。

「Change Group Button State」(グループボタンの状態変更)を追加するには、下記の手順で操作してください。

1. 「Device」(デバイス)で、「Change Group Button State」(グループボタンの状態変更)を選択してください。
2. 「Function」(機能)リストで、ラジオグループが配置されているビュー画面を選択してください。
3. 「Function」(機能)リストで、ビュー画面をドラッグ&ドロップして、コマンドリストに追加してください。



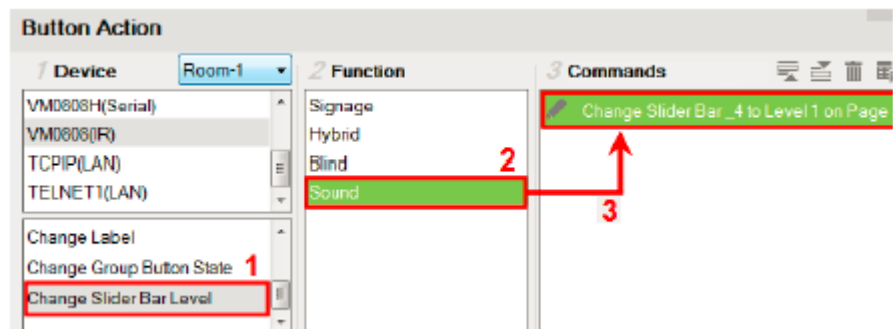
4. コマンドリストにある「Change Group Button State」(グループボタンの状態変更)をダブルクリックしたら、ドロップダウンメニューから**ボタン**を選択してください。



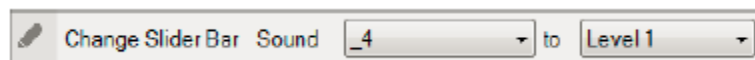
- **Change Slider Bar Level**(スライダーバーのレベル変更) - このオプションは、「Slider Bar」(スライダーバー)のレベルを変更するコマンドを追加します。この機能を使う場合は、最初にビューワ画面で「Slider Bar」(スライダーバー)を作成してください。そうしたら、「Change Slider Bar Level」(スライダーバーのレベル変更)を個別で追加するか、デバイスコマンドで追加してください。

「Change Slider Bar Level」(スライダーバーのレベル変更)を追加するには、下記の手順で操作してください。

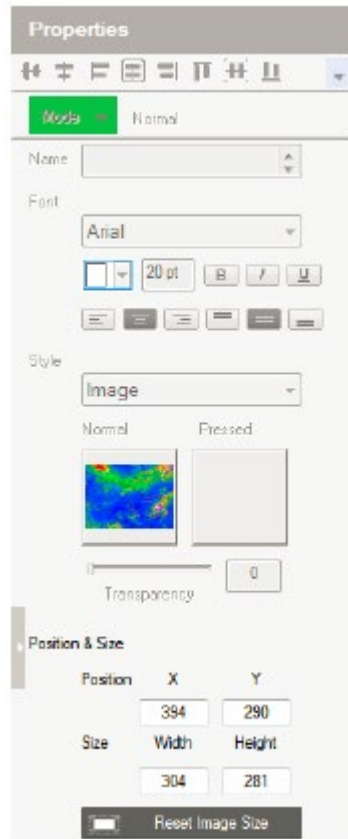
1. 「Device」(デバイス)で、「Change Slider Bar Level」(スライダーバーのレベル変更)を選択してください。
2. 「Function」(機能)リストで、スライダーバーが配置されている**ビューワ画面**を選択してください。
3. 「Function」(機能)リストで、**ビューワ画面**をドラッグ&ドロップして、コマンドリストに追加してください。



4. コマンドリストにある「**Change Slider Bar Level**」(スライダーバーのレベル変更)をダブルクリックしたら、ドロップダウンメニューから**スライダーバー**と**レベル**を選択してください。



■イメージプロパティ



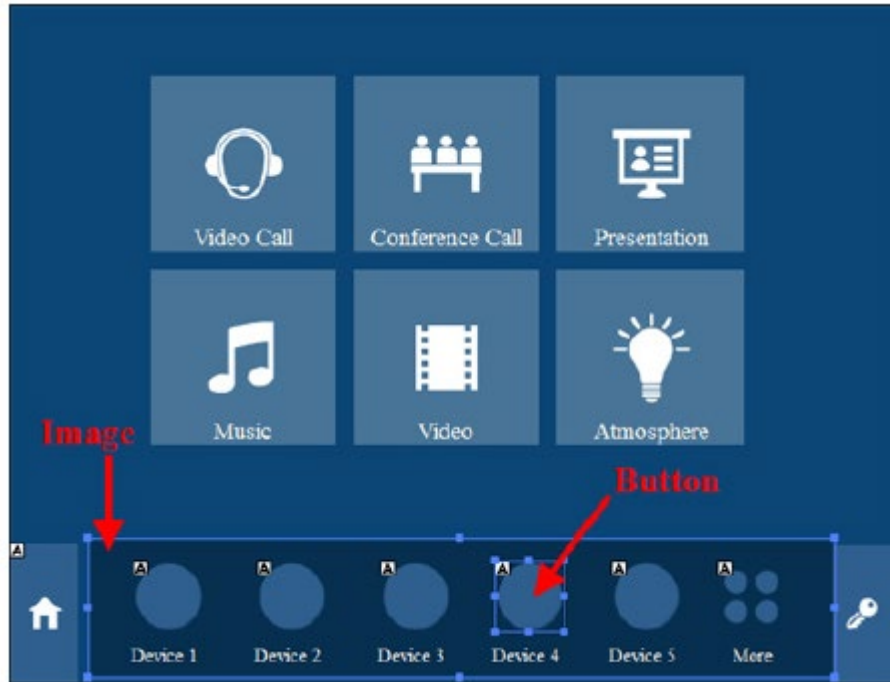
イメージの「**Properties**」(プロパティ)では、画面に対するイメージの変更とインポートができるオプションを提供します。イメージは他のオブジェクトで階層化できますので、ボタンの背景または強調表示に使用することができます(下図参照)。イメージの**グループ化**、**順序変更**、**整列**、**サイズの統一**、**等間隔での配置**は、「Object」(オブジェクト)メニューから操作することができます。

注意: インポートするイメージは、ファイル名が半角英数字のみで設定されていることを確認してください。

- ◆ **Style**(スタイル) - 選択したイメージが表示されます。ボックスの中をクリックすると、画面にイメージ(*.png、*.jpg、*.jpeg、*.bmp)をインポートすることができます。
- ◆ **Transparency**(透明度) - 選択したイメージの透明度を、数値(0～100)で入力するか、スライダーを使って設定してください。
- ◆ **Position and Size**(位置とサイズ) - XとYに入力された値は、イメージを配置する位置の座標になります。「Width」(幅)と「Height」(高さ)はイメージのサイズになります。
- ◆ **Reset Image Size**(イメージサイズのリセット) - イメージサイズをリセットします。

イメージの階層化

イメージは、画面や他のオブジェクトに対する背景または強調表示として配置できるように、他のオブジェクト(ラベルやボタンなど)で階層化することができます。

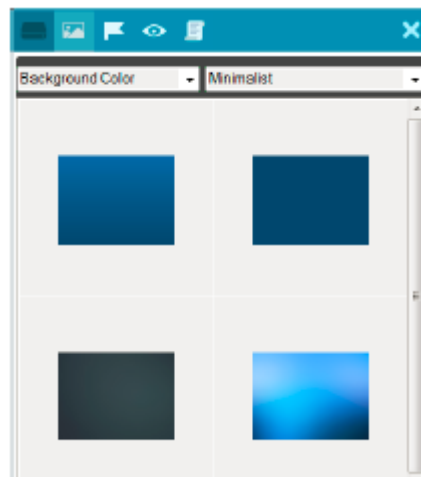




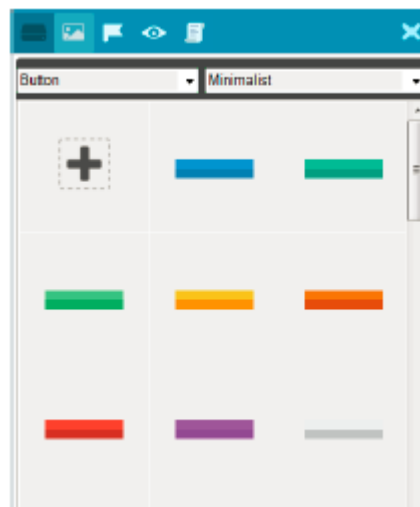
グラフィックライブラリー

プロジェクトバーにあるライブラリーアイコンは、「Graphics」(グラフィックス)タブ、および背景、ボタン、アイコン、およびデバイスインターフェースのデザインに、すぐ使えるドロップダウンメニューが提供されています。デバイスインターフェースは、各種デバイスに対するテンプレートとして使用できる全体的な画面レイアウトを提供します。グラフィックをダブルクリックするか、ドラッグ&ドロップして、これらを画面に追加してください。イメージは、アイコンやボタン用に各種フォーマット(*.png、*.jpg、*.jpeg、*.bmp)でインポートすることができます。

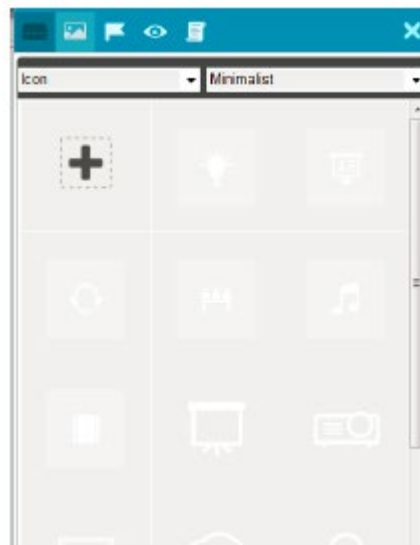
背景色



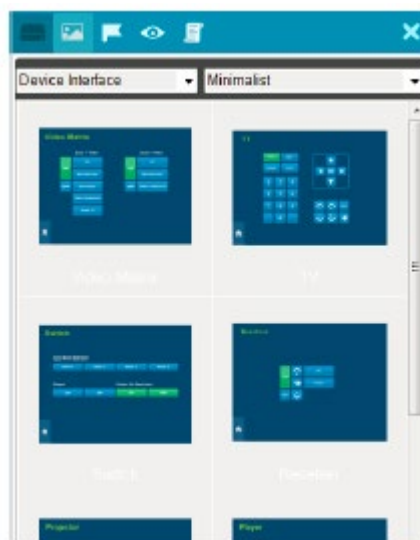
ボタン



アイコン

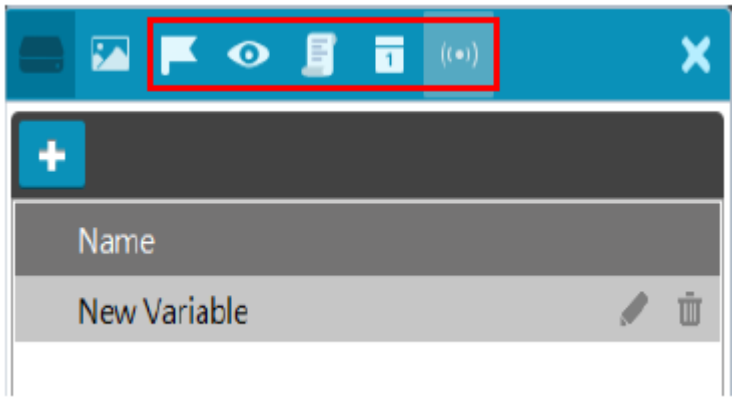


デバイスインターフェース



ライブラリー

プロジェクトバーにおける「Library」(ライブラリー)アイコンは、次の機能を提供しています。各機能の概要は、画面キャプチャの下にある表で説明します。



項目	説明
Flag (フラグ)	フラグは、設定が変更された時に現在の状態を表すパラメーターを含めて作成されます。詳細については、p.164「フラグ」を参照してください。
Monitor (モニター)	アクションを開始するポートにおける、デジタル入力(ドライ接点)およびデジタル入力(VDC)信号に対する条件とフラグを設定することができます。さらに、アクションを開始するデバイスの状態をチェックする「Listen to port」(ポートをリッスン)および「Query port」(ポートに問合せ)のモニターを作成することもできます。詳細については、p.166「モニター」を参照してください。
Macro (マクロ)	1 台または複数のハードウェア機器上で、一連のアクションを実行します。詳細については、p.180「マクロ」を参照してください。
Schedule (スケジュール)	イベントのスケジュールを作成します。詳細については、p.182「イベントスケジュール」を参照してください。

(表は次のページに続きます)

項目	説明
Synced Variables (同期変数)	ビューワにおいて 2 つ以上の UI コンポーネント(例:スライダーバーやボタン)によって制御されるデバイス設定用の変数(例:ボリューム)を作成します。デバイス設定が任意のコンポーネント経由で変更されると、この設定は自動的に同期し、すべてのコンポーネントに反映されます。詳細については、p.183「同期変数」を参照してください。
+	ポップアップメニューを開いて、フラグ、モニター、マクロ、スケジュールまたは変数を作成します。
X	ライブラリーのウィンドウを閉じます。



フラグ

「Flag」(フラグ)は、設定が変更されたり、デバイスで設定変更するよう要求があったりした場合に、制御ボタンがパラメーター付きで作成されるものです。「Flag」(フラグ)は、状態がどうか、また、その値によってどのようなアクションを実行するかを表します。「Flag」(フラグ)は、「Button Properties」(ボタンプロパティ)に対するアクションや、「Condition」(条件)または「Set Flag」(フラグの設定)の値として追加することができます。

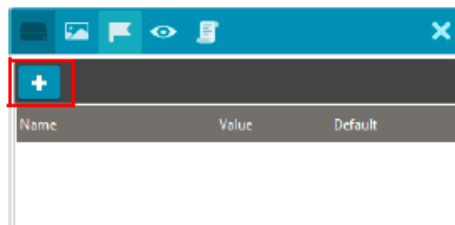
「Condition」(条件)は、「フラグ=値」が真であるときに、関連するアクションを実行するよう、ボタンに指令を出すものです。アクションは条件に関連付けられているため、フラグの値が正しい時にだけ実行されます。同様に、ON コマンドも、現在のフラグの値が OFF であるときにのみ、デバイスに送信されます。

「Set Flag」(設定フラグ)は、デバイスの設定が変更された時に、フラグの値を変更します。したがって、仮に、デバイスが OFF の状態から、アクションでデバイスを ON にするのであれば、『「Set Flag」(フラグの設定)が 1 の時に ON に変更』という設定を追加することで、フラグの値を ON に変更することができます。そうすると、フラグの値はデバイスの状態に一致しますので、これにしたがって、フラグの条件に関連するアクションが実行されます。

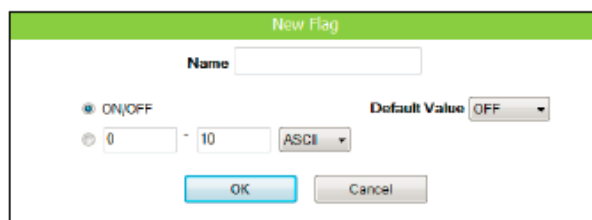
デバイスに対してフラグを作成したら、これらを「Button Properties」(ボタンプロパティ)の「Action」(アクション)で、「Condition」(条件)や「Set Flag」(フラグの設定)として追加してください(p.139「ボタン/スライダーバーのアクション」参照)。

フラグを作成するには、下記の手順で操作してください。

1. 「Flag」(フラグ)を選択したら、 をクリックしてください。



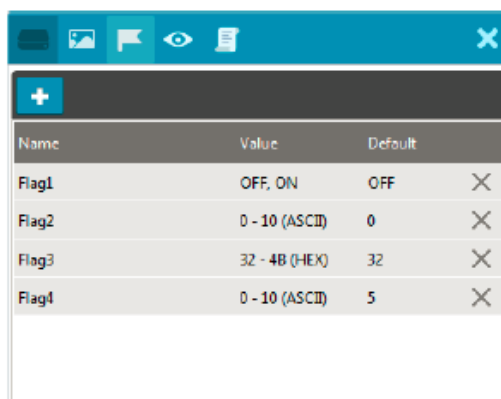
2. 「New Flag」(新しいフラグ)メニューが表示されます。



「Name」(名前)を入力し、ラジオボタンでフラグの値を設定してください。

- ◆ 「ON/OFF」を選択し、ドロップダウンメニューを使って「Default Value」(デフォルト値)の値を選択してください。
- ◆ 2 つのボックスに値の範囲(1~100)を入力し、ドロップダウンメニューを使って「Default Value」(デフォルト値)の値を選択してください。また、フォーマット(ASCII または HEX)をドロップダウンメニューから選択してください。

3. フラグをさらに追加する場合は  をクリックしてください。また、フラグを編集する場合は、そのフラグをダブルクリックしてください。そうすると、下図のようにフラグが一覧に表示されます。



Name	Value	Default	
Flag1	OFF, ON	OFF	×
Flag2	0 - 10 (ASCII)	0	×
Flag3	32 - 4B (HEX)	32	×
Flag4	0 - 10 (ASCII)	5	×

- ◆ **Name** (名前) - 作成されたフラグの名前が一覧表示されます。
- ◆ **Value** (値) - フラグの値または値の範囲が一覧表示されます。
- ◆ **Default** (デフォルト) - フラグのデフォルト値が一覧表示されます。
- ◆  - 一覧からフラグを削除します。

4. ビューワ画面におけるボタンを選択することで、ボタンアクションにおけるコマンドとしてフラグを追加する「**Condition**」(条件)または「**Set Flag**」(フラグの設定)を選択してください(p.139「ボタン/スライダバーのアクション」参照)。



モニター

「Monitor」(モニター)では、**デジタル入力** (VDC) および **デジタル入力** (ドライ接点) の信号、返送メッセージ、およびフラグを使うことによって、ポートにおける条件を設定することができます。条件が満たされると、目的のアクションが実行されます。デジタル入力 (VDC) のハードウェア機器は、DC 1～24V の信号を提供します。また、デジタル (ドライ接点) は、開回路信号および閉回路信号を使用するハードウェア機器です。そして、返送メッセージがあるハードウェア機器は伝送するテキストを用いて「**Listen to port**」(ポートをリッスン) または「**Query port**」(ポートに問合せ) の条件を使うことで、監視することが可能です。これらの信号は、センサーやスイッチでイベントが発生したことを知らせるものです。ここで言うイベントには、デバイスから送られる温度、電力、ドライ接点、センサー、状態変更やメッセージといったものが含まれます。モニターには、「**Condition**」(条件) および「**Action**」(アクション) といった 2 つの部分があります。

条件とアクションの概要

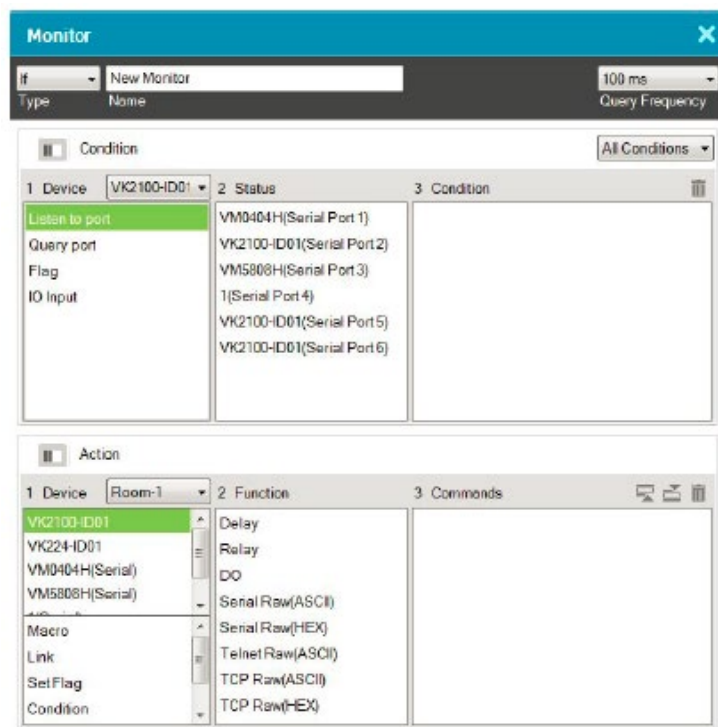
モニターは信号またはメッセージ用のポートを監視します。そして、メッセージや信号を受信したときに条件が満たされていると、アクションを開始します。次から、モニターを作成する際に必要となる手順について説明していきます。

モニターを作成するには、下記の手順で操作してください。

1. 「Device」(デバイス) でモニターの種類を選択してください。
2. 「Status」(状態) で、条件一覧にデバイスポートを追加してください。
3. 「Condition List」(条件一覧) におけるデバイスポートをダブルクリックして、条件の設定を行ってください。
4. 条件が満たされた時に開始されるデバイスアクションを追加してください。



下表は「Monitor」(モニター)画面のオプションに関する説明です。



項目	説明
Type (タイプ)	ドロップダウンメニューから次のいずれかを選択してください。 If - 単一の条件を監視する場合は、このオプションを選択してください。この条件が満たされた時に、アクションを開始します。 Switch - 監視対象となる条件が複数になる場合は、If のタイプではなく、こちらのオプションを選択してください。このタイプは、条件のうち、一つが満たされると、モニターがアクションを開始します。 Bypass - デバイスの返送メッセージの転送を、メッセージをリッスンしている選択変数に対して行ったり、特定のデバイスからの返送メッセージを受信することによって行ったりする場合は、このオプションを選択してください。

(表は次のページに続きます)

項目	説明
Name (名前)	モニターに固有の名前を入力してください。
Query Frequency (クエリーの頻度)	モニターがデバイスの信号をチェックする頻度を、ドロップダウンメニューから選択してください。オプションは 100 ミリ秒～1 秒です。
Condition (条件)	このセクションは、アクションを開始するのに満たされなければならない条件を追加するのに使用します。条件の追加は、下記の手順で行ってください。 1. 「Device」(デバイス)でモニターを選択してください。 2. 「Status」(状態)で、条件一覧に対してデバイスポートを追加してください。 3. 条件一覧でデバイスポートをダブルクリックすることで、条件の設定を行ってください。 条件の種類(If または Switch)は、「Type」(タイプ)ドロップダウンメニューから該当するものを選択してください。この 2 つはいずれもアクションを開始するという点では似ていますが、「Switch」を選択した場合は、「Cases」と呼ばれる複数の比較条件を追加することができます。
Action (アクション)	このセクションでは、モニターの条件が満たされた時に開始するコマンドを作成してください。コマンドの設定方法に関する詳細は p.139 「ボタン/スライダーバーのアクション」を参照してください。
	「Condition」(条件)リストにおける「Device」(デバイス)および「Status」(状態)の各列、また、「Action」(アクション)リストにおける「Device」(デバイス)および「Function」(機能)の各列を表示したり非表示にしたりするには、このアイコンをクリックしてください。このアイコンをクリックすることで、「Condition」(条件)リストでは「Conditions」(条件)行が、また、「Action」(アクション)リストでは「Commands」(コマンド)行が、それぞれ全体的に表示されるようになります。
	上矢印のアイコンをクリックすると、コマンドリストでコマンドを上に移動させます。また、下矢印のアイコンをクリックすると、コマンドリストでコマンドを下に移動させます。
	このアイコンをクリックすると、選択されたコマンドをコマンドリストから削除します。

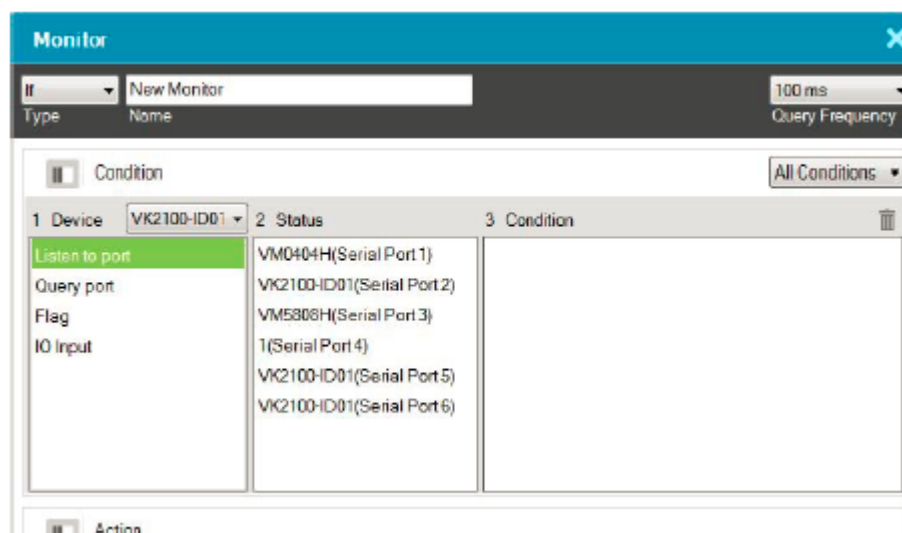
IF モニターの作成

「Action」(アクション)を開始する「Condition」(条件)のあるデバイスポートに対してモニターを作成する場合は、ライブラリーの「Monitor」(モニター)タブから「**+**」をクリックし、下記の手順に従って操作してください。

1. ドロップダウンメニューから「IF」を選択したら、モニターの名前を入力してください。
2. ドロップダウンメニューを使って「Query Frequency」(クエリーの頻度)を設定してください。
3. 「All Conditions/Any Conditions」(すべての条件/任意の条件)ドロップダウンメニューから、下記を選択してください。

これらのオプションは、複数の条件に紐づいているハードウェア機器で発生した複数のイベントが必要とされる高度な設定を行うためのものです。大半のデバイスで、アクションを開始するのに必要とされるのは、「Condition List」(条件一覧)に追加された 1 種類の信号状態だけです。このオプションが必要とされるケースは稀ですので、必要でなければ読み飛ばしても構いません。

- ◆ **All Conditions**(すべての条件):複数の条件を追加します。この場合、これらすべての条件が満たされて、はじめてアクションが開始されます。
- ◆ **Any Conditions**(任意の条件):複数の条件を追加します。この場合、これらの条件のうち 1 つでも満たされていれば、アクションが開始されます。



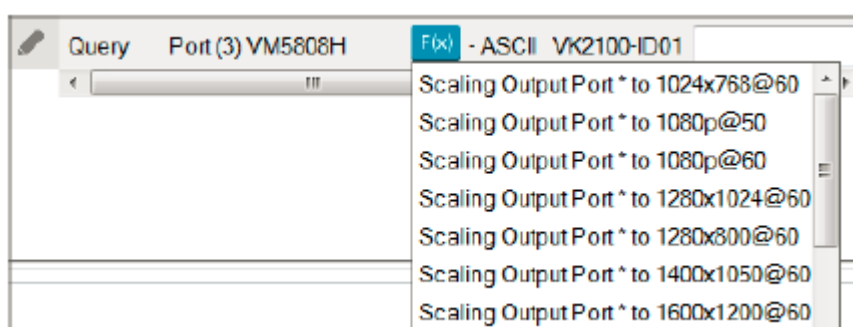
4. 「Device」(デバイス)で、ドロップダウンメニューから「Controller」(コントローラー)を選択したら、モニターのタイプを次から 1 つ選択してください。
 - ◆ **Listen to port**(ポートをリッスン) - デバイスからのメッセージを能動的にリッスンするモニターを作成します。「Status」(状態)で、デバイスポートをダブルクリックして、「Condition」(条件)一覧に追加してください。

- ◆ **Query port** (ポートに問合せ) - デバイスからの返送メッセージを受信するまで、コマンドを送信するモニターを作成します。
- ◆ **Flag** (フラグ) - モニターに対するフラグ条件を作成します。
- ◆ **IO Input** (IO 入力) - デバイスからのトリガーとなる信号を電圧に応じて作成します。

5. 「**Status**」(状態)で、ダブルクリックすると、条件一覧にデバイスポートまたはフラグを追加します。それから、条件一覧にある、そのデバイスポートまたはフラグをダブルクリックすると、条件設定の定義を行います。それぞれについては、この後で説明します。

■ポートをリッスン/ポートに問合せ

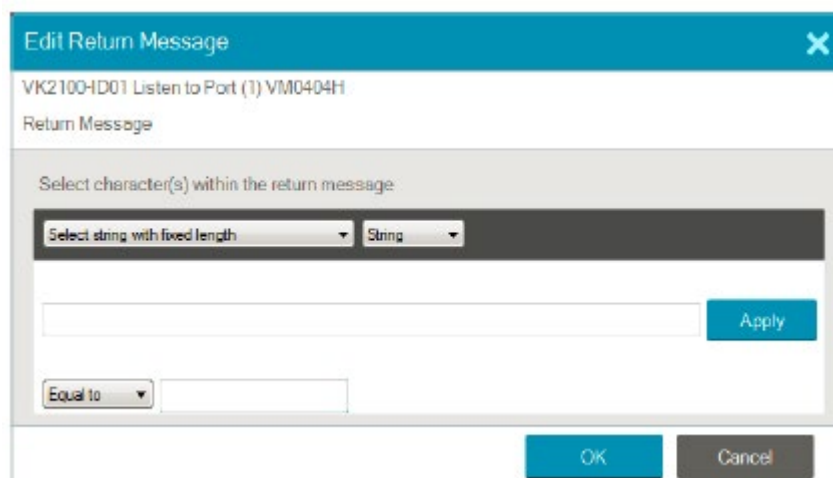
(ポートに問合せのみ)「**F(x)**」をクリックすると、ドロップダウンメニューが表示されますので、送信するデバイスコマンドを選択するか、コマンド文字列を入力するかしたら、「Edit Return Message」(返送メッセージの編集)アイコンをクリックして、次の操作を行ってください。



返送メッセージの編集

(ポートをリッスン/ポートに問合せ共通) 次に、デバイスからの返送メッセージに対するパラメーターを設定してください。このメッセージは、必要とされる条件と同じでなければなりません。

条件一覧でコマンドをダブルクリックしたら、 をクリックして「Edit Return Message」(返送メッセージの編集)ウィンドウを開いてください。



ドロップダウンメニューを使って、シリアルデバイスからの返送メッセージにある文字を表す文字列を入力してください。

◆固定長の文字列を選択



「Select string with fixed length」(固定長の文字列を選択)を使うと、固定されたパラメーターの範囲で設定される文字列を定義します。文字列を入力したら、文字列の先頭を「S」に、文字列の末尾を「E」にそれぞれ設定し、「Apply」(適用)をクリックしてください。返送メッセージはモニターが開始されるように、ドロップダウンメニュー(次のページを参照)の隣にあるテキストボックスで設定された固定文字列に合っていなければなりません。

◆非固定長の文字列を選択



「Select string with a non fixed length」(非固定長の文字列を選択)を使うと、パラメーターが可変の文字列を定義します。文字列を入力したら、文字列の先頭を「S」に、文字列の末尾を「E」にそれぞれ設定し、「Apply」(適用)をクリックしてください。返送メッセージはモニターが開始されるように、ドロップダウンメニュー(次のページを参照)の隣にあるテキストボックスで設定された固定文字列に合っていなければなりません。

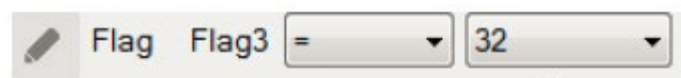
◆ドロップダウンメニュー



上図の項目では、これらの条件がどのようなパターンで開始されるかを、「**Equal to**」(次に一致)、「**Not equal to**」(次に一致しない)、「**Include**」(次を含む)、「**Exclude**」(次を含まない)のいずれかから選択し、「Select string with fixed length」(固定長の文字列を選択)または「Select string with a non fixed length」(非固定長の文字列を選択)が一致しなければならない文字列を入力してください。

■フラグ

モニターに対するフラグ条件を作成します。フォーマット(フラグの値がどのように一致しなければならないのか)と、条件が開始するためのフラグの値を、ドロップダウンメニューを使って設定してください。



■IO 入力

デバイスからのトリガーとなる信号を電圧に応じて作成します。デジタル入力(ドライ接点)またはデジタル入力(VDC)ポートのあるデバイスだけが状態リストに表示されます。「**Status**」(状態)リストにあるデバイスをダブルクリックすると、そのデバイスを「**Condition**」(条件)リストに追加します。また、「**Condition**」(条件)リストにあるコマンドをダブルクリックすると、設定を定義します。



「High」(高い)または「Low」(低い)のステータスは、デバイスの信号が、ポートに対して設定されたしきい値*を上回った、または下回った時に、モニターがアクションを実行する条件となります。

デジタル入力(VDC)

- ◆ High(高い) - 電圧信号が**上限**を上回った時にアクションを実行することを表します。
- ◆ Low(低い) - 電圧信号が**下限**を下回った時にアクションを実行することを表します。

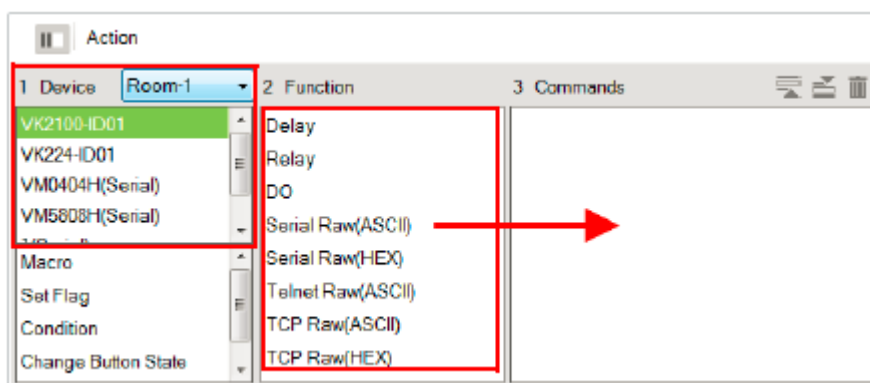
デジタル入力(ドライ接点)

ポートに対して回路が開いているか閉じているかによって、状態が変わります。

- ◆ Open(オープン) - 回路が**開いた**時にアクションを実行することを表します。
- ◆ Closed(クローズ) - 回路が**閉じた**時にアクションを実行することを表します。

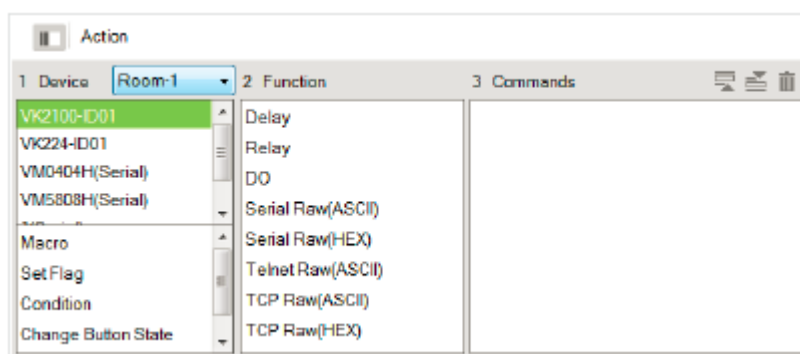
注意: しきい値の上限や下限の設定方法については、**p.111「I/O」**を参照してください。

6. (オプション)「Operator」(オペレーター)オプションを使って、「High」(高い)または「Low」(低い)の追加条件を設定してください(p.170 の手順 4 参照)。
7. 画面下部にある「Action」(アクション)のセクションで、次の手順で説明するように、ハードウェア機器を選択し、「Function」(機能)を「Commands」(コマンド)リストに追加してください。

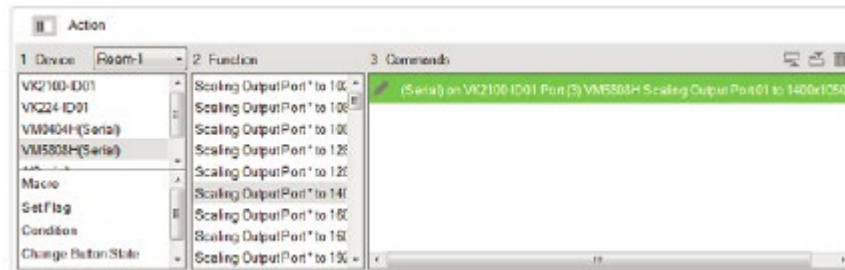


注意: 「Functions」(機能)に関する詳細は、p.139「ボタン/スライダバーのアクション」をご参照ください。

8. まず、「Device」(デバイス)でハードウェアを選択してください。



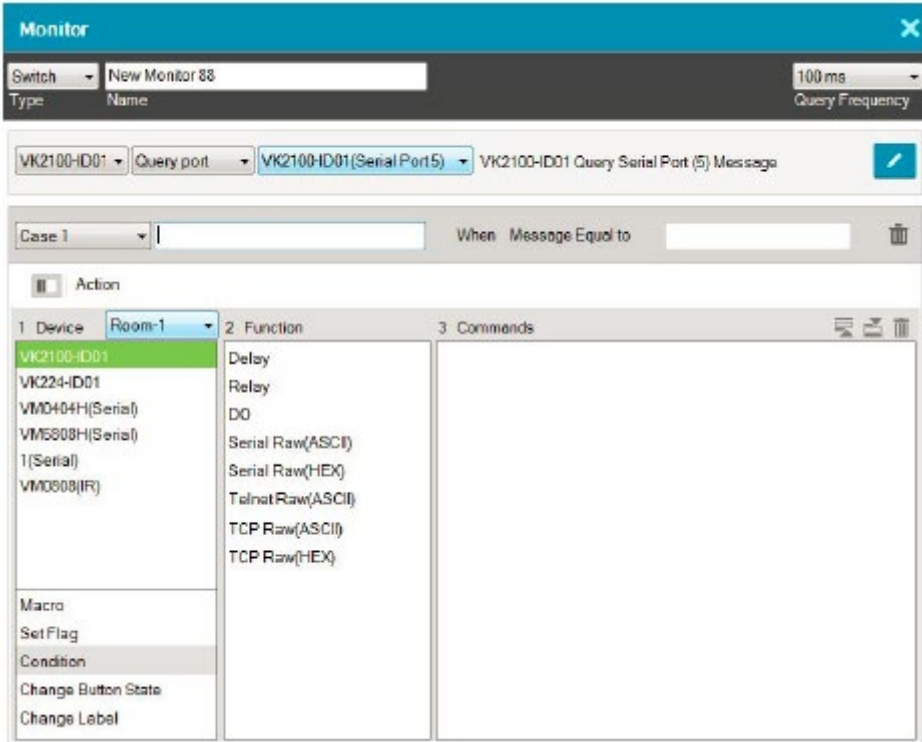
9. 「Function」(機能)一覧から、アクションをダブルクリックして、「Commands」(コマンド)リストに追加してください。このコマンドは、条件が満たされた場合に実行されます。



10. ここで、「Macro」(マクロ)、「Link」(リンク)、「Set Flag」(フラグの設定)、またはモニターの「Condition」(条件)を追加することもできます。
11. 「Commands」(コマンド)リストに機能をすべて追加したら、IF モニターの設定は完了です。

Switch モニターの作成

1. ドロップダウンメニューから「Switch」を選択したら、モニターの名前を入力してください。
2. ドロップダウンメニューを使って「Query Frequency」(クエリーの頻度)を設定してください。
3. オプションを使って、次に説明するように複数の条件比較を作成してください。

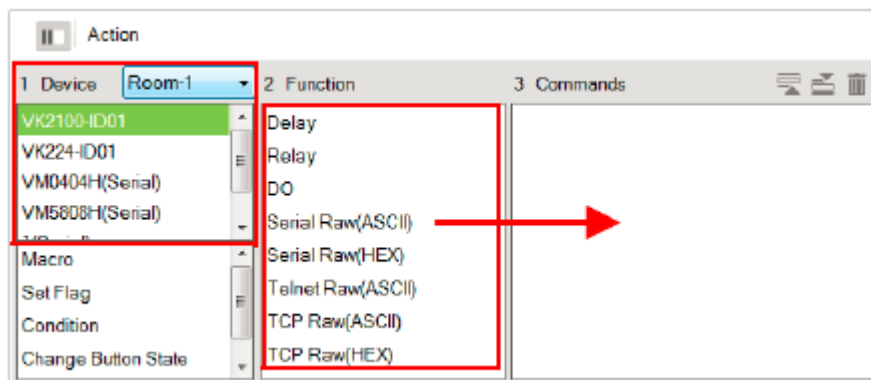


項目	説明
Type (タイプ)	ドロップダウンメニューから次のいずれかを選択してください。 If - 単一の条件比較のモニターの場合は、このオプションを選択してください。 Switch - 複数条件の比較を行う場合は、If のタイプではなく、こちらのオプションを選択してください。
Name (名前)	モニターに固有の名前を入力してください。
Query Frequency (クエリーの頻度)	モニターがデバイスの信号をチェックする頻度を、ドロップダウンメニューから選択してください。オプションは 100 ミリ秒～1 秒です。

(表は次のページに続きます)

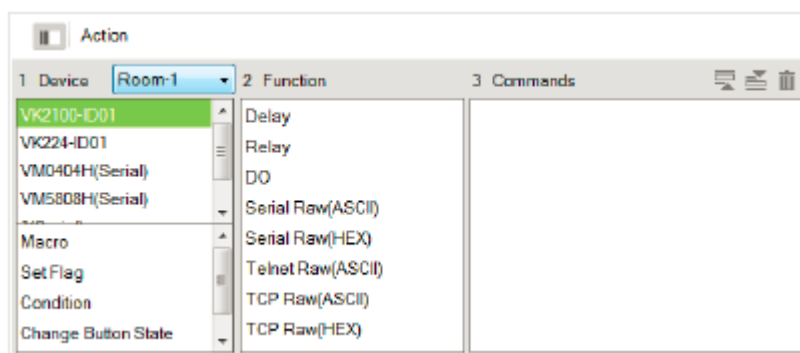
項目	説明
ドロップダウンメニュー	「Type」(タイプ)ドロップダウンメニューの下には、Switch 条件を定義するのに用いる 4 つのドロップダウンメニューがあります。 ◆ Controller(コントローラー) - 最初のドロップダウンメニューです。Switch 条件に対するコントローラーを選択します。 ◆ Listen to port/Query port(ポートをリッスン/ポートに問合せ) - 2 つ目のドロップダウンメニューです。Switch 条件に対する条件の種類を選択します(詳細は p.170 の手順 4 を参照)。 ◆ Serial Device Port(シリアルデバイスポート) - 3 つ目のドロップダウンメニューです。シリアルデバイスを選択して「Edit Return Message」(返送メッセージの編集)を設定します(設定する場合は p.171「返送メッセージの編集」を参照)。 ◆ Case(ケース) - 4 つ目のドロップダウンメニューです。モニターが開始する前に満たされなければならない比較条件に対して「Add More Cases」(さらにケースを追加)を選択することでケースを追加します。左側のテキストボックスにはケースの名前を、右側のテキストボックスには返送メッセージが一致すべき文字列を、それぞれ入力してください。
Action (アクション)	このセクションでは、モニターに対するコマンドを作成してください。コマンドの設定方法に関する詳細は p.139「ボタン/スライダーバーのアクション」を参照してください。
	アクションの一覧に切り替えて、コマンド機能のすべての行を確認したい場合は、このアイコンをクリックしてください。これはトグルボタンですので、再び押すと元に戻ります。
	モニターのウィンドウを終了します。

- 画面下部にある「Action」(セクション)に進んだら、次の手順に示すように、ハードウェア機器を選択して、「Function」(機能)を「Commands」(コマンド)リストに追加してください。

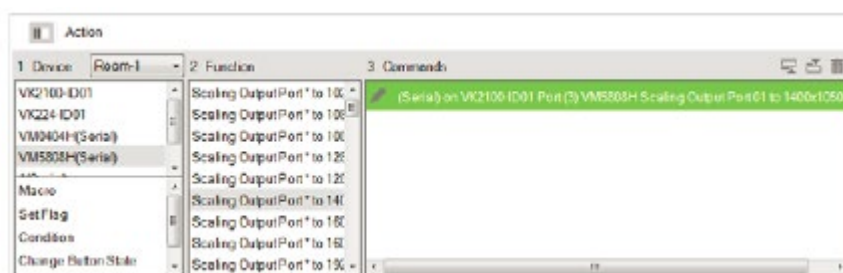


注意: 「Functions」(機能)に関する詳細は、p.139「ボタン/スライダーバーのアクション」をご参照ください。

5. まず、「Device」(デバイス)でハードウェアを選択してください。



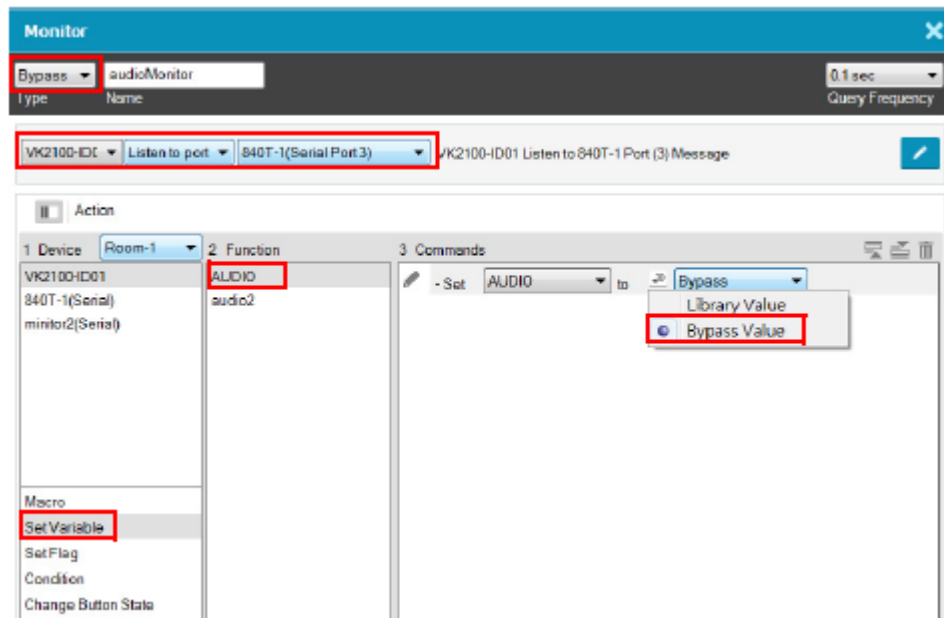
6. 「Function」(機能)一覧から、アクションをダブルクリックして、「Commands」(コマンド)リストに追加してください。このコマンドは、条件が満たされた場合に実行されます。各機能の詳細については、p.142「コマンドの追加」を参照してください。



7. ここで、「Macro」(マクロ)、「Link」(リンク)、「Set Flag」(フラグの設定)、またはモニターの「Condition」(条件)を追加することもできます。
8. 「Commands」(コマンド)リストに機能をすべて追加したら、Switch モニターの設定は完了です。

Bypass モニターの作成

Bypass モニターを作成する場合は、下記の手順に従って操作を行ってください。



1. ドロップダウンメニューから「Bypass」を選択したら、モニターの名前を入力してください。
2. 次の項目を設定してください。
 - a) **Query Frequency** (クエリーの頻度) - モニターがデバイスの信号をチェックする頻度を、ドロップダウンメニューから選択してください。オプションは 100 ミリ秒～1 秒です。
 - b) 2 つ目のドロップダウンメニューで、次のいずれかを選択してください。
 - **Listen to port** (ポートをリッスン) - 特定のデバイスからのメッセージを能動的にリッスンします。
 - **Query port** (ポートに問合せ) - 特定のデバイスで設定が変更されると、このデバイスはコントローラーに対して最新の設定内容を通知するメッセージを送信します。
3. アクションの設定を行ってください。
 - a) 「**Set Variable**」(変数の設定)を選択してください。
 - b) コントローラーが特定のデバイス設定の変更を検出した場合に更新したい変数を、ダブルクリックしてください。
 - c) 変数に対するコマンドをダブルクリックして「**Bypass**」を選択してください。

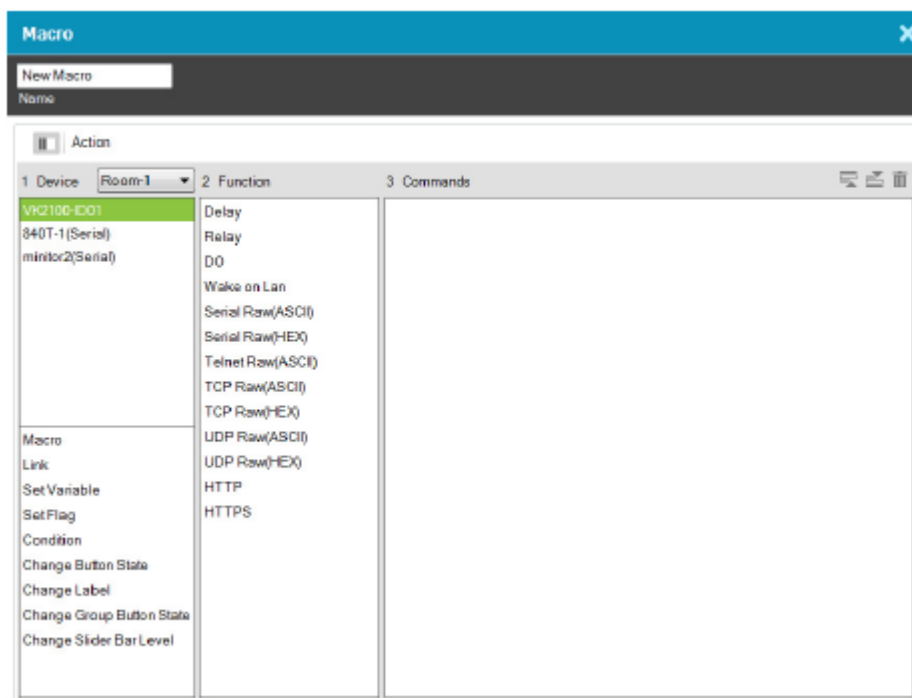




マクロ

「Macro」(マクロ)では、同じハードウェア機器または異なるハードウェア機器間において、一連のアクションを実行できるボタンを作成することができます。この機能を使うと、一つのボタンを操作するだけで、複数のデバイスで同時にアクションを実行することができるため、時間の短縮につながります。例えば、「照明を消す」、「入力機器に電源を入れる」、「ディスプレイに電源を入れる」、「スクリーンを下げる」、「入力機器を再生する」という一連の機能を追加することで、ビデオプレゼンテーションを開始するマクロを作成することができます。マクロにおけるアクションとアクションの間には、遅延時間を設定することもできます。

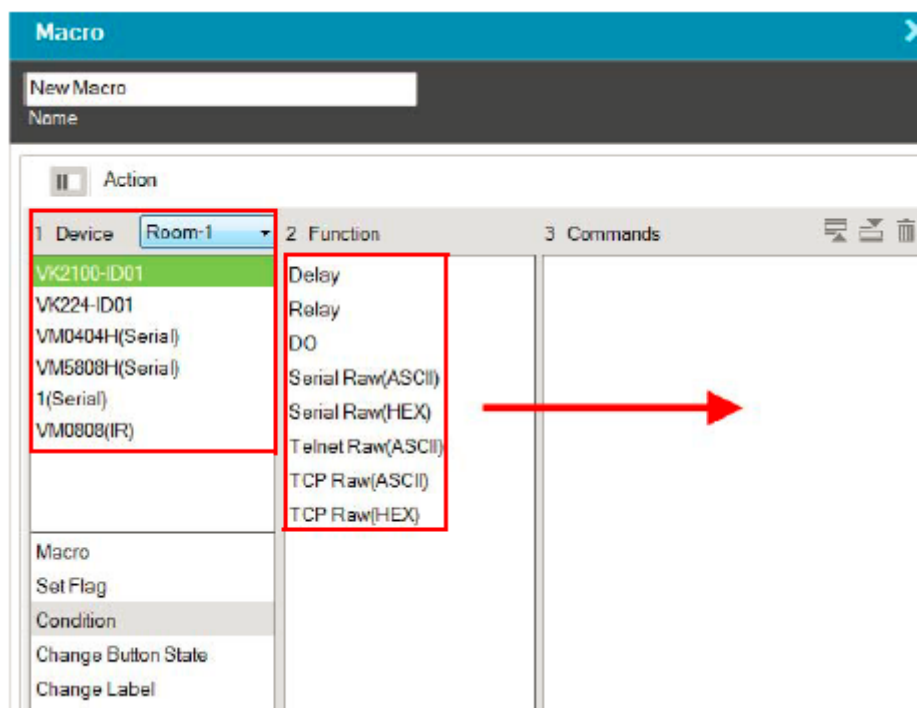
ライブラリーの「Macro」(マクロ)タブから、 をクリックすると、下図のようなウィンドウが表示されます。



マクロを作成するには、下記の手順で操作してください。

1. 「Macro」(マクロ)を選択したら、 をクリックしてください。
2. 「Name」(名前)を入力し、ドロップダウンメニューから「Viewer」(ビューワ)を選択したら、「OK」をクリックしてください。

- 画面下部にある「Action」(アクション)のセクションにある「Device」(デバイス)からハードウェアを選択し、「Function」(機能)を「Commands」(コマンド)リストに追加してください。



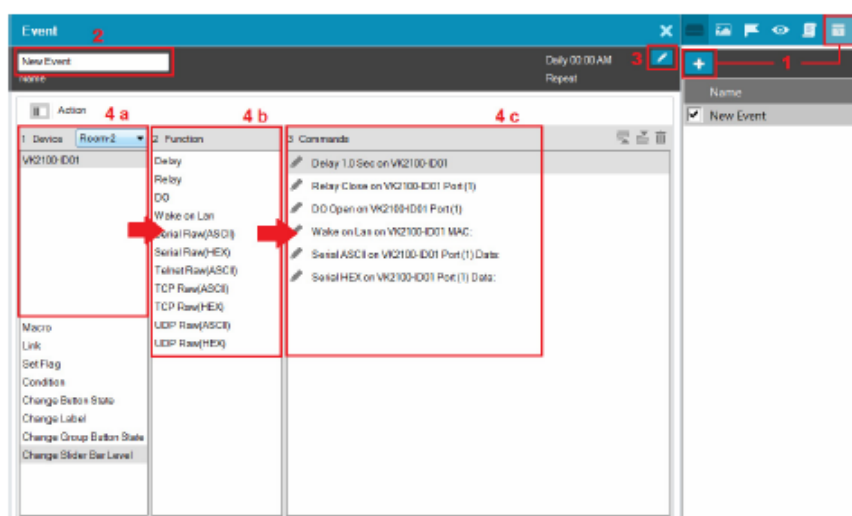
注意: 「Functions」(機能)に関する詳細は、p.139「ボタン/スライダーバーのアクション」をご参照ください。

- すべての機能を「Commands」(コマンド)リストに追加したら、マクロの設定は完成です。
- 「Create Viewer & Design」(ビューワとデザインの作成)で、「Devices」(デバイス)において「Macro」(マクロ)を選択することで、ボタンの作成とマクロの追加を行ってください(詳細については p.142「コマンドの追加」を参照)。

イベントスケジュール

イベントのスケジュールを設定することによって、ATEN コントローラーのような接続済みハードウェア機器を準備し、一つ、ないしは複数のアクションを、繰り返しのスケジュールで実行することができます。

新規イベントを作成するには、下記の手順で操作してください。



1.  をクリックした後で、 をクリックしてください。
2. イベント名を設定してください。
3.  をクリックして、イベントに対して繰り返し実行されるスケジュールを指定してください。
4. イベントアクションを設定してください。
 - a) 「Device」(デバイス)列で、デバイスを選択してください。
 - b) 「Function」(機能)列で、対象となる機能をダブルクリックしてください。そうすると、対応するコマンドが「Commands」(コマンド)列に表示されます。各機能の詳細については、p.142「コマンドの追加」を参照してください。
 - c) 「Commands」(コマンド)列で、各コマンドをダブルクリックして設定を行ってください。
5. オプションで、システム機能を追加してください。詳細については、p.147「詳細オプション」を参照してください。
6. これらのコマンドは一覧での表示順に実行されます。コマンドの実行順序を変更する場合は、 をクリックしてください。

同期変数

これは、1つのデバイス設定を操作するUIコンポーネントが複数ある場合に便利な機能です。ここでは、ビューワでスピーカーの音量を調節するのを例にとって説明します。ビューワには、スライダーバー、最大音量用のボタン、そして、最小音量用のボタンがあるとします。そして、最大音量ボタンをタップした場合に、次のアクションを実行したいと考えています。

- ◆ 最大音量ボタンで、トグル ON 状態を表示する。
- ◆ 最小音量ボタンでも、この設定を同期し、トグル OFF 状態を表示する。
- ◆ スライダーバーでも、この設定を同期し、最大音量に移動。

この自動同期と状態変更を実現するために、同期変数を作成することができます。同期変数とは、デバイス設定(例:)を1箇所に保存する変数のことで、複数のUIコンポーネント(例:スライダーボタン、最大音量ボタン、最小音量ボタン)に割り当てることができます。このようにして、デバイス設定が任意のUIコンポーネントで変更されると、この新しい設定が同期変数に読みこまれ、ビューワにおけるUIコンポーネントに反映されます。

メッセージを返すデバイスの場合

変数(デバイス設定)を、コントローラーに対してメッセージを返すデバイス用に使用する場合は、下記の手順に従って同期変数の設定を行ってください。

1. デバイス設定(例:スピーカー音量)に対する同期変数を作成してください。
 - a) 「Design」(デザイン)タブで、「Library」(ライブラリー)をクリックしてください。
 - b) 「Synced Variables」(同期変数)のアイコン()をクリックしたら、をクリックしてください。
 - c) 次の項目を設定してください。
 - ◆ Name(名前):変数につける名前を入力してください。
 - ◆ String format(文字列フォーマット):目的のデバイスに対して文字列フォーマットを選択してください。
 - ◆ Setting range(設定範囲):設定対象となる範囲を入力してください。
 - ◆ Default value(デフォルト値):設定のデフォルト値を入力してください。

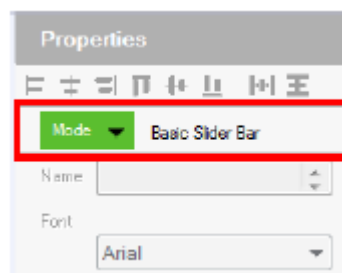
このように設定を行うと、画面には下図のように表示されます。



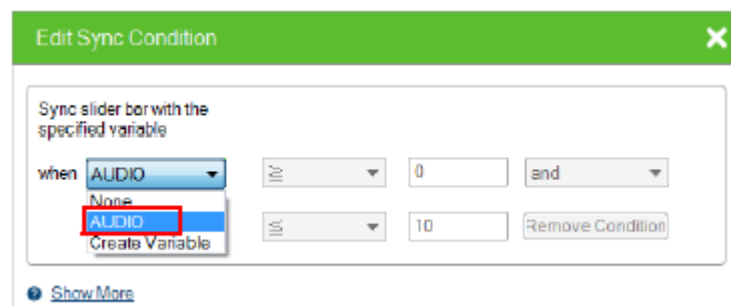
2. ビューワに対する制御コンポーネントを設定してください。詳細については p.118「デザイン」を参照してください。

- a) 「Design」(デザイン)タブで、お使いのビューワに対して制御コンポーネントを追加してください。

注意: 同期変数機能は、トグルボタン、ベーシックモードのスライダバー、および通常のラジオボタングループに対してのみ適用可能です。操作を進める前に、**モード**設定を定義してください。



- b) スライダバーのコンポーネントの場合は、このコンポーネントをビューワ画面でクリックし、「Properties」(プロパティ)で「Value」(値)の設定を定義してください。
- c) 「Properties」(プロパティ)で、「Set Sync Condition」(同期条件の設定)をクリックしたら、作成した変数をドロップダウンリストから選択してください。

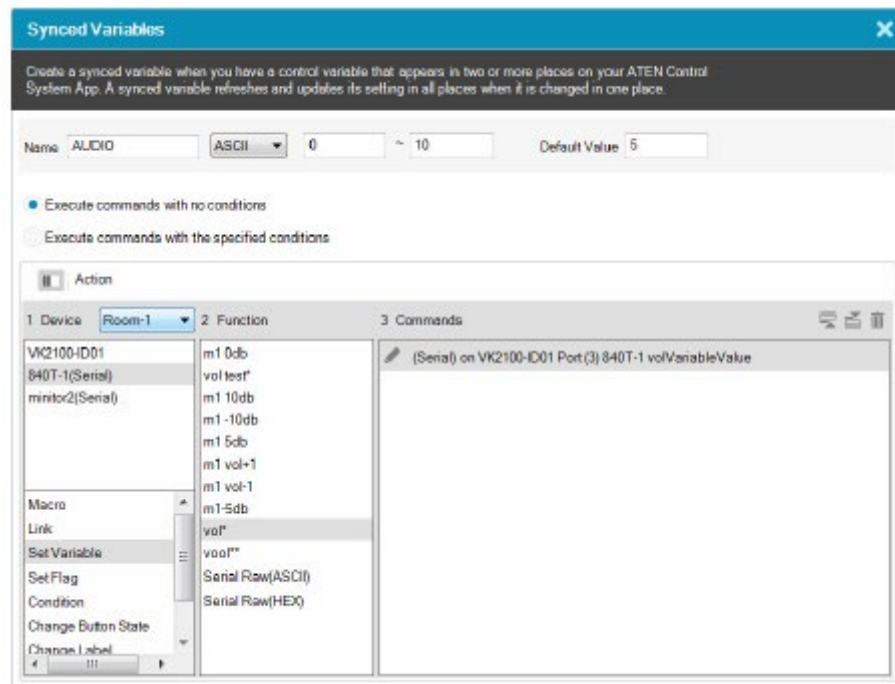


3. モニターを作成し、デバイスがその変数に対して最新の設定を送信する条件を設定してください。手順の詳細については、p.179「Bypass モニターの作成」を参照してください。

メッセージを返さないデバイスの場合

変数(デバイス設定)を、コントローラーに対してメッセージを返さないデバイス用に使用する場合は、下記の手順に従って同期変数の設定を行ってください。

1. デバイス設定(例:スピーカー音量)に対する同期変数を作成してください。



- a) 「Design」(デザイン)タブで、「Library」(ライブラリー)をクリックしてください。
- b) 「Synced Variables」(同期変数)のアイコン()をクリックしたら、  をクリックしてください。
- c) 次の項目を設定してください。
 - ◆ **Name**(名前):変数につける名前を入力してください。
 - ◆ **String format**(文字列フォーマット): 目的のデバイスに対して文字列フォーマットを選択してください。
 - ◆ **Setting range**(設定範囲): 設定対象となる範囲を入力してください。
 - ◆ **Default value**(デフォルト値): 設定のデフォルト値を入力してください。
 - ◆ コマンドの実行タイプを選択してください。
 - **Execute commands with no conditions**(コマンドを条件なしで実行する): 特定の変数が変更された場合に、コマンド(アクション)を実行します。

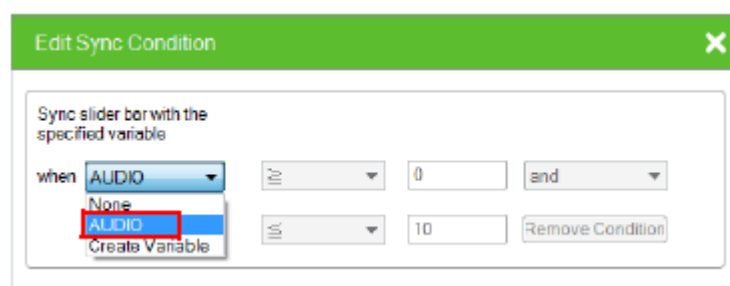
- **Execute commands with the specified conditions**(コマンドを特定の条件で実行する):変数が一致した場合に、それに対応したコマンド(アクション)を実行します。

2. ビューワに対する制御コンポーネントを設定してください。

- a) ビューワに対して制御コンポーネントを追加してください。詳細については、p.118「デザイン」を参照してください。

注意: 次の手順に進む前に、コンポーネントのモードが定義されていることを確認してください。

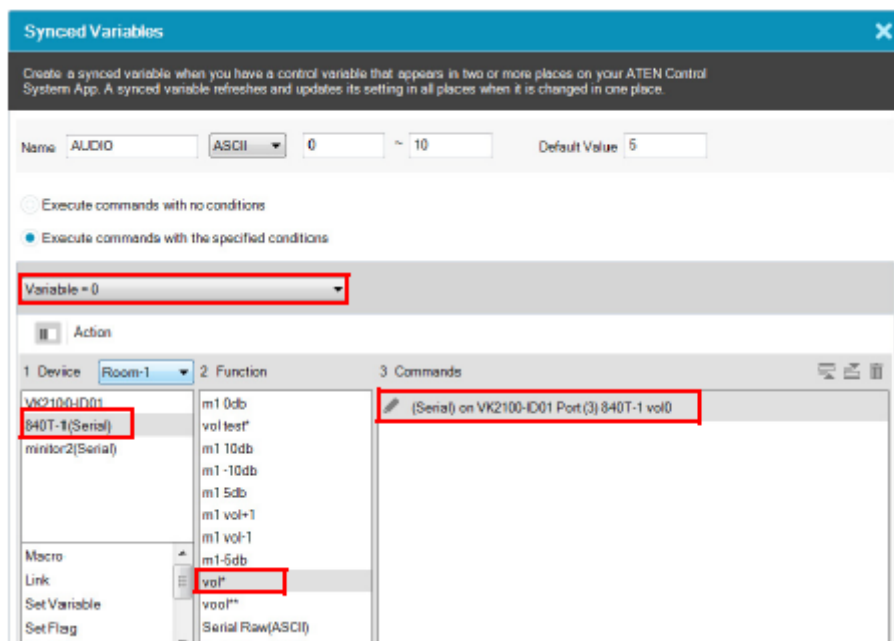
- b) スライダーバーのコンポーネントの場合は、このコンポーネントをクリックし、「Properties」(プロパティ)で「Value」(値)の設定を定義してください。
- c) 「Set Variable」(変数の設定)をクリックしたら、手順 1 で作成した変数をダブルクリックしてください。
- d) 「Properties」(プロパティ)で、「Set Sync Condition」(同期条件の設定)をクリックしたら、作成した変数をドロップダウンリストから選択してください。



3. 各コンポーネントに対して、手順(a)～(d)の操作を繰り返してください。「Execute commands with the specified conditions」(コマンドを特定の条件で実行する)を選択した場合は、次の手順に従ってコマンドを追加してください。

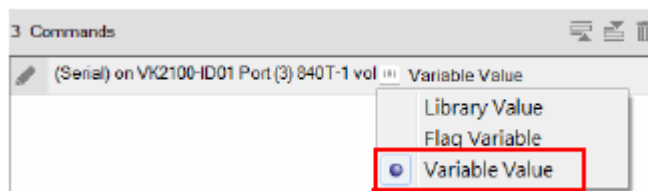
- a) 手順 4 を参考にしながら、まず UI コンポーネントの設定を行ってください。
- b) 「Library」(ライブラリー)をクリックし、「Synced Variables」(同期変数)のアイコン()をクリックしたら、手順 1 で作成した変数をクリックしてください。
- c) 「Execute commands with the specified conditions」(コマンドを特定の条件で実行する)オプションの下にあるドロップダウンリストをクリックし、条件を選択してください。
- d) 条件が満たされた場合に実行されるアクション(コマンド)を追加してください。デバイスを選択し、目的の機能をダブルクリックしたら、コマンドをダブルクリックして、設定を定義してください。

スピーカー音量のケースを例にとると、音量が 0 になった場合（言い換えれば、条件が「**Variable** = 0」である場合）、アクションは下図のように「スピーカー音量を 0 に変更」という操作になります。



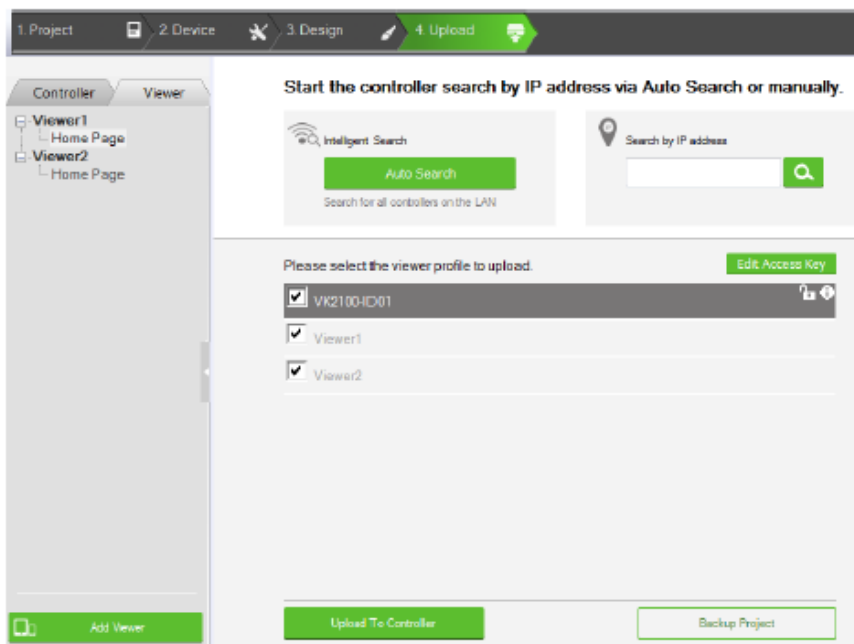
e) 手順 2-(c)および 2-(d)の操作を繰り返して、各条件に対して 1 つ、ないしは複数のアクションを追加してください。

4. 「**Execute commands with the specified conditions**」(コマンドを特定の条件で実行する)を選択した場合は、次の手順に従ってコマンドを追加してください。
 - a) 「**Device**」(デバイス)リストで、デバイスをクリックして選択してください。この例では、ミキサー (840T-1(Serial)) が選択されています。
 - b) アクション(コマンド)をダブルクリックしたら、値の種類を「**Variable Value**」に変更してください。



アップロード

「Upload」(アップロード)画面を使うと、コントローラーに対してビューをアップロードしたり、プロジェクトをバックアップしたりすることができます。



プロジェクトファイルとビューをバックアップして、コントローラーに保存するには、下記の手順に従って操作を行ってください。

1. プロジェクトファイルをアップロードするコントロールボックスを検索してください。
 - ◆ **Auto Search (自動検索)**: 設定ソフトウェア (VK6000) と同じ LAN 上に存在するコントローラーを検索します。
 - ◆ **Search by IP address (IP アドレスによる検索)**: この機能を使うと、設定ソフトウェア (VK6000) と異なる LAN 上に存在するコントローラーを検索します。
2. アップロードしたいビューを選択してください。
3. 必要に応じて、次のアイコンやメニューをクリックして、パスワード認証の設定を行ってください。
 - ◆ **Edit Access Key (アクセスキーの編集)**: このボタンをクリックすると、タブレット/スマートフォンからコントロールボックスに対してビューをアップロードしたり、また、ビューをダウンロードしたりする際に必要となるアクセスキーを変更します。

- ◆  :タブレット/スマートフォンからコントロールボックスに対してビューワをアップロードしたり、また、ビューワをダウンロードしたりする際に、アクセスキーが必要となります。
- ◆  :タブレット/スマートフォンからコントロールボックスに対してビューワをアップロードしたり、また、ビューワをダウンロードしたりする際に、アクセスキーは必要ありません。
- ◆   :コントロールボックスの Web インターフェース(ダッシュボード)で、アクセスキーが変更されています。ロックの状態を変更する場合は、このアイコンをクリックし、新しいアクセスキーを入力して、画面の指示に従って操作を行ってください。

4. 「Upload to Controller」(コントローラーへアップロード)をクリックしてください。

注意: デフォルトでは、選択されたビューワとともにプロジェクトファイルもアップロードされます。選択されたビューワのみをアップロードする場合は、「**Also upload project file**」(プロジェクトファイルも同時にアップロードする)の項目からチェックを外して、この機能を無効にしてください。

コントロールボックスに関する情報の参照

 をクリックすると、コントロールボックスに関する情報を参照することができます。

- ◆ **IP Address** (IP アドレス) :コントロールボックスの IP アドレスを表示します。
- ◆ **MAC Address** (MAC アドレス) :コントロールボックスの MAC アドレスを表示します。
- ◆ **License** (ライセンス) :利用可能なライセンスと使用中のライセンスの数が表示されます。
 - **Select License** (ライセンスの選択) :新しいライセンスファイルを読み込みます。
 - **Reset License** (ライセンスのリセット) :タブレット/スマートフォンによって使用されているライセンスをすべてリセットします。この操作によって、コントロールボックスに対するすべてのライセンス接続が切断されます。
- ◆ **Firmware Version** (ファームウェアバージョン) :ファームウェアバージョンが表示されます。
 - **Select Firmware** (ファームウェアの選択) :ファームウェアを更新するためにファームウェアアップグレードファイルを読み込みます。
- ◆ **Capacity** (容量) :ビューワのアップロードに利用できるコントロールボックス上の空き容量が表示されます。
- ◆ **Viewer** (ビューワ) :現在コントロールボックスに保存されているビューワが一覧表示されます。

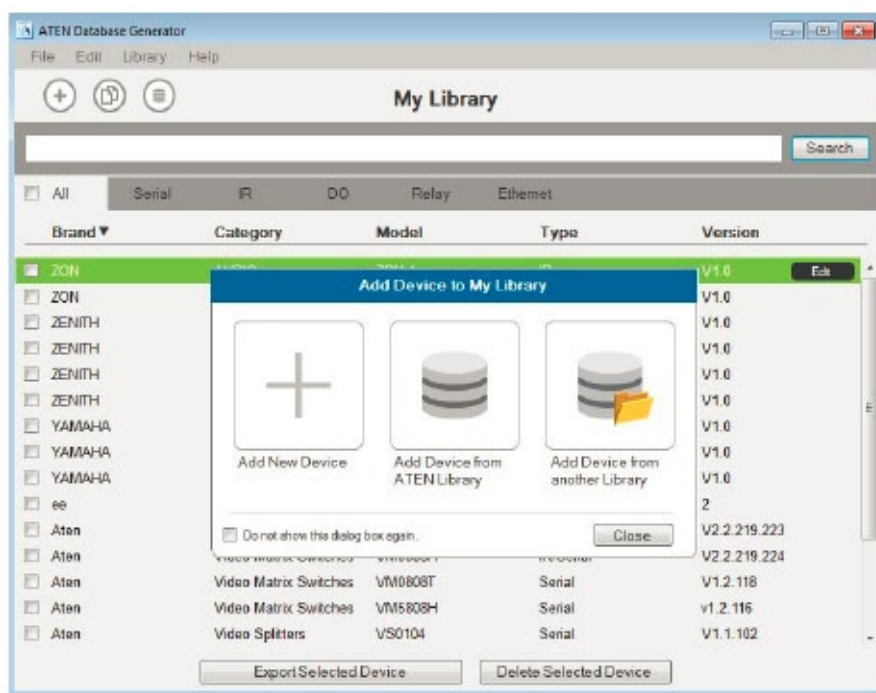
- **Remove Viewer** (ビューワの削除) : ゴミ箱のアイコンをクリックすると、コントロールボックスに保存されたビューワを削除します。
- ◆ **Project** (プロジェクト) : 現在コントロールボックスに保存されているプロジェクトファイルが一覧表示されます。

第5章

ATEN データベースジェネレーター

概要

「ATEN Database Generator」(ATEN データベースジェネレーター)は、「My Device Library」(マイデバイスライブラリー)におけるハードウェア機器の追加・編集・管理を行うことができます。ATEN 設定ソフトウェア (VK6000) からデータベースジェネレーターを開くには、メニューバーから「Tools」(ツール) → 「Database Generator」(データベースジェネレーター)を選択してください。アプリケーションの初回起動時には、オプションが 4 種類あるウィンドウが表示されます。



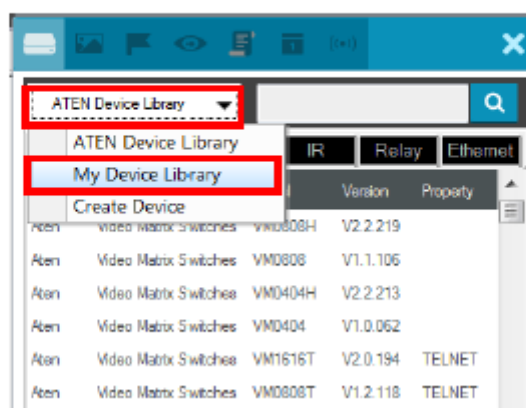
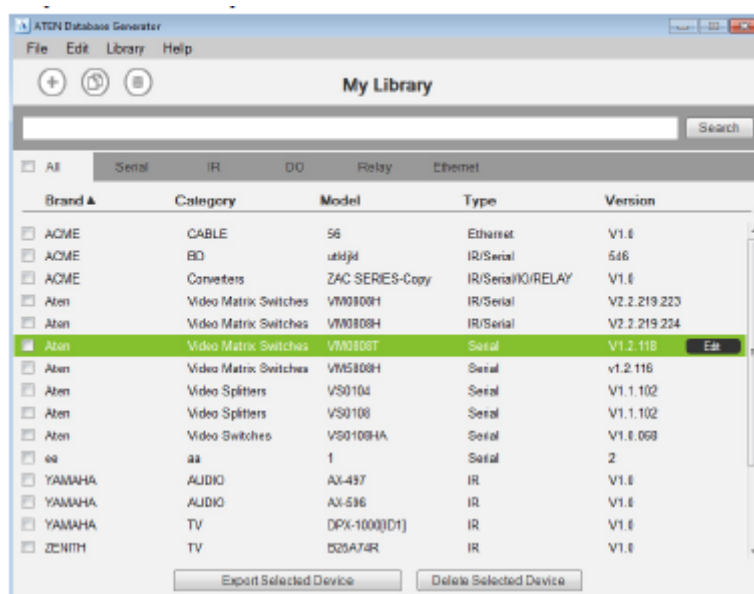
項目	説明
Add New Device (新規デバイスを追加)	マイライブラリーに追加するカスタムハードウェア機器を設定します。
Add Device from ATEN Library (ATEN ライブラリーからデバイスを追加)	デバイスを ATEN デバイスライブラリーからマイライブラリーに追加します。

(表は次のページに続きます)

項目	説明
Add Device from another Library (他のライブラリーから デバイスを追加)	デバイスをデータベースファイル(*.vkd)からマイライブラリーに追加します。
Check Box (チェックボックス)	データベースジェネレーターが起動したときにダイアログを再び表示しないようにするには、「Do not show this dialog again」(今後このダイアログを表示しない)をクリックしてください。このダイアログを再び表示するには、「Preferences」(ユーザー設定)のメニューオプションを使用してください。
Close (閉じる)	「 Close 」(閉じる)ボタンをクリックすると、ダイアログウィンドウを終了します。

マイライブラリー

「My Library」(マイライブラリー)を使うと、VK1100 および VK2100 でポートを設定するのに選択可能なハードウェア機器をカスタマイズすることができます。「My Library」(マイライブラリー)には、データベースジェネレーターを使って作成・追加・編集されたハードウェア機器が一覧表示されます。新しいハードウェア機器の追加や既存機器の追加は、ATEN ライブラリーから行うことができます(p.213 参照)。また、これらの機器を使うには、「My Device Library」(マイデバイスライブラリー)から選択することができます(p.108 参照)。



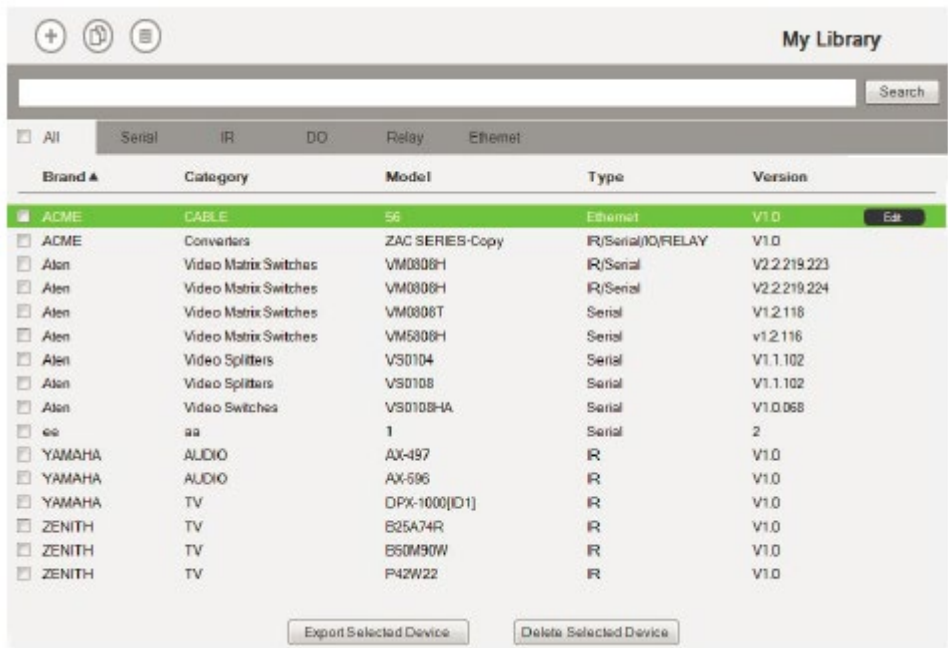
項目	説明
File (ファイル)	「File」(ファイル)メニューには、次のオプションが提供されています。 ◆ Add New Device (新規デバイスの追加): 「Device Library」(デバイスライブラリー)に追加するカスタムハードウェア機器を設定します。 ◆ Add Device from ATEN Library (ATEN ライブラリーからデバイスを追加): デバイスを ATEN デバイスライブラリーからマイライブラリーに追加します。 ◆ Add Device from another Library (別のライブラリーからデバイスを追加): デバイスをデータベースファイル (*.vkd) からマイライブラリーに追加します。 ◆ Export My Library (マイライブラリーのエクスポート): マイライブラリーを、後でインポートできるデータベースファイル (*.vkd) として保存します。 ◆ Export Selected Device (選択されたデバイスのエクスポート): 選択されたデバイスを、後でインポートできるデータベースファイル (*.vkd) として保存します。 ◆ Controller Connection (コントロールボックス接続): コントロールボックスを検索して、接続をテストしたり、IR ポートの学習モードを実行したりします。 ◆ Quit (終了): プログラムを終了します。
Edit (編集)	「Edit」(編集)メニューには、次のオプションが提供されています。 ◆ Delete (削除): データベースから選択したデバイスを削除します。 ◆ Duplicate (複製): 選択されたデバイスのコピーを作成し、ファイル名の最後に「-Copy」という文字列を付けた形でライブラリーに追加します。 ◆ Preferences (ユーザー設定): 次のオプションを提供しています。 ➤ Set the Language (言語の設定) ➤ Show Add Device dialog on startup (起動時にデバイス追加ダイアログを表示) ➤ Show IR Learning tips (IR 学習のヒントを表示) ➤ Set the IR Learning Timeout (IR 学習タイムアウトの設定) - IR 学習機能が停止する前に IR デバイスに対して接続を試みる時間を設定します。

(表は次のページに続きます)

項目	説明
Library (ライブラリー)	デバイスを選択したり、編集したり、マイライブラリーに追加したりできるライブラリーの一覧を提供します。ここで列挙されるライブラリーは、「Add Device from another Library」(別のライブラリーからデバイスを追加)を使ってデータベースを選択したときに表示されます。
Help (ヘルプ)	「Help」(ヘルプ)メニューには、次のオプションが提供されています。 ◆ Update ATEN Library (ATEN ライブラリーを更新) : データベースファイル (*.vkd) を参照し、デバイスを ATEN ライブラリーにインポートします。 ◆ About (バージョン情報) : サポートおよびソフトウェアのバージョン情報を提供します。

マイライブラリーの管理

デバイスがマイライブラリーに追加されると、メインウィンドウに一覧表示されます。新しいデバイスは、新規デバイスの作成、既存デバイスのコピー、または ATEN ライブラリーからのデバイス選択によって追加することが可能です。個々のデバイスを選択する場合はチェックボックスを操作してください。また、一覧にあるすべての項目を選択する場合は「All」(すべて)を選択してください。



項目	説明
	新しいカスタムデバイスをデータベースに追加します。
	デバイスを選択した状態で、このアイコンをクリックすると、そのデバイスの複製を作成します。
	ATEN ライブラリーにあるデバイスを編集して追加します。
	デバイスを選択した状態で、このアイコンをクリックすると、そのデバイスの設定を変更します。
	文字列を入力して、このアイコンをクリックすると、その条件でデバイスを検索します。

- ◆ 一覧を種類で絞り込む場合は、「**All**」(すべて)、「**Serial**」(シリアル)、「**IR**」、「**DO**」、「**Relay**」(リレー)、または「**Ethernet**」(イーサネット)をクリックしてください。
- ◆ デバイスの一覧の表示順を変更する場合は、「**Brand**」(メーカー名)、「**Category**」(カテゴリ)、「**Model**」(モデル)、「**Type**」(種類)、または「**Version**」(バージョン)をクリックしてください。
- ◆ 選択されたデバイスを保存する場合は、「**Export Selected Device**」(選択されたデバイスをエクスポート)をクリックしてください。
- ◆ 選択されたデバイスを削除する場合は、「**Delete Selected Device**」(選択されたデバイスを削除)をクリックしてください。

新規デバイスの編集/追加

マイライブラリーでデバイスを編集したり追加したりする場合は、下記の手順で操作してください。

1. 新規の場合は、メニューから「**File**」(ファイル)→「**Add New Device**」(新規デバイスの追加)を選択してください。編集の場合は、マイライブラリーからデバイスを選択して「**Edit**」(編集)をクリックしてください。
2. 「**General**」(全般)で、ドロップダウンメニューを使うか、手入力で「**Brand Name**」(メーカー名)、「**Category**」(カテゴリ)、「**Model**」(モデル)、「**Version**」(バージョン)の各項目を設定してください。

注意: 「**Category**」(カテゴリ)は、デバイスに対するビューワ画面が作成された際に自動生成するボタンを決めるものです。

3. 「**History**」(履歴)ボタンを使って、バージョン履歴エディターを開き、設定中のデバイスに関する更新履歴の内容を入力してください。同じデバイスに対して異なるバージョンを作成して使用したり、変更履歴を追跡したりすることができます。また、「**Properties**」(プロパティ)では、バージョン履歴を確認したり、ATEN 設定ソフトウェア (VK6000) から異なるバージョンを選択したりすることができます。
4. ハードウェアの種類を確認して、デバイスの設定を行ってください。

■シリアル

項目	説明
	クリックすると、アクションを追加します。
	クリックすると、アクションを複製します。
	クリックすると、選択されたアクションを削除します。
	クリックすると、()内における文字列を入力することができます。これによって、VK6000 におけるボタンアクションのコマンドリストからテキストを編集することができます(p.139 参照)。
	クリックすると、コマンド文字列にドロップダウンメニューを追加し、[]内に順序を表す番号を入力することができます。「 Function 」(機能)の名前には、コマンド文字列の各ドロップダウンメニューに対してアスタリスク(*)を含めるようにしてください。ドロップダウンメニューは、「Function」(機能)の名前で(*)が入力された場所に表示されます。
	クリックすると、コマンド文字列に対して[Enter]を追加します。
	クリックすると、コマンド文字列に追加するコマンドリストを開きます。

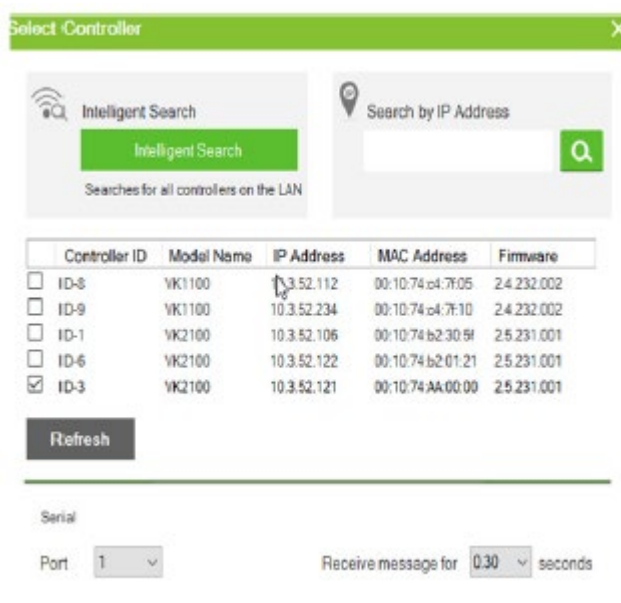
- ◆ **Settings** (設定) - ドロップダウンメニューを使って、「Baud Rate」(ボーレート)、「Data Bit」(データビット)、「Stop Bit」(ストップビット)、「Parity」(パリティ)、「Flow Control」(フロー制御)、

「Mode」(モード)の各パラメーターを設定してください。

- **Advanced**(詳細) - この部分をクリックすると、デバイスに各コマンドが送出される前に遅延させる時間を、「Delay Interval」(遅延間隔)ドロップダウンメニューを使って設定します。

◆ **Function List**(機能リスト) - このセクションで、アクションを一覧に追加することでデバイスの機能を設定することができます。

- **String Format**(文字列フォーマット) - ボタンで「HEX」または「ASCII」を選択してください。
- **Function**(機能) - デバイスに対して作成されたアクションを一覧表示します。コマンド文字列にドロップダウンメニューを追加しようとしている場合は、「Function」(機能)の名前にアスタリスク(*)を含めるようにしてください。
- **Command**(コマンド) - アクションに対して作成されたコマンド文字列を表します。この文字列をダブルクリックすると編集することができます。
- **Feedback**(フィードバック) - 「**Retrieve**」(検索)と「**Send**」(送信)の各ボタンがコマンド文字列のテストに使われた場合に、返送メッセージを提供します。
 - ☆ 「**Retrieve**」(検索)をクリックしてください。そうすると、「Select Controller」(コントローラーの選択)ウィンドウが表示されます。
 - ☆ リストからコントローラーをクリックして選択してください。リストを更新するには「**Refresh**」(更新)ボタンを使ってください。また、LAN におけるコントローラーを参照する場合は、「**Intelligent Search**」(インテリジェントサーチ)ボタンをクリックするか、コントローラーの IP アドレスを入力してください。
 - ☆ **Port**(ポート) - シリアルポートを選択します。
 - ☆ **Receive message for**(メッセージ受信回数) - デバイスがコントローラーからのメッセージ受信を許可されている最大数を定義します。



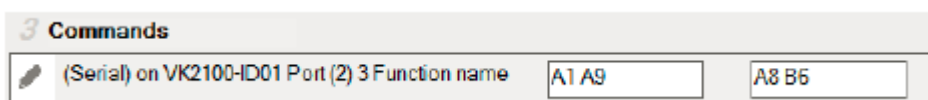
➤ **Send(送信)** - このボタンの使い方については p.210 の説明を参照してください。

テキストコマンドツール

次のフォーマットを使うと、特殊な機能を提供するテキストでコマンド文字列を入力することができます。これらのフォーマットはシリアルとイーサネットの各コマンドで動作します。

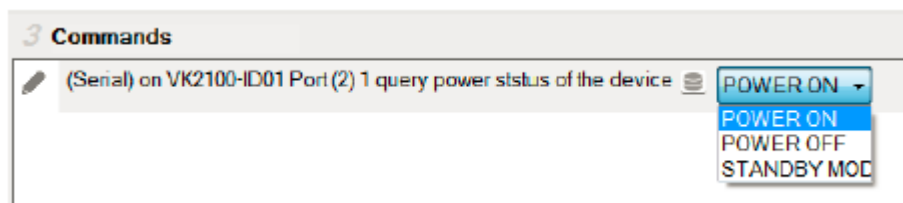
- ◆ **()** : この中にテキストを入力すると、VK6000 でコマンドを編集することができます。

例: (A1 A9) (A8 B6) - このコマンド文字列は、VK6000 のボタンアクション - コマンドリストで編集可能な 2 つのテキストボックスを提供します。これは、コマンド文字列の変更を行います。



- ◆ **=** : テキストコマンドの前でイコール(=)を使うと、テキストコマンドそのものを示すのではなく、そのコマンドをドロップダウンメニューで説明する単語を入力することができます。

例: [Power On=0A,Power Off=0B,Standby Mode=0C] - このコマンド文字列は、3 つの選択肢があるドロップダウンメニューを提供します。イコールの前にあるテキストは、VK6000 におけるボタンアクションのコマンドリストにおける各コマンドを表しています。



- ◆ **“ ”** : クォーテーションマークを使うと、3 つの記号(, = @)を、上記で説明したイコールを使

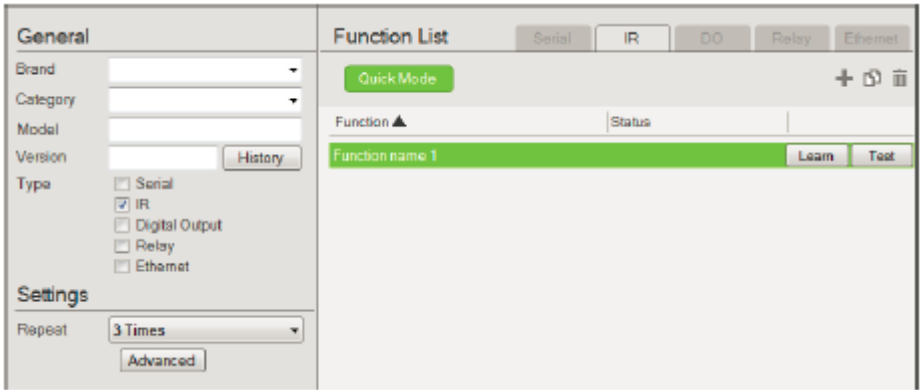
用するコマンドに対して追加することができます。クォーテーションマークの中で使用できない記号は 3 つあります(” ”、()、[])。クォーテーションマークは、**HEX** コマンドでは「=」の左側で、**ASCII** コマンドでは「=」の両側で、そして **Ethernet** コマンドでは任意の場所で、それぞれ使うことができます。

HEX コマンドの例: [“Power=On”=0A,”POWER=OFF”=0B]

ASCII コマンドの例: “Power=On”=0A,POWER=OFF=”0B=AC”

HEX コマンドの例における”Power=On”では、「=0A」の前にイコールを挿入することができます。クォーテーションマークを削除して、コマンドを「Power=On=0A」とした場合、このコマンドは不正な文字列として失敗します。

■IR



項目	説明
	クリックすると、アクションを追加します。
	クリックすると、アクションを複製します。
	クリックすると、選択されたアクションを削除します。

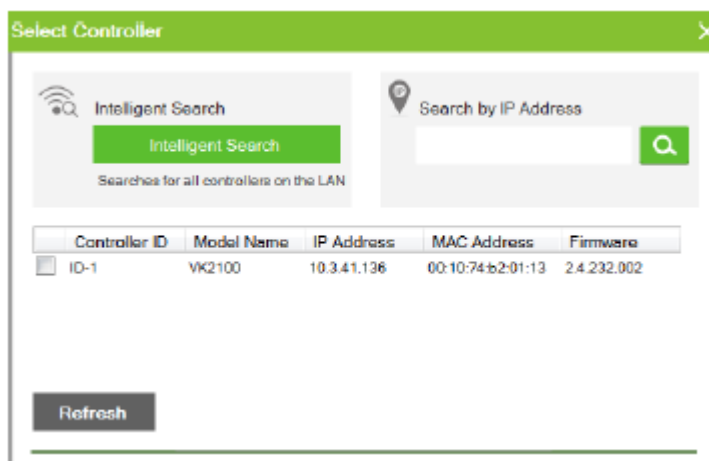
- ◆ **Settings (設定)** - ドロップダウンメニューを使って、「Repeat」(繰り返し)のパラメーター(信号が送信される回数)を、1 回/2 回/3 回(デフォルト)から選択してください。
 - **Advanced (詳細)** - この部分をクリックすると、デバイスに各コマンドが送出される前に遅延させる時間を、「Delay Interval」(遅延間隔)ドロップダウンメニューを使って設定します。
- ◆ **Function List (機能リスト)** - このセクションで、アクションを一覧に追加することで、IR リモート

機能の設定を行うことができます。

- **Quick Mode** (クイックモード) - クリックすると、「**Function List**」(機能リスト)における、すべての IR アクションに対して、学習モードを実行します。クイックモードのウィンドウが開いた後、「**Start**」(開始)をクリックすると、コントロールボックスを選択できるポップアップウィンドウが表示されます。2 回目に「**Start**」(開始)をクリックすると、下記の「**Learn**」(学習)の手順を使いながらクイックモードを起動します。
- **Function** (機能) - デバイスに対して作成されたアクションを一覧表示します。ダブルクリックすると、「**Function**」(機能)の名前を編集します。
- **Status** (状態) - 「**Learn**」(学習)と「**Test**」(テスト)の各ボタンの状態(「**Tested**」(テスト済み)、「**Failed**」(失敗)、「**Learned**」(学習済み))が報告されます。

- **Learn** (学習) - IR リモコンからのコマンドをコントロールボックスに対して送信します。これをクリックすると、「**Select Controller**」(コントローラーの選択)ウィンドウが表示されます。

そうしたら、リストからコントローラーをクリックして選択してください。「**Refresh**」(更新)ボタンを押すと、リストを最新の状態に更新します。LAN 状のコントローラーを参照する場合は、「**Intelligent Search**」(インテリジェントサーチ)ボタンをクリックするか、コントローラーの IP アドレスを入力してください。



「**Learn**」(学習)を 2 回目にクリックすると、学習モードを開始します。IR 学習 LED がグリーンに点滅したら、コントロールボックスのフロントパネルにある IR レシーバーに IR リモコンを照準させ、リモコンのボタンを押してください。リモコンのボタンはハードウェアデバイスに対して使うときと同じように操作してください。デバイスがリモコンボタンの長押し、または早押しに対して反応する場合は、学習モード中において、このボタンも同様の方法(長押し、または早押し)で押してください。IR 学習が成功すると、コントロールボックスからはビーブ音が出力され、学習 LED は点灯します(その後、消灯)。学習モードがタイムアウト

になった場合も LED は消灯します。

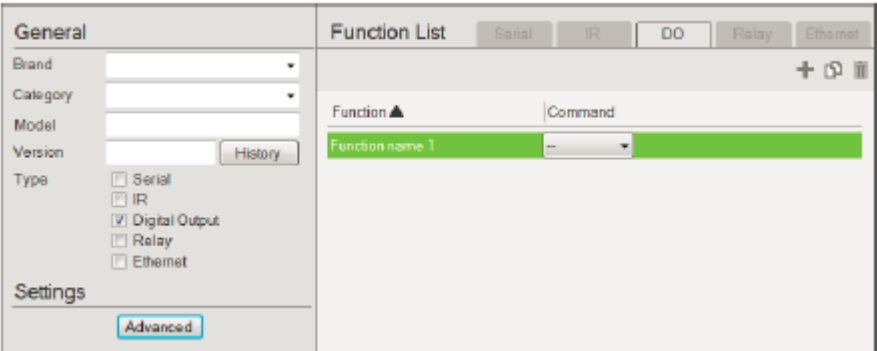
- **Test** (テスト) - コマンドがコントロールボックスやハードウェアデバイスに対して正常に送られたかどうかをテストします。

「Test」(テスト)をクリックすると、コントロールボックスと IR ポートを選択できるポップアップウィンドウが表示されます。そうしたら、対象となるコントロールボックスをチェックボックスで、また、IR ポートをドロップダウンメニューで、それぞれ選択して、「Select」(選択)をクリックしてください。

「Test」(テスト)を 2 回目にクリックすると、コントロールボックスに対して IR データが正常に送信されたかどうかをテストします。ハードウェアデバイスをチェックして、適切に応答したかどうかを確認してください。

「Learn」(学習)や「Test」(テスト)がクリックされて処理された結果は、「Status」(状態)列に表示されます。

■ デジタル出力

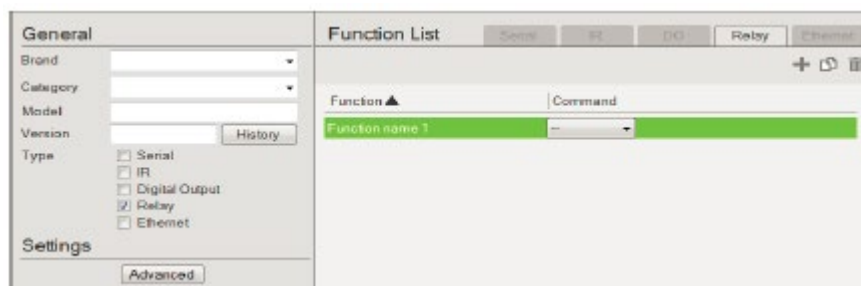


項目	説明
	クリックすると、アクションを追加します。
	クリックすると、アクションを複製します。
	クリックすると、選択されたアクションを削除します。

- ◆ **Advanced**(詳細) - この部分をクリックすると、デバイスに各コマンドが送出される前に遅延させる時間を、「Delay Interval」(遅延間隔)ドロップダウンメニューを使って設定します。

- ◆ **Function List (機能リスト)** - このセクションで、アクションを一覧に追加することで、デジタル出力デバイスの機能設定を行うことができます。
 - **Function (機能)** - デバイスに対して作成されたアクションを一覧表示します。「Function」(機能)の名前をダブルクリックすると、編集することができます。
 - **Command (コマンド)** - アクションに対して選択されたコマンドを表示します。ドロップダウンメニューをクリックすると、アクション(開く、閉じる、切り替える、変調する)を選択することができます。

■リレー



項目	説明
	クリックすると、アクションを追加します。
	クリックすると、アクションを複製します。
	クリックすると、選択されたアクションを削除します。

- ◆ **Advanced (詳細)** - 「Delay Interval」(遅延間隔)のドロップダウンメニューをクリックすると、各コマンドをデバイスに送るまでに遅延させる時間を設定します。
- ◆ **Function List (機能リスト)** - このセクションで、アクションを一覧に追加することで、リレーデバイスの機能設定を行うことができます。
 - **Function (機能)** - デバイスに対して作成されたアクションを一覧表示します。「Function」(機能)の名前をダブルクリックすると、編集することができます。
 - **Command (コマンド)** - アクションに対して選択されたコマンドを表示します。ドロップダウンメニューをクリックすると、アクション(開く、閉じる、切り替える、変調する)を選択することができます。

■ Ethernet

General Brand: Category: Model: History Type: ☐ Serial ☐ IR ☐ Digital Output ☐ Relay ☒ Ethernet Settings Protocol: TELNET Port: 23		Function List Serial IR DO Relay Ethernet + * <table border="1"> <thead> <tr> <th>Function ▲</th> <th>Command</th> <th>Feedback</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Function name 1</td> <td> Retrieve </td> <td> Send </td> </tr> </tbody> </table>	Function ▲	Command	Feedback	Function name 1	Retrieve	Send
Function ▲	Command	Feedback						
Function name 1	Retrieve	Send						

項目	説明
	クリックすると、アクションを追加します。
	クリックすると、アクションを複製します。
	クリックすると、選択されたアクションを削除します。
	クリックすると、() 内における文字列を入力することができます。これによって、VK6000 におけるボタンアクションのコマンドリストからテキストを編集することができます (p.139 参照)。
	クリックすると、コマンド文字列にドロップダウンメニューを追加し、[] 内に順序を表す番号を入力することができます。「Function」(機能) の名前には、コマンド文字列の各ドロップダウンメニューに対してアスタリスク(*)を含めるようにしてください。
	クリックすると、コマンド文字列に対して[Enter]を追加します。
	クリックすると、コマンド文字列に追加するコマンドリストを開きます。特殊なコマンド文字列ツールについては、p.200「テキストコマンドツール」を参照してください。

◆ Settings (設定)

- **Protocol** (プロトコル) - ドロップダウンリストをクリックして、デバイスの対するプロトコルを選択してください。
- **Port** (ポート) - デバイスのポート番号を入力してください。
- **Advanced** (詳細) - 詳細設定にアクセスするには、このボタンをクリックしてください。

項目	説明
Command Interval (コマンド間隔)	このドロップダウンメニューを使うと、各コマンドをデバイスに送るまでに遅延させる時間を設定します。
Delay Time after login (ログイン後の遅延時間)	1 番目と 2 番目のコマンドがデバイスに送られる前に遅延させる時間 (接続が確立するまで待機する時間) を設定します。
Send command after connection (接続後にコマンドを送信)	接続が正常に確立した後でデバイスに送信するコマンドを「1st Command」(1 番目のコマンド) と「2nd Command」(2 番目のコマンド) の各欄に入力してください。
Automatically reconnect if no return message is received (返送メッセージがない場合は自動的に再接続)	デバイスから返送メッセージがない場合に再接続の試行を継続させる場合は、この項目にチェックを入れてください。
Use Default (デフォルトを使用)	このボタンをクリックすると、デフォルトの設定にリセットします。

- ◆ **Function List** (機能リスト) - このセクションで、アクションを一覧に追加することで、デバイス機能の設定を行うことができます。

- **String Format** (文字列フォーマット) - ボタンで「HEX」または「ASCII」を選択してください (TCP のみ)。

- **Function** (機能) - デバイスに対して作成されたアクションを一覧表示します。コマンド文字列にドロップダウンメニューを追加しようとしている場合は、「Function」(機能)の名前にアスタリスク(*)を含めるようにしてください。ダブルクリックすると、その機能の名前を編集することができます。この名前でアスタリスク(*)を入力した場所にドロップダウンメニューが表示されます。

- **Command** (コマンド) - アクションに対して作成されたコマンド文字列を表します。

- ✧ Telnet、PJLINK、ONVIF、または TCP の各種プロトコルのデバイスに対するコマンドを編集するには、「**Command**」(コマンド) 欄 (インターフェースにおける緑色の部分) をダブルクリックしてください。

- ✧ HTTP、または HTTPS の各種プロトコルのデバイスに対するコマンドを編集するには、「**Edit**」(編集) ボタンをクリックしてください。そうすると、「Edit HTTP Command」(HTTP コマンド編集) ウィンドウが表示されます。

The screenshot shows a window titled "Edit HTTP Command". At the top, there are two dropdown menus: "Type" (currently set to "HTTP") and "Method" (currently set to "GET"). To the right of these is a "Clear" button. Below this, the window is divided into four main sections: "URI", "Parameter", "Header", and "Body". Each section contains a text area for the command and a "Clear" button to its right. At the bottom of the window, there are two buttons: "Save" (in green) and "Cancel" (in grey).

- **Feedback** (フィードバック) - コマンド文字列をテストするのに使われる「**Retrieve**」(検索) と「**Send**」(送信) の各ボタンを提供します (Telnet、PJLink、TCP のみ)。
- **Retrieve** (検索) - コマンド文字列をテストして、デバイスからの返送メッセージを受信するのに使用します。

「Retrieve」(検索)をクリックすると、コントローラーを選択できるポップアップウィンドウが表示されます。コントローラーをチェックボックスで選択したら、そのイーサネットデバイスの IP アドレス、ユーザーネーム、パスワードをそれぞれ該当欄に入力し、「Select」(選択)をクリックしてください。

Controller ID	Model Name	IP Address	MAC Address	Firmware
☐ ID-1	VK2100	10.3.41.136	00:10:74:b2:01:13	2.4.232.002

項目	説明
Intelligent Search (インテリジェントサーチ)	IP アドレスを特定せずにコントロールボックスを検索する場合は、こちらをクリックしてください。このオプションを使ったときは、同一 LAN 上にあるコントロールボックスだけを対象に検索します。ルーターやスイッチのようにネットワークデバイスを越えた場所にあるコントロールボックスを検索する場合は、IP アドレスを指定しなければなりません。
Search by IP address (IP アドレスで検索)	IP アドレスを入力して「Search」(検索)をクリックすると、指定した IP アドレスのコントロールボックスを検索します。
Controller ID (コントローラーID)	コントローラーをチェックボックスで選択したら、IP アドレス、ユーザーネーム、パスワードをそれぞれ該当欄に入力し、「OK」をクリックしてください。そうしたら、この後に記載されている説明に従って操作してください。
Refresh (更新)	このボタンをクリックすると、コントローラーID の一覧を更新します。

(表は次のページに続きます)

項目	説明
IP Address (IP アドレス)	デバイスの IP アドレスを入力してください。
Username (ユーザーネーム)	デバイスのユーザーネームを入力してください。
Password (パスワード)	デバイスのパスワードを入力し、コントローラーに対してアクセス権限を付与してください。
Receive message for (メッセージ受信回数)	デバイスがコントローラーからのメッセージ受信を許可されている最大数を定義します。

注意: UDP および TCP の各デバイスにはユーザーネームとパスワードが、また、PJLINK デバイスにはユーザーネームが、それぞれ不要です。

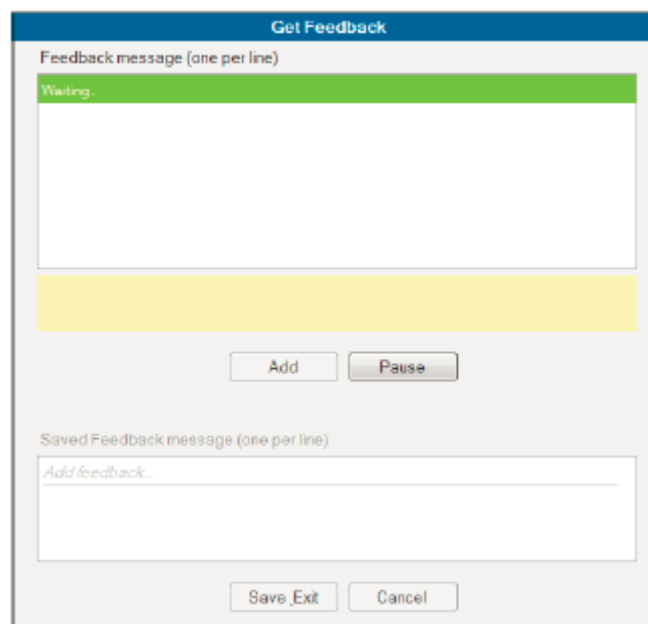
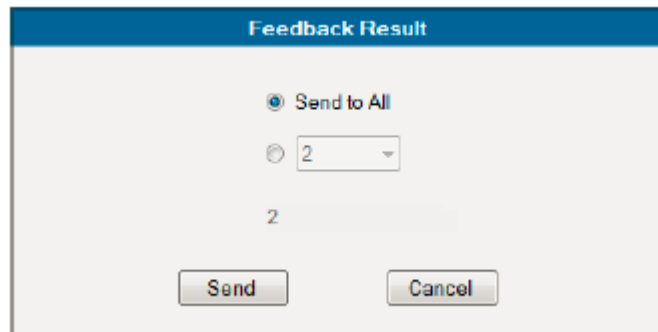
「Retrieve」(検索)を 2 回目にクリックすると、アクションを送信し、デバイスからの返送メッセージを取得することのできる「Get Feedback」(フィードバックを取得)ウィンドウが表示されます。

このポップアップウィンドウの上部セクションには、デバイスからのフィードバックメッセージが、下部セクションには、保存済みのフィードバックメッセージが、それぞれ一覧表示されます。メッセージを受信すると、次の操作を行うことができます。

- ✧ **Add**(追加) - クリックすると、フィードバックメッセージを「Saved Feedback message」(保存済みフィードバックメッセージ)ウィンドウに保存します。
 - ✧ **Pause/Continue**(一時停止/継続) - クリックすると、コマンド/返送メッセージの送信や受信を一時停止します。
 - ✧ **Save Exit**(保存して終了) - フィードバックメッセージの一覧を保存して、終了します。
 - ✧ **Cancel**(キャンセル) - 保存せずにフィードバックの取得を終了します。
- **Send**(送信) - 文字列が設定された後にクリックすると、アクションのテストを行います。アクションのテストを行うには、デバイスが LAN に接続されていなければなりません。
- 「**Send**」(送信)をクリックすると、コントロールボックスを選択できるポップアップウィンドウが表示されます。コントロールボックスをチェックボックスで選択したら、そのイーサネットデバイスの IP アドレス、ユーザーネーム、パスワードをそれぞれ該当欄に入力し、「**Select**」(選択)をクリックしてください。

Controller ID	Model Name	IP Address	MAC Address	Firmware
☐ ID-1	VK2100	10.3.41.136	00:10:74:b2:01:13	2.4.232.002

「**Send**」(送信)を 2 回目にクリックすると、アクションを送信し、コマンドの送り先となるデバイスを選択することのできる「**Feedback Result**」(フィードバック結果)ウィンドウが表示されます。ラジオボタンを使って「Send to All」(すべてに送信)を選択するか、ドロップダウンメニューの値(数字)を選択して、「**Send**」(送信)をクリックしてください。

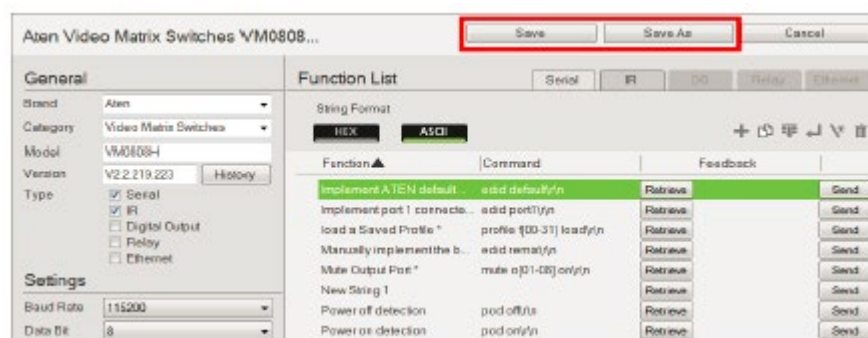


このポップアップウィンドウの上部セクションには、デバイスからのフィードバックメッセージが一覧表示されます。メッセージを受信すると、次の操作を行うことができます。

- ✧ **Add** (追加) - クリックすると、フィードバックメッセージを「Saved Feedback message」(保存済みフィードバックメッセージ)ウィンドウに保存します。
- ✧ **Pause/Continue** (一時停止/継続) - クリックすると、コマンド/返送メッセージの送信や受信を一時停止します。
- ✧ **Save Exit** (保存して終了) - フィードバックメッセージの一覧を保存して、終了します。
- ✧ **Cancel** (キャンセル) - 保存せずにフィードバックの取得を終了します。

5. 「**Save**」(保存)をクリックするか、「**Save as**」(名前を付けて保存)をクリックしてください。後者を

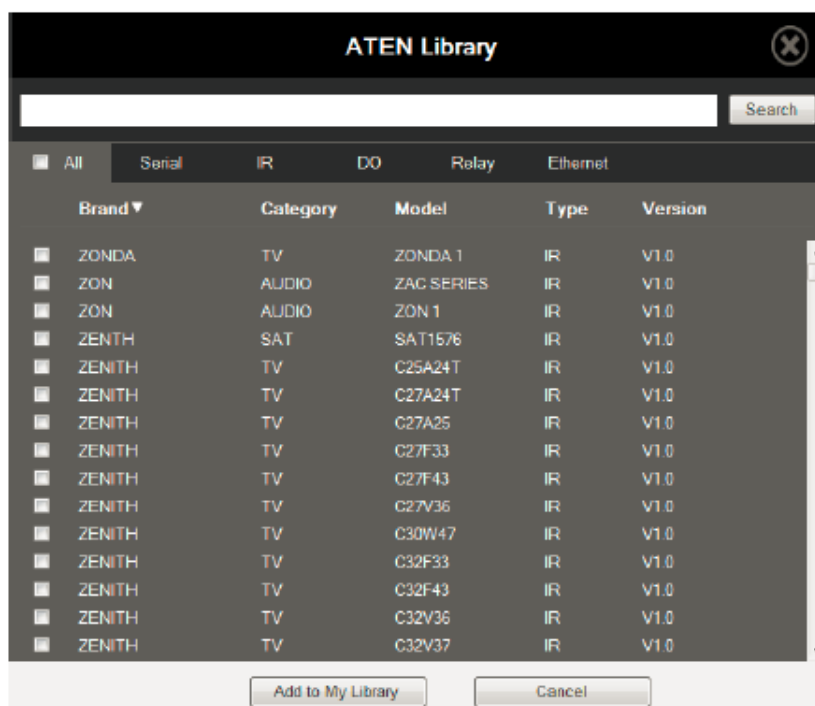
選択した場合は新規名称で保存します。



6. デバイスがマイライブラリーに表示されます。

ATEN ライブラリー

「ATEN Library」(ATEN ライブラリー)には、「**Library**」(ライブラリー)メニューバーからアクセスすることができます。ここには、ATEN データベースで利用可能なハードウェア機器がすべて一覧表示されます。ATEN ライブラリーにあるデバイスは、いずれもマイライブラリーに追加することが可能です。デバイスが一旦マイライブラリーに追加されると、デバイスの設定を必要に応じて編集することができます。



- ◆ マイライブラリーに追加するデバイスは、チェックボックスを使って選択してください。「All」(すべて)をチェックすると、一覧にある全デバイスを選択します。
- ◆ デバイスを検索する場合は、検索文字列を入力して「Search」(検索)をクリックしてください。
- ◆ 「All」(すべて)、「Serial」(シリアル)、「DO」、「IR」、「Relay」(リレー)、または「Ethernet」をクリックすると、デバイス一覧を種類で絞り込んで表示します。
- ◆ 「Brand」(メーカー名)、「Category」(カテゴリ)、「Model」(モデル)、「Type」(種類)、または「Version」(バージョン)をクリックすると、クリックした項目順にデバイスを表示します。
- ◆ 「Add to My Library」(マイライブラリーに追加する)をクリックすると、選択したデバイスをマイライブラリーに追加します。
- ◆ 「Cancel」(キャンセル)をクリックすると、マイライブラリーに戻ります。

第 6 章

ControlAssist を使った コンピューターのリモート制御

概要

ATEN コントロールシステムを使うことで、ControlAssist がインストールされたコンピューターにある PowerPoint ファイルやメディアファイルを制御することができます。この ControlAssist とは、対象となるコンピューターの操作権限を ATEN コントローラーに対して付与するアプリケーションです。対象コンピューターにインストールされた ControlAssist を使って、PowerPoint ファイルの操作、メディアファイルの再生、PC の起動 (Wake on LAN 機能を使用) といった操作を、許可されたタブレット/スマートフォンからビューワを使って実現することが可能になります。対応機能に関する詳細は、p.223「PC 制御に対応したアクション」を参照してください。

仕様

- ◆ ビューワ
 - Windows プラットフォームで ATEN ビューワを使用するには、Internet Explorer 11 以降のバージョンがインストールされていることを確認してください。
- ◆ PowerPoint ファイルの制御
 - ControlAssist がサポートするのは、Microsoft Office 2007/2010/2013 または WPS Office で作成された 200 スライド以内のファイルです。
 - ControlAssist がサポートする PowerPoint のファイルフォーマットは、pps、ppt、および pptx です。
- ◆ メディアファイルの制御
 - ControlAssist がサポートするのは、Windows メディアプレイヤーを使って作成されたメディアファイルのみです。
 - メディアファイルをリモートから有効にし、ATEN ビューワを使って操作する場合、ファイルは Windows メディアプレイヤーで開きます。この設定は変更することができません。
- ◆ メディアファイルの再生中に問題が発生した場合は、サードパーティーのビデオコーデックを

インストールしてみてください。

- ◆ ControlAssist は次のメディアファイルフォーマットの操作に対応しています。

カテゴリ	ファイルフォーマット
Windows メディアフォーマット	asf、wma、wmv、wm
Windows メディアメタファイル	asx、was、wvx、wmx、wpl
Microsoft Digital ビデオ録画	dvr-ms
Windows メディアダウンロードパッケージ	wmd
Audio Visual Interleave	avi
Moving Pictures Experts Group	mpg、mpeg、m1v、mp2、mpa、mpe、m3u
Musical Instrument Digital Interface	mid、midi、rmi
Audio Interchange File Format	aif、aifc、aiff
Sun Microsystems and NeXT	au、snd
Windows 用オーディオ	wav
CD オーディオトラック	cda
Indeo Video Technology	ivf
Windows Media Player Skin ファイル	wmz、wms
QuickTime 動画ファイル	mov
MP4 オーディオファイル	m4a
MP4 ビデオファイル	m4a
Windows オーディオファイル	aac、adt、adts

リモート PC 制御の設定

1 台ないしは複数のコンピューターがリモート制御できるようにするには、下記の手順に従ってセットアップを行ってください。

1. 対象となるコンピューターに、Visual Studio 2015 の Visual C++再頒布可能パッケージがインストールされていることを確認してください。パッケージをダウンロードするには、次のサイトにアクセスしてください。

<https://www.microsoft.com/en-us/download/details.aspx?id=48145>

2. 制御したいコンピューターに ControlAssist をインストールしてください。手順の詳細については、p.216「コンピューターへの ControlAssist のインストール」を参照してください。

3. コントロールシステムにコンピューターを追加してください。手順の詳細については、p.218「コントロールシステムに対するコンピューターの追加」を参照してください。
4. ライセンスが与えられたタブレット/スマートフォンで使用される制御インターフェースを作成してください。
 - ◆ 手順の詳細については、p.220「制御インターフェースの設定」を参照してください。
 - ◆ ライセンスの詳細については、p.73「モバイル制御用ライセンス」を参照してください。

コンピューターへの ControlAssist のインストール

下記の手順に従って、制御対象となるコンピューターに ControlAssist をインストールしてください。この ControlAssist は、ATEN コントローラーに対して通信を確立するのを支援するプログラムです。

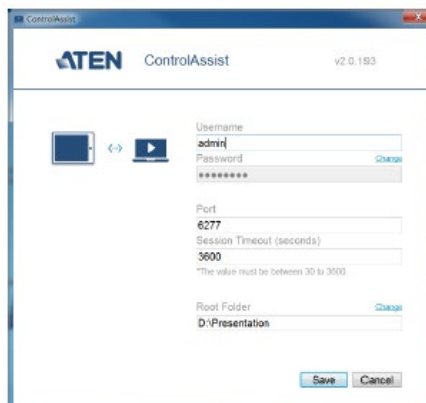
1. ControlAssist をダウンロードしてください。
 - a) 弊社サイト (<http://www.aten.com/jp/ja/>) のダウンロード画面にアクセスしてください。ダウンロードは、1) 製品ページ内の「サポートとダウンロード」メニューからアクセス、または、2) ホームページのトップページの右上に表示される（表示画面のサイズによっては画面左上に三本線のアイコンが表示されるので、それをクリックすると表示される）「サポートとダウンロード」→「ダウンロード」→「他の製品の資料をダウンロードする」に型番を入力して検索する方法で行えます。
 - b) ファイル「**ControlAssist_Vx.x.xxx.zip**」をクリックして、ダウンロードしてください。
2. 手順 1 でダウンロードされた ZIP ファイルを展開し、ファイル「**ControlAssist_Setup**」をダブルクリックしてプログラムをインストールしてください。そうすると、インストールウィザードが表示されます。
3. 画面に表示された指示に従って、インストール作業を最後まで進めてください。
4. インストールが完了すると、ControlAssist のプログラムがタスクトレイで自動的に実行されます。

注意: ◆ コントロールボックスがコンピューターとの接続を確立できるように、ControlAssist のプログラムをタスクトレイで常に有効にしておいてください。

(注意書きは次のページに続きます)

注意: ◆ ControlAssist はデフォルトで次の接続設定を使用します。設定を変更するには、
(続き)

タスクトレイにある  を右クリックし、「Settings」(設定)を選択してください。

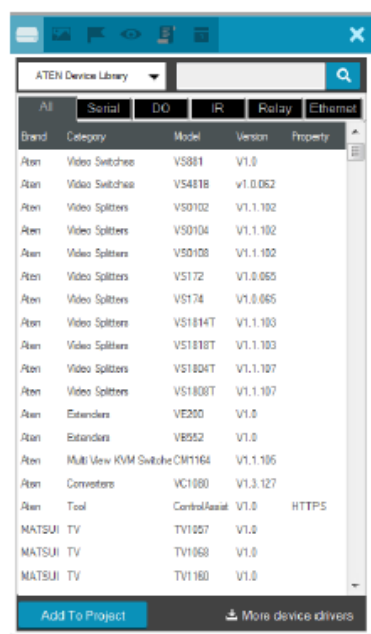


設定	デフォルト	説明
Username (ユーザーネーム)	admin	ATEN コントローラーがコンピューターとの接続を確立するには、認証が必要です。 注意: ユーザーネームとパスワードを変更するには、アドミニストレーターのアカウントを使ってコンピューターにログインする必要があります。
Password (パスワード)	password	
Port (ポート)	443	ControlAssist がインストールされたコンピューターに対して、ATEN 設定ソフトウェア (VK6000) が接続を確立するのに使用するポートです。
Session timeout (セッションタイムアウト)	3600	コントロールボックスが ControlAssist との接続を確立するのに許可された最大時間です。
Root Folder (ルートフォルダー)	N/A	この項目は、PowerPoint 制御およびメディアテンプレートのファイル一覧にファイルを表示するコンピューターのパスを指定します。コンピューターのパーティションレベルでファイルを表示するには、この欄に次のように入力してください。 %MY_COMPUTER%

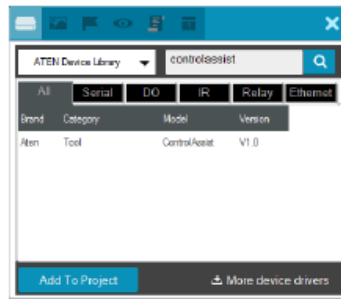
コントロールシステムに対するコンピューターの追加

制御対象となるコンピューターに対して ControlAssist をインストールしたら、次の手順に従って、対象となるコンピューターとコントローラーの間における接続を確立してください。

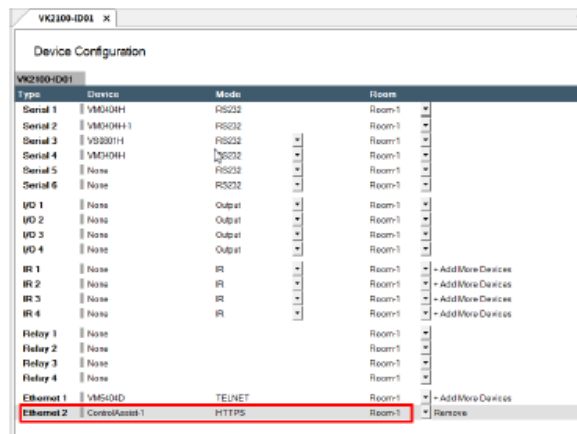
1. ATEN 設定ソフトウェア (VK6000) から、プロジェクトファイルを探して、このファイルを開いてください。
2. 「**Device**」(デバイス) タブをクリックしたら、デバイスの種類として「Ethernet」(イーサネット) を選択し、空白のデバイスをクリックするか、「**Add More Devices**」(さらにデバイスを追加する) をクリックして、デバイスの追加を行ってください。
3. 「**Library**」(ライブラリー) をクリックしてください。そうすると、下図のようなウィンドウが表示されます。



4. 検索ボックスに「controlassist」と入力して検索し、ControlAssist データベースを読み込んでください。そうすると、下図のような画面が表示されます。



5. 「Add to Project」(プロジェクトに追加する)をクリックしてください。ControlAssist を使ってインストールされていると認識されたコンピューターが、「Device Configuration」(デバイス設定)の一覧に表示されます。



6. 新規に追加されたデバイスを選択したら、画面の右側でプロパティの設定を行ってください。

ヒント: デバイスには、PC が判別できるような名前を設定してください。

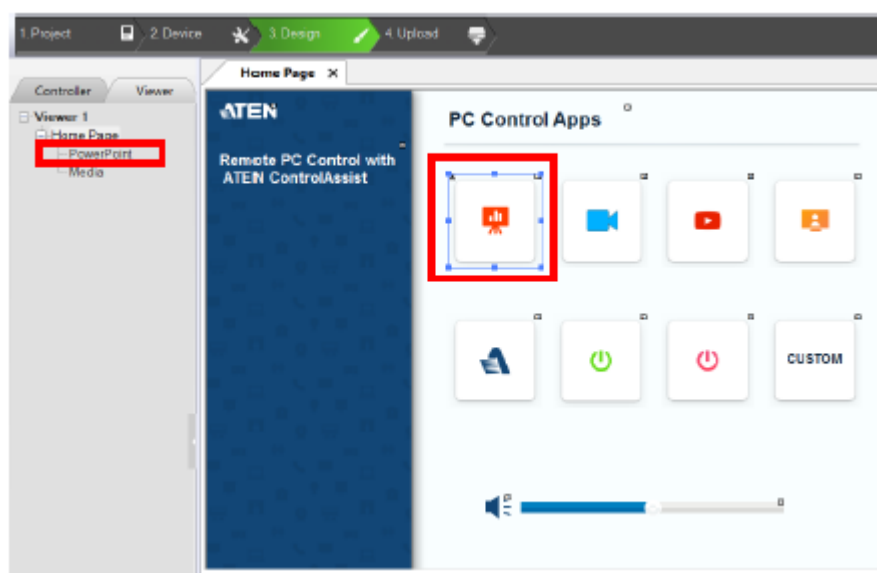
プロパティの設定に関する詳細は、p.109「プロパティ」を参照してください。

制御インターフェースの設定

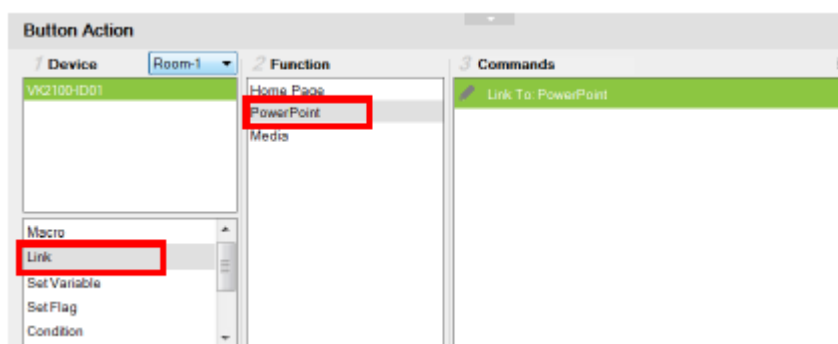
例 1:

次の手順に従って、対象となるコンピュータで、特定のルートフォルダーから任意のファイルを参照し再生することができる制御インターフェースを作成してください(p.216 参照)。メディアの制御画面を作成する場合も、この手順を参考にして操作することができます。

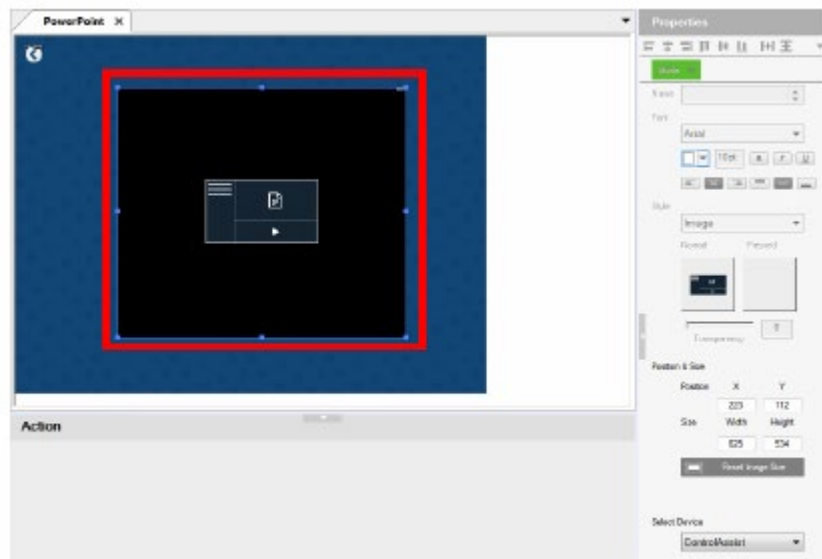
1. 「Design」(デザイン)タブで、お使いのホーム画面にプレゼンテーションボタンが付いており、ビューワに PowerPoint 画面があることを確認してください。



2. ボタンがビューワで押された場合に、PowerPoint 画面にリンクするように設定を行ってください。
 - a) プレゼンテーションボタンをクリックしてください。
 - b) 「Link」(リンク)を選択し、PowerPoint 画面をダブルクリックしてください。



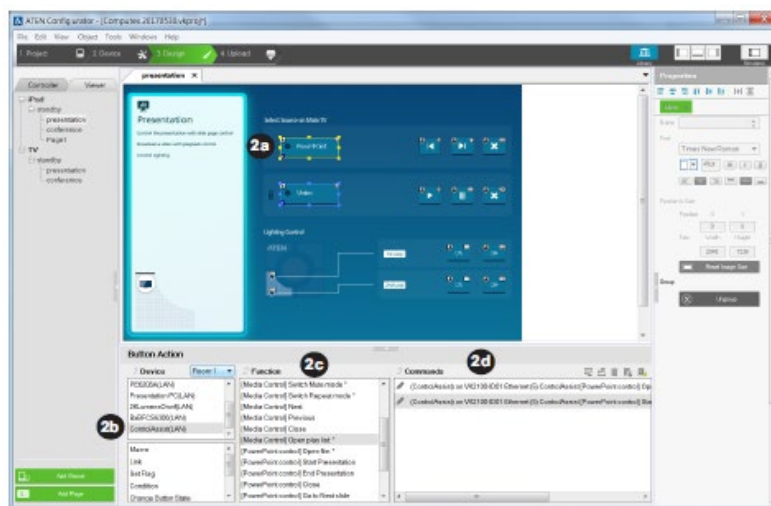
3. 備え付けのビューを使わない場合は、PowerPoint 画面を設定してください。
- a) 左サイドバーで、「**PowerPoint**」をクリックしてください。
 - b) PowerPoint 画面で、ブランク部分を右クリックし、「**PowerPoint Control Template**」(PowerPoint 制御テンプレート)を選択してください。そうすると、あらかじめ作られた画面が追加されます。



- c) 「Properties」(プロパティ)列で、再生したい PowerPoint が保存されている PC を「**Select Device**」(デバイスの選択)ドロップダウンメニューで選択してください。

例 2:

次の手順に従って、特定の PowerPoint ファイルを開いて再生するためのクイックアクセスボタンを作成してください。特定のメディアファイルを開いたり再生したりするボタンを作成する場合も、この手順を参考にして操作することができます。



1. インターフェースの大まかなイメージを作成してください。
 - a) ATEN 設定ソフトウェア (VK6000) で「**Design**」(デザイン) タブをクリックしてください。
 - b) 「**Add Page**」(画面の追加) をクリックして、画面名を「presentation」に変更してください。
 - c) 画面右端にある「**Properties**」(プロパティ) を使って、インターフェースをカスタマイズし、制御ボタンを追加してください。詳細については、p.109「プロパティ」を参照してください。
2. 各ボタンに対してアクションを定義してください。例えば、**PowerPoint** ボタンが押されたときにファイルを開いてスライドショーを開始するようにするには、下記のように設定を行います。
 - a) プレビューペインで、**PowerPoint** ボタンをクリックしてください。
 - b) 画面下部にある「**Button Action**」(ボタンアクション) のセクションにおける「1 Device」(1 デバイス) タブから、「**ControlAssist (LAN)**」を選択してください。
 - c) その隣にある「2 Function」(2 機能) タブから「**[PowerPoint] Open file**」([PowerPoint] ファイルを開く) をダブルクリックしてから、「**[PowerPoint] Start presentation**」([PowerPoint] プレゼンテーションを開始する) をダブルクリックしてください。
 - d) コマンドを設定し、実行順に並べてください。

ヒント: 機能の後ろにあるアスタリスク(*) は、「**Commands**」(コマンド) 列で設定が必要であることをあらわします。

PC 制御に対応したアクションに関する詳細は、p.223「PC 制御に対応したアクション」を参照してください。

3. 「**Upload**」(アップロード) タブから、コントローラーに対してプロジェクトを割り当ててバックアップを取ってください。詳細については、p.188「アップロード」を参照してください。

PC 制御に対応したアクション

コマンド	機能
[メディアの制御]	
注意: このグループのコマンドは Windows Media Player のみに適用されます。	
Open file	特定のファイルを Windows Media Player で開いて再生します*。
Play	開いたファイルを Windows Media Player で再生します。
Pause	再生を一時停止します。
Stop	再生を停止します。
Switch Fullscreen mode	プレーヤーの全画面表示を有効または無効にします。
Volume	プレーヤーのボリュームの大小を調節します。
Switch Mute mode	ミュートモードを有効または無効にします。
Switch Repeat mode	連続再生を有効または無効にします。
Next	プレイリストの次のファイルを再生します。
Previous	プレイリストの前のファイルを再生します。
Close	プレーヤーを終了します。
Open playlist	特定のプレイリストを Windows Media Player で開いて再生します*。
Set volume to	プレーヤーの音量を特定のボリュームに設定します。
[Power Point の制御]	
Open File	特定の PowerPoint ファイルを開きます*。
Start Presentation	特定の PowerPoint ファイルのスライドショーを開始します。
End Presentation	特定の PowerPoint ファイルのスライドショーを終了します。
Close	開いている PowerPoint ファイルを閉じます。
Go to Next Slide	次のスライドに移動します。
Go to Previous Slide	前のスライドに移動します。
Go to Slide	特定のスライド番号に移動します。
[その他]	
Shut down PC	コンピューターをシャットダウンします。
Open URL	特定の URL を開きます。
Open File	対象となるコンピューターに保存された特定のファイルを開きます。
Run Program	アプリケーションを起動します。

-
- 注意:** ファイルパスを指定する際には、次の注意事項を必ず守るようにしてください。
- ◆ 対象となるファイルのファイル名とファイルの拡張子を含めること。
 - ◆ フォルダーの階層間にはバックスラッシュを 2 本使用すること。
 - ◆ ファイルパスに空白が含まれる場合は、ファイルパスをダブルクォーテーションで囲むこと。
 - ◆ 下記は、有効なファイルパスの例です。
- C:\\ControlAssist\\Presentation.pptx
- “C:\\ControlAssist\\Presentation Demo.pptx”
-

第7章

ATEN コントロールシステムアプリ

概要

「ATEN Control System App」(ATEN コントロールシステムアプリ)は、Google Play や Apple 社の App Store からダウンロードできるタブレット/スマートフォン用の無料アプリケーションです。このアプリを使うと、コントロールボックスからプロファイルをダウンロードすることができます。これらのプロファイルには、ハードウェア機器のリモートコントロールに使用されるインターフェースが提供されています。

アプリのインストール

タブレット/スマートフォンに ATEN コントロールシステムアプリをインストールするには、下記の手順にしたがって操作してください。

1. タブレット/スマートフォンから、「App Store」 (iOS の場合)、または「Google Play」
(Android の場合)アイコンをタップしてください。
2. 検索ボックスに「aten control」と入力してください。
3. 「ATEN Control System」をタップして、アプリをダウンロードし、インストールしてください。
4. 「ATEN Control System」のアイコン がタブレット/スマートフォンに表示されます。
5. アイコンをタップしてアプリを起動してください。

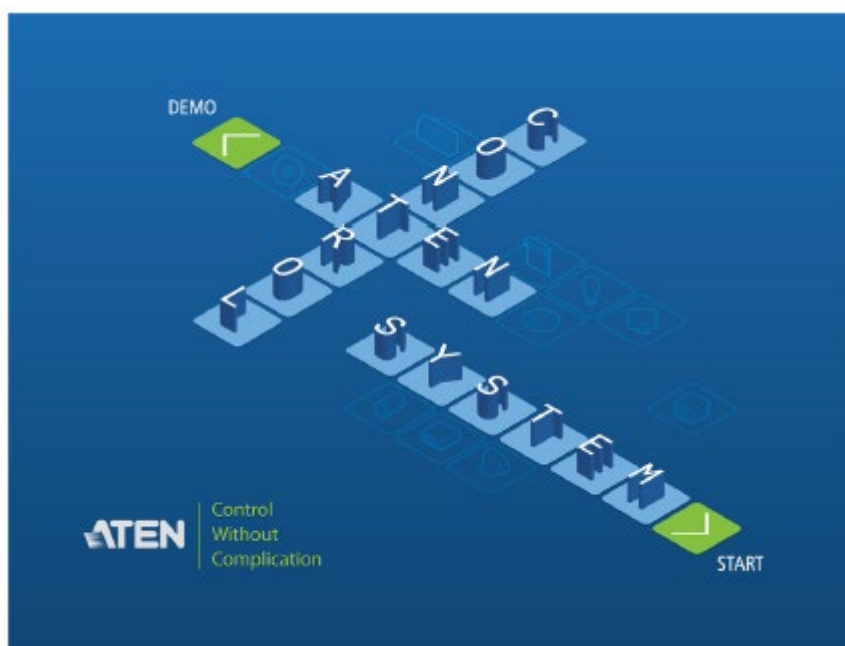
注意: ATEN コントロールシステムのアプリは、Android の場合は Android 4.2.2 以降、iPhone/iPad の場合は iOS9 以降、Windows の場合は Windows 7 以降の OS にそれぞれ対応しています。

ボタン音

アプリをインストールすると、タブレット/スマートフォンの設定メニューにある「**ATEN Control**」(ATEN コントロール)で、ボタン音の設定を有効/無効にすることができます。

ATEN コントロールシステムアプリ

ATEN コントロールシステムアプリの初回起動時には、デフォルトのウェルカム画面が表示されます。

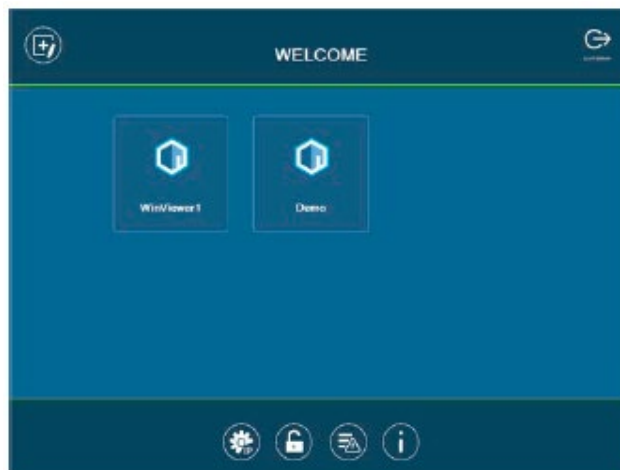


「Demo」(デモ)をクリックすると、ATEN コントロールシステムアプリを試すことができます。「Start」(開始)をタップすると、コントロールボックスを検索してビュープロフィールをダウンロードします (p.231「ウェルカム」参照)。

注意: デフォルトのウェルカム画面は、ビュープロフィールがタブレット/スマートフォンにダウンロードされると表示されなくなります。ビュープロフィールのダウンロード後は、アプリケーションが再インストールされた時にのみ、デフォルトのウェルカム画面が再度表示されます。このとき、ビュープロフィールもすべて削除されます。

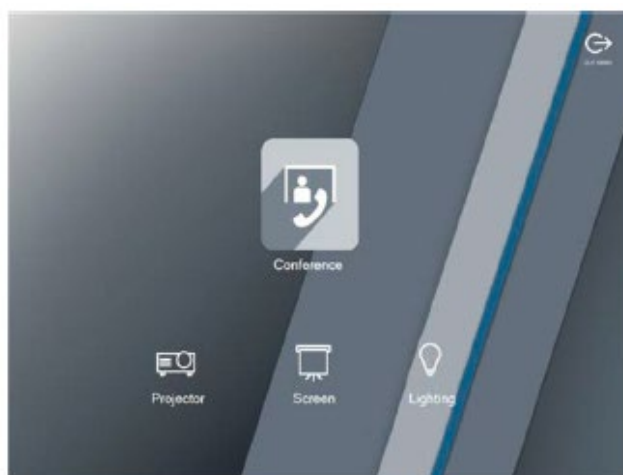
デモ

「Demo」(デモ)画面では、部屋のサンプルが2種類提供された ATEN コントロールシステムアプリのプレビューが表示されます。部屋をタップすると、各種ハードウェア機器の制御を確認できます。右上にある「Quit Demo」(デモを終了する)をタップすると、この画面を終了します。



ビューワプロファイルを選択するか、ウェルカム画面における任意のボタンを押すと、アプリのデモを行います。最初のプロファイルの名前は、デバイスの OS によって変わります。

WinViewer1/iPad/Android1



このサンプルでは、**プロジェクター**、**スクリーン**、および**照明**を使ったテレビ会議インターフェースのデモを行います。デバイスをタップすると、そのデバイスの制御画面を開きます。

制御画面



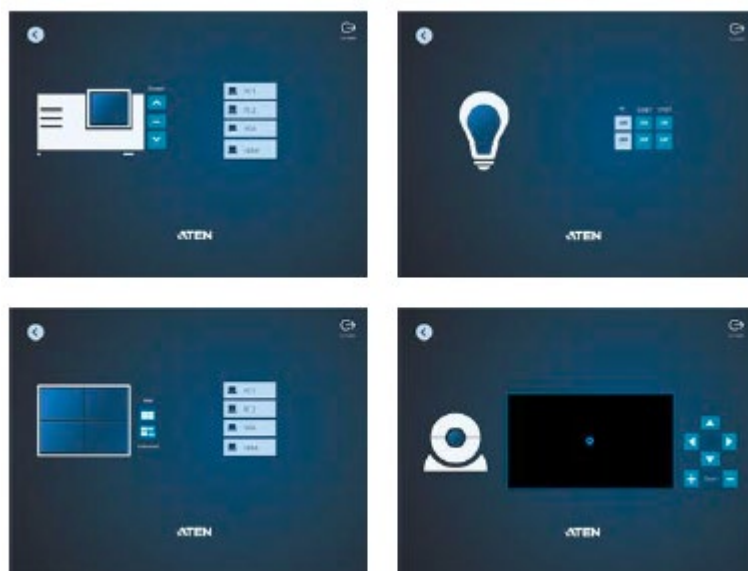
上図はメイン画面、およびプロジェクター、スクリーン、照明の各画面を表しています。

デモ



このデモでは、プロジェクター、照明、ビデオウォール、カメラの制御に使う各種ボタンが表示されます。アイコンをタップすると、各デバイスの制御画面を参照することができます。「Quick Demo」(クイックデモ)のアイコンをタップすると、前の画面に戻ります。また、ビューワ画面の背景を押し続けると、ログアウトダイアログが表示されます。

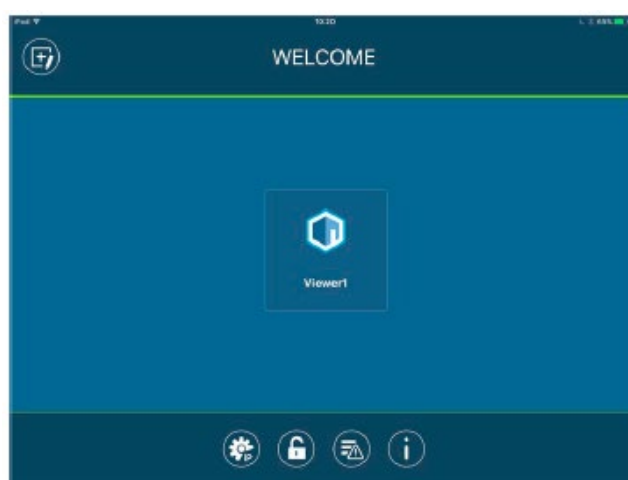
制御画面



上図はデモ環境におけるプロジェクター、照明、ビデオウォール、およびカメラの制御画面を表しています。左下にある「Home」(ホーム)アイコンをタップすると、前の画面に戻ります。また、ビューワ画面の背景を押し続けると、ログアウトダイアログが表示されます。

ウェルカム

「Welcome」(ウェルカム)画面は、ATEN コントロールシステムアプリのホーム画面です。ここには、ビューワプロファイルの一覧や管理オプションが表示されます。ビューワオプションをタップすると、部屋の制御画面 (p.118「デザイン」参照)を開いたり、下に並んでいる管理オプションを使用したりすることができます。

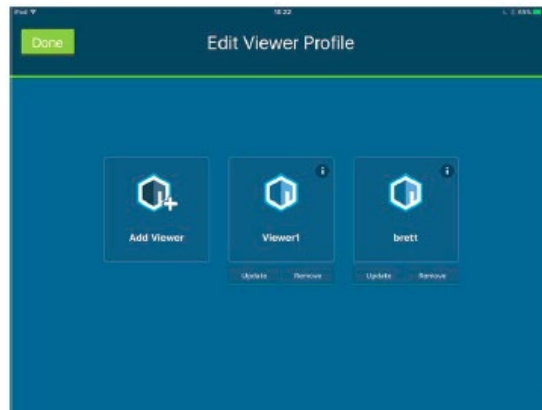


アイコン	説明
	Edit Viewer Profile (ビューワプロファイルの編集) - この画面では、ビューワプロファイルを追加・更新・削除するオプションを提供します。詳細は p.232 をご参照ください。
	Manage LAN Device (LAN デバイスの管理) - この画面では、コントロールボックスや LAN デバイスのネットワーク設定を行うオプションを提供します。詳細は p.233 をご参照ください。
	Set Password (パスワードの設定) - この画面では、ビューワプロファイルが使用されている時にウェルカム画面にアクセスするためのパスワードを設定することができます。詳細は p.236 をご参照ください。
	Log Report (ログレポート) - この画面では、接続に関するトラブルシューティングに使えるエラーログを提供します。詳細は p.237 をご参照ください。
	Information (情報) - この画面では、ATEN コントロールシステムのソフトウェアバージョンに関する情報を提供します。詳細は p.238 をご参照ください。



ビューワプロファイルの編集

「Edit Viewer Profile」(ビューワプロファイルの編集)画面では、ビューワオプションの追加・更新・削除を行うことができます。ビューワプロファイルをダウンロードするには、「Add Viewer」(ビューワの追加)をタップしてください(p.236「パスワードの設定」参照)。



項目	説明
Add Viewer (ビューワの追加)	ここをタップすると、「Download Viewer Profile」(ビューワプロファイルのダウンロード)画面からビューワプロファイルをダウンロードすることができます。詳細は p.239 をご参照ください。
	ここをタップすると、このビューワプロファイルに関連するコントロールボックスの MAC アドレス、IP アドレス、およびコントロールボックス ID を確認することができます。
Update (更新)	ここをタップすると、コントロールボックスに接続して、ビューワプロファイルの更新バージョンをダウンロードします。アップデートが終わると「Downloaded Successfully」(ダウンロード成功)のプロンプトが表示されます。
Remove (削除)	「Remove」(削除)をタップすると、ビューワプロファイルの削除を行います。ビューワプロファイルを削除する前に、確認ダイアログボックスが表示されます。 「Delete」(削除)をタップすると、ビューワプロファイル*を削除します。 「Cancel」(キャンセル)をタップすると、削除をキャンセルします。 注意: ビューワプロファイルはタブレット/スマートフォン上で削除されるだけであって、コントロール側では引き続き利用することが可能です。

(表は次のページに続きます)

項目	説明
Done (完了)	ここをタップすると、ウェルカム画面に戻ります。



LAN デバイスの管理

「Manage LAN Device」(LAN デバイスの管理)画面では、設定ソフトウェア(p.108「デバイスライブラリー」参照)で追加されたコントロールボックスおよび LAN デバイスのネットワーク設定を編集することができます。



項目	説明
	このアイコンをタップすると、コントロールボックスのアイテムを展開し、ここに接続されている LAN デバイスを確認することができます。
	このアイコンをタップすると、Web GUI を開きます (p.69「ブラウザ操作」参照)。

選択された LAN デバイスに応じて、各種オプションが利用できます。デバイスをタップすると、設定画面を開きます。「Edit」(編集)を使うと、設定を変更します。また、保存する場合は「Apply」(適用)を、終了する場合は「OK」をそれぞれタップします。例は次のページに記載されています。

コントローラー

VK2100-ID01	Edit
Device IP	10.3.41.85
Router IP	
MAC Address	00:10:74:b2:01:99

[Done](#)

VK2100-ID01	
Device IP	192.168.0.8
Router IP	
MAC Address	00:10:74:b2:01:99

[Apply](#) [Cancel](#)

PJLink プロジェクター

PJLINK	Edit
IP Address	192.168.11.12
Port	4352
Password	

[Done](#)

PJLINK	
IP Address	192.168.11.12
Port	4352
Password	

☐ Show Password

[Apply](#) [Cancel](#)

Telnet

TELNET	Edit
IP Address	192.168.11.12
Port	4352
Username	User82
Password	

[Done](#)

TELNET	
IP Address	192.168.11.12
Port	4352
Username	User82
Password	

☐ Show Password

[Apply](#) [Cancel](#)

ONVIF

ONVIF	Edit
IP Address	192.168.11.12
Username	User82
Password	

[Done](#)

ONVIF	
IP Address	192.168.11.12
Username	User82
Password	

☐ Show Password

[Apply](#) [Cancel](#)

TCP

TCP Device

Edit

IP Address

192.168.11.12

Port

4352

Done

TCP Device

IP Address

192.168.11.12

Port

4352

Apply

Cancel

UDP

UDP Device

Edit

IP Address

192.168.11.12

Port

4352

Done

UDP Device

IP Address

192.168.11.12

Port

4352

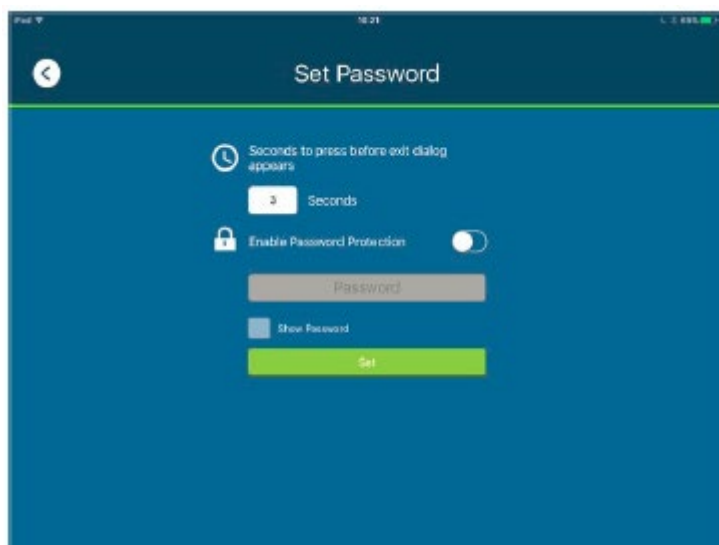
Apply

Cancel



パスワードの設定

「Set Password」(パスワードの設定)画面では、ビューワプロフィールからウェルカム画面にアクセスする際に使用するパスワードを設定します。この機能を使うことで、不正なユーザーによってアプリの設定が変更されるのを防ぐことができます。ユーザーは、ビューワプロフィールを終了してウェルカム画面にアクセスしようとする、パスワードの入力が求められます。

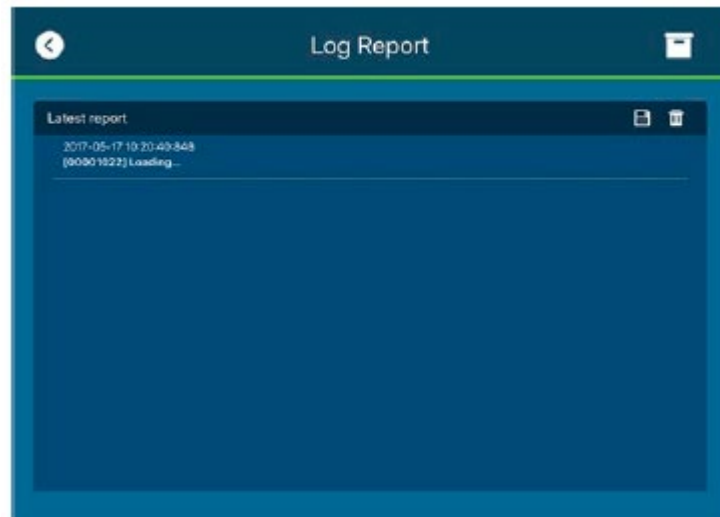


「**Enable Password Protect**」(パスワード保護を有効にする)のボタンをスライドさせて、ボックスにパスワードを入力したら、「**Set**」(設定)をタップしてください。「Enable Password Protect」(パスワード保護を有効にする)のボタンをスライドさせると、「Show Password」(パスワードの表示)オプションが表示され、パスワードに入力した文字を表示することができます。ビューワ画面で押した場合、終了するかどうかを問うウィンドウが表示されるまでに、どれくらいの時間(秒数)を経過させるかを、「Seconds to press before exit dialog appears」(終了ダイアログが表示される前に押す秒数)欄に数字で入力してください。「**Back**」(戻る)をタップすると、この画面を終了します。



ログレポート

「Log Report」(ログレポート)画面には、トラブルシューティングに使える情報やエラーログが一覧表示されます。リストをタップしてドラッグすると、エラーログをスクロールします。また、「Back」(戻る)をタップすると、この画面を終了します。



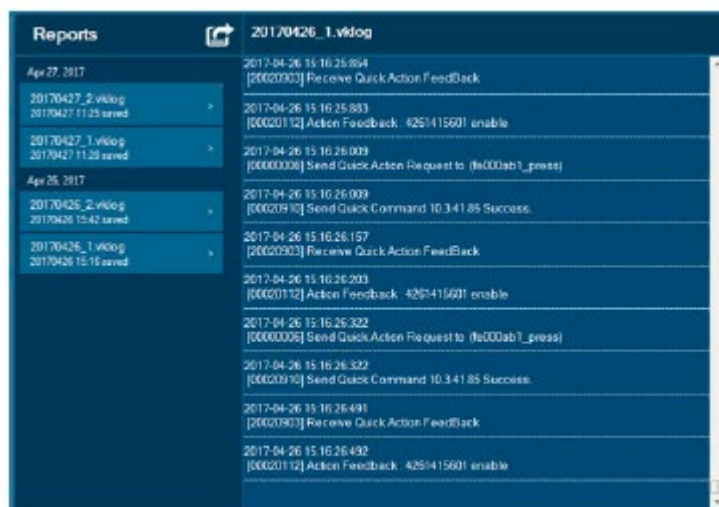
項目	説明
	「Save」(保存)アイコンをタップすると、ログファイルを保存します。
	「Report History」(履歴の報告)アイコンをタップすると、保存済みのログを参照することができます。
	「Delete」(削除)アイコンをタップすると、ログ情報を削除します。
	「Back」(戻る)アイコンをタップすると、ログレポート画面を終了します。



履歴の報告

「Report History」(履歴の報告)アイコンをタップすると、ログの参照およびエクスポートを行うことができます。保存済みのログファイルは、左側の列において日付別に一覧表示されます。ログファイルをタップすると、右側のウィンドウで、そのファイルの詳細を確認することができます。また、リストをタップしてドラッグすると、ログ一覧をスクロールします。「Back」(戻る)アイコンをタップす

ると、ログレポート画面を終了します。

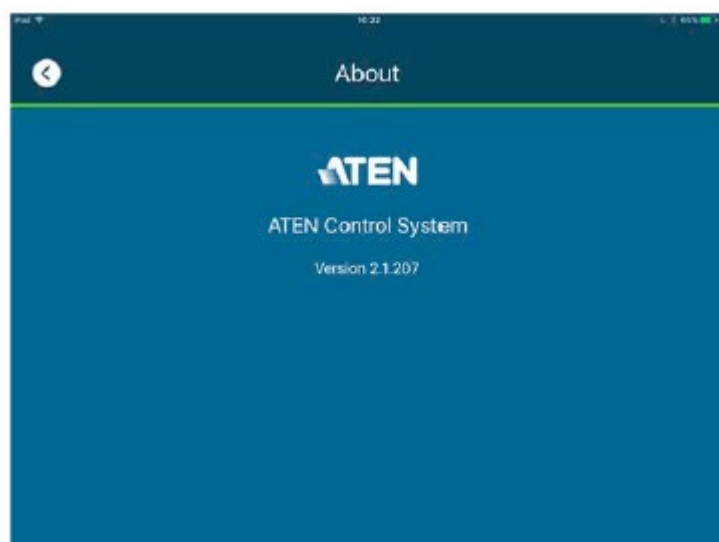


項目	説明
	「Export」(エクスポート)アイコンをタップすると、ログを E メールへの添付ファイルとして送信します。



情報

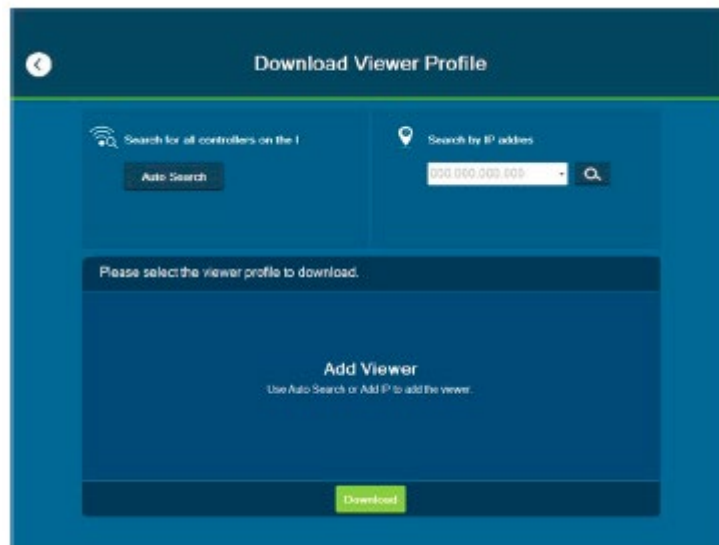
「Information」(情報)画面には、ATEN コントロールシステムのバージョンが表示されます。





ビューワプロファイルのダウンロード

「Download Viewer Profile」(ビューワプロファイルのダウンロード)画面では、コントロールボックスを検索したり、ビューワプロファイルをダウンロードしたりすることができます。この画面は、「Welcome」(ウェルカム)→「Edit Viewer」(ビューワの編集)→「Profile」(プロファイル)→「Add Viewer」(ビューワの追加)の操作でアクセスすることができます。



項目	説明
Search by IP address (IP アドレスで検索)	このボックスにコントロールボックスの IP アドレスを入力して「Search」(検索)をタップすると、その IP アドレスで検索を行います。ネットワークでコントロールボックスが検索されると、「Add Viewer」(ビューワの追加)ボックスに一覧表示されます。 過去に IP アドレスを検索したことがある場合は、 検索履歴 のドロップダウンメニューが表示されます。
Auto Search (自動検索)	この機能を使うと、IP アドレスを指定せずにコントロールボックスを検索することができます。電源が入っており、ネットワークに接続されているコントロールボックスだけが検索対象となります。

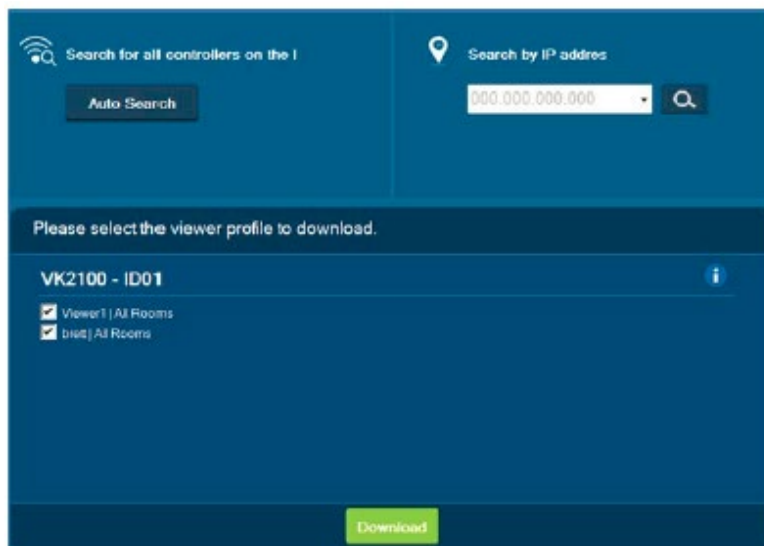
(表は次のページに続きます)

項目	説明
Add Viewer (ビューワの追加)	ネットワークで検索されたコントロールボックスがこのパネルに一覧表示されます。各コントロールボックスの下には、タブレット/スマートフォンにダウンロードされたビューワプロファイルが一覧表示されます。ビューワプロファイルをアップロードする方法については、p.188「アップロード」をご参照ください。
Back アイコン (「戻る」アイコン)	ここをタップすると「Welcome」(ウェルカム)画面に戻ります。
Download (ダウンロード)	ダウンロードしたいビューワプロファイルを選択して、「 Download 」(ダウンロード)をタップすると、ダウンロードを開始します。

Download

プロフィールのダウンロード

検索されたコントロールボックスは「Add Viewer」(ビューワの追加)パネルに表示されます。ダウンロードしたいビューワプロフィールのチェックボックスにチェックを入れたら、「Download」(ダウンロード)をタップしてください。



項目	説明
Add Viewer (ビューワの追加)	メインウィンドウには、ネットワークで検索されたコントロールボックスが一覧表示されます。各コントロールボックスの下には、先頭にチェックボックスが付いた状態でビューワプロフィールが一覧表示されます。 ダウンロードしたいビューワプロフィールのチェックボックスにチェックを入れたら、「Download」(ダウンロード)をタップしてください。ロックアイコンが表示された場合は、アクセスキーの入力が求められます。 ビューワプロフィールをダウンロードすると、「Downloaded Successfully」(ダウンロード成功)というプロンプトが表示されます。 「Done」(完了)をタップすると、ビューワプロフィールが一覧表示されている「Welcome」(ウェルカム)画面に戻ります。 注意: タブレット/スマートフォンにビューワプロフィールをダウンロードすると、デフォルトの「Welcome」(ウェルカム)画面は表示されなくなります。

(表は次のページに続きます)

項目	説明
Access Key (アクセスキー)	ビューワ画面でアクセスキーが必要になると、そのキーの入力を促すウィンドウが表示されます。そうしたら、正しいアクセスキーを入力してから、「OK」をクリックし、コントロールボックスからビューワプロファイルをダウンロードしてください。アクセスキーの設定方法の詳細については、p.188「アップロード」をご参照ください。
	このアイコンをタップすると、コントロールボックスの IP アドレス 、 MAC アドレス 、および ライセンス情報 を確認することができます。ライセンス情報では利用可能な全ライセンス数と使用中のライセンス数が提供されます。

付録

データポイントタイプ

ATEN コントロールシステム (V2.3) は、次の KNX データポイントタイプ (DPT) に対応しています。

DPT ID	DPT フォーマット	DPT 名
1.001	B ₁	DPT_Switch
1.002	B ₁	DPT_Bool
1.003	B ₁	DPT_Enable
1.004	B ₁	DPT_Ramp
1.005	B ₁	DPT_Alarm
1.006	B ₁	DPT_BinaryValue
1.007	B ₁	DPT_Step
1.008	B ₁	DPT_UpDown
1.009	B ₁	DPT_OpenClose
1.010	B ₁	DPT_Start
1.011	B ₁	DPT_State
1.012	B ₁	DPT_Invert
1.013	B ₁	DPT_DimSendStyle
1.014	B ₁	DPT_InputSource
1.015	B ₁	DPT_Reset
1.016	B ₁	DPT_Ack
1.017	B ₁	DPT_Trigger
1.018	B ₁	DPT_Occupancy
1.019	B ₁	DPT_Window_Door
1.021	B ₁	DPT_LogicalFunction
1.022	B ₁	DPT_Scene_AB
1.023	B ₁	DPT_ShutterBlinds_Mode
1.100	B ₁	DPT_Heat/Cool
2.001	B ₂	DPT_Switch_Control
2.002	B ₂	DPT_Bool_Control

(表は次のページに続きます)

DPT ID	DPT フォーマット	DPT 名
2.003	B ₂	DPT_Enable_Control
2.004	B ₂	DPT_Ramp_Control
2.005	B ₂	DPT_Alarm_Control
2.006	B ₂	DPT_BinaryValue_Control
2.007	B ₂	DPT_Step_Control
2.008	B ₂	DPT_Direction1_Control
2.009	B ₂	DPT_Direction2_Control
2.010	B ₂	DPT_Start_Control
2.011	B ₂	DPT_State_Control
2.012	B ₂	DPT_Invert_Control
3.007	B ₁ U ₃	DPT_Control_Dimming
3.008	B ₁ U ₃	DPT_Control_Blinds
4.001	A ₈	DPT_ASCII
4.002	A ₈	DPT_Char_8859_1
5.001	U ₈	DPT_Scaling
5.003	U ₈	DPT_Angle
5.004	U ₈	DPT_Percent_U8
5.005	U ₈	DPT_DecimalFactor
5.006	U ₈	DPT_Tariff
5.010	U ₈	DPT_Value_1_Ucount
6.001	V ₈	DPT_Percent_V8
6.010	V ₈	DPT_Value_1_Count
6.020	B ₅ N ₃	DPT_Status_Mode3
7.013	U ₁₆	DPT_Brightness
8.011	V ₁₆	DPT_Rotation_Angle
9.001	F ₁₆	DPT_Value_Temp
18.001	B ₁ R ₁ U ₆	DPT_Value_Temp
20.100	N ₈	DPT_FuelType
20.101	N ₈	DPT_BurnerType
20.102	N ₈	DPT_HVACMode
20.103	N ₈	DPT_DHWMode

(表は次のページに続きます)

DPT ID	DPT フォーマット	DPT 名
20.104	N ₈	DPT_LoadPriority
20.105	N ₈	DPT_HVACContrMode
20.106	N ₈	DPT_HVACEmergMode
20.107	N ₈	DPT_ChangeoverMode
20.108	N ₈	DPT_ValveMode
20.109	N ₈	DPT_DamperMode
20.110	N ₈	DPT_HeaterMode
20.111	N ₈	DPT_FanMode
20.112	N ₈	DPT_MasterSlaveMode
20.113	N ₈	DPT_StatusRoomSetp
23.001	N ₂	DPT_OnOff_Action
23.002	N ₂	DPT_Alarm_Reaction
23.003	N ₂	DPT_UpDown_Action
23.102	N ₂	DPT_HVAC_PB_Action

製品仕様

VK2100

インターフェース	
シリアル	・ 双方向通信(RS-232/422/485 から選択)×4 (DB-9 ピンオス×4、ピンアサインによる設定) ・ ボーレート:300～115200(デフォルト:9600) ・ データビット:8(デフォルト)、7 ・ ストップビット:1(デフォルト)、2 ・ パリティ:無(デフォルト)、偶数、奇数 ・ フローコントロール:無(デフォルト)、ハードウェア ・ ピンアサイン 【RS-232】 Pin2:RX、Pin3:TX、Pin5:GND、Pin7:RTS、Pin8:CTS 【RS-422】 Pin1:RX-、Pin2:RX+、Pin3:TX+、Pin4:TX-、Pin5:GND 【RS-485】 Pin3:D+、Pin4:D- ・ 双方向通信ポート(RS-232 固定)×2 (3 極ターミナルブロックコネクタ×2); ・ ボーレート:300～115200(デフォルト:9600) ・ データビット:8(デフォルト)、7 ・ ストップビット:1(デフォルト)、2 ・ パリティ:無(デフォルト)、偶数、奇数
IR/シリアル	IR/単方向通信 RS-232 ポート(IR/RS-232 のどちらかを選択)×4(4 極ターミナルブロックコネクタ×2) ・ IR:TTL レベル(0～5V) ・ 搬送波周波数:10kHz～455kHz ・ シリアル:単方向通信 RS-232(+ - 5V) ・ ボーレート:300～115200(デフォルト:9600) ・ データビット:8(デフォルト)、7 ・ ストップビット:1(デフォルト)、2 ・ パリティ:無(デフォルト)、偶数、奇数

(表は次のページに続きます)

I/O	デジタル入出力チャンネル(デジタル入出力/ドライ接点モードから選択) ×4 (5 極ターミナルブロックコネクタ×1) ・デジタル出力: 12VDC 250mA シンク ・デジタル入力: ・VDC モード: 入力電圧範囲:0~24VDC プログラム可能範囲:1~24VDC ・ドライ接点モード :プルアップ 2k Ω +12VDC
リレー	リレーチャンネル×4 (4 極ターミナルブロックコネクタ×2) ・NO(ノーマルオープン)、絶縁リレー ・接点定格:最大 24VDC、2A
有電圧出力	12VDC 出力ポート×4(4 極ターミナルブロックコネクタ×2) ・電源:最大 12VDC、2A(4 ポート共有の場合)
イーサネット	RJ-45×1(10/100 Base-T) ・対応プロトコル:ICMP、TCP/IP、DHCP、HTTPS、SSH、Telnet、PJLink ・DHCP 対応、30 秒以内に IP が割り当てられない場合は、下記のデフォルト IP 設定を適用 ・デフォルト IP:192.168.0.60 ・デフォルトサブネットマスク:255.255.255.0 ・VK2100 と VK6000(設定ソフトウェア)およびタブレット/スマートフォン(ATEN コントロールシステムアプリ)との接続用
スイッチ	
コントローラーID	16 セグメントスイッチ×1
電源	ロッカースイッチ×1
IR 学習	IR レシーバー×1
リセットボタン	ピンホール型スイッチ×1
USB	USB タイプ A×1
電源	
消費電力	40 W
最大電源仕様	内部電源: AC100~240V、50/60Hz

(表は次のページに続きます)

動作環境	
動作温度	0～50℃
保管温度	-20～60℃
湿度	0～80% RH、結露なきこと
ケース	
ケース材料	メタル
重量	2.64 kg (5.81 lb)
サイズ(W×D×H)	438×164×44 mm
同梱品	ターミナルブロック×9 (3 極タイプ×2、4 極タイプ× 6、5 極タイプ×1) 電源コード×1 フットパッド (4 個入り) ×1 ラックマウントキット×1 クイックスタートガイド×1
対応 ATEN 製品	
対応 VanCryst 製品	《シリアル拡張ボックス》 VK224 《IR/シリアル拡張ボックス》 VK236 《リレー拡張ボックス》 VK248
ライセンス	
基本 (無償)	2 ライセンス*
最大対応ライセンス数	10 ライセンス
注意: ATEN コントロールボックスの本体には、2 ライセンスが無償で保存されています。モバイルデバイスが 1 台、ATEN コントロールボックスにリモートアクセスで接続される度に、コントロールボックス内のライセンスが 1 つ使用されます。ATEN コントロールボックスに追加ライセンスをお求めになる場合は、お近くの販売代理店までお問い合わせください。	

VK1100

インターフェース	
シリアル	双方向通信(RS-232/422/485 から選択)×2 (DB-9 ピンオス×2、ピンアサインによる設定) ・ボーレート:300～115200(デフォルト:9600) ・データビット:8(デフォルト)、7 ・ストップビット:1(デフォルト)、2 ・パリティ:無(デフォルト)、偶数、奇数 ・フローコントロール:無(デフォルト)、RTS/CTS
IR/シリアル	IR/単方向通信 RS-232 ポート×2 (3 極ターミナルブロックコネクタ×1) ・IR ・搬送波周波数:10kHz～455kHz ・シリアル ・ボーレート:300～115200(デフォルト:9600) ・データビット:8(デフォルト)、7 ・ストップビット:1(デフォルト) ・パリティ:無(デフォルト)、偶数、奇数
I/O	—
リレー	リレーチャンネル×4 (4 極ターミナルブロックコネクタ×2) ・NO(ノーマルオープン)、絶縁リレー ・接点定格:最大 24VDC、2A
有電圧出力	12VDC 出力ポート×1 (2 極ターミナルブロックコネクタ×1) ・電源:最大 12VDC、1A

(表は次のページに続きます)

イーサネット	RJ-45×1 (10/100 Base-T) ・対応プロトコル: ICMP、TCP/IP、DHCP、HTTPS、SSH、Telnet、PJLink、ONVIF ・DHCP 対応、30 秒以内に IP が割り当てられない場合は、下記のデフォルト IP 設定を適用 ・デフォルト IP: 192.168.0.60 ・デフォルトサブネットマスク: 255.255.255.0 ・VK2100 と VK6000 (設定ソフトウェア) およびタブレット/スマートフォン (ATEN コントロールシステムアプリ) との接続用
スイッチ	
コントローラーID	16 セグメントスイッチ×1
電源	ロッカースイッチ×1
IR 学習	IR レシーバーLED×1
リセットボタン	ピンホール型スイッチ×1
USB	USB タイプ A×1
電源	
消費電力	20 W
最大電源仕様	内部電源: AC100～240V、50/60Hz
動作環境	
動作温度	0～50℃
保管温度	-20～60℃
湿度	0～80% RH、結露なきこと
ケース	
ケース材料	メタル
重量	1.19 kg (2.62 lb)
サイズ(W×D×H)	215×163×42 mm
同梱品	ターミナルブロック×4 (2 極タイプ×1、3 極タイプ×1 、4 極タイプ×2) 電源コード×1 クイックスタートガイド×1

(表は次のページに続きます)

対応 ATEN 製品

対応 VanCryst 製品	《シリアル拡張ボックス》
	VK224
	《IR/シリアル拡張ボックス》
	VK236
	《リレー拡張ボックス》
	VK248
ライセンス	
基本(無償)	2 ライセンス*
最大対応ライセンス数	10 ライセンス

注意: ATEN コントロールボックスの本体には、2 ライセンスが無償で保存されています。モバイルデバイスが 1 台、ATEN コントロールボックスにリモートアクセスで接続される度に、コントロールボックス内のライセンスが 1 つ使用されます。ATEN コントロールボックスに追加ライセンスをお求めになる場合は、お近くの販売代理店までお問い合わせください。

VK0100/VK0200

機能	VK0100	VK0200
インターフェース		
キーパッドレイアウト	4～8 個のボタンを使った最大 14 パターンのレイアウト	6～12 個のボタンを使った最大 125 パターンのレイアウト
シリアル	・ 双方向通信ポート(RS-232 固定)×2 (3 極ターミナルブロックコネクタ×2); ・ ボーレート:300～115200 (デフォルト:9600) ・ データビット:8 (デフォルト)、7 ・ ストップビット:1 (デフォルト)、2 ・ パリティ: 無 (デフォルト)、偶数、奇数	
リレー	リレーチャンネル×2 (2 極ターミナルブロックコネクタ×2) ・ NO (ノーマルオープン)、絶縁リレー ・ 接点定格:最大 24VDC、1A	
デジタル入力	・ デジタル入力チャンネル (2 極ターミナルブロックコネクタ×1) ・ VDC モード: 入力電圧範囲:0～5VDC 	

(表は次のページに続きます)

機能	VK0100		VK0200
動作環境			
動作温度	0～50℃		
保管温度	-20～60℃		
湿度	0～80% RH、結露なきこと		
ケース			
ケース材料	プラスチック		
重量	0.35 kg (0.77 lb)	0.38 kg (0.84 lb)	
サイズ(W×D×H)	116.3×70.6×48.4 mm	83.2×147.6×48.4 mm	
同梱品	ボタンパック×1		
	ターミナルブロック×6		
	フェイスプレート×1		
	クイックスタートガイド×1		
ライセンス			
基本(無償)	0 ライセンス		
最大対応ライセンス数	10 ライセンス		